

# 病院年報

第9巻  
(令和6年度)



独立行政法人 地域医療機能推進機構

大阪病院



# 独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院年報第9巻

## 卷 頭 言

令和六年度は、8月に第33回夏季パリオリンピック大会が開催され多くの日本人選手の活躍があり、9月には米大リーグドジャースの大谷翔平選手が史上初の「50-50」を達成、12月には「日本原水爆被害者団体協議会」がノーベル平和賞を受賞するなど明るいニュースがありました。一方、医療業界は、COVID-19パンデミック後の消費者物価高騰に加え、6月には大変厳しい医療・介護・障害福祉のトリプル診療報酬改定がありました。病院や医療機関にとっては試練の始まりの年になりました。この様に医療を取り巻く環境の大きなうねりの中での、令和六年度大阪病院の活動状況を年報第9巻にてご報告させて頂きます。

大阪病院の令和六年度は、その一月前の3月の電子カルテ更新から始まりました。ベンダー変更を伴う大規模な更新で、厳しい国のサイバーセキュリティ基準を順守したため、慣れない運用でのスタートとなりました。しかしこの変更で、地域の医療機関と電子カルテ情報が共有でき、オンライン予約もできる大阪病院ネットの運用が8月から始まりました。順次運用範囲を広げると、診療情報の共有や連携がスムースになり、地域の医療機関には高い評価を頂いております。

救急搬送に関しても要請が重ならない限り地域の救急には応需しています。その結果、令和六年度の年間救急搬送数は5,000台を超えました。また9月からは、地域医療機関から要請があった場合、大阪病院の救急車で救急医療を要する患者さんをその場まで迎えに行く「お迎え搬送」を開始しました。最近では、月30件を超える要請があります。地域の「命のリレー」を繋ぎ住民皆様に安心感を届け、医療機関からも大変好評です。

令和五年から始めた大阪病院オープンキャンパスは、令和六年は「**あなたと地域を支えます**～病院へ遊びにおいでよ～」をテーマに10月4日に開催しました。老若男女1,000人以上の患者家族・一般住民の皆様にご来場頂きました。来場された皆様の笑顔がとても素敵で、対応する職員も生き生きしていました。12月には大阪音楽大学の皆様の協力を得てクリスマスコンサート開催しました。大阪病院附属看護専門学校の学生によるキャンドルサービスの厳かな雰囲気の中、心安らぐ一時を過ごしました。また年が明けて2月にはバレンタインコンサートを開催し、来場された皆様には「J C H O 大阪体操 Let's exercise」で楽しくリフレッシュして頂きました。この様に大阪病院は、地域に開かれ、地域と共に成長する病院を目指しています。同時に医療においては、患者満足度だけではなく患者さんとの意見交換会（通称、患者会）を定期的に開催し、患者経験価値（PX）を評価し、日々の診療活動の改善に努めています。

令和五年度には「温かさ」と「癒やし」をコンセプトに産科病棟をリニューアルしました。その結果、当院で出産をされた人の満足度は95%以上となりました。令和六年はこれに引き続き外来のリニューアルを行いました。従来の入院病床数565床を505床に減床しましたが、減床部分を活用し、外来化学療法室を十三階に移設したことにより、眺めの良いゆったりとした空間で、がん診療や抗がん剤治療を受けて頂けるようになりました。令和六年度に引き続き現在も、今後必要になる外来機能を整備・拡充するため、病院の一階から三階までの外来の一部をリノベーションしています。

大阪病院は令和六年度に幾つかの外部評価を受審しました。何れも高い評価を頂いています。年度の初めにISO15189の更新が承認され、8月には病院機能評価を受審し、10月には卒後臨床研修評価機構（JCEP）の審査を受けました。どちらも高評価で認定を受けました。これらの外部評価により、大阪病院が提供する医療は一定水準以上のものであることを認めて頂きました。これからも安全で安心、より一層質の高い医療を温かいこころで「あなた」と「地域」を支えるために提供してまいります。

大阪病院は、地域医療支援病院として、紹介受診重点医療機関として、大阪府がん拠点病院そして救急指定病院として、地域の医療機関から選ばれ、地域住民の皆様が安心して受診でき、病気になったら大阪病院に受診したいと思って頂ける病院になる様尽力して参ります。同時に、優秀な医療者を育成し、若手医療者からも選ばれる病院を目指し地域の中核的医療機関としての機能を果たして参りたいと考えております。

これからも引き続き皆様方のご理解と忌憚の無いご意見をよろしくお願い申し上げます。

地域医療機能推進機構 大阪病院 病院長 西田俊朗

---

---

## INDEX

---

---

■ 理念	1
■ 病院概要	4
■ 施設基準	4
■ 学会認定	11
■ 沿革	12
■ 職員数	13
■ 附属施設	13
■ 組織図	14
■ Topics	15
■ 医事統計	23
■ 病歴統計	37
■ 部門概要	67
■ 各種委員会	145
■ 業績	147



# JCHO の理念

我ら全国ネットのJCHOは  
地域の住民、行政、関係機関と連携し  
地域医療の改革を進め  
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

## 地域医療支援病院としての基本方針

1. 小児救急を含む24時間救急医療をおこなっています。
2. 母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に24時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3. 各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4. 内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5. 慢性疾患に対してもリハビリを含む集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6. 脊椎・四肢・視覚・皮膚などの疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7. 心筋梗塞・脳卒中などに対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8. 生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9. 各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切におこなっています。
10. 地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11. 職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

# 大阪病院の PURPOSE, MISSION, VISION & CREDO

社会環境・構造が複雑化かつ急激に変化する時代において、当院が置かれている状況を様々な観点から再確認し、「私たちはどこに向かうのか」「私たちはなにを大切にしていくのか」…、今後の方針となるour PURPOSE を策定しました。

また、わたしたちは、何をやるかではなく、なぜやるのかを問い合わせながら、当院が存在する意義として【our PURPOSE】を表現するため、【our MISSION】【our VISION】の実現に向けて、【our CREDO】「あしたのしせい+」を示しました。これは、あらゆる日常の臨床場面において、私たちが大切にする価値観や行動規範です。いつも5つの信条を念頭に置いて、わたしの小さな一歩を職員皆で培い、より最適と最善を目指していきながら、JCHO 大阪病院は成長して参ります。

The infographic is divided into two main sections: a top section with an orange background and a bottom section with a blue background.

**Top Section (Orange):**

- JCHO OSAKA *our* PURPOSE**
- わたくしが存在する理由・社会への約束**
- より最適な医療と  
温かいこころで、  
「あなた」と「地域」を  
支えます**
- 大切なもの**
  - 大切な命が生まれるとき
  - 自分や大切な人が病に苦しむとき
  - ただただ回復を願うとき
  - 命の終わりが近づきつつあるとき
- その人らしさを大切にする心**
  - 多様なニーズに
  - 対応できる医療技術
  - 困ったときに助け合える関係
  - 未来に向けて育つ環境
- そして、**
  - 世の中が危機に瀕したとき
  - なにかあったときに
  - ここ大阪の地で
  - その存在であるために
- わたしたちは、**
  - より最適な医療と
  - 温かいこころで、
  - 「あなた」と「地域」を
  - 支えます
- あなた**

**Bottom Section (Blue):**

- JCHO OSAKA *our* MISSION**
- パーソスを実現するために  
目指し続けるもの**
- 「あなた」と「地域」を  
支えるために…**
- 一人ひとりに寄り添って、  
より最適な医療を目指します
  - 専門的かつ高度な医療技術を  
提供できる体制を確保し続けます
  - 未来の医療を支える  
プロフェッショナルを育成し続けます
  - 社会の要請・医療ニーズの変化に、  
真摯にかつ迅速に応えます
  - わたしたち職員は互いを支え、高め合い、  
そして大阪病院は職員を大切にします

- ① わたしたちは、「ありがとう」「選んでよかった」と思える病院をめざします
- ② わたしたちは、当院の「公的役割」をふまえ、社会の要請・医療ニーズの変化に真摯かつ迅速に応えます
- ③ わたしたちは、健やかな地域づくりのために、個人も病院も共に健やかであるよう努めます
- ④ わたしたちは、「成長実感」と「誇り」を持てる病院を創ります

# JCHO OSAKA *our* VISION FOR 2030

わたしたちが 2030 年までに  
創り出したい状態

## JCHO OSAKA *our* CREDO

わたしたちが大切にする価値観・行動基準



あ

### 温かさ

- 患者さんや地域に「温もり」や「その人らしさ」を感じながら寄り添えているか？
- 忙しい時こそ、自分自身や目の前のひとを大切にできているか？

し

### 支える

- 困難なときでも、働く仲間と支え合い、互いを高め合えているか？
- 地域になくてはならない存在の一員として「公的役割」も自覚できているか？

し

### 真摯

- 目の前の一人ひとりから「信頼」を得られるように、誠実に接しているか？
- ニーズを理解し、「迅速・丁寧・公正」に応えることができているか？

せい

### 成長

- プロフェッショナルとして「心・技・体」を磨き続けているか？
- 自らの成長とともに後進の成長に喜びを持つことができているか？

た

### 対話

- 互いに対話しやすいよう相手を尊重し、「心理的安全性」が高い関わりや環境づくりができるか？
- 対話を重ね、「より最適」なことが何かを探り、進化し続けているか？

+

### 小さな一歩

- より良い明日に向けて、わたし(たち)ができる「小さな一歩」を創り出せているか？
- わたしの一歩

## 【病院概要】

開設者： 独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）

病院名： 独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

病院長： 西田 俊朗

所在地： 大阪府大阪市福島区福島4丁目2番78号

開設年月日： 平成26年4月1日

許可病床数： 565床（一般病床）

特殊病床： 特定集中治療室（ICU） 12床

脳卒中ケアユニット（SCU） 9床

新生児特定集中治療室（NICU） 6床

開放型病床15床を含む

標準科： 整形外科 リウマチ科 形成外科 リハビリテーション科 外科

消化器外科（内視鏡） 呼吸器外科（内視鏡） 肝臓・胆のう・膵臓外科

乳腺・内分泌外科 脳神経外科 内科 消化器内科（内視鏡）

呼吸器内科（内視鏡） 腎臓内科（人工透析） 糖尿病内分泌内科

循環器内科 感染症内科 免疫内科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科

産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科 頭頸部外科 小児科 新生児内科

神経精神科 脳神経内科 放射線診断・IVR科 放射線治療科

歯科 歯科口腔外科 臨床検査科 病理診断科 麻酔科

緩和ケア・ペインクリニック科 救急科

## 【施設基準】

令和7年3月31日現在

先進医療	ウィルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）
入院基本料	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
入院基本料等加算	急性期充実体制加算1 超急性期脳卒中加算 救急医療管理加算

	診療録管理体制加算 1
	医師事務作業補助体制加算 2 (15 対 1)
	急性期看護補助体制加算 (25 対 1)
	看護職員夜間配置加算 (12 対 1 配置加算 1)
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	緩和ケア診療加算
	栄養サポートチーム加算
	医療安全対策加算 1
	感染対策向上加算 1
	患者サポート体制充実加算
	重症患者初期支援充実加算
	報告書管理体制加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	ハイリスク分娩管理加算
	呼吸ケアチーム加算
	術後疼痛管理チーム加算
	後発医薬品使用体制加算 1
	病棟薬剤業務実施加算 1
	病棟薬剤業務実施加算 2
	データ提出加算 2
	入退院支援加算 1
	認知症ケア加算 1
	せん妄ハイリスク患者ケア加算
	精神疾患診療体制加算
	排尿自立支援加算
	地域医療体制確保加算
	医療DX推進体制整備加算
	看護職員処遇改善評価料 60
	外来・在宅ベースアップ評価料 (1)
	入院ベースアップ評価料 76
特定入院料	特定集中治療室管理料 1
	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
	新生児特定集中治療室管理料 2
	小児入院医療管理料 2
指導管理	外来栄養食事指導料の注 2 に規定する基準
	心臓ベースメーカー指導管理料の注 5 に規定する遠隔モニタリング加算
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料

	がん患者指導管理料イ
	がん患者指導管理料ロ
	がん患者指導管理料ハ
	がん患者指導管理料ニ
	外来緩和ケア管理料
	糖尿病透析予防指導管理料
	小児運動器疾患指導管理料
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料
	婦人科特定疾患治療管理料
	腎代替療法指導管理料
	一般不妊治療管理料
	二次性骨折予防継続管理料1
	二次性骨折予防継続管理料3
	下肢創傷処置管理料
	慢性腎臓病透析予防指導管理料
	地域連携小児夜間・休日診療料1
	地域連携夜間・休日診療料
	院内トリアージ実施料
	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
	外来放射線照射診療料
	外来腫瘍化学療法診療料1
	連携充実加算
	ニコチン依存症管理料
	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
	開放型病院共同指導料
	がん治療連携計画策定料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	外来排尿自立指導料
	ハイリスク妊娠婦連携指導料1
	こころの連携指導料(II)
	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料1
	医療機器安全管理料2
在宅医療	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
	救急患者連携搬送料
	在宅療養後方支援病院
	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
検査	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)

	持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
	遺伝学的検査
	B R C A 1／2 遺伝子検査
	先天性代謝異常症検査
	H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（S A R S - C o V - 2 核酸検出を含まないもの）
	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（膿液）
	検体検査管理加算（Ⅰ）
	検体検査管理加算（Ⅳ）
	国際標準検査管理加算
	遺伝カウンセリング加算
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
	胎児心エコー法
	ヘッドアップティルト試験
	脳波検査判断料 1
	神経学的検査
	小児食物アレルギー負荷検査
	内服・点滴誘発試験
	経頸静脈の肝生検
	前立腺針生検法（M R I撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
画像診断	画像診断管理加算 2
	C T撮影及びM R I撮影
	冠動脈C T撮影加算
	心臓M R I撮影加算
	乳房M R I撮影加算
	小児鎮静下M R I撮影加算
	頭部M R I撮影加算
	全身M R I撮影加算
投薬	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
注射	外来化学療法加算 1
	無菌製剤処理料
リハビリ	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
	がん患者リハビリテーション料
	摂食機能療法（摂食嚥下機能回復体制加算 2）
	リンパ浮腫複合的治療料
精神科専門療法	療養生活継続支援加算
処置	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算 1

	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
	静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
	人工腎臓
	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
	ストーマ合併症加算
手術 他	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
	周術期栄養管理実施加算
	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
	後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
	椎間板内酵素注入療法
	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
	角結膜悪性腫瘍切除手術
	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
	緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
	緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いる）
	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
	乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法

胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁置換術
経カテーテル大動脈弁置換術
不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
大動脈バルーンパンピング法（I A B P 法）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
生体腎移植術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	精巣内精子採取術
	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
	遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
	遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術
	輸血管理料Ⅰ
	輸血適正使用加算
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
	麻酔管理料（Ⅰ）
	麻酔管理料（Ⅱ）
	放射線治療専任加算
	外来放射線治療加算
	高エネルギー放射線治療
	1回線量増加加算
	画像誘導放射線治療加算（IGRT）
	体外照射呼吸性移動対策加算
	定位放射線治療
	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
	保険医療機関間の連携による病理診断
	病理診断管理加算2
	悪性腫瘍病理組織標本加算
食事療養	入院時食事療養（Ⅰ）
歯科	地域歯科診療支援病院歯科初診料
	歯科外来診療医療安全対策加算2
	歯科外来診療感染対策加算4
	歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
	クラウン・ブリッジ維持管理料
	歯科治療時医療管理料
	歯科口腔リハビリテーション料2
	CAD/CAM冠

## 【医学会認定研修等施設一覧】

- |                                 |                                   |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 厚生労働省臨床研修指定病院                   | 日本消化器内視鏡学会認定指導施設                  |
| 日本内科学会認定医教育病院                   | 日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設               |
| 日本リハビリテーション医学会研修施設              | 日本透析医学会専門医認定施設                    |
| 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設            | 日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設              |
| 日本小児科学会小児科専門医研修支援施設             | 日本核医学会専門医教育病院                     |
| 日本外科学会外科専門医制度修練施設               | 日本臨床細胞学会認定施設                      |
| 日本整形外科学会専門医研修施設                 | 日本臨床細胞学会教育研修施設                    |
| 日本形成外科学会認定医研修施設                 | 日本脳神経外科学会専門医連携研修施設                |
| 日本皮膚科学会認定専門医研修施設                | 日本脳卒中学会専門医研修教育病院                  |
| 日本泌尿器科学会専門医教育施設                 | 日本脳卒中学会一次脳卒中センター                  |
| 日本眼科学会専門医制度研修施設                 | PSCコア施設                           |
| 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設                | 日本IVR学会専門医修練施設認定施設                |
| 日本医学放射線学会専門医修練機関                | 日本がん治療認定医機構認定研修施設                 |
| 日本産婦人科学会総合型専攻医指導施設              | 日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設                 |
| 日本麻醉科学会麻酔科認定病院                  | 日本栄養療法推進協議会NST稼動施設                |
| 日本病理学会病理専門医研修認定施設               | 日本食道学会全国登録認定施設                    |
| 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設             | 食道外科専門医準認定施設                      |
| 日本消化器病学会専門医認定施設                 | 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設               |
| 日本肝臓学会認定施設                      | 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設                |
| 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）     | 日本女性医学学会専門医制度認定研修施設               |
| 日本糖尿病学会認定教育施設                   | 日本病院総合診療医学会認定施設                   |
| 日本腎臓学会研修施設（内科・小児科）              | 日本消化管学会胃腸科指導施設                    |
| 日本神経学会専門医教育施設                   | 日本総合病院精神医学会一般病院連携研修施設             |
| 日本リウマチ学会教育施設                    | 日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設              |
| 日本呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設         | 日本脾臓学会認定指導施設                      |
| 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設          | 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設 |
| 日本消化器外科学会専門医修練施設                | 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設  |
| 日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医暫定認定施設 | 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設          |
| 日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設   | 肺がんCT検診認定施設                       |
| 日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設          | 日本胃癌学会認定研修施設（A）                   |
| 日本放射線腫瘍学会認定施設                   | 日本ステントグラフト実施施設                    |
| 日本手外科学会認定基幹研修施設                 | 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設                 |
| 脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設                 | 鼻科手術認可研修施設                        |
| 日本大腸肛門病学会認定施設                   | 心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設               |
| 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設                | 日本呼吸器学会新専門医制度機関施設                 |
|                                 | 集中治療科専門医研修施設                      |

## 【沿革】

昭和27年 10月	大阪厚生年金病院 開設（整形外科・内科54床）
29年 3月	外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・歯科新設334床
30年 4月	改築増床 計375床に
32年 7月	総合病院名称使用の承認
33年 4月	増改築増床 計560床に 福島小学校分校 併設（H22.12まで）厚生年金病院大阪高等看護学院 開院
34年 4月	下福島中学校分校 併設（H22.12まで）
10月	神経精神科・放射線科 新設
36年 4月	麻酔科 新設
38年 4月	リウマチ科・災害外科 新設
43年 7月	臨床研修指定機関となる
45年 9月	脳神経外科・リハビリテーション科・病理検査科 新設
48年 12月	病院新築工事着工（旧病院）
56年 3月	すべての新改築工事完了（旧病院）
57年 3月	10床増床 計570床に
平成 7年 2月	阪神・淡路大震災 医療支援活動
8年 2月	救急告示病院として認定
9年 3月	I C U・救急処置室 開設
12年 4月	開放型病床の承認（15床）
10月	院外処方全面発行開始
13年 7月	地域医療連絡室設置
16年 3月	オーダーリングシステム導入
4月	産科オープンシステム開始
18年 4月	D P C 対象病院に指定
10月	S C U（脳卒中ケアユニット）新設許可病床数変更570床→565床
19年 4月	院内保育園設置
12月	地域医療支援病院の承認
20年 5月	電子カルテシステム導入
22年 4月	大阪府がん診療拠点病院の指定
23年 4月	東日本大震災 医療支援活動
25年 2月	耐震建替工事着工
26年 4月	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院 改組
27年 4月	新病院竣工式
5月	新病院診療開始
28年 4月	新病院グランドオープン
令和 1年 9月	一次脳卒中センター認定
2年 4月	40床休床 N I C U 9床→6床 13階東45床／西45床→13階東60床 9階西46床→45床 C O V I D - 1 9 受入病床15床（13東） C O V I D - 1 9 救急外来 発熱外来用コンテナ設置 C O V I D - 1 9 3階図書コーナー閉鎖
4年 7月	大阪府小児地域医療センター 指定
5年 8月	紹介受診重点医療機関
6年 3月	大阪府と感染症法に基づく医療措置協定締結
6年 4月	55床休床（稼働病床505床）

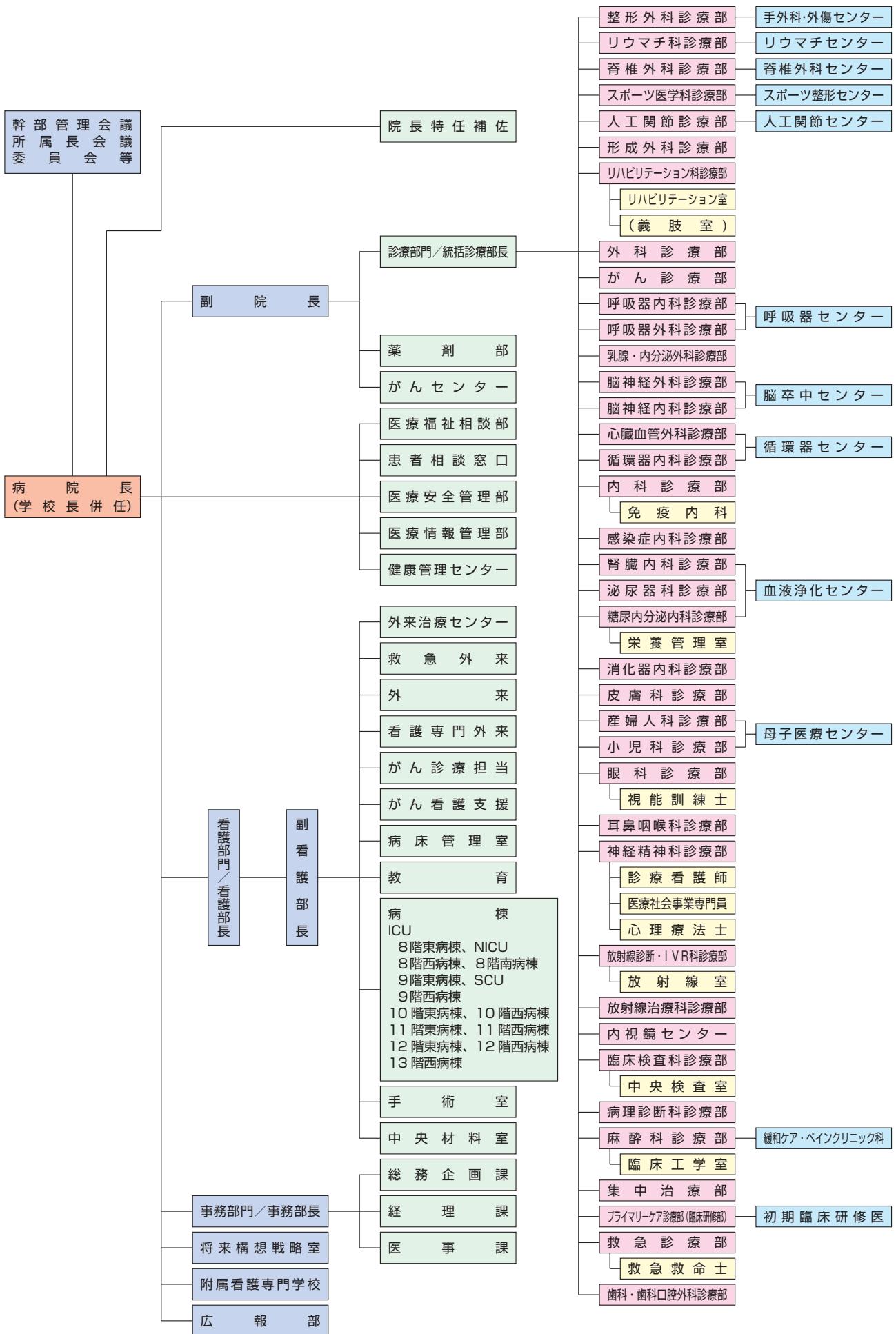
## 【職員数】

令和7年3月1日現在

	区分	医療職	医技職	看護職	事務職	診療情報管理職	技能職	福祉職	療養介助職	医師事務作業補助職	合計
病院	常勤	188.0	171.0	515.0	37.0	5.0	3.0	7.0	30.0	9.0	965.0
	非常勤	2.7	5.9	10.9	22.0	0.0	0.0	0.7	7.2	4.8	54.2
	小計	190.7	176.9	525.9	59.0	5.0	3.0	7.7	37.2	13.8	1,019.2
	区分	教育職	事務職								
学校	常勤	10.0	1.0								11.0
	非常勤	0.0	0.0								0.0
	小計	10.0	1.0								11.0
	合計(人)	200.7	177.9	525.9	59.0	5.0	3.0	7.7	37.2	13.8	1,030.2

## 【附属施設】

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校





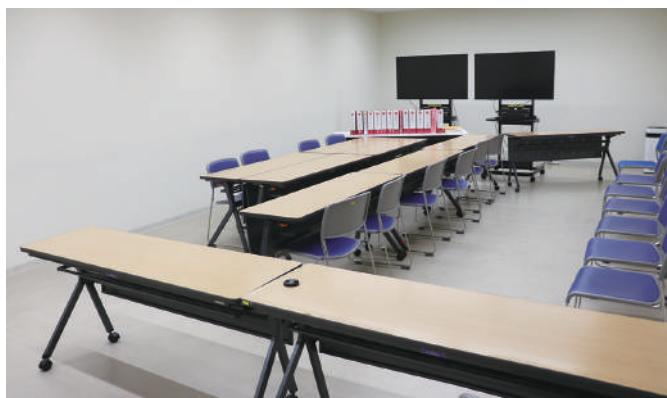
# Topics





# Topics

## 病院機能評価



【日本医療機能評価機構より、病院機能評価（3rdG:Ver. 3.0）の認定証が交付されました。】

日本医療機能評価機構による第三者評価（病院機能評価）は、質が高く安全な医療を提供でき、恒常に医療の向上に努める組織的な改善の仕組みを評価するものです。

評価に恥じぬよう、専門的かつ高度な医療技術を提供できる体制を確保し続けます。  
受審に際しまして、ご指導ご鞭撻を賜りました皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

## オープンキャンパス

遊びにおいてよ  
あなたと地域を支えます

### JCHO大阪病院 オープンキャンパス

**ミニ人間ドック**  
簡単な身体測定や計測、検査ができます。  
自分や家族の健康を考える機会にしましょう！

**バックヤードツアー**  
病院の普段入ることがないエリアを  
医療者がガイドします。

**体験コーナー**  
子どもから大人まで体験できる  
企画を用意しています。  
病院スタッフと一緒に楽しみ  
ましょう！

**オープンスクール&文化祭**  
大阪病院附属 看護専門学校を開放、  
皆さんに楽しんでいただける企画を  
用意しています。

**その他**  
健康や医療に関する様々な展示、  
動画上映などを行います。

**参加無料**

2024年  
**10月 5日 土曜日 10:00~**

JCHO大阪病院 〒553-0003 大阪市福島区福島4-2-78  
主催：オープンキャンパス実行委員会事務局  
06-6441-5451 (代)

遊びにおいてよ  
あなたと地域を支えます

### JCHO大阪病院 オープンキャンパス

**バックヤードツアー**  
コース  
A 放射線検査コース ①10:30~ ②11:30~ ③13:30~  
B 薬剤部検査室コース ①10:30~ ②11:30~ ③13:30~  
C 手術室コース ①10:45~ ②11:45~ ③13:45~  
受付 各時間帯の開始30分前~ (定員に達した時点で終了)

**ミニ人間ドック**  
・身体測定  
・血圧測定  
・医師・看護師等への質問・相談コーナー  
・飲酒量チェック  
・尿検査疑似体験  
・簡易血糖測定  
・ロコモ度テスト

**体験コーナー**  
きみもお医者さん・看護師さん！  
・白衣体験  
・腹腔鏡手術体験  
①10:30~ ②11:30~ ③13:30~  
受付 各時間帯の開始30分前~ (定員に達した時点で終了)  
すべてのお母さんにあたかいお産を  
・妊婦体験  
・赤ちゃんのお世話体験  
・写真撮影(サムネイル撮影)  
・足形アート  
・よちよちレースなど

**大腸トンネル探検隊**  
がん病変をみつけよう！

**急救車乗車体験**  
・車内の見学  
・写真撮影

**大切な人を教うために**  
・心臓マッサージ体験  
・AEDを使ってみよう！

**手洗い上手にできるかな？**  
手洗いbefore/after

**その他のイベント・催し**  
**ミニコンサート**  
時間 10:30~

**相談・展示コーナー**  
・がん患者協議会による「患者同士の何でも相談」  
・様々な病気の予防や治療、生活に関する動画上映やポスター展示をしています  
・医師や看護師などが展示に関する質問や相談にお答えします

**体操コーナー**  
Let's フレーレン予防・ロコモ予防  
時間 11:00~、13:00~  
・大阪病院体操「Active Life」  
・ロコモ体操

**その他イベント・催し**  
**ミニコンサート**  
時間 10:30~

**自分らしく過ごす~外見と心のケア~**  
資生堂ジャパンとのコラボ企画  
・バーソナルカラーディagnostic  
・眉メイク  
時間 ①13:00~ ②13:30~ ③14:00~ ④14:30~  
受付 10:00~ (定員に達した時点で受付終了)

イベントの詳細や変更などについては、随時、SNSでお知らせします。  
フォロー、友だち追加で最新情報をチェックしてください！

JCHO大阪病院 〒553-0003 大阪市福島区福島4-2-78  
<https://osakajcho.go.jp>





## 【オープンキャンパス】

2024年10月5日(土)にJCHO大阪病院オープンキャンパスを福島区民まつりと合わせて開催し、1,004名の方にお越し頂きました。

1階から3階までをイベント会場とし、診療部や看護部を中心に、専門性に応じて工夫を凝らしたブース展開を行いました。

2024年度より企画された院内バックヤードツアーでは、手術室、放射線室、検査室、薬剤室と、普段は入ることのできない場所へ、皆様をご案内しました。

## J C E P 認定



### 【JCEP 認定について】

当院では、約 20 名の初期研修医（卒後 1 年目と 2 年目）が常時研修を受けています。2024 年 12 月 1 日付で、卒後臨床研修評価機構より「認定（4 年）」の評価結果をいただきました。J C E P からは、地域中核病院として地域医療及び救急医療に貢献し、熱心な指導医のもとで、豊富な経験症例が多岐に渡る環境下にあり、研修医の満足度などが高く評価されました。一方で、今回の受審を通して、課題が明確になりましたので、これらを漸次克服し、今後も引き続き研修プログラムの充実に取り組み、優秀な医師の育成に努めてまいります。

## お迎え搬送

JCHO大阪病院

# お迎え搬送 始めます

2024年

9月2日(月) 9:00 開始



ご  
挨  
拶

この度、JCHO大阪病院に所属する救急救命士が当院の救急車に乗務し、患者様のお迎え搬送を始めることとなりました。地域の医療機関や福祉施設、往診先で発生した救急患者様の検査や治療のために当院へ搬送する必要が生じた際にご利用ください。

### 病院・クリニック

病院に入院中の患者様や地域の開業医を受診した患者様で、検査や治療のため当院へ救急搬送する必要がある場合。

### 福祉施設

デイサービス利用者様、福祉施設入所中の方の急な怪我や病気で当院へ救急搬送する必要がある場合。

### 往診医

往診先の患者様の症状が悪化して、当院で検査や治療の必要がある場合。  
※状況に応じて対応

対応時間 月～金（土日祝日除く）9:00～17:00

主な出動区域 福島区、此花区、西区

救急車内では救急救命士が患者様の症状を観察し、必要に応じて当院医師の指示のもとで救急救命処置を行なながら搬送します。

上記時間内であっても、当院救急外来の状況によってはお迎え搬送に対応できない場合がございます。

ご不明な点がございましたら当院地域連携室までお尋ねください



ホームページ



LINE



Facebook



Instagram



独立行政法人地域医療機能推進機構  
JCHO 大阪病院 地域連携室

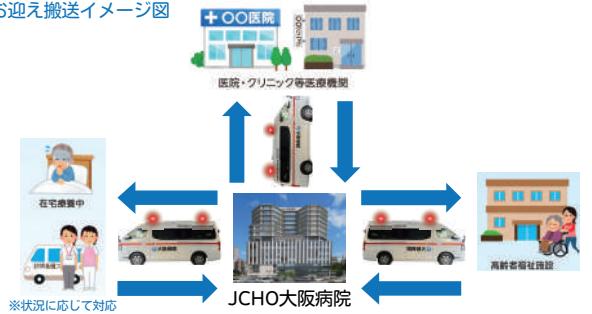
所在地 / 大阪市福島区福島4-2-78

サイト / <https://osaka.jcho.go.jp/>

電話番号 / 06-6441-5463 (直)



お迎え搬送イメージ図



### 【お迎え搬送】

2024年9月2日(月)より当院の救急救命士が当院の救急車に乗務し、患者様のお迎え搬送を始めることとなりました。地域の医療機関や福祉施設、往診先で発生した救急患者様の検査や治療のために当院へ搬送する必要が生じた際にご利用ください。

## お引越し



### 【13階に「乳腺内分泌外科外来」と「外来治療センター」がお引越ししました。】

2025年3月10日(月)より、「乳腺内分泌外科外来」と「外来治療センター」を、13階に移設しました。これまで手狭に感じていた診療スペースの十分な確保や、ゆったりしたソファーが並ぶ、落ち着きのある待合室など、リニューアルを兼ねた移設でした。何よりも最上階の13階といえば、窓からの眺めもよく、診療や治療を行う中でも、気分転換していただけるのではないかと願っています。



# 医事統計





## ■科別外来患者数【2024年度】

外来診療日：244日

診療科	新患	再来	合計	1日平均患者数		
				新患	再来	合計
整形外科	3,389	30,024	33,413	13.9	123.0	136.9
形成外科	568	2,915	3,483	2.3	11.9	14.3
リハビリテーション科	1	8,796	8,797	0.0	36.0	36.1
消化器外科	310	8,066	8,376	1.3	33.1	34.3
呼吸器外科	265	1,532	1,797	1.1	6.3	7.4
乳腺内分泌外科	290	9,339	9,629	1.2	38.3	39.5
心臓血管外科	37	1,519	1,556	0.2	6.2	6.4
脳神経外科	647	3,736	4,383	2.7	15.3	18.0
腎臓内科	228	10,712	10,940	0.9	43.9	44.8
糖尿病内分泌内科	298	13,899	14,197	1.2	57.0	58.2
呼吸器内科	565	9,244	9,809	2.3	37.9	40.2
消化器内科	1,652	24,980	26,632	6.8	102.4	109.1
循環器科	886	19,290	20,176	3.6	79.1	82.7
皮膚科	627	7,335	7,962	2.6	30.1	32.6
泌尿器科	338	8,730	9,068	1.4	35.8	37.2
産婦人科	1,017	17,826	18,843	4.2	73.1	77.2
眼科	790	18,184	18,974	3.2	74.5	77.8
耳鼻いんこう科	790	6,131	6,921	3.2	25.1	28.4
小児科	1,855	7,840	9,695	7.6	32.1	39.7
神経精神科	85	6,934	7,019	0.3	28.4	28.8
脳神経内科	541	4,863	5,404	2.2	19.9	22.1
放射線診断科	922	515	1,437	3.8	2.1	5.9
放射線治療科	2	2,151	2,153	0.0	8.8	8.8
免疫内科	102	2,501	2,603	0.4	10.3	10.7
感染症内科	81	262	343	0.3	1.1	1.4
麻酔科	33	2,805	2,838	0.1	11.5	11.6
歯科・歯科口腔外科	2,038	5,447	7,485	8.4	22.3	30.7
合計	18,357	235,576	253,933	75.2	965.5	1,040.7

## ■病棟別患者数

365日

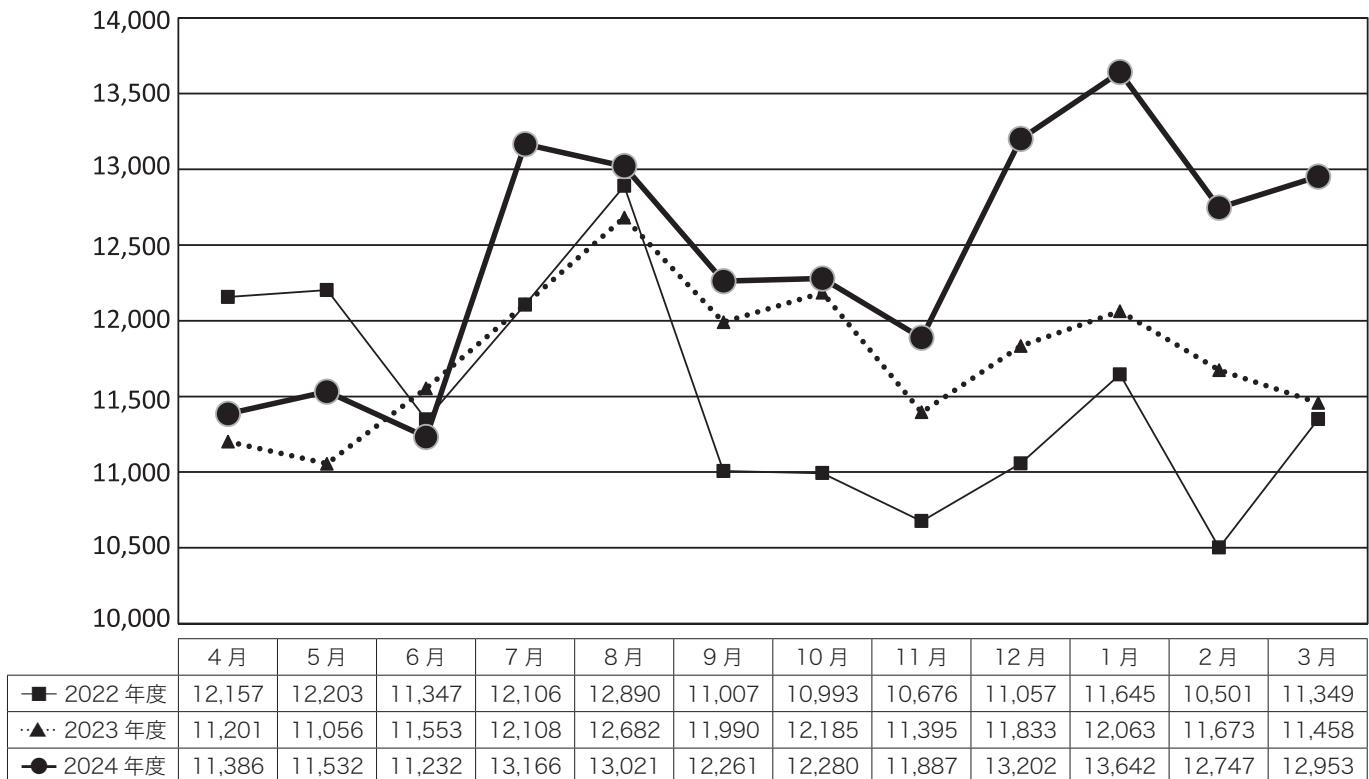
病棟名	取扱患者数	1日平均患者数
8階東	5,779	15.8
8階西	5,682	15.6
8階南	8,943	24.5
9階東	12,290	33.7
9階西	13,957	38.2
10階東	14,317	39.2
10階西	13,959	38.2
11階東	13,849	37.9
11階西	14,084	38.6
12階東	14,095	38.6
12階西	14,216	38.9
13階東	0	0.0
13階西	11,327	31.0
ICU	2,909	8.0
SCU	805	2.2
NICU	3,097	8.5
合計	149,309	409.1

## ■診療科別入院患者数【2024年度】

入院日数：365日

診療科	繰越延患者数	新入院患者数	退院患者数		在院延患者数	取扱患者数	1日平均患者数	平均在院日数
			死亡	退院				
整形外科	84	2,253	1	2,253	30,560	32,814	89.9	13.6
形成外科	1	190	0	197	1,267	1,464	4.0	6.5
消化器外科	26	945	21	949	10,156	11,126	30.5	10.6
呼吸器外科	3	124	1	138	1,341	1,480	4.1	10.2
乳腺内分泌外科	2	305	7	291	2,071	2,369	6.5	6.9
心臓血管外科	5	111	2	121	2,220	2,343	6.4	19.0
脳神経外科	11	393	23	360	5,924	6,307	17.3	15.3
腎臓内科	16	468	18	444	6,230	6,692	18.3	13.4
糖尿病内分泌内科	10	463	15	442	5,716	6,173	16.9	12.4
呼吸器内科	23	838	50	775	11,327	12,152	33.3	13.6
免疫内科	2	114	5	116	1,160	1,281	3.5	9.9
消化器内科	19	2,412	44	2,322	15,296	17,662	48.4	6.4
循環器科	31	1,356	37	1,274	11,791	13,102	35.9	8.8
皮膚科	8	160	1	172	1,717	1,890	5.2	10.3
泌尿器科	11	533	5	527	4,131	4,663	12.8	7.8
産婦人科	13	1,180	1	1,175	6,559	7,735	21.2	5.6
眼科	2	843	0	844	2,150	2,994	8.2	2.5
耳鼻いんこう科	2	559	0	566	2,162	2,728	7.5	3.8
小児科	13	1,343	0	1,343	5,904	7,247	19.9	4.4
脳神経内科	12	410	12	399	6,085	6,496	17.8	14.8
歯科・歯科口腔外科	1	131	0	132	459	591	1.6	3.5
合計	295	15,131	243	14,840	134,226	149,309	409.1	8.9

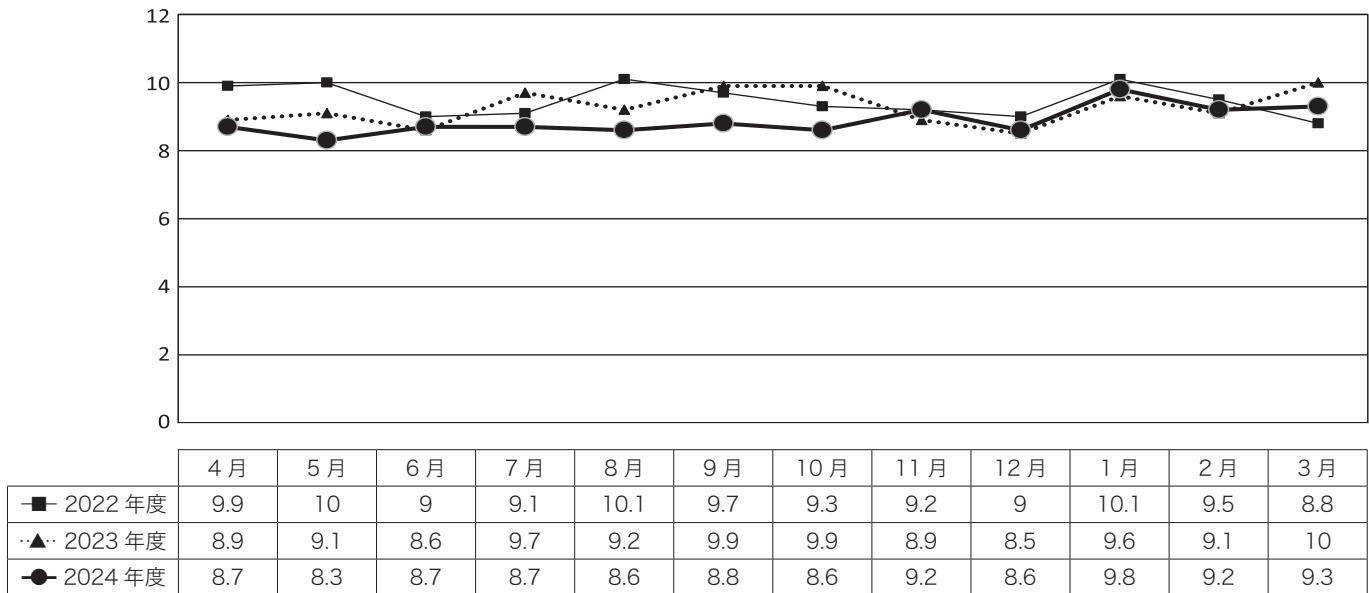
## ■入院延患者数の推移



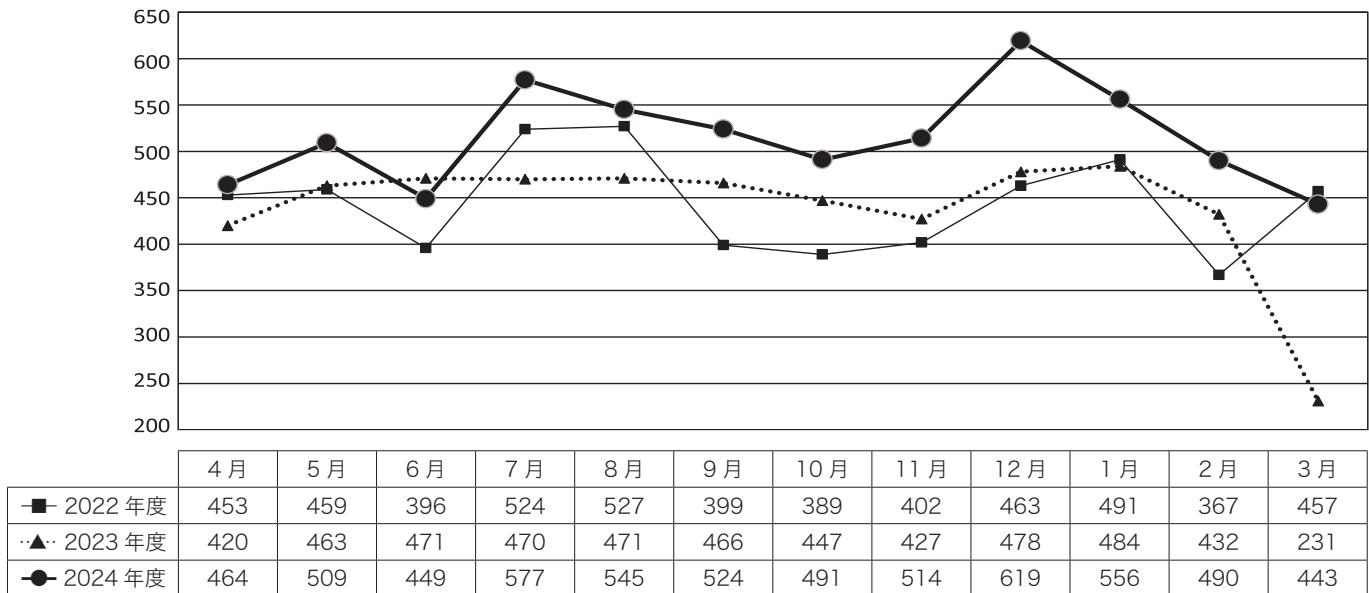
## 【2024年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	2,711	2,538	2,450	3,052	2,847	2,743	2,636	2,758	2,848	2,468	2,803	2,960	32,814
形成	116	157	173	110	111	113	87	104	154	145	119	75	1,464
外科	1,038	796	928	1,146	1,194	1,245	1,119	967	1,027	985	1,034	1,127	12,606
乳腺	183	237	175	186	177	202	171	250	232	217	195	144	2,369
心臓	157	142	175	219	231	99	186	231	213	217	201	272	2,343
脳外	420	487	459	560	383	491	468	513	535	668	667	656	6,307
内科	1,891	2,014	2,007	2,379	2,248	2,058	2,008	2,029	2,164	2,953	2,357	2,190	26,298
消化器	1,358	1,371	1,415	1,602	1,764	1,544	1,364	1,279	1,489	1,454	1,365	1,657	17,662
循環	979	927	1,002	1,092	1,038	1,033	985	962	1,281	1,569	1,066	1,168	13,102
皮膚	112	128	115	192	214	152	197	214	165	133	141	127	1,890
泌尿	323	408	327	425	325	422	472	308	523	463	297	370	4,663
産婦	595	669	508	555	722	711	796	683	708	623	638	527	7,735
眼科	222	268	311	247	267	199	317	206	173	233	284	267	2,994
耳鼻	187	302	246	217	265	228	262	197	253	155	223	193	2,728
小児	577	558	504	624	668	618	626	529	744	593	672	534	7,247
神内	480	474	412	527	536	368	539	623	647	688	593	609	6,496
歯科	37	56	25	33	31	35	47	34	46	78	92	77	591
合計	11,386	11,532	11,232	13,166	13,021	12,261	12,280	11,887	13,202	13,642	12,747	12,953	149,309

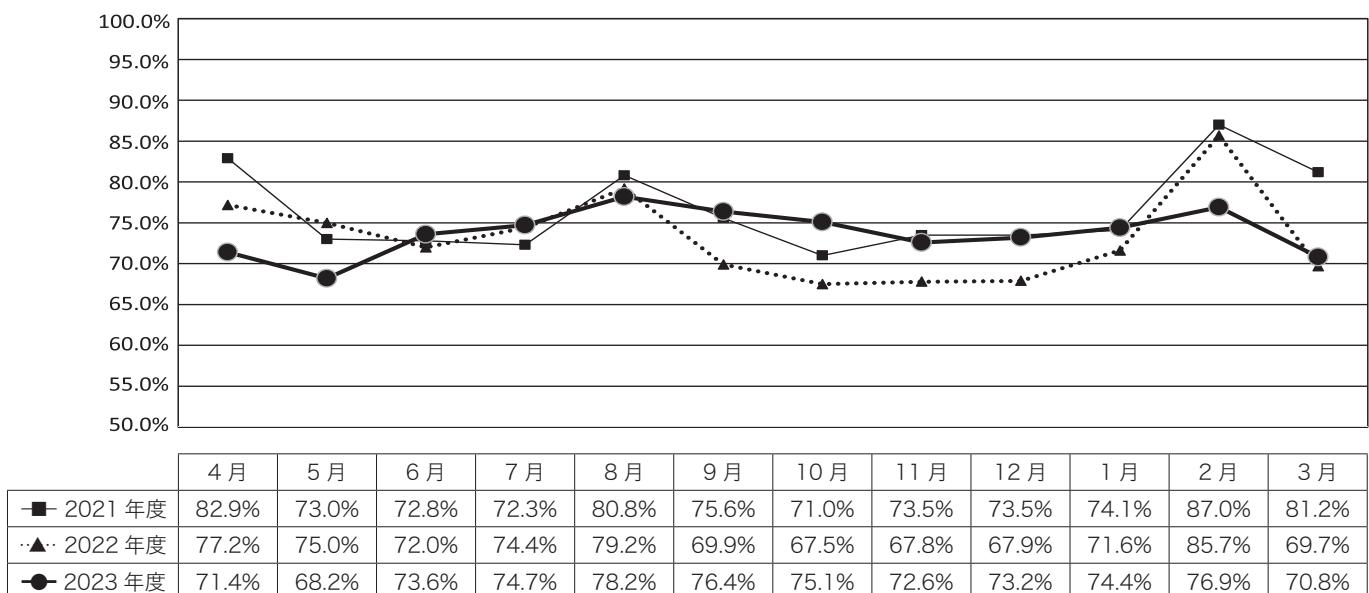
## 1. 平均在院日数



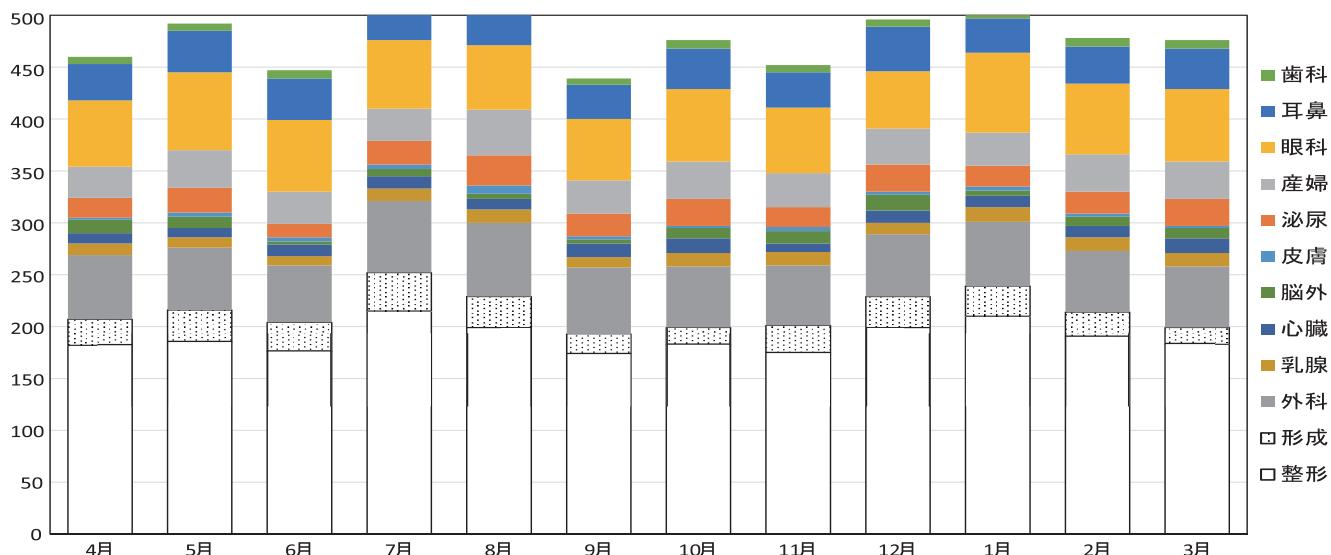
## 2. 直入患者数の推移



## 3. 病床稼働率



## ■診療科別手術件数（手術室実施分）【2024年度】



## 【2024年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	182	185	176	215	199	174	183	175	199	210	190	183	2,271
形成	25	31	28	37	30	19	16	26	30	29	24	16	311
外科	62	60	55	69	71	64	59	58	60	62	59	59	738
乳腺	11	10	9	12	13	10	13	13	11	14	13	13	142
心臓	10	9	11	12	10	13	14	8	12	11	11	14	135
脳外	13	11	3	7	5	4	10	12	15	5	9	10	104
皮膚	2	4	4	4	8	3	2	4	3	4	3	2	43
泌尿	19	24	13	23	29	22	26	19	26	20	21	26	268
産婦	30	36	31	31	44	32	36	33	35	32	36	36	412
眼科	64	75	69	66	62	59	70	63	55	77	68	70	798
耳鼻	35	40	40	38	45	33	39	34	43	33	36	39	455
歯科	7	7	8	6	10	6	8	7	7	11	8	8	93
合計	460	492	447	520	526	439	476	452	496	508	478	476	5,770

## 【2023年度】

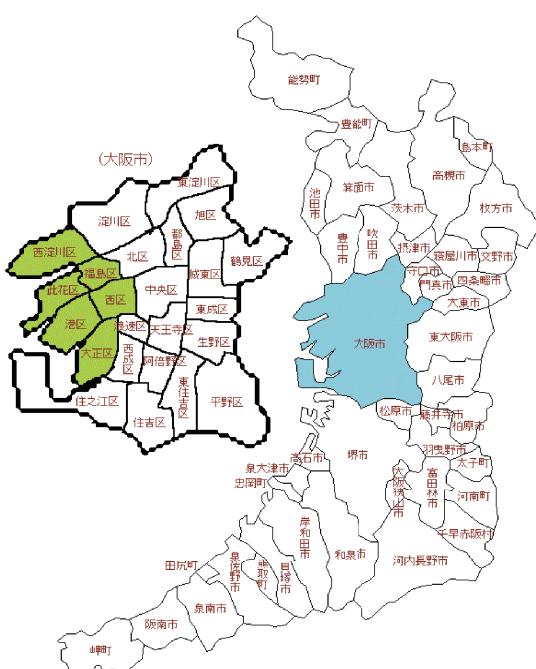
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	185	178	198	188	218	182	188	184	198	175	194	159	2,247
形成	27	21	31	27	42	32	34	33	26	29	30	18	350
外科	58	59	62	53	65	45	54	52	47	55	50	52	652
乳腺	14	9	10	9	9	11	10	9	9	9	12	9	120
心臓	20	17	13	15	17	14	15	14	13	15	17	15	185
脳外	2	6	10	6	4	4	7	7	11	8	8	9	82
皮膚	6	3	5	4	2	5	3	6	4	0	3	5	46
泌尿	17	14	16	14	19	15	19	15	13	15	19	13	189
産婦	23	31	26	33	40	33	35	37	33	34	30	27	382
眼科	92	57	74	62	59	56	85	73	73	55	71	39	796
耳鼻	29	32	28	27	38	33	37	33	35	27	33	31	383
歯科	1	2	2	2	5	7	6	3	6	7	7	6	54
合計	474	429	475	440	518	437	493	466	468	429	474	383	5,486

## 【2022年度】

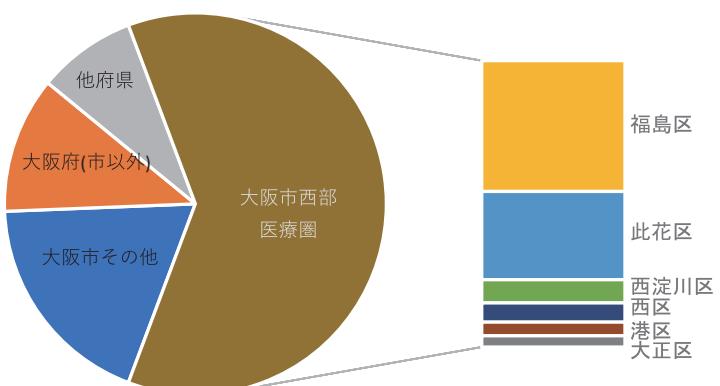
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	162	170	183	186	192	168	163	180	158	167	153	211	2,093
形成	37	25	38	35	28	35	25	22	25	25	27	35	357
外科	54	59	62	60	56	56	57	44	70	49	40	56	663
乳腺	11	7	12	12	12	12	14	9	8	9	8	13	127
心臓	23	19	14	9	8	12	14	13	14	21	10	13	170
脳外	9	7	10	4	9	10	8	5	4	8	6	10	90
皮膚	4	3	3	1	3	3	3	5	5	3	6	5	44
泌尿	15	19	17	21	13	24	10	17	15	16	15	14	196
産婦	27	29	26	20	38	31	30	22	30	20	26	36	335
眼科	79	87	98	69	59	60	92	88	63	60	74	77	906
耳鼻	9	8	17	19	22	16	19	21	21	29	25	24	230
歯科	2	3	4	4	4	3	2	1	1	2	0	3	29
合計	432	436	484	440	444	430	437	427	414	409	390	497	5,240

## ■診療科別住所地別入院患者数【2024年度】

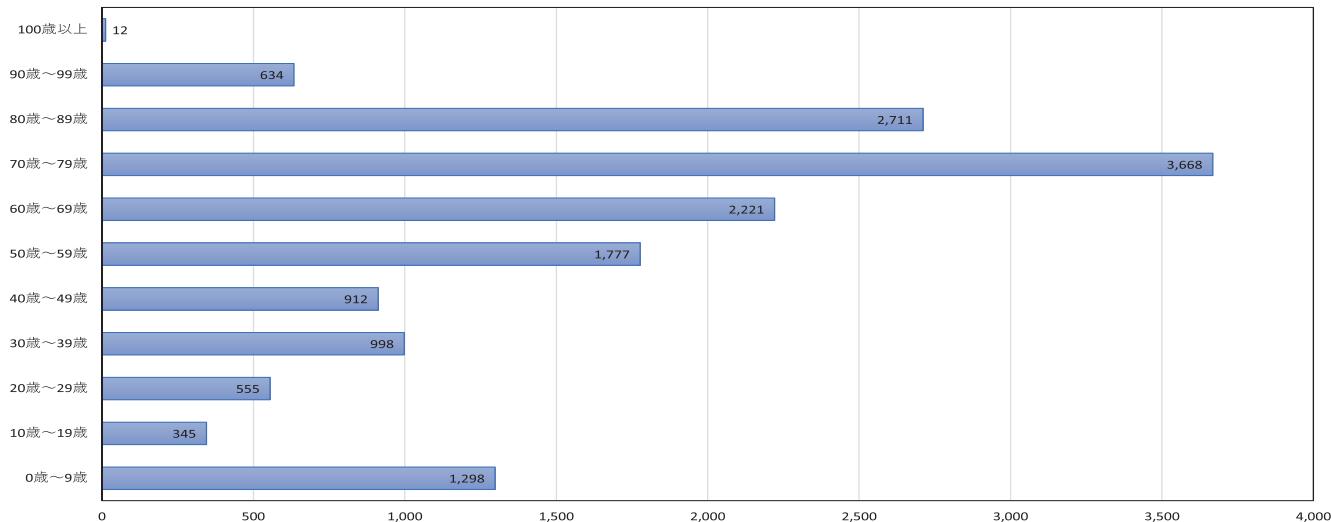
診療科	大阪市							その他 大阪府	他府県	合計
	福島区	此花区	西淀川区	西区	港区	大正区	その他			
整形外科	254	144	109	126	75	61	548	658	278	2,253
形成外科	57	30	23	12	4	3	25	16	20	190
消化器外科	263	218	65	45	48	9	125	109	63	945
呼吸器外科	28	27	9	4	7	1	19	17	12	124
乳腺内分泌外科	44	51	34	29	19	8	39	59	22	305
心臓血管外科	32	15	6	7	16	3	25	6	1	111
脳神経外科	101	96	48	20	15	8	60	29	16	393
腎臓内科	162	96	31	14	23	8	77	40	17	468
糖尿病内分泌内科	143	112	30	19	17	10	74	37	21	463
呼吸器内科	241	207	55	27	46	32	123	78	29	838
免疫内科	29	25	6	5	3	1	26	12	7	114
消化器内科	722	529	147	122	58	49	334	265	186	2,412
循環器科	375	304	112	68	79	31	219	128	40	1,356
皮膚科	57	33	15	4	6	3	25	14	3	160
泌尿器科	171	89	33	24	28	9	90	47	42	533
産婦人科	467	74	31	110	20	27	299	93	59	1,180
眼科	169	182	37	14	11	10	133	179	108	843
耳鼻いんこう科	136	67	29	34	20	4	139	97	33	559
小児科	547	79	28	179	45	7	342	72	44	1,343
脳神経内科	97	120	30	20	13	10	66	40	14	410
歯科・歯科口腔外科	56	15	13	8	1	0	21	12	5	131
合計	4,151	2,513	891	891	554	294	2,809	2,008	1,020	15,131



地区別入院患者数



## ■年齢階層別新入院患者数【2024年度】



## 【2024年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	97	112	100	116	111	106	100	108	133	108	111	96	1,298
10歳～19歳	21	21	22	35	36	33	24	27	36	27	28	35	345
20歳～29歳	31	40	41	45	65	45	48	57	46	46	50	41	555
30歳～39歳	89	99	65	84	95	89	78	81	78	76	82	82	998
40歳～49歳	90	69	72	75	88	93	90	52	68	76	65	74	912
50歳～59歳	161	133	134	157	154	145	160	142	161	169	126	135	1,777
60歳～69歳	166	184	178	214	184	170	190	162	219	184	171	199	2,221
70歳～79歳	263	293	310	367	302	319	317	281	292	328	292	304	3,668
80歳～89歳	228	218	197	249	228	199	210	203	259	242	244	234	2,711
90歳～99歳	49	48	47	61	63	61	40	46	59	59	64	37	634
100歳以上	2	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	3	12
合計	1,197	1,217	1,167	1,404	1,326	1,260	1,258	1,160	1,352	1,316	1,236	1,238	15,131

## 【2023年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	60	55	70	122	99	66	50	61	58	63	54	58	816
10歳～19歳	20	18	20	25	35	23	17	17	32	22	28	29	286
20歳～29歳	33	50	35	38	45	44	38	36	41	37	41	39	477
30歳～39歳	74	62	54	80	81	84	81	96	83	76	67	67	905
40歳～49歳	81	85	81	91	78	69	88	61	75	68	92	82	951
50歳～59歳	148	129	154	117	131	124	144	127	149	156	160	116	1,655
60歳～69歳	180	168	184	152	196	149	192	169	176	184	165	130	2,045
70歳～79歳	287	265	344	293	304	286	347	297	286	337	301	299	3,646
80歳～89歳	204	215	227	190	209	208	191	241	234	210	202	175	2,506
90歳～99歳	44	55	37	46	50	33	36	29	49	67	28	28	502
100歳以上	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	7
合計	1,131	1,104	1,206	1,154	1,228	1,087	1,184	1,134	1,184	1,220	1,140	1,024	13,796

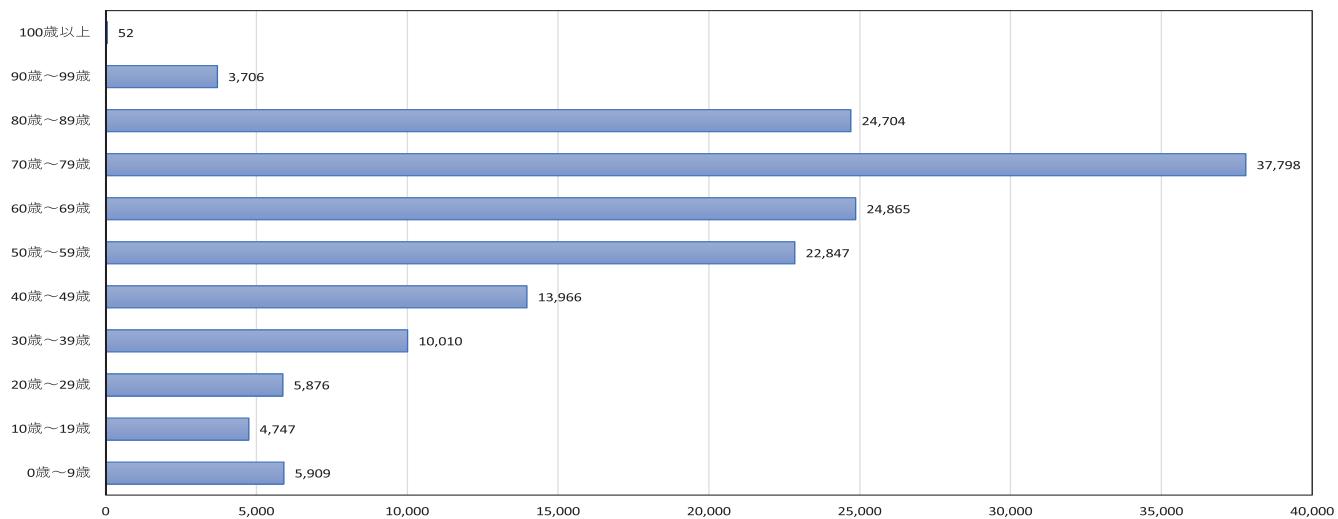
## 【2022年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	58	56	66	125	95	61	45	57	52	57	47	65	784
10歳～19歳	19	19	19	26	34	21	15	16	29	20	24	33	275
20歳～29歳	32	51	33	39	43	40	34	34	37	34	36	44	457
30歳～39歳	71	64	51	82	78	77	73	90	74	69	58	75	862
40歳～49歳	78	87	76	94	75	63	79	57	67	62	80	92	910
50歳～59歳	143	132	145	120	126	114	129	119	133	142	139	130	1,572
60歳～69歳	173	173	173	156	188	137	172	158	157	168	143	146	1,944
70歳～79歳	277	274	324	302	290	264	311	279	256	305	264	337	3,483
80歳～89歳	197	221	214	195	201	191	171	226	209	191	175	197	2,388
90歳～99歳	42	56	35	47	48	30	32	27	44	61	24	31	477
100歳以上	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	0	1	7
合計	1,090	1,134	1,136	1,186	1,179	998	1,061	1,063	1,059	1,112	990	1,151	13,159

## 【2021年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	80	79	81	85	59	38	66	57	58	54	42	37	736
10歳～19歳	14	10	17	34	23	17	24	19	28	30	17	32	265
20歳～29歳	42	32	32	35	57	26	36	37	35	36	39	40	447
30歳～39歳	78	66	68	73	86	68	75	69	61	77	67	68	856
40歳～49歳	87	78	68	93	97	87	63	64	65	79	70	75	926
50歳～59歳	121	112	119	131	134	105	120	115	103	122	109	137	1,428
60歳～69歳	170	149	162	143	174	169	166	182	152	187	165	172	1,991
70歳～79歳	304	260	254	263	317	255	251	294	223	306	262	294	3,283
80歳～89歳	178	157	163	179	160	152	185	182	183	200	184	190	2,113
90歳～99歳	27	29	23	21	30	30	24	30	39	51	41	41	386
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	1,101	972	987	1,057	1,137	947	1,010	1,049	947	1,142	996	1,087	12,432

## ■年齢階層別外来実患者数【2024年度】



## 【2024年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	429	475	445	605	527	521	509	476	490	450	440	541	5,909
10歳～19歳	378	355	361	439	518	358	358	338	429	392	321	501	4,747
20歳～29歳	496	474	435	621	569	446	441	415	445	478	500	555	5,876
30歳～39歳	822	845	787	918	845	828	802	833	837	854	786	854	10,010
40歳～49歳	1,119	1,088	1,210	1,143	1,120	1,173	1,190	1,152	1,146	1,157	1,288	13,966	
50歳～59歳	1,859	1,832	1,981	1,926	1,798	1,855	2,016	1,831	1,961	1,932	1,854	2,003	22,847
60歳～69歳	2,034	1,994	2,105	2,024	2,002	2,078	2,242	2,029	2,107	2,092	1,999	2,158	24,865
70歳～79歳	3,229	3,076	3,127	3,123	3,020	3,209	3,363	3,151	3,144	3,172	2,995	3,190	37,798
80歳～89歳	2,152	2,118	2,140	2,071	1,962	2,125	2,286	2,134	2,180	1,834	1,743	1,958	24,704
90歳～99歳	333	318	324	335	308	316	362	327	325	261	237	260	3,706
100歳以上	4	3	4	3	4	5	6	4	6	6	6	2	52
合計	12,855	12,579	12,888	13,274	12,695	12,861	13,559	12,729	13,075	12,617	12,037	13,310	154,479

## 【2023年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	419	484	469	591	542	531	509	487	497	449	467	512	5,957
10歳～19歳	369	361	380	429	532	365	358	346	435	391	341	474	4,781
20歳～29歳	485	483	458	606	585	455	441	425	451	477	531	525	5,922
30歳～39歳	803	860	830	896	868	844	802	852	849	852	834	808	10,098
40歳～49歳	1,094	1,108	1,243	1,181	1,174	1,141	1,172	1,218	1,169	1,144	1,228	1,219	14,091
50歳～59歳	1,817	1,865	2,088	1,880	1,847	1,890	2,015	1,874	1,989	1,928	1,968	1,895	23,056
60歳～69歳	1,988	2,030	2,219	1,976	2,057	2,118	2,241	2,076	2,137	2,088	2,122	2,042	25,094
70歳～79歳	3,156	3,132	3,296	3,049	3,103	3,270	3,362	3,224	3,189	3,165	3,179	3,018	38,143
80歳～89歳	2,103	2,156	2,256	2,022	2,016	2,165	2,285	2,184	2,212	1,830	1,850	1,853	24,932
90歳～99歳	325	324	341	327	316	322	362	335	330	260	252	246	3,740
100歳以上	4	3	4	3	4	5	6	4	6	6	6	2	53
合計	12,563	12,806	13,584	12,960	13,044	13,106	13,553	13,025	13,264	12,590	12,778	12,594	155,867

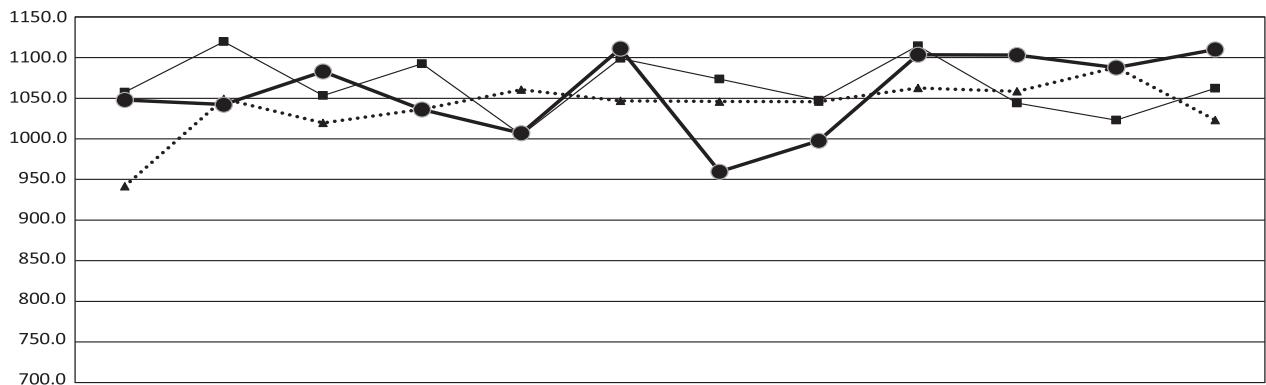
## 【2022年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	432	483	469	613	552	538	488	478	487	434	437	555	5,966
10歳～19歳	380	360	380	445	542	370	343	339	427	378	319	514	4,797
20歳～29歳	499	482	458	629	596	461	423	417	442	461	497	569	5,934
30歳～39歳	826	858	830	929	884	856	769	836	833	823	781	876	10,101
40歳～49歳	1,126	1,105	1,243	1,225	1,196	1,157	1,124	1,195	1,147	1,105	1,149	1,322	14,094
50歳～59歳	1,870	1,860	2,088	1,950	1,882	1,917	1,933	1,838	1,951	1,862	1,842	2,055	23,048
60歳～69歳	2,046	2,024	2,219	2,050	2,096	2,148	2,149	2,036	2,096	2,017	1,986	2,214	25,081
70歳～79歳	3,248	3,123	3,296	3,163	3,162	3,316	3,225	3,162	3,128	3,057	2,975	3,273	38,128
80歳～89歳	2,164	2,150	2,256	2,098	2,054	2,196	2,192	2,142	2,169	1,767	1,731	2,010	24,929
90歳～99歳	334	323	341	339	322	327	347	329	324	251	236	267	3,740
100歳以上	4	3	4	3	4	5	6	4	6	6	6	2	53
合計	12,929	12,771	13,584	13,444	13,290	13,291	12,999	12,776	13,010	12,161	11,959	13,657	155,871

## 【2021年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	498	474	571	512	509	440	462	481	499	412	390	498	5,746
10歳～19歳	413	262	318	403	555	341	359	352	434	376	309	525	4,647
20歳～29歳	483	410	463	504	522	479	447	439	465	494	499	583	5,788
30歳～39歳	821	777	859	824	849	888	859	821	838	850	799	885	10,070
40歳～49歳	1,307	1,206	1,323	1,302	1,254	1,284	1,284	1,259	1,248	1,215	1,178	1,295	15,155
50歳～59歳	1,891	1,742	1,982	1,876	1,860	1,955	1,935	1,887	1,999	1,896	1,798	2,031	22,852
60歳～69歳	2,174	2,002	2,218	2,155	2,094	2,208	2,236	2,263	2,184	2,124	2,028	2,280	25,966
70歳～79歳	3,330	3,141	3,425	3,337	3,219	3,332	3,423	3,400	3,379	3,153	3,036	3,481	39,656
80歳～89歳	1,901	1,728	1,900	1,894	1,737	1,913	1,972	1,972	1,967	1,829	1,784	2,085	22,688
90歳～99歳	238	203	271	248	231	259	247	226	252	348	249	285	3,057
100歳以上	4	0	0	2	0	1	1	0	3	2	2	3	18
合計	13,060	11,945	13,330	13,057	12,830	13,100	13,231	13,100	13,268	12,699	12,072	13,951	155,643

## ■ 1日平均外来患者数の推移

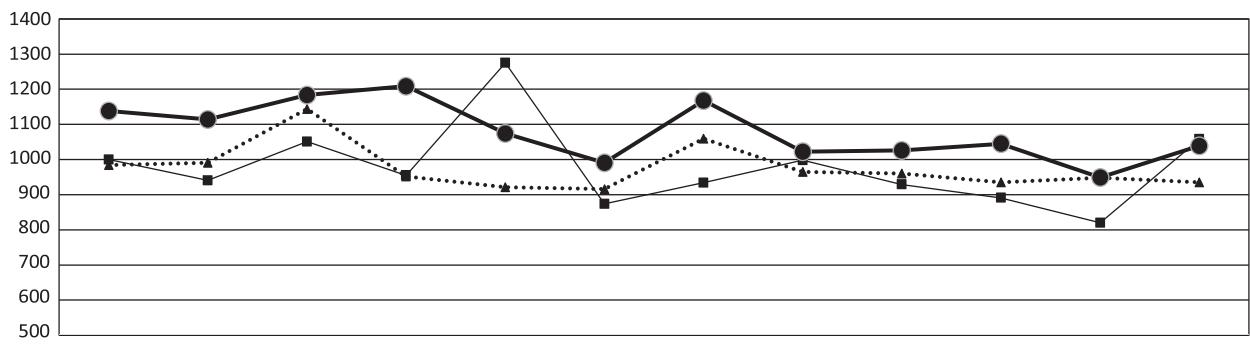


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■ 2022 年度	1057.5	1119.5	1053.4	1092.5	1004.8	1099.0	1073.5	1047.6	1114.3	1044.0	1022.9	1062.3
▲ 2023 年度	941.5	1049.1	1019.7	1036.4	1060.7	1046.9	1045.9	1045.6	1062.6	1058.5	1087.9	1023.1
● 2024 年度	1047.9	1042.1	1082.7	1036.2	1006.8	1111.0	959.6	997.5	1103.6	1103.0	1087.5	1110.1

## 【2024 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来日数	21.0	21.0	20.0	22.0	21.0	19.0	22.0	21.0	20.0	19.0	18.0	20.0	244.0
整形	133.6	128.3	141.2	138.1	127.1	141.8	122.5	130.9	138.1	142.5	135.2	148.3	135.6
形成	11.5	14.0	13.2	14.8	13.3	13.3	11.5	14.1	15.7	14.3	14.2	17.2	13.9
リハ	35.2	37.4	34.6	36.5	35.2	39.1	33.8	33.9	33.6	36.8	36.2	38.2	35.9
外科	41.5	39.8	44.1	40.7	39.6	44.7	38.6	36.6	39.8	43.0	45.2	44.3	41.5
乳腺	39.5	39.4	40.7	37.7	33.6	43.3	37.4	37.3	41.6	39.9	41.4	40.4	39.4
心臓	7.6	6.9	6.2	6.0	5.3	6.8	5.9	5.5	6.0	6.8	6.4	7.6	6.4
脳外	19.1	16.7	18.3	18.2	14.1	18.8	16.3	16.0	18.5	18.5	19.9	19.8	17.9
内科	157.3	153.4	165.2	165.0	168.4	181.9	157.1	156.7	177.2	182.6	178.9	175.2	168.2
消化	112.9	107.0	116.5	107.6	103.8	112.5	97.1	106.4	109.3	105.8	112.1	110.1	108.4
循環	83.8	80.5	80.2	79.0	74.7	83.7	72.3	81.6	87.4	90.7	87.4	83.7	82.1
皮膚	30.6	32.6	33.4	34.1	33.0	34.9	30.2	29.0	32.3	33.9	31.1	33.5	32.4
泌尿	36.8	37.6	36.4	35.9	37.8	40.0	34.5	36.7	35.5	40.0	34.3	39.8	37.1
産婦	97.4	103.3	99.0	74.9	72.0	85.5	73.9	73.5	107.9	80.0	82.1	82.6	86.0
眼科	75.1	77.5	76.8	73.8	77.4	79.9	69.0	70.5	78.3	85.4	83.2	84.0	77.6
耳鼻	25.9	28.2	29.1	27.0	26.1	29.8	25.7	27.2	29.6	28.3	31.7	30.7	28.3
小児	35.8	37.6	38.6	37.6	42.6	42.0	36.3	38.2	45.4	41.8	37.5	40.6	39.5
神経	29.0	28.3	28.9	28.0	27.2	30.3	26.2	26.8	29.6	29.8	28.6	29.4	28.5
脳内	22.4	21.0	21.4	23.5	20.2	23.2	20.0	21.9	22.5	24.3	21.6	21.7	22.0
放診	5.8	5.4	8.1	6.1	5.2	6.4	5.5	5.4	4.3	5.3	6.3	6.3	5.8
放治	11.6	10.0	9.0	8.1	7.9	7.3	6.3	8.5	9.1	7.8	9.1	9.6	8.7
麻酔	7.7	8.4	11.6	13.1	13.8	14.2	12.2	10.8	11.8	13.1	12.2	11.9	11.7
歯科	27.8	28.8	30.2	30.5	28.5	31.6	27.3	30.0	30.1	32.4	32.9	35.2	30.4
合計	1047.9	1042.1	1082.7	1036.2	1006.8	1111.0	959.6	997.5	1103.6	1103.0	1087.5	1110.1	1057.3

## ■ 紹介患者数の推移

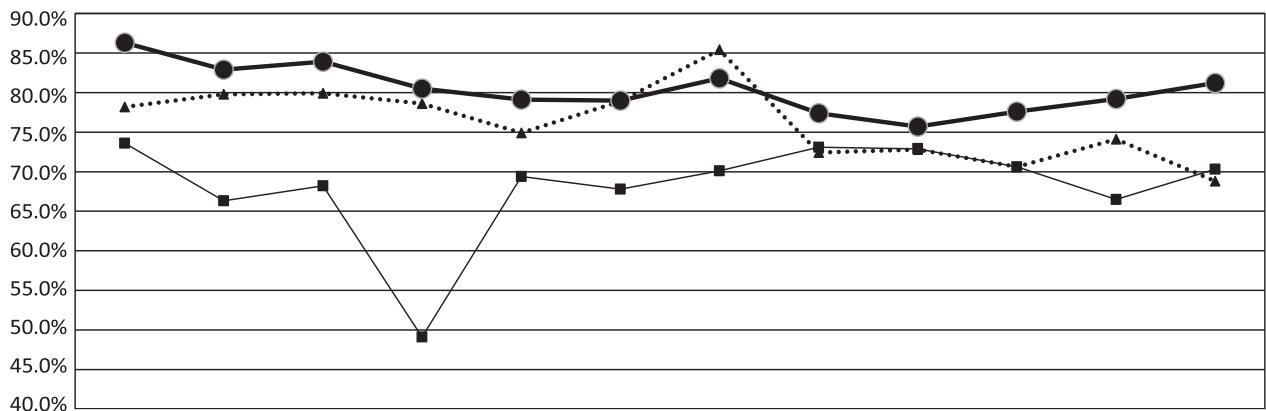


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■ 2022 年度	1000	941	1051	955	1275	874	934	998	929	891	820	1058
▲ 2023 年度	984	991	1144	952	921	916	1059	965	960	935	948	935
● 2024 年度	1138	1114	1184	1209	1074	991	1168	1022	1026	1045	949	1039

## ■地域医療支援病院 紹介率と逆紹介率の推移

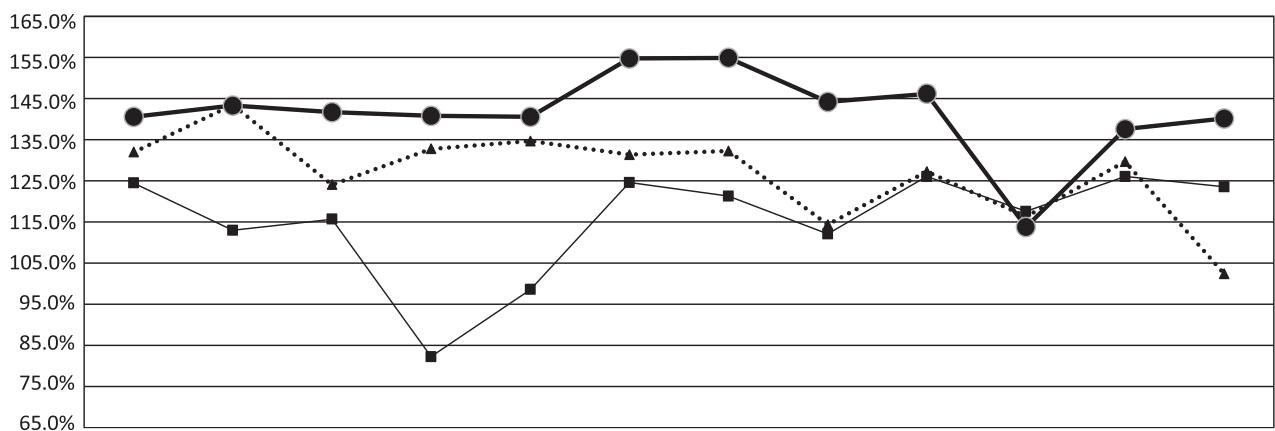
	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022 年度	紹介率	73.6%	66.3%	68.2%	49.1%	69.4%	67.8%	70.1%	73.1%	72.9%	70.6%	66.5%	70.3%	68.2%
	逆紹介率	124.5%	113.0%	115.7%	82.3%	98.6%	124.6%	121.3%	112.1%	126.1%	117.6%	126.1%	123.6%	115.5%
2023 年度	紹介率	78.2%	79.8%	79.9%	78.6%	74.9%	78.9%	85.4%	72.4%	72.8%	70.6%	74.1%	68.8%	76.1%
	逆紹介率	132.0%	143.5%	124.1%	132.8%	134.7%	131.4%	132.3%	114.4%	127.3%	116.3%	129.7%	102.4%	126.4%
2024 年度	紹介率	86.3%	82.9%	83.9%	80.5%	79.1%	79.0%	81.8%	77.4%	75.7%	77.6%	79.2%	81.2%	80.4%
	逆紹介率	140.6%	143.3%	141.7%	140.8%	140.6%	154.8%	154.9%	144.2%	146.2%	113.8%	137.6%	140.2%	139.9%

## 地域医療支援病院 紹介率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022 年度	73.6%	66.3%	68.2%	49.1%	69.4%	67.8%	70.1%	73.1%	72.9%	70.6%	66.5%	70.3%
2023 年度												
2024 年度	86.3%	82.9%	83.9%	80.5%	79.1%	79.0%	81.8%	77.4%	75.7%	77.6%	79.2%	81.2%

## 地域医療支援病院 逆紹介率の推移

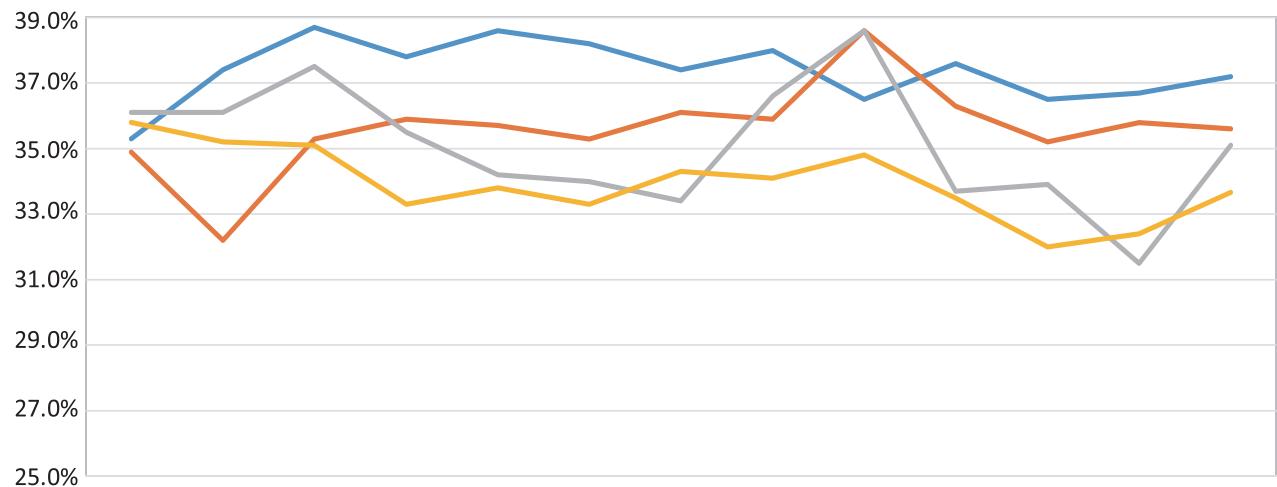


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022 年度	124.5%	113.0%	115.7%	82.3%	98.6%	124.6%	121.3%	112.1%	126.1%	117.6%	126.1%	123.6%
2023 年度												
2024 年度	140.6%	143.3%	141.7%	140.8%	140.6%	154.8%	154.9%	144.2%	146.2%	113.8%	137.6%	140.2%

紹介率  
(地域医療支援病院) (65% 以上) =  $\frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者} - (\text{救急搬送患者 (初診)} + \text{休日夜間救急外来患者 (初診)})}$

逆紹介率  
(40% 以上) =  $\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者} - (\text{救急搬送患者 (初診)} + \text{休日夜間救急外来患者 (初診)})}$

## ■重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者割合の推移



## 【2024 年度】

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8 南	36.5%	40.9%	47.0%	38.5%	41.8%	39.6%	49.6%	45.8%	51.6%	48.2%	46.0%	48.2%	45.6%
9 東	34.7%	28.2%	27.8%	24.1%	29.7%	23.5%	30.3%	27.7%	27.3%	20.4%	20.1%	13.9%	24.5%
9 西	35.5%	39.5%	25.2%	32.5%	27.7%	28.8%	28.0%	28.0%	29.6%	26.4%	28.2%	25.3%	28.0%
10 東	35.5%	38.7%	36.2%	31.4%	35.6%	35.9%	40.4%	37.7%	39.6%	37.4%	37.6%	34.0%	36.6%
10 西	31.1%	36.7%	46.2%	41.4%	42.4%	40.8%	41.0%	42.7%	41.3%	40.3%	39.8%	36.6%	41.3%
11 東	22.7%	19.6%	25.9%	29.4%	22.2%	27.8%	26.8%	27.6%	28.0%	29.0%	21.9%	27.5%	26.6%
11 西	22.5%	22.5%	24.7%	21.5%	21.8%	21.7%	23.5%	22.0%	22.5%	22.4%	18.9%	17.6%	21.7%
12 東	49.2%	48.1%	46.9%	41.3%	45.2%	42.5%	41.0%	42.2%	42.9%	45.0%	44.3%	46.2%	43.8%
12 西	55.6%	51.0%	43.7%	43.4%	45.1%	41.7%	43.9%	42.5%	46.5%	45.9%	43.0%	45.3%	44.1%
13 西	26.6%	23.6%	39.9%	32.0%	35.5%	36.8%	35.6%	36.7%	34.8%	32.7%	30.0%	34.4%	34.8%
計	35.8%	35.2%	35.1%	33.3%	33.8%	33.3%	34.3%	34.1%	34.8%	33.5%	32.0%	32.4%	33.7%

**【2023年度】**

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8 南	41.5%	39.2%	45.5%	41.0%	39.5%	40.3%	40.6%	44.7%	44.3%	40.6%	30.9%	32.8%	39.8%
9 東	19.2%	20.6%	21.1%	19.4%	15.2%	16.7%	24.0%	24.8%	16.4%	18.7%	27.5%	20.3%	20.2%
9 西	35.1%	33.0%	41.4%	36.7%	33.2%	29.5%	31.6%	31.6%	38.2%	33.0%	33.9%	28.5%	33.6%
10 東	38.1%	39.9%	41.7%	40.8%	34.9%	34.5%	31.7%	39.9%	45.6%	32.1%	38.7%	34.0%	37.6%
10 西	42.2%	37.8%	38.9%	35.4%	34.9%	30.9%	37.4%	33.1%	37.4%	35.4%	35.7%	34.8%	36.2%
11 東	26.3%	22.2%	25.2%	21.6%	16.6%	18.9%	17.1%	27.8%	23.1%	21.9%	19.8%	15.2%	21.2%
11 西	30.3%	33.1%	31.6%	26.5%	36.0%	31.6%	31.5%	33.0%	33.2%	32.6%	30.8%	22.6%	31.3%
12 東	46.1%	47.0%	50.3%	47.0%	48.7%	53.1%	44.0%	50.0%	55.2%	47.3%	43.8%	45.7%	48.2%
12 西	51.9%	50.0%	49.1%	53.1%	52.5%	53.7%	48.0%	49.1%	51.6%	45.9%	49.4%	53.7%	50.7%
13 西	24.9%	34.3%	27.1%	26.6%	26.2%	28.6%	20.9%	27.2%	34.8%	32.4%	22.8%	21.0%	27.1%
計	36.1%	36.1%	37.5%	35.5%	34.2%	34.0%	33.4%	36.6%	38.6%	33.7%	33.9%	31.5%	35.1%

**【2022年度】**

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8 南	32.1%	37.8%	42.1%	45.6%	30.6%	40.9%	44.7%	33.5%	45.4%	38.0%	45.1%	47.5%	40.4%
9 東	17.2%	14.5%	16.0%	15.4%	18.8%	19.2%	15.8%	18.9%	30.0%	19.8%	20.5%	18.0%	18.4%
9 西	34.9%	34.0%	33.7%	31.5%	35.0%	37.2%	37.2%	35.4%	40.1%	39.3%	35.4%	34.0%	35.7%
10 東	36.4%	29.5%	35.8%	39.6%	36.8%	36.8%	41.6%	37.3%	39.4%	37.6%	39.0%	32.7%	36.9%
10 西	39.1%	43.6%	39.7%	36.9%	33.6%	34.3%	33.3%	34.9%	39.4%	37.3%	31.6%	36.6%	36.7%
11 東	17.3%	18.6%	15.4%	17.6%	19.5%	21.0%	17.7%	30.3%	22.2%	24.8%	21.5%	21.4%	20.5%
11 西	37.1%	23.2%	26.9%	35.3%	33.9%	29.3%	27.6%	36.2%	32.5%	32.0%	31.7%	31.7%	31.5%
12 東	52.8%	52.7%	55.4%	50.7%	47.6%	54.3%	54.1%	48.7%	53.2%	48.3%	45.0%	50.2%	51.0%
12 西	54.6%	48.0%	55.3%	50.6%	48.1%	49.7%	54.7%	49.8%	52.6%	45.0%	48.4%	50.3%	50.5%
13 東	48.4%	41.0%	36.7%	47.4%	53.4%	33.0%	63.3%	45.5%	38.7%	50.7%	61.8%	69.6%	47.5%
13 西	25.3%	16.6%	21.3%	19.8%	13.6%	34.7%	26.0%	21.6%	27.8%	2.5%	26.4%	29.6%	26.9%
計	34.9%	32.2%	35.3%	35.9%	35.7%	35.3%	36.1%	35.9%	38.6%	36.3%	35.2%	35.8%	35.6%

**【2021年度】**

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8 南	33.0%	39.9%	42.9%	38.9%	41.4%	44.6%	41.0%	44.3%	40.4%	41.4%	33.8%	31.4%	38.3%
9 東	21.8%	20.0%	30.3%	21.8%	21.0%	20.8%	27.1%	25.8%	26.9%	28.1%	22.7%	16.5%	23.3%
9 西	46.8%	42.8%	41.9%	48.0%	43.5%	47.4%	40.4%	41.9%	42.0%	37.4%	39.4%	47.2%	44.9%
10 東	35.1%	43.0%	35.9%	37.5%	38.1%	33.3%	33.0%	31.3%	36.1%	33.6%	32.6%	30.7%	37.8%
10 西	38.8%	34.9%	38.0%	37.2%	38.6%	37.2%	39.9%	34.3%	37.4%	35.9%	37.1%	38.9%	37.2%
11 東	27.0%	32.2%	37.3%	34.0%	36.7%	29.5%	28.2%	34.5%	25.4%	44.4%	33.9%	28.9%	32.3%
11 西	41.8%	40.8%	38.6%	41.7%	42.1%	43.4%	39.8%	41.9%	45.3%	44.2%	37.6%	46.4%	40.8%
12 東	31.4%	37.6%	42.7%	42.0%	40.6%	39.3%	41.8%	48.7%	40.0%	41.5%	41.3%	38.8%	38.2%
12 西	40.7%	35.0%	41.1%	40.8%	42.0%	44.4%	43.0%	43.0%	43.4%	37.4%	42.2%	46.5%	39.5%
13 東	69.5%	87.6%	73.1%	65.9%	76.5%	80.7%	80.0%	42.7%	100.0%	53.9%	70.6%	67.1%	75.3%
13 西	25.2%	27.7%	31.4%	23.6%	26.8%	31.8%	36.2%	33.5%	27.3%	30.2%	23.2%	27.9%	26.9%
計	35.3%	37.4%	38.7%	37.8%	38.6%	38.2%	37.4%	38.0%	36.5%	37.6%	36.5%	36.7%	37.2%





# 病歴統計





■退院患者数及び平均在院日数

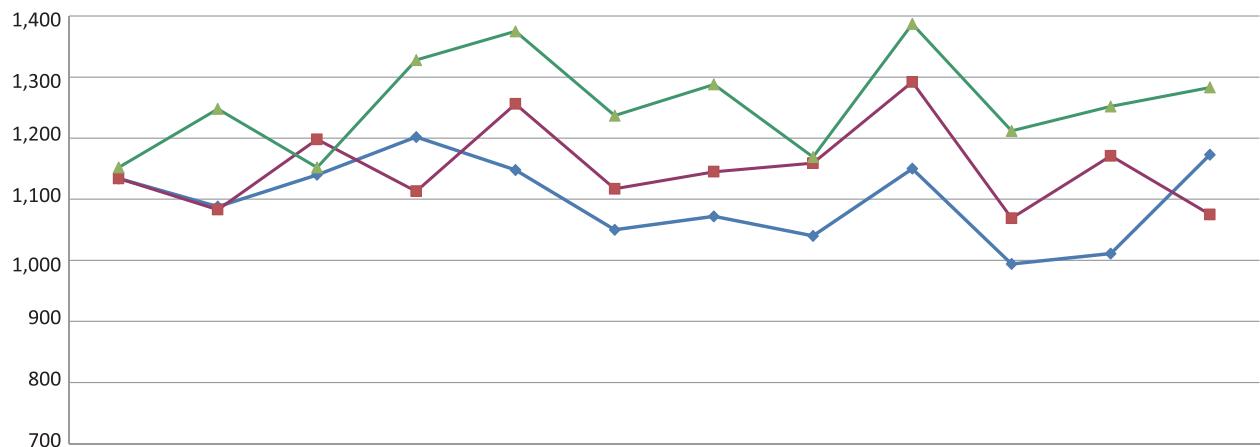
【2024年度】

大分類表		退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 感染症及び寄生虫症	A00-B99	226	191	417	1,963	1,432	3,395	8.69	7.50	8.14
2 新生物	C00-D48	1,321	1,345	2,666	13,565	12,067	25,632	10.27	8.97	9.61
3 血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-89	47	38	85	477	407	884	10.15	10.71	10.40
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-90	278	211	489	2,651	2,248	4,899	9.54	10.65	10.02
5 精神および行動の障害	F00-90	11	12	23	105	108	213	9.55	9.00	9.26
6 神経系の疾患	G00-99	211	163	374	1,701	1,558	3,259	8.06	9.56	8.71
7 眼および付属器の疾患	H00-59	374	419	793	1,208	1,377	2,585	3.23	3.29	3.26
8 耳および乳様突起の疾患	H60-95	43	63	106	169	241	410	3.93	3.83	3.87
9 循環器系の疾患	I00-99	1,023	677	1,700	11,315	9,152	20,467	11.06	13.52	12.04
10 呼吸器系の疾患	J00-99	987	683	1,670	11,017	6,651	17,668	11.16	9.74	10.58
11 消化器系の疾患	K00-93	1,170	920	2,090	7,496	6,827	14,323	6.41	7.42	6.85
12 皮膚および皮下組織の疾患	L00-99	70	66	136	760	984	1,744	10.86	14.91	12.82
13 筋骨格系および結合組織の疾患	M00-99	691	907	1,598	9,755	14,619	24,374	14.12	16.12	15.25
14 尿路性器系の疾患	N00-99	252	338	590	3,434	3,214	6,648	13.63	9.51	11.27
15 妊娠、分娩および産じょく<褥>	O00-99	0	676	676	0	4,632	4,632	0	6.85	6.85
16 周産期に発生した病態	P00-96	155	145	300	1,274	1,160	2,434	8.22	8.00	8.11
17 先天奇形、変形および染色体異常	Q00-99	17	25	42	135	200	335	7.94	8.00	7.98
18 症状、徵候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-99	46	41	87	301	410	711	6.54	10.00	8.17
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	540	498	1,038	5,881	6,605	12,486	10.89	13.26	12.03
21 健康状態に影響をおぼす要因および保健サービスの利用	Z00-99	0	0	0	0	0	0			
22 特殊目的コード	U00-U89	105	98	203	1,198	921	2,119	11.41	9.40	10.44
合 計		7,567	7,516	15,083	74,405	74,813	149,218	9.83	9.95	9.89

【2024年度】

診療科	退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
整形外科	996	1,258	2,254	13,327	19,660	32,987	13.38	15.63	14.63
形成外科	103	94	197	763	748	1,511	7.41	7.96	7.67
消化器外科	581	389	970	6,687	4,507	11,194	11.51	11.59	11.54
呼吸器外科	100	39	139	1,235	392	1,627	12.35	10.05	11.71
乳腺内分泌外科	2	296	298	14	2,255	2,269	7.00	7.62	7.61
心臓血管外科	90	33	123	1,871	731	2,602	20.79	22.15	21.15
脳神経外科	209	174	383	3,132	3,145	6,277	14.99	18.07	16.39
腎臓内科	253	209	462	3,607	2,929	6,536	14.26	14.01	14.15
糖尿病内分泌内科	242	215	457	3,506	2,634	6,140	14.49	12.25	13.44
呼吸器内科	514	311	825	7,353	4,464	11,817	14.31	14.35	14.32
消化器内科	1,331	1,035	2,366	9,652	7,874	17,526	7.25	7.61	7.41
循環器内科	807	504	1,311	7,271	5,466	12,737	9.01	10.85	9.72
免疫内科	43	78	121	617	863	1,480	14.35	11.06	12.23
皮膚科	85	88	173	840	1,219	2,059	9.88	13.85	11.90
泌尿器科	433	99	532	3,621	1,046	4,667	8.36	10.57	8.77
産婦人科	0	1,176	1,176	0	7,774	7,774	0.00	6.61	6.61
眼科	399	445	844	1,440	1,598	3,038	3.61	3.59	3.60
耳鼻咽喉科	330	236	566	1,634	1,157	2,791	4.95	4.90	4.93
小児科	757	586	1,343	4,007	3,233	7,240	5.29	5.52	5.39
脳神経内科	231	180	411	3,558	2,785	6,343	15.40	15.47	15.43
歯科・歯科口腔外科	61	71	132	270	333	603	4.43	4.69	4.57
合 計	7,567	7,516	15,083	74,405	74,813	149,218	9.83	9.95	9.89

## ■退院患者数の推移



## ■診療科別 退院患者数・手術件数・合併症数【2024年度】

診療科	退院患者数	手術件数(*)	ESD件数	カテーテル治療件数	合併症		合併症内訳					
					合併症総数	発生率	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	機械的合併症	その他
整形外科	2,254	2,165			42	1.9%	12	10	8	9	3	
形成外科	197	197			4	2.0%	2	1	1			
消化器外科	970	598		2	20	3.3%	6	3	7	4		
呼吸器外科	139	134			3	2.2%		1		2		
乳腺内分泌外科	298	135			3	2.2%	3					
心臓血管外科	123	117		7	2	1.6%	1		1			
脳神経外科	383	109		14	1	0.8%			1			
腎臓内科	462	0		6	0	0.0%						
糖尿病内分泌内科	457	0										
呼吸器内科	825	0		2	0	0.0%						
消化器内科	2,366	14(11※1)	231	1	3	1.2%		1		2		
循環器内科	1,311	23(3※2)		458	2	0.4%				2		
免疫内科	121	0										
皮膚科	173	17			0	0.0%						
泌尿器科	532	262			3	1.1%	2			1		
産婦人科	1,176	407			6	1.5%	2	1		3		
眼科	844	764			1	0.1%					1	
耳鼻咽喉科	566	459			6	1.3%		4	1	1		
小児科	1,343	0										
脳神経内科	411	0		6	0	0.0%						
歯科・歯科口腔外科	132	95			1	1.1%		1				
合計	15,083	5,496(14)	231	496	97	1.5%	28	22	19	24	4	0

\*手術件数は手術室で行った手術の件数 手術室で行ったESD(※1)、カテーテル治療(※2)は( )をもって再掲とする

## ■悪性新生物部位別 術後合併症件数【2024年度】

	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	その他	計
胃・十二指腸		1	3			4
大腸(含直腸)		1	2			3
肺				1		1
肝	1	1		1		3
乳房					1	1
子宮				1		1
前立腺	1	1		1		1

\*ESDは含まない

## I. 死亡原因別死亡数【2024年度】

	整形外科	形成外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	腎臓内科	糖尿病内分泌内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	免疫内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	小児科	脳神経内科	歯科・歯科口腔外科	合計
診療科別死亡数	1		21	1	7	2	23	19	15	50	44	37	5	1	5	1			12		244	
麻酔による死亡数																					0	
術後1ヶ月以内の死亡数	1			1		2	9			2	1	1			2				1		20	
産婦出生による死亡数																					0	
新生児(生後28日以内)死亡数																					0	
(再掲)																					(0)	
入院48時間以内死亡数			3					9	3	4	4	12	8	2		1			3		49	

注) 新生児死亡数欄で院外出生の死亡数は( )をもって再掲とする。

## II. 麻酔件数・手術件数・分娩件数【2024年度】

	整形外科	形成外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	腎臓内科	糖尿病内分泌内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	免疫内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	小児科	脳神経内科	歯科・歯科口腔外科	合計
手術件数	2,165	197	598	134	135	117	109					14	23		17	262	407	764	459		95	5,496
麻酔件数	2,164	186	593	134	135	117	108					12	21		17	259	403	764	458		94	5,465
(全身麻酔件数) 再掲	(2035)	(70)	(582)	(134)	(133)	(107)	(63)					(12)	(21)		(0)	(241)	(187)	(8)	(446)		(64)	(4103)

## III. 分娩件数・新生児数【2024年度】

分娩件数	478	(107)
新生児数	474	(4)

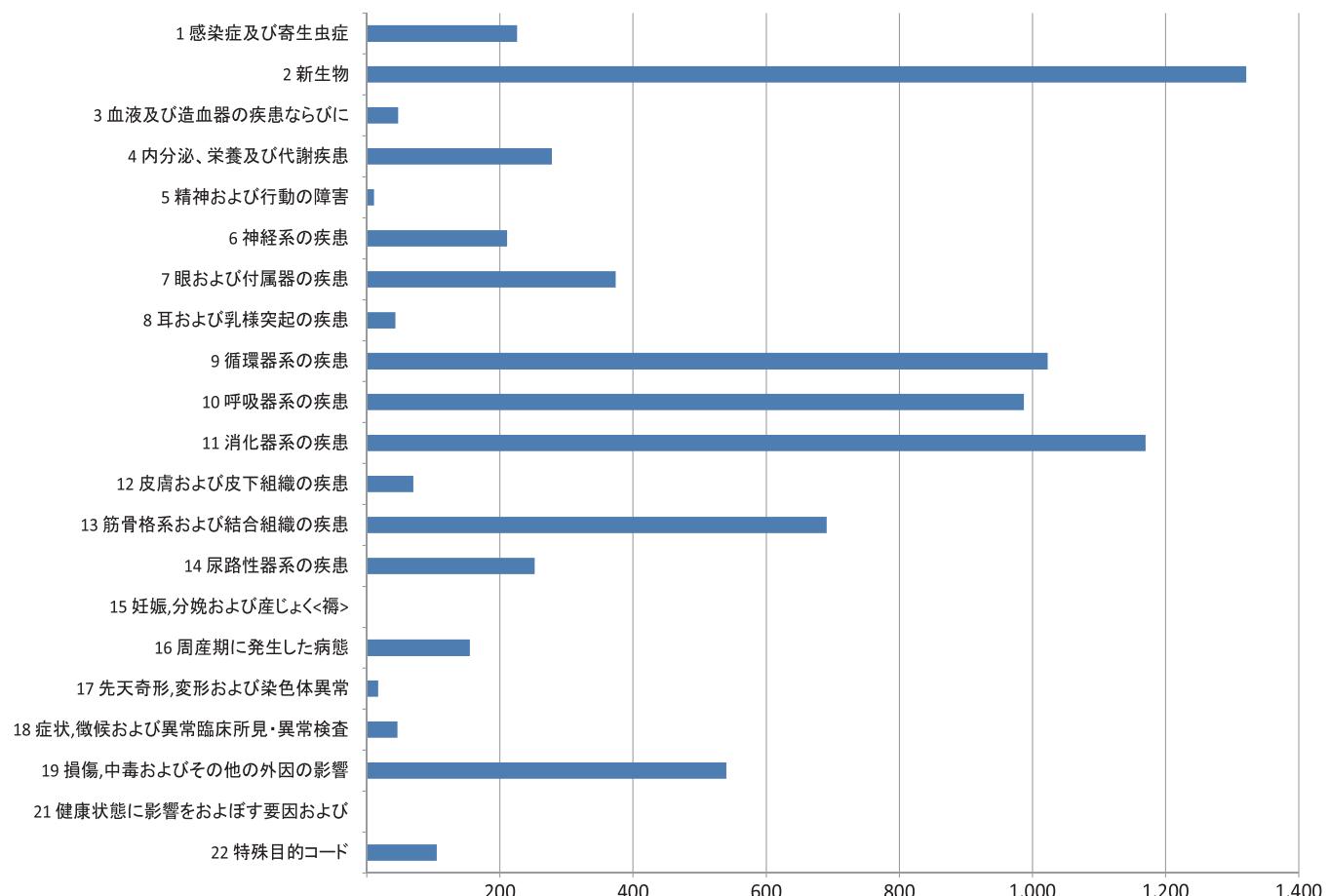
注) 分娩件数で帝王切開の数、および新生児数欄で院外出生の数は( )をもって再掲とする。

## IV. 退院患者診療科別転帰統計【2024年度】

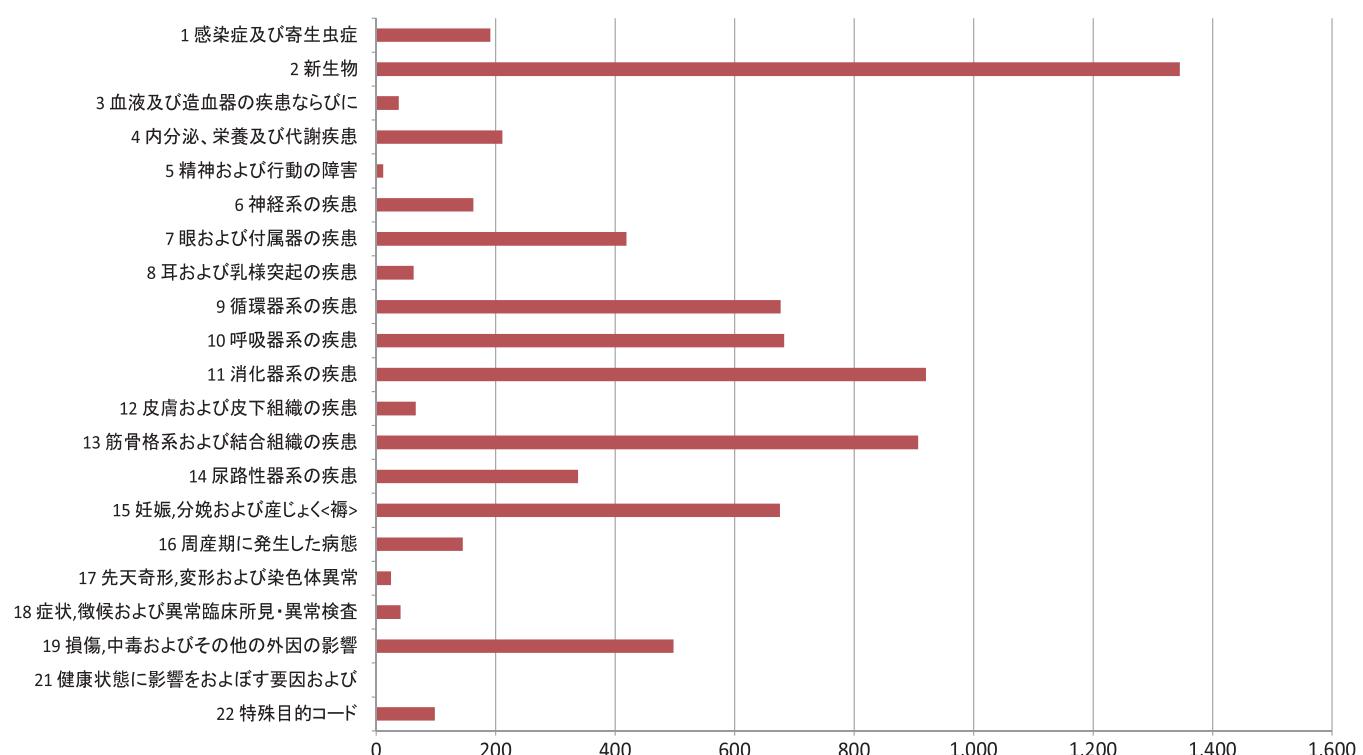
	整形外科	形成外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	腎臓内科	糖尿病内分泌内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	免疫内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	小児科	脳神経内科	歯科・歯科口腔外科	合計
治癒	1							1													2	
軽快	1,981	191	848	129	267	99	198	377	361	487	2,023	992	98	155	402	612	838	560	1,133	243	132	12,126
寛解																					0	
不变	14	1	62	1	13	5	6	12	7	67	31	35	4	1	6	57	5	4	46	25		402
増悪											4										4	
死亡	1		21	1	7	2	23	19	15	50	44	37	5	1	5	1			12		244	
(剖検)									(1)		(2)		(1)						(1)		(5)	
転院	251	5	30	8	6	6	133	35	42	81	68	78	13	11	10	11	1		10	117		916
検了	5		9		5	10	23	18	28	134	198	164	1	5	109	20		2	153	14		898
自己退院	1					1			4	2	2	5							1			16
分娩																475					475	
合計	2,254	197	970	139	298	123	383	462	457	825	2,366	1,311	121	173	532	1,176	844	566	1,343	411	132	15,083

注) 死亡欄で剖検数は( )をもって再掲とする。

## ■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（男）【2024年度】



## ■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（女）【2024年度】



■疾病別・年齢階層別・退院患者数(男)【2024年度】

2024年度 退院患者数(男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳	合計	在院日数	
<b>I 感染症及び寄生虫症</b>												<b>226</b>	<b>1,963</b>	
A00-A09	腸管感染症	3	32	9	3	4	2		2	8	7	70	397	
A15-A19	結核					1		2		1	3	7	72	
A20-A28	人畜共通細菌性疾患													
A30-A49	その他の細菌性疾患	15	3				1		7	12	17	55	635	
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症							1		2	1	4	66	
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患													
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患													
A75-A79	リケッチア症													
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症													
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱													
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	6	6	2		2	3	2	5	12	3	41	375	
B15-B19	ウイルス性肝炎				1	1		3	4		1	1	106	
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病													
B25-B34	その他のウイルス疾患	19	16									35	217	
B35-B49	真菌症										1	2	3	
B50-B64	原虫疾患													
B65-B83	ぜんく蠕虫症													
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症													
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症													
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体													
B99	その他の感染症													
<b>II -1 新生物(腫瘍)悪性</b>												<b>1,233</b>	<b>13,112</b>	
C00-C14	口腔、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>									2		2	23	
C15	食道の悪性新生物						1	7	17	28	3	56	813	
C16	胃の悪性新生物							13	25	61	39	138	1,582	
C17	小腸の悪性新生物							9	3	6	1	19	245	
C18	結腸の悪性新生物					1	2	21	40	30	12	106	802	
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					1	2	15	24	30	12	84	854	
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物										2	2	16	
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物							1	17	33	19	70	808	
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								10	6	11	27	330	
C25	膵の悪性新生物					1		3	11	28	10	53	575	
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>													
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						2	18	65	142	43	270	3,294	
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>													
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>						1	2	3	2	3	11	107	
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>							1		1	3	5	57	
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>									1		1	8	
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>													
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>						8	17	47	74	29	175	1,117	
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>							1	22	21	47	37	128	
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>					1	1					2	151	
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>					1		2				3	23	
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>							1	8	15	25	10	59	
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							1	1	16	2	20	160	
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>													
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>										1	1	10	
<b>II -2 新生物(腫瘍)良性</b>												<b>88</b>	<b>453</b>	
D10-D36	良性新生物<腫瘍>				3		4	4	11	7	10	2	41	216
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	1		1	2	2	9	5	10	12	5	47	237	
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>												<b>47</b>	<b>477</b>	
D50-D53	栄養性貧血									1	1	2	4	
D55-D59	溶血性貧血													
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血							1	1	1	3	6	12	
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	9					1			1	4	15	187	
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患								2	3		5	43	
D80-D89	免疫機構の障害	1			2		2	2	2	4		11	84	
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>												<b>278</b>	<b>2,651</b>	
E00-E07	甲状腺障害						1	1				1	3	
E10-E14	糖尿病				3	2	4	20	20	26	12	87	1,290	
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	3		1			1	3	2	1	11	148		
E20-E35	その他の内分泌腺障害	22	18		1	7	3	4	2	1	58	227		
E40-E46	栄養失調(症)													
E50-E64	その他の栄養欠乏症									1		1	21	
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>								2			2	25	
E70-E90	代謝障害	3	45	4	5	2	2	2	10	19	24	116	802	

2024 年度 退院患者数 (男)		0 歳	1 歳 9 歳	10 歳 19 歳	20 歳 29 歳	30 歳 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳 69 歳	70 歳 79 歳	80 歳 89 歳	合計	在院日数
<b>V 精神及び行動の障害</b>												<b>11</b>	<b>105</b>
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害				1	2	2	4				9	95
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分〔感情〕障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害				1							1	8
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害〔精神遅滞〕												
F80-F89	心理的発達の障害		1									1	2
F90-F98	小児〔児童〕期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
<b>VI 神経系の疾患</b>												<b>211</b>	<b>1,701</b>
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		1	1		2	1	2	1	6	1	15	350
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症		1			2			1	5		9	73
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							1	2	8	9	20	303
G30-G32	神経系のその他の変性疾患							1		1		2	48
G35-G37	中枢神経系の脱髓疾患				1		1					2	18
G40-G47	挿間性及び発作性障害	2	25	1	3	4	5	17	9	20	4	90	400
G50-G59	神経、神経根及び神経そく〔叢〕の障害				2	2	6	8	11	12	5	46	180
G60-G64	多発〔性〕ニューロパチ〔クシ〕ー及びその他の末梢神経系の障害			1		1	1	3		1		7	131
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					1	3		2	1		7	87
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群		1					1	1			3	19
G90-G99	神経系のその他の障害		2	1	1			2		2	2	10	92
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b>												<b>374</b>	<b>1,208</b>
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窓の障害						1	1	3	8	1	14	56
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害										1	1	20
H25-H28	水晶体の障害				1	1	4	22	64	87	82	261	516
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				1		3	2	3	3	4	16	167
H40-H42	緑内障				3	1	3	10	12	26	11	66	343
H43-H45	硝子体及び眼球の障害						1	6		2	5	14	86
H46-H48	視神経及び視〔覚〕路の障害								1			1	17
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害										1	1	3
H53-H54	視機能障害及び盲〔く〕失明〕												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b>												<b>43</b>	<b>169</b>
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		1	9							1	11	36
H80-H83	内耳疾患				2		4	1	3	4	9	23	93
H90-H95	耳のその他の障害		5	1					2	1		9	40
<b>IX 循環器系の疾患</b>												<b>1,023</b>	<b>11,315</b>
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								1			1	5
I10-I15	高血圧性疾患								1		1	2	23
I20-I25	虚血性心疾患					5	8	49	72	95	45	274	2,034
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患					1	4	2	1	1	9	83	
I30-I52	その他の型の心疾患		2	3	6	15	50	63	105	109	353	3,625	
I60-I69	脳血管疾患		1		6	12	41	42	68	73	243	3,788	
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患				1	1	14	11	40	36	103	1,440	
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの				4	4	3	6	5	12	3	37	302
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害						1					1	15
<b>X 呼吸器系の疾患</b>												<b>987</b>	<b>11,017</b>
J00-J06	急性上気道感染症	2	18	1	4	4	2		1			32	129
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	10	97	17	6	6	9	13	28	65	123	374	4,420
J20-J22	その他の急性下気道感染症	12	30		1	1						44	211
J30-J39	上気道のその他の疾患		14	14	29	56	37	44	27	16	3	240	1,112
J40-J47	慢性下気道疾患	8	48		2	2	1	4	3	13	11	92	650
J60-J70	外的因子による肺疾患			4	1	2	3	3	3	15	53	84	2,138
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患						1	2	7	16	10	36	898
J85-J86	下気道の化膿性及びえく〔壞〕死性病態						1	3	7	7	5	23	583
J90-J94	胸膜のその他の疾患			2	8	4	1	2	7	11	15	50	754
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	1		1	1			4	2	1	2	12	122
<b>XI 消化器系の疾患</b>												<b>1,170</b>	<b>7,496</b>
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		3	1	9	11	5	9	2	4	8	52	199
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患			1	1	3	3	8	11	11	4	42	376
K35-K38	虫垂の疾患		1	5	7	4	7	5	4	1	2	36	258
K40-K46	ヘルニア						2	9	17	31	12	71	362
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎		2	4	3	5	2	2	4	4		26	123
K55	腸の血行障害							3	2	7	2	14	229

2024年度 退院患者数(男)		0歳	1歳 ~ 9歳	10歳 ~ 19歳	20歳 ~ 29歳	30歳 ~ 39歳	40歳 ~ 49歳	50歳 ~ 59歳	60歳 ~ 69歳	70歳 ~ 79歳	80歳 ~	合計	在院日数
K56	腸閉塞	1	1	1	1		1	5	8	13	15	46	587
K57	腸の憩室性疾患				1	3	7	10	15	21	7	64	435
K58-K59	その他の腸の機能障害		1	1	1				2		1	6	23
K60-K62	肛門及び直腸の疾患				1	1	1	4	5	2	1	15	66
K63	結腸のその他の疾患					4	31	94	116	148	68	461	1,079
K64	痔核							2	2	2		6	15
K65-K67	腹膜の疾患					1		3	2		1	7	180
K70-K77	肝疾患				2	1	1	10	11	10	7	45	628
K80-K87	胆のうく囊、胆管及び膵の障害			1	2	8	16	38	40	55	75	235	2,398
K90-K93	消化器系のその他の疾患				1	1		1	4	3	16	18	44
<b>XII 皮膚及び皮下組織の疾患</b>												<b>70</b>	<b>760</b>
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		6	2	2	2	3	3	6	13	7	44	536
L10-L14	水疱症										1	1	46
L20-L30	皮膚炎及び湿疹		1			4	1					6	45
L40-L45	丘疹落せつく屑くりんせつく鱗屑性障害												
L50-L54	じんまく蕁麻疹及び紅斑	1	2								1	4	24
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害				1		2	1	1		2	7	28
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害					1		2	2	1	2	8	81
<b>XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>												<b>691</b>	<b>9,755</b>
M00-M03	感染性関節障害					1		1		2	1	5	229
M05-M14	炎症性多発性関節障害							1	1	3	2	7	151
M15-M19	関節症				2	3	11	16	44	36	19	131	2,271
M20-M25	その他の関節障害		15	19	8	6	17	9	8	1	83	749	
M30-M36	全身性結合組織障害	2	7	1	12	1	1	1	4	7	36	450	
M40-M43	変形性脊柱障害							6	6	4	16	297	
M45-M49	脊椎障害			2		6	33	60	75	43	219	3,653	
M50-M54	その他の脊柱障害			5	11	4	18	16	8	3	65	653	
M60-M63	筋障害							1	2	3	46		
M65-M68	滑膜及び腱の障害			2	3	1	13	19	3		41	133	
M70-M79	その他の軟部組織障害				2	3	10	11	3	3	32	516	
M80-M85	骨の密度及び構造の障害	1	4	2		1		1	3		12	120	
M86-M90	その他の骨障害				2	5	4	4	4	1	20	313	
M91-M94	軟骨障害			17							17	124	
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害				2		1	1			4	50	
<b>XIV 腎尿路生殖器系の疾患</b>												<b>252</b>	<b>3,434</b>
N00-N08	糸球体疾患		1	1			3	2		3	5	15	308
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	1	2				8	10	9	17	47	471	
N17-N19	腎不全			1	1	6	2	14	15	20	59	1,219	
N20-N23	尿路結石症			1		2	9	6	2	3	23	152	
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害			1			1	2	2	2	8	84	
N30-N39	尿路系のその他の障害	2	1				1	6	15	30	55	797	
N40-N51	男性生殖器の疾患		1	2	1	1	3	2	24	10	44	391	
N60-N64	乳房の障害							1			1	12	
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害												
<b>XV 妊娠、分娩及び産じょく(褥)</b>												<b>0</b>	<b>0</b>
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく(褥)における浮腫、タンパク(蛋白)尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく(褥)に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
<b>XVI 周産期に発生した病態</b>												<b>155</b>	<b>1,274</b>
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	35									35	275	
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	18									18	230	
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	48									48	386	
P35-P39	周産期に特異的な感染症	24									24	184	
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	14									14	57	
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	14									14	99	
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	2									2	43	

2024 年度 退院患者数 (男)		0 歳	1 歳 9 歳	10 歳 19 歳	20 歳 29 歳	30 歳 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳 69 歳	70 歳 79 歳	80 歳	合計	在院日数
<b>XVII 先天奇形、変形及び染色体異常</b>												<b>17</b>	<b>135</b>
Q00-Q07	神経系の先天奇形												
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形					1	1					2	10
Q20-Q28	循環器系の先天奇形				1	2	1	2		1		7	90
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	脣裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形		1			1						2	13
Q50-Q56	生殖器の先天奇形			1								1	2
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形							1		2		3	12
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		1		1							2	8
Q80-Q89	その他の先天奇形												
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
<b>XVIII 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>												<b>46</b>	<b>301</b>
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徵候						1	1	1	4	3	10	113
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徵候							1				1	14
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徵候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徵候								1	1		2	36
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徵候												
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徵候							3		1		4	13
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徵候												
R50-R69	全身症状及び徵候	3	13	2					2	4	3	27	121
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの			2								2	4
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
<b>XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響</b>												<b>540</b>	<b>5,881</b>
S00-S09	頭部損傷		1	7	4	2	6	8	12	14	21	75	804
S10-S19	頸部損傷								1	3	2	6	195
S20-S29	胸部<郭>損傷						2	2	2	6	4	16	246
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷						1		6	7	14	220	
S40-S49	肩及び上腕の損傷	4	6	4	7	7	12	17	17	2	76	752	
S50-S59	肘及び前腕の損傷	7	12	2		3	6	8		2	40	195	
S60-S69	手首及び手の損傷	1	5	7	5	2	3	2			25	93	
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷						1	3	6	6	16	434	
S80-S89	膝及び下腿の損傷	1	26	22	13	16	19	9	8	2	116	1,733	
S90-S99	足首及び足の損傷	1				1	2	1			5	57	
T00-T07	多部位の損傷			1						2	3	56	
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用		1						1	1		3	5
T20-T32	熱傷及び腐食	2		1	1	1	1				6	36	
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒			3		1	1				5	18	
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	5	17	3	3	3	2	2		4	6	45	161
T79	外傷の早期合併症					1						1	10
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの			3		6	2	7	13	31	26	88	866
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
<b>XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健</b>												<b>0</b>	<b>0</b>
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
<b>XXII 特殊目的コード</b>												<b>105</b>	<b>1,198</b>
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	7	2	1	1		1	8	10	23	52	105	1,198
合計		253	480	211	209	272	377	950	1,319	2,001	1,495	7,567	74,405

■疾病別・年齢階層別・退院患者数(女)【2024年度】

2024年度 退院患者数(女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳	合計	在院日数
<b>I 感染症及び寄生虫症</b>												<b>191</b>	<b>1,432</b>
A00-A09	腸管感染症	5	18	6	7	8	4	3	2	4	12	69	371
A15-A19	結核							1	1	2		4	27
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患		10				2		1	9	14	36	488
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症	2		2	3	2			1			10	60
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症									1		1	24
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	2	10		1		1	1	1	6	10	32	196
B15-B19	ウイルス性肝炎				1		1	1				3	17
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	15	16	1	1					1		34	218
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患									1		1	26
B65-B83	ぜんく蠕虫症						1					1	5
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
<b>II -1 新生物（腫瘍）悪性</b>												<b>1,145</b>	<b>10,553</b>
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>							1				1	8
C15	食道の悪性新生物					2	3		2			2	148
C16	胃の悪性新生物					2		2	9	26	22	61	660
C17	小腸の悪性新生物							1	1	4		6	121
C18	結腸の悪性新生物						1	9	25	13	47	39	134
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物							11	21	18	11	15	785
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物										1	1	2
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物							3	2	9	16	30	339
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物						1	2	1		8	12	242
C25	膵の悪性新生物							17	5	25	21	68	565
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							13	22	50	27	112	1,410
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>		1						1	4	3	9	112
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>								2	7		9	80
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>					2	49	71	61	37	33	253	1,851
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>					11	14	46	27	55	5	158	1,244
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						2		9	19	15	45	531
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>									2		2	38
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>							1	2	3		6	35
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>					1	2	6	12	21	6	48	603
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							17	9	11	27	64	419
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>				7	17	8	5	1	1	2	41	133
<b>II -2 新生物（腫瘍）良性</b>												<b>200</b>	<b>1,514</b>
D10-D36	良性新生物<腫瘍>			3	14	26	51	29	10	13	5	151	1,073
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		1		6	5	8	12	3	6	8	49	441
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>												<b>38</b>	<b>407</b>
D50-D53	栄養性貧血							1		2	6	9	95
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血								1	3	6	10	111
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		1	2				1		1	1	6	83
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患					1	1		2	3	1	8	74
D80-D89	免疫機構の障害		1					3		1		5	44
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>												<b>211</b>	<b>2,248</b>
E00-E07	甲状腺障害	1		2			2	1	2	1		9	76
E10-E14	糖尿病			1	3	3	2	5	11	12	14	51	713
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	2	4					1			2	9	81
E20-E35	その他の内分泌腺障害	17	5	2	4	4	3	4	2			41	151
E40-E46	栄養失調(症)										1	1	2
E50-E64	その他の栄養欠乏症						1		1		2	24	
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>							3			3	25	
E70-E90	代謝障害	1	10	6	2	1	4	6	9	14	42	95	1,176

2024年度 退院患者数(女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳	合計	在院日数
<b>V 精神及び行動の障害</b>												<b>12</b>	<b>108</b>
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害									1	1	2	53
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害			3			1	1		1	6	15	
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分【感情】障害									1	1	2	27
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害				1					1	2	13	
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達の障害												
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
<b>VI 神経系の疾患</b>												<b>163</b>	<b>1,558</b>
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		1				1	2	2	2	2	10	220
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症		1					1		2	4	32	
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動			1	1			1	4	5	12	155	
G30-G32	神経系のその他の変性疾患					1					1	21	
G35-G37	中枢神経系の脱髓疾患					1	3		1		5	136	
G40-G47	挿間性及び発作性障害	2	14	2	1	2	3	7	6	3	13	53	268
G50-G59	神経、神経根及び神経そくう叢>の障害		1			1	1	10	10	15	14	52	203
G60-G64	多発(性)ニューロバチッシュー及びその他の末梢神経系の障害			1	2	1	2	1		1	1	9	118
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患				2		1	2	2	1		8	115
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害					1	1	1	1	3	2	9	290
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b>												<b>419</b>	<b>1,377</b>
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窓の障害			4			2	3	4	16	6	35	182
H10-H13	結膜の障害									1		1	2
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害												
H25-H28	水晶体の障害			2	3	5	25	45	113	100	293	640	
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				1	2	5	6	1	1	16	155	
H40-H42	緑内障			1	1	4	4	12	24	14	60	331	
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					1		2	2	4	9	48	
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害		1		1						2	4	
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害						1		1		2	11	
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>										1	1	4
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b>												<b>63</b>	<b>241</b>
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	1	5							1		7	25
H80-H83	内耳疾患				6	6	5	5	10	13	45	158	
H90-H95	耳のその他の障害	2	2	2		2	2		1		11	58	
<b>IX 循環器系の疾患</b>												<b>677</b>	<b>9,152</b>
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患												
I10-I15	高血圧性疾患					1		2		1	4	30	
I20-I25	虚血性心疾患					3	2	8	11	32	34	90	773
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患			1			1	3	1	7	13	194	
I30-I52	その他の型の心疾患		1	1		2	6	18	19	84	168	299	3,729
I60-I69	脳血管疾患	2		2	4	1	15	28	36	104	192	3,545	
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患			1		2	4	7	26	20	60	718	
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの		2			3		2	6	6	19	163	
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害												
<b>X 呼吸器系の疾患</b>												<b>683</b>	<b>6,651</b>
J00-J06	急性上気道感染症	3	13	3	5	4	1	3	1		2	35	165
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	11	78	14	9	2	8	6	17	41	114	300	3,183
J20-J22	その他の急性下気道感染症	18	22	1						1	1	43	210
J30-J39	上気道のその他の疾患		3	4	22	22	18	35	15	15	3	137	600
J40-J47	慢性下気道疾患	4	41	1			1		3	10	11	71	607
J60-J70	外的因子による肺疾患			1				5	13	39	58	1,214	
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患						1	4	1	10	16	223	
J85-J86	下気道の化膿性及びえく壊死性病態							1	2	5	8	226	
J90-J94	胸膜のその他の疾患			3		2	1	1	1	4	12	166	
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患					1			2		3	57	
<b>XI 消化器系の疾患</b>												<b>920</b>	<b>6,827</b>
K00-K14	口腔、唾液腺及び頸の疾患			6	9	10	4	8	2	8	26	73	314
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患			3	1	2	4	2	5	14	17	48	520
K35-K38	虫垂の疾患	1	1	6	5	2	4	5	5	7	36	302	
K40-K46	ヘルニア						1	1	1	6	15	24	273
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			1		1	2		3	2	1	10	59

2024年度 退院患者数(女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳	合計	在院日数
K55	腸の血行障害					1	3	4	3	10	9	30	263
K56	腸閉塞					1	1		4	12	25	43	593
K57	腸の憩室性疾患			2	1	4		9	19	17	22	74	552
K58-K59	その他の腸の機能障害			1					1	3	4	9	69
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						1		2	6	4	13	90
K63	結腸のその他の疾患			1	8	18	50	59	126	55	317	827	
K64	痔核			1		1	2			1	5	24	
K65-K67	腹膜の疾患					1		4		1	6	169	
K70-K77	肝疾患					3	5	6	9	13	36	601	
K80-K87	胆のう<囊>, 胆管及び胰の障害			3	8	18	24	19	25	47	144	1,706	
K90-K93	消化器系のその他の疾患	1	1	1	1	2	2	7	17	20	52	465	
<b>XII 皮膚及び皮下組織の疾患</b>												<b>66</b>	<b>984</b>
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		1	1	1	2	1	4	1	7	19	37	507
L10-L14	水疱症						1		1		2	4	121
L20-L30	皮膚炎及び湿疹								1		1	1	4
L40-L45	丘疹落せつく屑><りんせつく鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻>疹及び紅斑								2		2	4	36
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害									1		1	2
L60-L75	皮膚付属器の障害		1				1	3		2	1	8	21
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害								2	9	11	293	
<b>XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>												<b>907</b>	<b>14,619</b>
M00-M03	感染性関節障害						1		1	1	1	4	118
M05-M14	炎症性多発性関節障害					1	1	4	6	10	16	38	633
M15-M19	関節症				1		6	53	96	166	82	404	7,477
M20-M25	その他の関節障害		12	7	4	4	8	10	9	4	58	800	
M30-M36	全身性結合組織障害	2	9	2	2		7	6	4	3	35	376	
M40-M43	変形性脊柱障害	1	3	1		4	4	19	25	11	68	1,365	
M45-M49	脊椎障害					1	16	21	47	32	117	1,946	
M50-M54	その他の脊柱障害		1	4	10	7	11	5	9	7	54	517	
M60-M63	筋障害			1		1			4		6	66	
M65-M68	滑膜及び腱の障害		2	1	2	4	16	20	9	2	56	229	
M70-M79	その他の軟部組織障害					6	8	10	12	4	40	569	
M80-M85	骨の密度及び構造の障害							1	3	1	5	51	
M86-M90	その他の骨障害					1			4	1	6	119	
M91-M94	軟骨障害		2			1					3	16	
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害					1			2	10	13	337	
<b>XIV 腎尿路生殖器系の疾患</b>												<b>338</b>	<b>3,214</b>
N00-N08	糸球体疾患				1	4	2	3	2	1		13	129
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	1			2	2		8	4	12	13	42	522
N17-N19	腎不全						5		13	13	31	550	
N20-N23	尿路結石症				3		5	6	7	1	22	131	
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害						1	3	4		8	70	
N30-N39	尿路系のその他の障害	3	3		3	2	2	2	11	48	74	1,041	
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害					1			1	1	3	9	
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患		1	6	5	3	1	1	1	1	19	137	
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害		1	14	32	34	23	8	11	3	126	625	
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害												
<b>XV 妊娠、分娩及び産じょく(褥)</b>												<b>676</b>	<b>4,632</b>
O00-O08	流産に終わった妊娠			1	20	51	15				87	228	
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく(褥)における浮腫、タンパク(蛋白)>尿及び高血圧性障害			4	17	1					22	140	
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害			5	31	1					37	273	
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題		2	23	42	12					79	423	
O60-O75	分娩の合併症			9	48	5					62	583	
O80-O84	分娩		3	79	253	43					378	2,897	
O85-O92	主として産じょく(褥)に関連する合併症			2	6						8	62	
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの			1	2						3	26	
<b>XVI 周産期に発生した病態</b>												<b>145</b>	<b>1,160</b>
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生兒	27									27	250	
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	14									14	153	
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	47									47	380	
P35-P39	周産期に特異的な感染症	16									16	108	
P50-P61	胎児及び新生兒の出血性障害及び血液障害	18									18	108	
P70-P74	胎児及び新生兒に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	21									21	144	
P75-P78	胎児及び新生兒の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生兒の外皮及び体温調節に関連する病態	1									1	6	
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	1									1	11	

2024 年度 退院患者数 (女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳	合計	在院日数
<b>XVII 先天奇形、変形及び染色体異常</b>												<b>25</b>	<b>200</b>
Q00-Q07 神経系の先天奇形			2									2	4
Q10-Q18 眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形													
Q20-Q28 循環器系の先天奇形		2			1			1				4	15
Q30-Q34 呼吸器系の先天奇形					1							1	10
Q35-Q37 脣裂及び口蓋裂													
Q38-Q45 消化器系のその他の先天奇形													
Q50-Q56 生殖器の先天奇形				1								1	2
Q60-Q64 腎尿路系の先天奇形										5		5	77
Q65-Q79 筋骨格系の先天奇形及び変形		1	5	1				1				8	85
Q80-Q89 その他の先天奇形			3	1								4	7
Q90-Q99 染色体異常、他に分類されないもの													
<b>XVIII 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>												<b>41</b>	<b>410</b>
R00-R09 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徵候								1	2	6	2	11	179
R10-R19 消化器系及び腹部に関する症状及び徵候				1			1		1	1	4		17
R20-R23 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徵候			1									1	2
R25-R29 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徵候							1					1	2
R30-R39 腎尿路系に関する症状及び徵候													
R40-R46 認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徵候								1			3	4	18
R47-R49 言語及び音声に関する症状及び徵候													
R50-R69 全身症状及び徵候		1	8						1	5	4	19	191
R70-R79 血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの													
R80-R82 尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの													
R83-R89 その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの													
R90-R94 画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの		1										1	1
R95-R99 診断名不明確及び原因不明の死亡													
<b>XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響</b>												<b>498</b>	<b>6,605</b>
S00-S09 頭部損傷				3	2		4	2	11	20		42	428
S10-S19 頸部損傷									2	1	2	5	87
S20-S29 胸部<郭>損傷								1	1	2	5	9	163
S30-S39 腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷								1	3	9	21	34	625
S40-S49 肩及び上腕の損傷		10	3	1		4	4	11	16	9		58	659
S50-S59 肘及び前腕の損傷		3		4	2		5	12	19	16		61	397
S60-S69 手首及び手の損傷			2	1	4	1	2	8	2	1		21	76
S70-S79 股関節部及び大腿の損傷		1	1			1	2	2	13	43		63	1,505
S80-S89 膝及び下腿の損傷			15	10	4	14	14	5	8	4		74	1,311
S90-S99 足首及び足の損傷			1	1		1				4		7	124
T00-T07 多部位の損傷								1	1		1	3	37
T08-T14 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷											1		10
T15-T19 自然開口部からの異物侵入の作用							1	2		3		6	26
T20-T32 熱傷及び腐食											2	2	32
T33-T35 凍傷													
T36-T50 薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒			1		1							2	4
T51-T65 薬用を主としない物質の毒作用													
T66-T78 外因のその他及び詳細不明の作用		2	6	1	3	3	4	1			4	24	73
T79 外傷の早期合併症													
T80-T88 外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの					1	1	5	12	5	28	33	85	1,045
T90-T98 損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症								1				1	3
<b>XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健</b>												<b>0</b>	<b>0</b>
Z00-Z13 検査及び診査のための保健サービスの利用者													
Z20-Z29 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者													
Z30-Z39 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者													
Z40-Z54 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者													
Z55-Z65 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者													
Z70-Z76 その他の環境下での保健サービスの利用者													
Z80-Z99 家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者													
<b>XXII 特殊目的コード</b>												<b>98</b>	<b>921</b>
U00-U49 原因不明の新たな疾患の暫定分類		6	1	2		2	5	3	8	22	49	98	921
合計		236	328	134	341	723	516	814	889	1,678	1,857	7,516	74,813

■疾病別・年齢階層別・退院患者数(男・在院日数)【2024年度】

2024年度 在院日数(男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合計
<b>I 感染症及び寄生虫症</b>												<b>1,963</b>
A00-A09	腸管感染症	18	122	39	16	25	7		17	104	49	397
A15-A19	結核					14		8		2	48	72
A20-A28	人畜共通細菌性疾患											
A30-A49	その他の細菌性疾患	43	13				8		105	186	280	635
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症							17		32	17	66
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患											
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患											
A75-A79	リケッチャ症											
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症											
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱											
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	29	18	14		16	41	23	54	157	23	375
B15-B19	ウイルス性肝炎			7	5		34	47		4	9	106
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病											
B25-B34	その他のウイルス疾患	122	95									217
B35-B49	真菌症									30	65	95
B50-B64	原虫疾患											
B65-B83	ぜん<蠕>虫症											
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症											
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症											
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体											
B99	その他の感染症											
<b>II -1 新生物(腫瘍)悪性</b>												<b>13,112</b>
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>									23		23
C15	食道の悪性新生物						7	97	187	482	40	813
C16	胃の悪性新生物							157	265	675	485	1,582
C17	小腸の悪性新生物							86	29	119	11	245
C18	結腸の悪性新生物					6	10	125	352	235	74	802
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					5	21	150	187	344	147	854
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物										16	16
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物							2	138	458	210	808
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								116	62	152	330
C25	膵の悪性新生物					3		19	95	365	93	575
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>											
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						6	289	805	1,642	552	3,294
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>											
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>						2	4	35	22	44	107
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>							7		7	43	57
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>									8		8
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>											
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>						21	88	226	557	225	1,117
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						5	236	175	504	369	1,289
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>				130	21						151
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>				6		17					23
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>						9	166	143	410	120	848
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							2	2	110	46	160
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>											
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>									2	8	10
<b>II -2 新生物(腫瘍)良性</b>												<b>453</b>
D10-D36	良性新生物<腫瘍>			9		12	16	100	32	42	5	216
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		2	2	7	14	42	20	64	68	18	237
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>												<b>477</b>
D50-D53	栄養性貧血								33	4	10	47
D55-D59	溶血性貧血											
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血						4	13	4	24	71	116
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		61				7			59	60	187
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患								17	26		43
D80-D89	免疫機構の障害		1		15		4	4	60			84
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>												<b>2,651</b>
E00-E07	甲状腺障害					90	21				27	138
E10-E14	糖尿病				26	20	63	266	252	445	218	1,290
E15-E16	その他のグルコース調節及び胰島内分泌障害		8		4			3	37	73	23	148
E20-E35	その他の内分泌腺障害		63	56		5	22	12	24	22	23	227
E40-E46	栄養失調(症)											
E50-E64	その他の栄養欠乏症								21			21
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>								25			25
E70-E90	代謝障害	13	55	17	36	12	29	42	79	216	303	802

2024 年度 在院日数 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合計		
<b>V 精神及び行動の障害</b>												<b>105</b>		
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害													
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害				2	2	78	13				95		
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害													
F30-F39	気分〔感情〕障害													
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害			8								8		
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群													
F60-F69	成人の人格及び行動の障害													
F70-F79	知的障害〔精神遲滞〕													
F80-F89	心理的発達の障害		2									2		
F90-F98	小児〔児童〕期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害													
F99	詳細不明の精神障害													
<b>VI 神経系の疾患</b>												<b>1,701</b>		
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		2	3		24	15	34	30	173	69	350		
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症		2			4			3	64		73		
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							33	21	125	124	303		
G30-G32	神経系のその他の変性疾患							14		34		48		
G35-G37	中枢神経系の脱髓疾患				15		3					18		
G40-G47	挿間性及び発作性障害	3	49	3	10	16	32	62	42	127	56	400		
G50-G59	神経、神経根及び神経そく〔叢〕の障害				9	20	31	29	38	37	16	180		
G60-G64	多発〔性〕ニューロパチ〔クシ〕ー及びその他の末梢神経系の障害			10		9	54	45		13		131		
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					17	28		28	14		87		
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群			2					11	6		19		
G90-G99	神経系のその他の障害		4	2	6			44		18	18	92		
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b>												<b>1,208</b>		
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窓の障害							2	7	12	32	3	56	
H10-H13	結膜の障害													
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害											20	20	
H25-H28	水晶体の障害					1	1	8	38	140	159	169	516	
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害					15		38	9	54	22	29	167	
H40-H42	緑内障					17	7	12	51	55	154	47	343	
H43-H45	硝子体及び眼球の障害							3	42		10	31	86	
H46-H48	視神経及び視〔覚〕路の障害									17			17	
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害											3	3	
H53-H54	視機能障害及び盲〔く〕失明〕													
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害													
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b>												<b>169</b>		
H60-H62	外耳疾患													
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		3	32							1	36		
H80-H83	内耳疾患					7		10	4	17	20	35	93	
H90-H95	耳のその他の障害		9	1					28	2		40		
<b>IX 循環器系の疾患</b>												<b>11,315</b>		
I00-I02	急性リウマチ熱													
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								5			5		
I10-I15	高血圧性心疾患								3		20		23	
I20-I25	虚血性心疾患						12	89	311	486	682	454	2,034	
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患							6	40	33	3	1	83	
I30-I52	その他の型の心疾患				12	66	42	143	398	523	879	1,562	3,625	
I60-I69	脳血管疾患				2		174	161	624	588	995	1,244	3,788	
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患						8	20	309	250	479	374	1,440	
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの					14	15	23	49	77	90	34	302	
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害							15					15	
<b>X 呼吸器系の疾患</b>												<b>11,017</b>		
J00-J06	急性上気道感染症		8	51	9	21	24	12		4		129		
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎		62	526	91	50	35	57	120	467	883	2,129	4,420	
J20-J22	その他の急性下気道感染症		72	123		13	3						211	
J30-J39	上気道のその他の疾患			68	60	144	244	147	198	161	69	21	1,112	
J40-J47	慢性下気道疾患		51	254		11	8	6	62	28	101	129	650	
J60-J70	外的因子による肺疾患					171	9	22	79	70	62	396	1,329	2,138
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患								14	4	151	506	223	898
J85-J86	下気道の化膿性及びえく〔壞〕死性病態								6	67	218	146	146	583
J90-J94	胸膜のその他の疾患					19	68	31	14	26	76	235	285	754
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患		8		8	6			46	23	8	23	122	
<b>XI 消化器系の疾患</b>												<b>7,496</b>		
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患			9	3	26	34	22	40	10	11	44	199	
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患				1	9	34	17	67	113	75	60	376	
K35-K38	虫垂の疾患			5	18	42	31	49	38	46	9	20	258	
K40-K46	ヘルニア								8	43	84	149	78	362
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			4	13	27	9	43	7	10	10		123	
K55	腸の血行障害								24	14	176	15	229	

2024 年度 在院日数 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合計
K56	腸閉塞	2	3	7	4		9	62	106	126	268	587
K57	腸の憩室性疾患				9	17	49	62	108	144	46	435
K58-K59	その他の腸の機能障害		1	2	2				8		10	23
K60-K62	肛門及び直腸の疾患				4	4	15	7	28	5	3	66
K63	結腸のその他の疾患					8	61	235	264	341	170	1,079
K64	痔核							4	4	7		15
K65-K67	腹膜の疾患					11		124	20		25	180
K70-K77	肝疾患				21	2	2	120	183	172	74	54
K80-K87	胆のうく囊>、胆管及び膵の障害				6	11	62	139	264	400	615	901
K90-K93	消化器系のその他の疾患				2	6		15	48	29	137	301
<b>XII 皮膚及び皮下組織の疾患</b>												<b>760</b>
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		42	30	20	17	31	34	83	164	115	536
L10-L14	水疱症										46	46
L20-L30	皮膚炎及び湿疹		6			32	7					45
L40-L45	丘疹落せつく屑>くりんせつく鱗屑>性障害											
L50-L54	じんま<荨麻>疹及び紅斑		5	12							7	24
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害											
L60-L75	皮膚付属器の障害					4		9	2	9	4	28
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害						16		22	22	2	19
<b>XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>												<b>9,755</b>
M00-M03	感染性関節障害					30		36		135	28	229
M05-M14	炎症性多発性関節障害							10	3	52	86	151
M15-M19	関節症					15	28	103	287	869	610	359
M20-M25	その他の関節障害				141	197	93	62	155	36	58	749
M30-M36	全身性結合組織障害		16	64		2	25	2	4	29	113	195
M40-M43	変形性脊柱障害								102	113	82	297
M45-M49	脊椎障害					24		54	429	901	1,223	1,022
M50-M54	その他の脊柱障害					29	70	28	156	187	139	44
M60-M63	筋障害									19	27	46
M65-M68	滑膜及び腱の障害					6	10	3	45	58	11	133
M70-M79	その他の軟部組織障害						11	39	128	158	86	94
M80-M85	骨の密度及び構造の障害				6	25	12		19		11	120
M86-M90	その他の骨障害						35	77	80	43	72	6
M91-M94	軟骨障害					124						124
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害					13			8	29		50
<b>XIV 腎尿路生殖器系の疾患</b>												<b>3,434</b>
N00-N08	糸球体疾患		43	30			8	5		148	74	308
N10-N16	腎尿細管間質性疾患		8	12				38	82	117	214	471
N17-N19	腎不全					4	19	88	9	261	389	449
N20-N23	尿路結石症					5		10	37	55	8	37
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害					8			9	21	24	84
N30-N39	尿路系のその他の障害		15	5				29	67	223	458	797
N40-N51	男性生殖器の疾患				1	18		4	5	22	22	31
N60-N64	乳房の障害									12		12
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患											
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害											
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害											
<b>XV 妊娠、分娩及び産じょくく禰</b>												<b>0</b>
O00-O08	流産に終わった妊娠											
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょくく禰における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害											
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害											
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題											
O60-O75	分娩の合併症											
O80-O84	分娩											
O85-O92	主として産じょくく禰に関連する合併症											
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの											
<b>XVI 周産期に発生した病態</b>												<b>1,274</b>
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生兒		275									275
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害		230									230
P10-P15	出産外傷											
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害		386									386
P35-P39	周産期に特異的な感染症		184									184
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害		57									57
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害		99									99
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態											
P90-P96	周産期に発生したその他の障害		43									43

2024 年度 在院日数 (男)		0 歳	1 歳 9 歳	10 歳 19 歳	20 歳 29 歳	30 歳 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳 69 歳	70 歳 79 歳	80 歳 89 歳	合計
<b>XVII 先天奇形、変形及び染色体異常</b>												
Q00-Q07	神経系の先天奇形											135
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形					5	5					10
Q20-Q28	循環器系の先天奇形				6	14	8	60		2		90
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形											
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂											
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形	2			11							13
Q50-Q56	生殖器の先天奇形		2									2
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形						4		8			12
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	3	5									8
Q80-Q89	その他の先天奇形											
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの											
<b>XVIII 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>												
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徵候						2	3	8	69	31	113
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徵候							14				14
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徵候											
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徵候								10	26		36
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徵候											
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徵候							6		7		13
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徵候											
R50-R69	全身症状及び徵候	20	43	7					15	21	15	121
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの		4									4
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
<b>XIV 損傷、中毒及びその他の外因の影響</b>												
S00-S09	頭部損傷		2	46	19	9	20	60	99	312	237	804
S10-S19	頸部損傷								69	105	21	195
S20-S29	胸部<郭>損傷						10	20	35	116	65	246
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷						9			62	149	220
S40-S49	肩及び上腕の損傷	13	29	15	35	44	101	240	255	20		752
S50-S59	肘及び前腕の損傷	27	43	10		12	21	34		48		195
S60-S69	手首及び手の損傷	3	14	33	10	8	11	14				93
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷						2	61	199	172		434
S80-S89	膝及び下腿の損傷	3	428	404	236	259	227	73	81	22		1,733
S90-S99	足首及び足の損傷	5				17	27	8				57
T00-T07	多部位の損傷			8						48		56
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷											
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用	2							1	2		5
T20-T32	熱傷及び腐食	11		5	6	8	6					36
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒			5		5	8					18
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用											
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	7	29	14	7	8	4	18		31	43	161
T79	外傷の早期合併症					10						10
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの		14		41	24	119	59	325	284		866
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症											
<b>XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健</b>												
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											0
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者											
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
<b>XXII 特殊目的コード</b>												
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	35	6	5	9		11	57	145	301	629	1,198
合計		1,789	1,945	1,599	1,716	1,963	3,019	8,285	12,487	21,881	19,721	74,405

■疾病別・年齢階層別・退院患者数(女・在院日数)【2024年度】

2024年度 在院日数(女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合計
<b>I 感染症及び寄生虫症</b>												<b>1,432</b>
A00-A09	腸管感染症	20	81	24	23	32	14	30	14	33	100	371
A15-A19	結核							2	3	22		27
A20-A28	人畜共通細菌性疾患											
A30-A49	その他の細菌性疾患		46				13		2	142	285	488
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症	14		14	12	9			11			60
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患											
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患											
A75-A79	リケッチャ症											
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症									24		24
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱											
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	7	38		8		8	8	5	41	81	196
B15-B19	ウイルス性肝炎				7		6	4				17
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病											
B25-B34	その他のウイルス疾患	101	89	10	5					13		218
B35-B49	真菌症											
B50-B64	原虫疾患									26		26
B65-B83	ぜん<蠕>虫症						5					5
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症											
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症											
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体											
B99	その他の感染症											
<b>II -1 新生物(腫瘍)悪性</b>												<b>10,553</b>
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>							8				8
C15	食道の悪性新生物					19	57		22		50	148
C16	胃の悪性新生物					51		11	68	201	329	660
C17	小腸の悪性新生物							7	3	111		121
C18	結腸の悪性新生物					7	60	198	84	423	455	1,227
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					81	244	194	105	161		785
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物									2		2
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物							53	18	76	192	339
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物					5	17	12		208		242
C25	膵の悪性新生物						78	52	260	175		565
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>											
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						122	188	745	355		1,410
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>											
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>		4					4	9	95		112
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>							6	74			80
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>				8	284	418	474	320	347		1,851
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>				52	85	383	140	563	21		1,244
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>											
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>					14		142	216	159		531
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>								38			38
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>						6	12	17			35
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>				26	5	44	169	319	40		603
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>						101	31	69	218		419
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>											
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>			21	51	33	19	3	1	5		133
<b>II -2 新生物(腫瘍)良性</b>												<b>1,514</b>
D10-D36	良性新生物<腫瘍>		16	87	167	311	273	47	131	41		1,073
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		2	71	33	107	61	23	64	80		441
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>												<b>407</b>
D50-D53	栄養性貧血							17		8	70	95
D55-D59	溶血性貧血											
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血								2	14	95	111
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	7	16				39		4	17		83
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患				8	12		15	21	18		74
D80-D89	免疫機構の障害		5				37		2			44
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>												<b>2,248</b>
E00-E07	甲状腺障害	6	24		20	7	12	7				76
E10-E14	糖尿病		26	52	43	26	52	134	156	224		713
E15-E16	その他のグルコース調節及び胰内内分泌障害	8	12				2			59		81
E20-E35	その他の内分泌腺障害	45	15	7	21	18	13	23	9			151
E40-E46	栄養失調(症)									2		2
E50-E64	その他の栄養欠乏症					3			21			24
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>						25					25
E70-E90	代謝障害	10	29	22	9	4	59	43	169	191	640	1,176

2024 年度 在院日数 (女)		0 歳	1 歳 9 歳	10 歳 19 歳	20 歳 29 歳	30 歳 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳 69 歳	70 歳 79 歳	80 歳 89 歳	合計
<b>V 精神及び行動の障害</b>												<b>108</b>
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害									17	36	53
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害				5			2	1		7	15
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害											
F30-F39	気分〔感情〕障害									17	10	27
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害				2						11	13
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群											
F60-F69	成人の人格及び行動の障害											
F70-F79	知的障害〔精神遅滞〕											
F80-F89	心理的発達の障害											
F90-F98	小児〔児童〕期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害											
F99	詳細不明の精神障害											
<b>VI 神経系の疾患</b>												<b>1,558</b>
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		11				6	15	70	31	87	220
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症		4						8		20	32
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動			21	3			9	54	68	155	
G30-G32	神経系のその他の変性疾患					21						21
G35-G37	中枢神経系の脱髓疾患					7	67			62		136
G40-G47	挿間性及び発作性障害	2	34	10	2	4	7	31	38	41	99	268
G50-G59	神経、神経根及び神経そく〔叢〕の障害		8			4	13	39	43	47	49	203
G60-G64	多発〔性〕ニューロパチ〔クシ〕ー及びその他の末梢神経系の障害		3	45	15	21	9		4	21		118
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患			40		4	35	33	3			115
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群											
G90-G99	神経系のその他の障害				3	184		17	11	23	52	290
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b>												<b>1,377</b>
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窓の障害			31			19	10	14	79	29	182
H10-H13	結膜の障害									2		2
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害											
H25-H28	水晶体の障害				5	7	8	49	81	248	242	640
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害					10	23	47	64	5	6	155
H40-H42	緑内障				1	2	28	29	56	127	88	331
H43-H45	硝子体及び眼球の障害						4		9	11	24	48
H46-H48	視神経及び視〔覚〕路の障害		1			3						4
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害							7		4		11
H53-H54	視機能障害及び盲〔く〕失明〕										4	4
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害											
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b>												<b>241</b>
H60-H62	外耳疾患											
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	3	17							5		25
H80-H83	内耳疾患					14	21	11	12	38	62	158
H90-H95	耳のその他の障害	3	4	18		12	13		8			58
<b>IX 循環器系の疾患</b>												<b>9,152</b>
I00-I02	急性リウマチ熱											
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患											
I10-I15	高血圧性疾患					6			19		5	30
I20-I25	虚血性心疾患					10	12	41	42	205	463	773
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患				11			8	21	3	151	194
I30-I52	その他の型の心疾患	9	3		74	21	225	110	914	2,373		3,729
I60-I69	脳血管疾患	3			16	245	9	194	409	497	2,172	3,545
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患				6		29	63	64	354	202	718
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの		10			22		9	56	66		163
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害											
<b>X 呼吸器系の疾患</b>												<b>6,651</b>
J00-J06	急性上気道感染症	11	26	22	28	24	5	33	7		9	165
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	62	387	75	63	16	68	44	169	599	1,700	3,183
J20-J22	その他の急性下気道感染症	102	73	5						23	7	210
J30-J39	上気道のその他の疾患		12	23	95	88	76	150	63	72	21	600
J40-J47	慢性下気道疾患	26	254	8			8		46	107	158	607
J60-J70	外的因子による肺疾患				46				160	211	797	1,214
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							6	56	9	152	223
J85-J86	下気道の化膿性及びえく〔壞〕死性病態								28	63	135	226
J90-J94	胸膜のその他の疾患				27		13	9	13	27	77	166
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患						7			50		57
<b>XI 消化器系の疾患</b>												<b>6,827</b>
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患				18	24	28	14	40	22	32	136
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患			26	8	12	19	13	29	202	211	520
K35-K38	虫垂の疾患	1	4	24	23	10	25	27	55	133	302	
K40-K46	ヘルニア						4	11	4	39	215	273
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			3		3	35		6	9	3	59
K55	腸の血行障害					5	18	26	19	72	123	263

2024 年度 在院日数 (女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合計
K56	腸閉塞					4	11		108	175	295	593
K57	腸の憩室性疾患			9	7	28		96	114	161	137	552
K58-K59	その他の腸の機能障害				6			5	17	41		69
K60-K62	肛門及び直腸の疾患					2		5	51	32		90
K63	結腸のその他の疾患				3	17	40	112	126	340	189	827
K64	痔核					6	1	6			11	24
K65-K67	腹膜の疾患						47		109		13	169
K70-K77	肝疾患						43	74	47	161	276	601
K80-K87	胆のうく囊、胆管及び膵の障害				38	73	101	170	134	503	687	1,706
K90-K93	消化器系のその他の疾患		2	2	8	4	9	15	52	146	227	465
<b>XII 皮膚及び皮下組織の疾患</b>												<b>984</b>
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症			3	7	5	6	7	29	16	72	362
L10-L14	水疱症							62		5		54
L20-L30	皮膚炎及び湿疹									4		4
L40-L45	丘疹落せつく屑くりんせつく鱗屑性障害											
L50-L54	じんまく蕁麻疹及び紅斑								10		26	36
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害									2		2
L60-L75	皮膚付属器の障害				2			4	8		5	21
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害									66	227	293
<b>XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>												<b>14,619</b>
M00-M03	感染性関節障害						47		18	41	12	118
M05-M14	炎症性多発性関節障害					5	26	70	116	226	190	633
M15-M19	関節症				10		135	1,040	1,707	3,095	1,490	7,477
M20-M25	その他の関節障害			145	106	51	63	123	103	123	86	800
M30-M36	全身性結合組織障害	10	67		44	41		22	91	61	40	376
M40-M43	変形性脊柱障害		97	40	15		60	65	359	513	216	1,365
M45-M49	脊椎障害						6	291	336	747	566	1,946
M50-M54	その他の脊柱障害				9	20	55	53	129	72	120	59
M60-M63	筋障害					14		20			32	66
M65-M68	滑膜及び腱の障害				6	3	29	12	54	83	36	6
M70-M79	その他の軟部組織障害						50	99	134	215	71	569
M80-M85	骨の密度及び構造の障害								8	38	5	51
M86-M90	その他の骨障害							2		74	43	119
M91-M94	軟骨障害				13			3				16
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害					5				41	291	337
<b>XIX 腎尿路生殖器系の疾患</b>												<b>3,214</b>
N00-N08	糸球体疾患					43	26	8	11	37	4	
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	10			12	10		68	37	141	244	522
N17-N19	腎不全							27		240	283	550
N20-N23	尿路結石症					15		25	30	56	5	131
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害								13	14	43	70
N30-N39	尿路系のその他の障害	22	25			20	13	20	10	159	772	1,041
N40-N51	男性生殖器の疾患											
N60-N64	乳房の障害						5			2	2	9
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患				5	32	39	23	3	10	19	6
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害				3	81	137	116	112	60	85	31
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害											
<b>XV 妊娠、分娩及び産じょくく禰</b>												<b>4,632</b>
O00-O08	流産に終わった妊娠				2	53	145	28				228
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょくく禰における浮腫、タンパクく蛋白く尿及び高血圧性障害				39	98	3					140
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害					23	245	5				273
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題			8	127	218	70					423
O60-O75	分娩の合併症					123	416	44				583
O80-O84	分娩				26	605	1,917	349				2,897
O85-O92	主として産じょくく禰に関連する合併症					17	45					62
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの					9	17					26
<b>XVI 周産期に発生した病態</b>												<b>1,160</b>
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	250										250
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	153										153
P10-P15	出産外傷											
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	380										380
P35-P39	周産期に特異的な感染症	108										108
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	108										108
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	144										144
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	6										6
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	11										11

2024 年度 在院日数 (女)		0 歳	1 歳 9 歳	10 歳 19 歳	20 歳 29 歳	30 歲 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳 69 歳	70 歳 79 歳	80 歳 89 歳	合計
<b>XVII 先天奇形、変形及び染色体異常</b>												<b>200</b>
Q00-Q07	神経系の先天奇形		4									4
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形											
Q20-Q28	循環器系の先天奇形	4		9			2					15
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形			10								10
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂											
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形											
Q50-Q56	生殖器の先天奇形			2								2
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形								77		77	
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	4	28	3			50					85
Q80-Q89	その他の先天奇形		4	3								7
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの											
<b>XVIII 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>												<b>410</b>
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徵候						3	22	64	90	179	
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徵候			2		6			5	4	17	
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徵候		2									2
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徵候					2						2
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徵候											
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徵候						2			16	18	
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徵候											
R50-R69	全身症状及び徵候	7	26					11	97	50	191	
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	1										1
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
<b>XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響</b>												<b>6,605</b>
S00-S09	頭部損傷				21	7		27	13	103	257	428
S10-S19	頸部損傷								30	14	43	87
S20-S29	胸部<郭>損傷							7	13	64	79	163
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷							41	35	139	410	625
S40-S49	肩及び上腕の損傷	29	12	4		13	43	140	273	145	659	
S50-S59	肘及び前腕の損傷		8		21	9		20	48	134	157	397
S60-S69	手首及び手の損傷			9	2	17	3	12	27	4	2	76
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷		4	5			22	48	77	345	1,004	1,505
S80-S89	膝及び下腿の損傷			290	182	78	261	232	44	133	91	1,311
S90-S99	足首及び足の損傷			3	9		6				106	124
T00-T07	多部位の損傷							10	4		23	37
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷									10		10
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用						7	3		16		26
T20-T32	熱傷及び腐食										32	32
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒			2		2						4
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用											
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	4	9	4	9	6	7	2			32	73
T79	外傷の早期合併症											
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの				3	2	33	45	57	393	512	1,045
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症							3				3
<b>XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健</b>												<b>0</b>
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者											
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
<b>XXII 特殊目的コード</b>												<b>921</b>
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類		30	7	9		6	43	48	52	183	543
合計			1,634	1,516	1,023	2,511	5,104	3,661	6,850	8,390	18,740	25,384
												<b>74,813</b>

■疾病別・年齢階層別・退院患者数（死亡）【2024 年度】

2024 年度（死亡）		0 歳	1 歳 9 歳	10 歳 19 歳	20 歳 29 歳	30 歳 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳 69 歳	70 歳 79 歳	80 歳	合計	在院日数
<b>I 感染症及び寄生虫症</b>												<b>18</b>	<b>357</b>
A00-A09	腸管感染症												
A15-A19	結核										1	1	35
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患									2	2	11	15
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症												
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチャ症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症												
B15-B19	ウイルス性肝炎												
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病												
B25-B34	その他のウイルス疾患												
B35-B49	真菌症										1	1	59
B50-B64	原虫疾患										1	1	26
B65-B83	ぜん<蠕>虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
<b>II -1 新生物（腫瘍）悪性</b>												<b>70</b>	<b>1,199</b>
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>												
C15	食道の悪性新生物									1	3	4	70
C16	胃の悪性新生物									2	3	5	117
C17	小腸の悪性新生物									1		1	23
C18	結腸の悪性新生物									1	1	2	54
C19-C20	直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物									2	1	2	157
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物									1		2	14
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物									1		1	20
C25	膵の悪性新生物									4	5	2	1175
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>									1	2	9	7
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>												
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>												
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>									2	1	1	62
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>									1		1	21
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>										2	2	33
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>									1	1		14
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>												
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>												
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>									4	2		6
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>												
C97	独立した（原発性）多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>												
<b>II -2 新生物（腫瘍）良性</b>												<b>0</b>	<b>0</b>
D10-D36	良性新生物<腫瘍>												
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>												
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>												<b>1</b>	<b>17</b>
D50-D53	栄養性貧血												
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血												
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態										1	1	17
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患												
D80-D89	免疫機構の障害												
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>												<b>3</b>	<b>57</b>
E00-E07	甲状腺障害												
E10-E14	糖尿病										1	1	50
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害												
E20-E35	その他の内分泌腺障害												
E40-E46	栄養失調（症）												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												
E65-E68	肥満（症）及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害										1	1	7

2024 年度（死亡）		0 歳	1 歳 9 歳	10 歳 19 歳	20 歳 29 歳	30 歳 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳 69 歳	70 歳 79 歳	80 歳	合計	在院日数
<b>V 精神及び行動の障害</b>												0	0
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分〔感情〕障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害〔精神遅滞〕												
F80-F89	心理的発達の障害												
F90-F98	小児〔児童〕期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
<b>VI 神経系の疾患</b>												2	56
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患												
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症												
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動												
G30-G32	神経系のその他の変性疾患												
G35-G37	中枢神経系の脱髓疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害												
G50-G59	神経、神経根及び神経〔こう〕の障害												
G60-G64	多発〔性〕ニューロパチ〔シ〕ー及びその他の末梢神経系の障害							1			1	54	
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患												
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害										1	1	2
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b>												0	0
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窓の障害												
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害												
H25-H28	水晶体の障害												
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害												
H40-H42	緑内障												
H43-H45	硝子体及び眼球の障害												
H46-H48	視神經及び視〔覚〕路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲〔しやう〕失明〔しじゆう〕												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b>												0	0
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患												
H80-H83	内耳疾患												
H90-H95	耳のその他の障害												
<b>IX 循環器系の疾患</b>												47	469
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患												
I10-I15	高血圧性心疾患												
I20-I25	虚血性心疾患								1	3	2	6	50
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患												
I30-I52	その他の型の心疾患							1	1	2	12	16	148
I60-I69	脳血管疾患						2	2	3	5	10	22	257
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患									3	3		14
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの												
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害												
<b>X 呼吸器系の疾患</b>												58	1,143
J00-J06	急性上気道感染症												
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎								1	2	17	20	327
J20-J22	その他の急性下気道感染症												
J30-J39	上気道のその他の疾患												
J40-J47	慢性下気道疾患									2	2		23
J60-J70	外的因子による肺疾患								2	19	21		401
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							2	2	4	8		231
J85-J86	下気道の化膿性及びえく壊死性病態									1	1		19
J90-J94	胸膜のその他の疾患									4	4		92
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患									2			50
<b>XI 消化器系の疾患</b>												19	272
K00-K14	口腔、唾液腺及び頸の疾患												
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患												
K35-K38	虫垂の疾患												
K40-K46	ヘルニア												

2024 年度（死亡）		0 歳	1 歳 ‐ 9 歳	10 歳 ‐ 19 歳	20 歳 ‐ 29 歳	30 歳 ‐ 39 歳	40 歳 ‐ 49 歳	50 歳 ‐ 59 歳	60 歳 ‐ 69 歳	70 歳 ‐ 79 歳	80 歳 ‐ 89 歳	合計	在院日数
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎												
K55	腸の血行障害												
K56	腸閉塞										3	3	53
K57	腸の憩室性疾患									1	1	1	2
K58-K59	その他の腸の機能障害												
K60-K62	肛門及び直腸の疾患												
K63	結腸のその他の疾患									1	1	1	32
K64	痔核												
K65-K67	腹膜の疾患									1	1	1	13
K70-K77	肝疾患						3	1		2	6	6	89
K80-K87	胆のう＜囊＞、胆管及び膵の障害									2	2	4	40
K90-K93	消化器系のその他の疾患								1	2	3	3	43
<b>XII 皮膚及び皮下組織の疾患</b>												<b>1</b>	<b>3</b>
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症									1	1	1	3
L10-L14	水疱症												
L20-L30	皮膚炎及び湿疹												
L40-L45	丘疹落せつく屑＜くりんせつく鱗屑＞性障害												
L50-L54	じんま＜荨麻＞疹及び紅斑												
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害												
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害												
<b>XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>												<b>3</b>	<b>17</b>
M00-M03	感染性関節障害												
M05-M14	炎症性多発性関節障害												
M15-M19	関節症												
M20-M25	その他の関節障害												
M30-M36	全身性結合組織障害									2	2	2	14
M40-M43	変形性脊柱障害												
M45-M49	脊椎障害												
M50-M54	その他の脊柱障害												
M60-M63	筋障害												
M65-M68	滑膜及び腱の障害												
M70-M79	その他の軟部組織障害							1			1	1	3
M80-M85	骨の密度及び構造の障害												
M86-M90	その他の骨障害												
M91-M94	軟骨障害												
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害												
<b>XIV 腎尿路生殖器系の疾患</b>												<b>8</b>	<b>187</b>
N00-N08	糸球体疾患												
N10-N16	腎尿細管間質性疾患												
N17-N19	腎不全							1		1	2	2	35
N20-N23	尿路結石症							1			1	1	29
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									1	1	1	10
N30-N39	尿路系のその他の障害									4	4	4	113
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害												
<b>XV 妊娠、分娩及び産じょく（褥）</b>												<b>0</b>	<b>0</b>
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく（褥）における浮腫、タンパク（蛋白）尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく（褥）に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
<b>XVI 周産期に発生した病態</b>												<b>0</b>	<b>0</b>
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児												
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害												
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害												
P35-P39	周産期に特異的な感染症												
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害												
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害												

2024 年度（死亡）		0 歳	1 歳 ‐ 9 歳	10 歳 ‐ 19 歳	20 歳 ‐ 29 歳	30 歳 ‐ 39 歳	40 歳 ‐ 49 歳	50 歳 ‐ 59 歳	60 歳 ‐ 69 歳	70 歳 ‐ 79 歳	80 歳 ‐ 89 歳	合計	在院日数		
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害														
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態														
P90-P96	周産期に発生したその他の障害														
<b>XVII 先天奇形、変形及び染色体異常</b>												0	0		
Q00-Q07	神経系の先天奇形														
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形														
Q20-Q28	循環器系の先天奇形														
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形														
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂														
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形														
Q50-Q56	生殖器の先天奇形														
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形														
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形														
Q80-Q89	その他の先天奇形														
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの														
<b>XVIII 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>												5	42		
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徵候									1	2	3	25		
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徵候														
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徵候														
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徵候														
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徵候														
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徵候														
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徵候														
R50-R69	全身症状及び徵候									1	1	2	17		
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの														
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの														
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの														
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの														
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡														
<b>XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響</b>												7	88		
S00-S09	頭部損傷									3	2	5	38		
S10-S19	頸部損傷														
S20-S29	胸部<郭>損傷														
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷														
S40-S49	肩及び上腕の損傷														
S50-S59	肘及び前腕の損傷														
S60-S69	手首及び手の損傷														
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷														
S80-S89	膝及び下腿の損傷														
S90-S99	足首及び足の損傷														
T00-T07	多部位の損傷														
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷														
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用									1	1	1			
T20-T32	熱傷及び腐食														
T33-T35	凍傷														
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒														
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用														
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用														
T79	外傷の早期合併症														
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの									1	1	49			
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症														
<b>XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健</b>												0	0		
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者														
Z20-Z29	伝染病に関する健康障害をきたす恐れのある者														
Z30-Z39	生殖に関する環境下での保健サービスの利用者														
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者														
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関する健康障害をきたす恐れのある者														
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者														
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関する健康障害をきたす恐れのある者														
<b>XXII 特殊目的コード</b>												2	12		
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類									1	1	2	12		
<b>合計</b>									6	9	30	60	139	244	3,919

## ■がん登録【2023年診断】

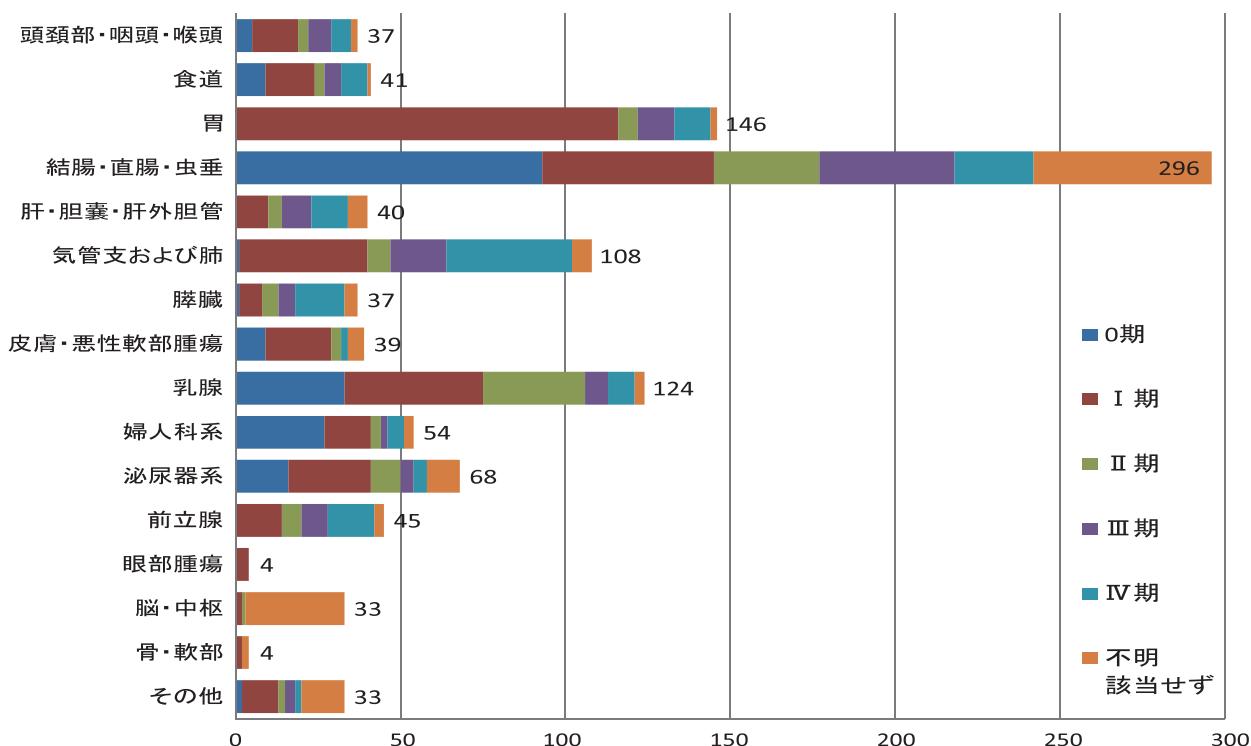
2023年1月1日～2023年12月31日診断 がん登録件数（部位別及びステージ別）

部位	0期	I期	II期	III期	IV期	不明該当せず	合計
頭頸部・咽頭・喉頭	5	14	3	7	6	2	37
食道	9	15	3	5	8	1	41
胃		116	6	11	11	2	146
結腸・直腸・虫垂	93	52	32	41	24	54	296
肝・胆嚢・肝外胆管		10	4	9	11	6	40
気管支および肺	1	39	7	17	38	6	108
膵臓	1	7	5	5	15	4	37
皮膚・悪性軟部腫瘍	9	20	3		2	5	39
乳腺	33	42	31	7	8	3	124
婦人科系	27	14	3	2	5	3	54
泌尿器系	16	25	9	4	4	10	68
前立腺		14	6	8	14	3	45
眼部腫瘍		4				0	4
脳・中枢		2	1			30	33
骨・軟部		2				2	4
その他	2	11	2	3	2	13	33
合計	196	387	115	119	148	144	1109

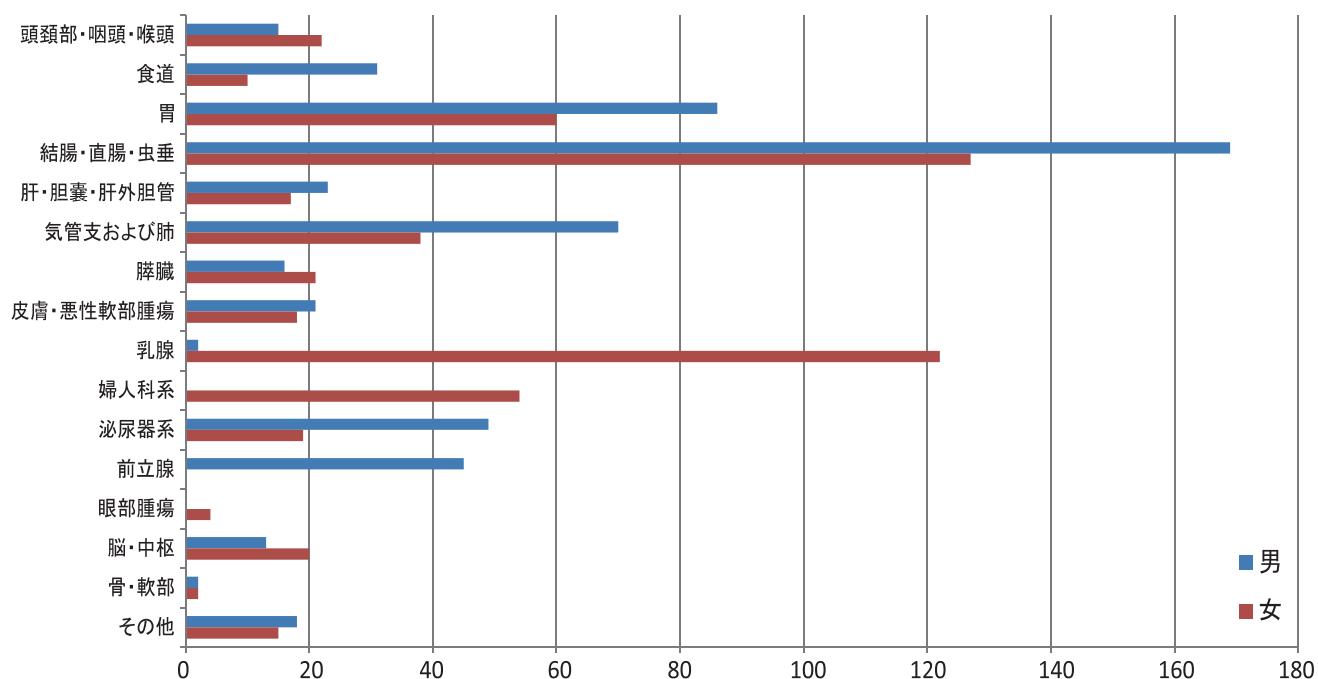
診断年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
提出件数	954	923	1043	1044	1153	1093	1109

2023年診断	1位	2位	3位	4位	5位
合計	大腸	胃	乳腺	気管支 および肺	泌尿器系
男性	大腸	胃	気管支 および肺	泌尿器系	前立腺
女性	大腸	乳腺	胃	婦人科系	気管支 および肺

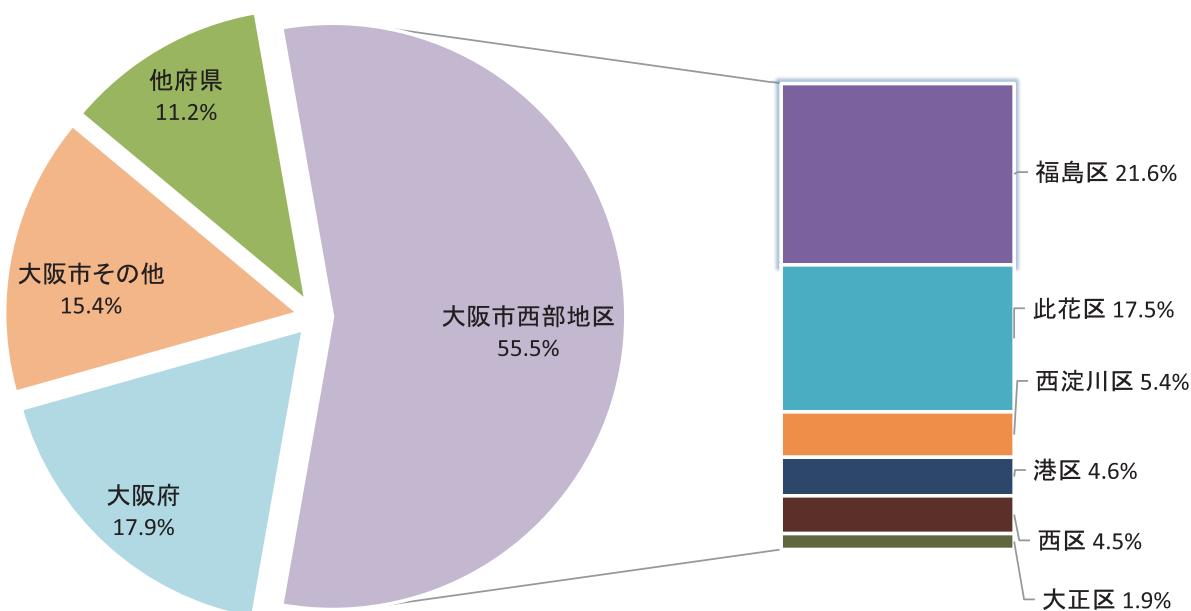
## ■がん登録 2023年診断 部位別 ステージ別



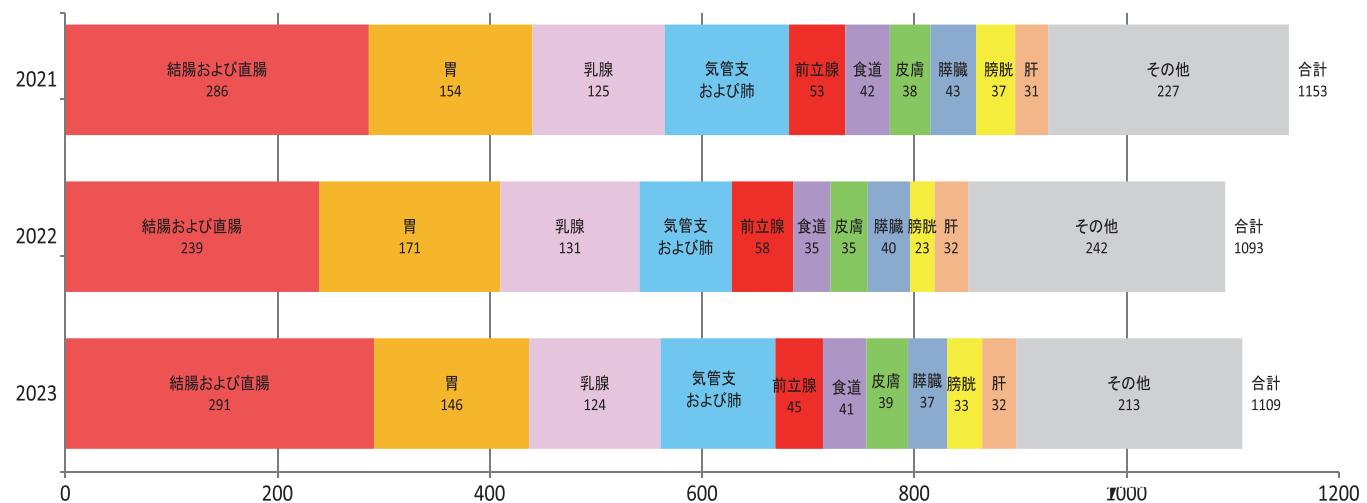
■がん登録 2023年診断 部位別 男女別



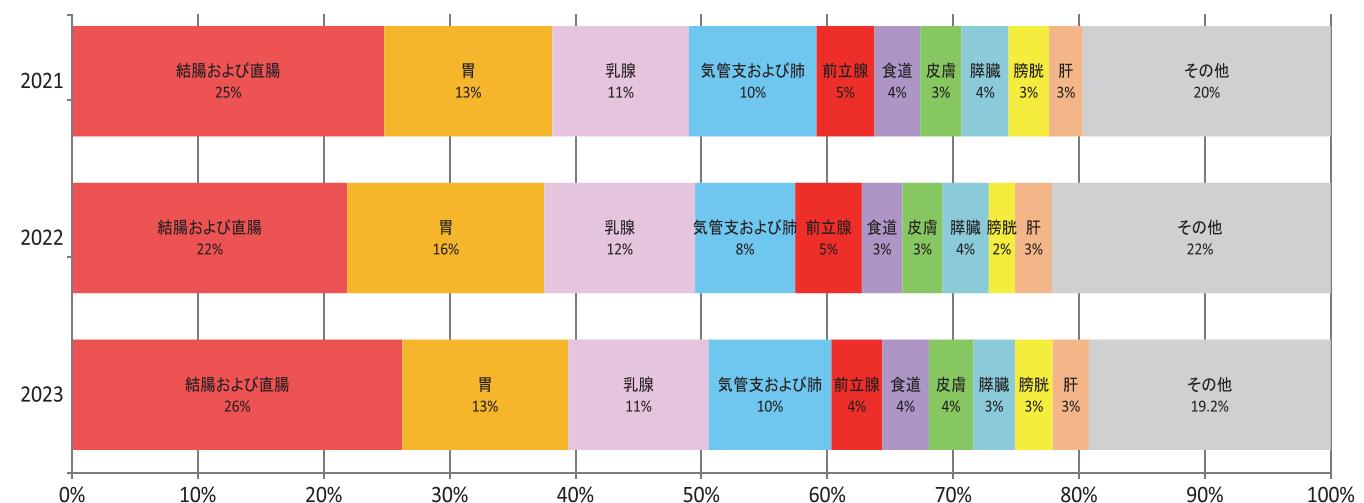
■がん登録患者 2023年診断 地域別



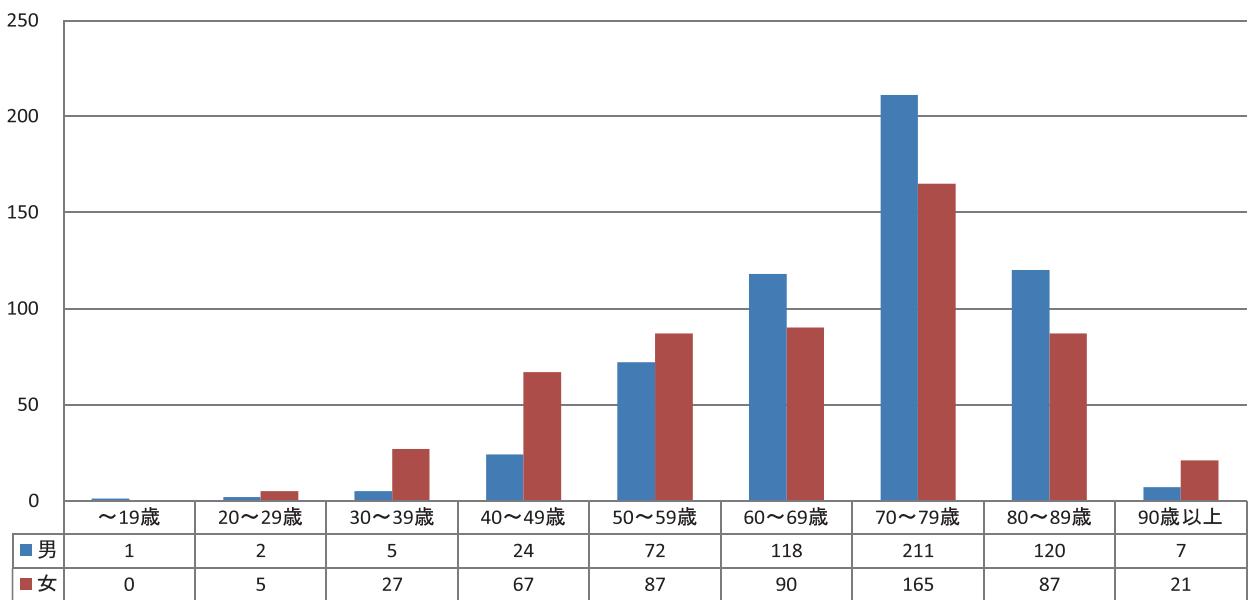
## ■ 2021 – 2023 年経年変化（実数）



## ■ 2021 – 2023 年経年変化（割合）



## ■ 2023 年症例 年齢別 男女別





# 部門概要

◆スタッフ欄は、令和7年3月1日現在の配置を記す。



### ◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田 幸造、◎（統括診療部長・主任部長）中田 活也、◎西川 昌孝、◎北 圭介、◎轉法輪 光、◎武中 章太、◎西本 竜史、岡本 恭典、金山 完哲、中矢 亮太、山田 修太郎、三好 祐史、藏谷 幸祐、河野 剛之、木ノ本 みづき、熨斗 優樹、松本 遼季、中谷 裕貴、大脇 肇

### ◆概要

整形外科は最新かつ高度な医療を提供すべく、専門分野ごとにセンター化して診療に当たっている。具体的には、脊椎外科センター、人工関節センター、手の外科・外傷センター、スポーツ整形センター（肩・肘・膝・足）、リウマチセンターの5部門に分かれている。島田副院長の下、大阪大学整形外科の主要関連病院として21名の整形外科医を擁し、個々の専門領域に応じて各センターに所属し診療に従事している。豊富な手術症例をベースにした臨床研究も盛んで国内外の学会発表や論文発表も多く、日本整形外科学会専門医14名が5名の整形外科専攻医を指導する教育体制も完備している。特に専攻医の手術技術向上に積極的に取り組むべく教育システムを有しており、診療・教育・研究の3本柱により医療に貢献するのが当整形外科の責務と考えている。

### ◆実績

2024年度の整形外科の新規来院患者数は3,299名であった。手術件数は2,249件であった。内訳は、脊椎：534、上肢・手：427、下肢：581（THA:270, TKA:191）、外傷：330、スポーツ：337、リウマチ：25、腫瘍15であった。これは近隣医療機関の先生方から定期的に多数のご紹介をいただいた結果である。また救急症例（大腿骨近位部骨折、小児骨折、スポーツ外傷、脊椎圧迫骨折など）を積極的に受け入れ始めた。さらに2022年10月からは近隣医療機関の先生方がご診療をされている平日午後8時までは当科スタッフが「居残り当番」としてお問い合わせに対応させていただき、整形外科が当日直をしていない休日は当科部長が「相談係」として待機していることも症例増加の要因ではないかと思われる。

臨床研究の業績としては、2編の英語論文を含む31編の論文・著書、44回の国内講演、35回の国内発表、5回の海外発表を行った。各部門長は国内外から講演依頼を受けるその道のトップランナーであり、今後も診療だけでなく臨床研究の面からも日本をリードするような整形外科であり続けたいと考えている。

当院では初期研修医から整形外科専攻医への志望者も徐々に増えつつあり、その結果、当院で研修した若い整形外科医が大阪大学を始め多くの関連病院で修練した後、当院の中堅スタッフとして整形外科の活力を高めるという好循環が実現しつつある。若手医師の育成により整形外科の底上げに寄与できる診療科を目指してゆく。

### ◆今後の方向性

昭和27年の旧大阪厚生年金病院開設当初から当整形外科は存在しており70余年の歴史がある。その結果整形外科診療の「最後の砦」としてのブランドが構築されてきた事実がある。一方、そのブランド名が当整形外科への受診の敷居を高くしてきたのも事実である。当科では2021年から近隣医療機関への訪問を行っている。旧厚生年金病院時代からの地域診療との垣根を低くするためである。近隣医療機関の先生方と協力して、緊密連絡・迅速対応・相互連携をモットーとした風通しの良い地域医療機能を構築していくことが当整形外科の目指すべき新しい姿であると考えている。

今後多くの紹介患者数を受け入れ、ますます地域に根付いた整形外科診療を実施し、更にこれまでに築き上げた診療レベルを向上しつつ、大阪市内は勿論、大阪府下から近畿一円、さらには全国的に高度な整形外科治療を求める患者のニーズに応えていきたいと考えている。

**◆スタッフ (◎部長)**

◎西川 昌孝、松本 遼季、中谷 裕貴、大脇 肇 (非常勤)

**◆概要**

2024年度のリウマチセンターは西川昌孝リウマチ科診療部長、大脇肇前副院長（非常勤）の体制で、整形外科の1名の常勤医師と後期研修医2名及び非常勤医師1名により構成された。後期研修医がリウマチ研修を受けるシステムは継続された。年度終わりにリウマチ研修を受けていたのは松本遼季、中谷裕貴であった。

**◆実績**

2024年度のカルテベースでの診療患者数は、関節リウマチ（RA）と脊椎関節炎（SpA）の合計数が325人で昨年度より5人増加した。膠原病疾患新規紹介患者は基本的には当院免疫内科が担当している。

生物学的製剤は、IFX（レミケード）/ETN（エンブレル）/ADA（ヒュミラ）/GLM（シンポニー）/CZP（シムジア）/OZR（ナノゾラ）/TCZ（アクテムラ）/ABT（オレンシア）/SAR（ケブザラ）/OZR（ナノゾラ）を使用しているが、IFX、ETN、ADAはバイオレミラーを基本的には使用している。一方、キナーゼ阻害薬はTOF（ゼルヤンツ）、BARI（オルミエント）、PEFI（スマイラフ）、UPA（リンヴォック）、ジセレカ（FIL）と5剤なり、生物製剤に比較しキナーゼ阻害薬の増加が目立った。

リウマチグループの主たる手術対象は変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術であるが、これについては人工関節センターの項を御覧いただきたい。リウマチ科スタッフの減員に伴い、現在足関節・足部疾患の手術はスポーツ整形外科、手外科グループに依頼している。

関節リウマチは合併症の多い疾患であり、また治療の主体が免疫抑制療法であるため、呼吸器をはじめ、多くの他科の先生方に迷惑をかけており、この場を借りてお礼を申し上げたい。

**◆スタッフ（◎部長）**

◎武中 章太、金山 完哲、山田 修太郎、河野 剛之

**◆概要**

当院脊椎センターでは、腰椎・頸椎・胸椎の変性疾患から脊柱変形、外傷、腫瘍、炎症性疾患、透析関連疾患に至るまで、幅広い脊椎疾患を対象に診療を行っています。具体的には、腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症・分離すべり症、椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症・神経根症、後縦靭帯骨化症、環軸椎亜脱臼、胸椎黄色靭帯骨化症、思春期特発性側弯症、成人脊柱変形、脊椎・脊髄腫瘍（髄内腫瘍を除く）、化膿性脊椎炎やリウマチ性脊椎疾患など、多岐にわたる病態に対応しています。

診療は、4名の脊椎外科専門医を中心とするチームで行っており、日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会脊椎外科指導医、BKP・XLIF・OLIF資格医、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医（2種および3種）など、多数の資格を有する医師が在籍しています。さらに、手術室・病棟スタッフも脊椎外科医療に精通しており、循環器内科・糖尿病内科・腎臓内科など他科と連携し、心疾患や糖尿病、透析患者を含めて安心して治療を受けられる体制を整えています。

高齢化や生活習慣の変化により、複数の合併症を抱える脊椎疾患患者が増加する中、当センターは「脊椎疾患のみならず患者全体を診る姿勢」を重視しています。科学的根拠に基づき、一人ひとりに最適化された全人的医療を提供しています。

**◆実績**

当センターには、近隣医療機関から手術適応が見込まれる症例や診断が困難な症例が多く紹介されます。診察・画像検査を経て、手術適応と判断された場合は、脊椎外科カンファレンスで複数の専門医が協議し、最適な術式を決定しています。令和6年度の手術件数は572件と年々増加しており（令和5年度526件、令和4年度468件）、地域の基幹的役割を担っています。主な手術内容は以下の通りです。

**腰椎手術**：除圧術（FESS、MEL、開窓術）、固定術（PLIF、TLIF、前方後方固定術）、椎間板摘出術（主にFESS）

**頸椎手術**：椎弓形成術（人工骨・金属プレート使用）、固定術（椎弓根・外側塊スクリューを用いた後方固定、ケージや自家骨+プレートを用いた前方固定）

**脊柱変形矯正**：成人脊柱変形矯正固定術、特発性側弯症手術

低侵襲手術にも積極的に取り組んでおり、令和6年度にはFESSやMELによる除圧術を179件施行しました。固定術においては、XLIF・OLIFなどの側方進入椎体間固定術を導入し、前方後方固定術や側弯症矯正手術でも応用しています。

また、ハイブリッド手術室に設置されたSIEMENS社製Artis Zeego（術中CT）とMedtronic社製ナビゲーションシステムを組み合わせ、インプラントの正確な配置をリアルタイムに確認し、安全性の高い手術を実現しています。令和6年度からは頸椎前方固定術にもナビゲーションを導入し、後縦靭帯骨化症をはじめとする高難度手術においても安全性と精度の向上を図っています。

手術内容としては、腰椎除圧術（FESS、MEL、開窓術）、腰椎固定術（後方進入椎体間固定術、後方固定術、前方後方固定術）、腰椎椎間板摘出術（主にFESS）、頸椎椎弓形成術（人工骨や金属プレートを使用）、頸椎固定術（椎弓根スクリュー・外側塊スクリューを使用した後方固定術、ケージや自家骨+プレートを使用した前方固定術）、成人脊柱変形矯正固定術、特発性側弯症手術などを行っています。

**◆スタッフ (◎部長)**

◎島田 幸造、◎北 圭介、◎轉法輪 光、西本 竜史、三好 祐史、藏谷 幸祐

**◆概要**

スポーツ医学科は、整形外科の中の一分野として、スポーツ傷害に苦しむアスリートやスポーツ愛好家をサポートすべく活動している。スポーツ傷害とはスポーツに特有の外傷とともに酷使される部位の慢性機能障害を含み、トッププレーヤーとして復帰させるためには高度に専門化された診療技術や知識が必要である。スポーツ復帰のためには、一般的に病気や怪我を治すだけではなく、より高い治療目標が必要であり、そのためにリハビリテーション部門や看護部門と連携し、ハイレベルなチーム医療を行なっている。これらによって培われた診療技術は、スポーツ選手の復帰へのサポートだけでなく、一般の患者さんの治療にも応用され、怪我をした方の社会復帰や、活き活きした生活を送りたいという現代人の健康寿命の維持に寄与する。

当院スポーツ医学科は身体を支える下半身、中でもスポーツ傷害の頻度の高い膝関節を中心に下肢のスポーツ傷害を担当する「膝関節グループ」、人体中最も大きな可動域を有するため傷害頻度も高い肩関節を担当する「肩関節グループ」、道具として人が最も使うことから力だけでなく繊細な動きも要求される手指や肘関節を担当する「手・肘関節グループ」の3部門でスポーツ傷害の治療に対応している。いずれの分野においても関節鏡視下手術の技術を駆使した小侵襲手術を主体に、アスリートの傷害からの復帰に、ひいては一般の方の健康増進に貢献している。

**◆実績**

2024年度手術件数

膝関節グループ：440件

(鏡視下膝十字靱帯再建、その他鏡視下靱帯再建、鏡視下半月板手術、膝周囲骨切り術（高位脛骨骨切り術）、その他の関節鏡視下手術など)

肩関節グループ：189件

(鏡視下腱板修復、鏡視下バンカート修復、人工肩関節など)

手・肘関節グループ：診療部門「手の外科・外傷」参照

(骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靱帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術など)

**◆スタッフ（◎部長）**

(副院長) 島田 幸造、◎轉法輪 光、三好 祐史

**◆概要**

手外科・外傷センターは整形外科の中の一分野として、手や肘の障害や、労災事故など外傷による上肢機能の改善・再建を主なフィールドとして診療を行っている。

手は人間にとて非常に重要な道具（運動器）であると共に、物を触って判別するセンサー（知覚器）である。また舞踊の世界などでは指先の纖細な動きで美を表すように、整容面でも重要な役割を担っている。この人間にとて重要な道具を目的に応じて移動させ、標的に合わせる（ターゲッティング）ために、肩や腕、肘の機能もまた重要である。我々はそういった上肢の機能障害を最大限回復させ、人間にとての大切な道具である手を最大限生かすことを目的に、診療に当たっている。

そういった道具であるがゆえに、仕事中など手は怪我にあう頻度が高いことは否めない。また肘に対して仕事やスポーツで負荷がかかると様々な障害をきたしうる。単に怪我や骨折を治すだけではなく、それを動かす筋肉や腱、神経を、手という精巧かつ纖細な運動器治療の専門家である我々が、その知識をフルに動員し、時には手術用顕微鏡を用いたマイクロサージャリーの技術も使い、より低侵襲な治療である手・肘関節鏡手術なども適用し、治療に当たっている。その技術は時に手だけではなく全身各所の外傷治療にも応用され、また通常の怪我、救急外傷、スポーツ傷害を含め、多岐にわたる運動器の外傷・傷害治療に専門的に当たっているのが、我々手外科・外傷センター部門である。

対象疾患としては、肘・手の骨折や脱臼、腱損傷、神経損傷などの外傷や様々な変性疾患（変形性関節症、肘離断性骨軟骨炎、上腕骨内・外側上顆炎、関節リウマチなど）である。小児の肘・手の骨折は専門スタッフが治療に介入し、麻酔科協力のもとで可能な限り早期の治療対応を心がけている。また、他院では治療困難な難治例や複数回手術症例なども積極的に受け入れている。特に肘関節鏡手術に関しては、当院は日本でも有数の症例数を誇る。高いスキルと充実した設備を基に、上肢の良好な機能回復を目指し、満足度が高い医療を目標にしている。

**◆実績**

2024年度手術件数

手外科・外傷センター：534件

(骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術など)

**◆スタッフ（◎部長）**

◎中田 活也、◎西川 昌孝、岡本 恭典、中矢 亮太

**◆概要**

2015年4月に当人工関節センターが開設されました。手術室にはクリーンルームが4室設置され、よりスムーズに患者様を受け入れられる体制を構築しています。近隣医療機関との連携にも注力しており、変性関節疾患のみならず大腿骨頸部骨折や人工関節周囲骨折などの救急患者様も積極的に受け入れております。ご紹介いただいた患者様によりご満足していただけるために、迅速かつ安全で精度の高い治療を施せるよう対応させていただいております。

当センターでは早期社会復帰と動作制限のない人工関節置換術を目指しており、多くの新技術（MIS、3次元手術計画、手術ナビゲーション、3Dプリンター技術、症例個別的大骨モデル）を取り入れています。これらの新技術を駆使し、計画・作成・手術まで当センター内で実施できる自己完結型の本格的な人工関節センターです。

**◆実績（2024年度）：計551件**

人工股関節置換術：270件（うち再置換術：12件）

人工膝関節置換術：191件（うち単顆置換術：14件、再置換術：2件）

大腿骨頸部骨折：23件

大腿骨転子部骨折：25件

その他：12件

## 診療部門 形成外科

### ◆スタッフ (◎部長)

◎波多 祐紀、北原 和子、三浦 弘暉

### ◆概要

形成外科領域専門医資格・皮膚腫瘍外科専門医資格を含む人員で高度な医療を提供しています。

また、診療科としては以下の認定を得ています。

- ・形成外科学会認定施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施認定施設
- ・乳房再建用エキスパンダー及びインプラント実施認定施設

### ◆実績

2024年（令和6年）の臨床活動の概要は下表の通りです。

これまでの腫瘍・創傷・先天異常といった伝統的な領域に加え、近年は特に下肢静脈瘤・眼瞼下垂・眼瞼内反などの加齢性変性疾患の治療に力を入れています。この影響で昨年に比べて局所麻酔手術が30%近く増加していますが、これらの変性疾患が治療可能であるということ自体が多くの方にまだ知られていません。今後も積極的に情報の発信と紹介の受け入れを進める予定です。

#### 「年間の麻醉別及び疾患大分類別手術手技数」

集計期間 2024年1月1日～2024年12月31日

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	76		76
腰麻・伝達麻酔での手技数	8	7	15
局所麻酔・その他での手技数	129	337	466
入院または全身麻酔の手技数計：213			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：344			

#### 疾患の内訳

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	13		9			61	83
先天異常	1		4			2	7
腫瘍	39		52		2	225	318
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1					17	18
難治性潰瘍	11	1	7			3	22
炎症・変性疾患	11	7	10		5	27	60
美容(手術)							
その他			47				47
Extra レーザー治療							

## ◆スタッフ（◎部長）

◎寺川 晴彦、前田 香：（作業療法士長）水田 裕文、他理学療法士27名、作業療法士4名、言語聴覚士2名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、事務員2名

## ◆概要

リハビリテーション科専任医師2名〔専門医2名（内、指導医1名）〕、理学療法士27名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、クラーク2名。

セラピスト：心臓リハビリテーション指導士7名、3学会合同呼吸療法認定士12名、がんのリハビリテーション研修修了32名、サルコペニア・フレイル指導士2名、日本理学療法士協会認定理学療法士14名（循環4名、運動器5名、脳卒中2名、呼吸3名）、日本作業療法士協会認定作業療法士1名。

## ◆実績

## ■ リハビリテーション科／室

## ①新規オーダー件数（件） PT、OT、ST合計

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	356	353	314	398	364	318	354	346	369	418	344	358	4292

## ②疾患別件数（件） PT、OT、ST合計

疾患別	運動器リハ	脳血管リハ	がんリハ	心大血管リハ	呼吸器リハ	廃用症候群リハ	合計
件数	1810	1264	503	447	144	970	5138

## ③実施単位数（単位）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
PT	9694	10074	9644	10097	9752	9100	10032	9465	9528	8660	8688	9578	114312
OT	1522	1488	1494	1509	1463	1338	1396	1285	1456	11369	1298	1235	16853
ST	282	431	426	498	455	473	474	458	484	469	487	450	5387

## ④心リハ外来（単位）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単位	304	310	434	335	335	324	358	392	436	425	439	450	4542

## ⑤がんリハ（単位数・対象実人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単位	798	571	706	839	955	912	931	846	603	518	553	620	8852
実人数	54	51	55	62	63	67	68	58	54	52	55	52	691

## ⑥リハ処方された退院時リハビリテーション指導料（件数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	385	416	359	400	390	374	358	362	389	342	360	357	4492

## ■ 義肢装具室

院内依頼総件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	139	135	128	139	160	138	158	149	141	144	141	154	1726

## ■ 健康運動指導士

運動指導等（延べ総件数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	50	59	47	64	51	69	63	60	65	41	54	26	649

**◆スタッフ (◎部長)**

(院長) 西田 俊朗、◎森本 修邦、◎井出 義人、◎出村 公一、山中 千尋、野中 亮児、村上 剛平、岡 啓史、山川 拓真

**◆概要**

当科は上部消化管、下部消化管、肝胆脾の3グループからなり、それぞれ2名のスタッフが担当し、その他医員として4月から岡啓史（平成30年卒）、当院で初期研修を終えた専攻医1年目の山川拓真（令和3年卒）、専攻医3年目として中本蓮之介（平成31年卒）が7月まで在籍した。2023年の消化器外科の手術件数は609件、そのうち全身麻酔症例は560件であった。大阪府がん診療拠点病院として、手術だけでなく、化学療法、放射線治療、緩和ケアまで消化器癌のあらゆる段階での治療を行っている。また他院からの緊急手術依頼や救急外来に搬送された急性腹症も積極的に受け入れ、夜間休日はオンコール体制で対応し、消化管穿孔53例、腸閉塞4例、急性胆嚢炎33例、急性虫垂炎53例など多くの緊急手術を施行した。当科の特徴として内視鏡手術の占める割合が多く、2023年は507件で全身麻酔手術の91%を占めた。12月にはダビンチXiを導入し、待望のロボット手術も開始した。

また大阪大学消化器外科の関連施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

**◆実績**

## &lt;上部消化管&gt;

食道癌、胃癌、胃・十二指腸粘膜下腫瘍（GIST）、胃・十二指腸潰瘍穿孔、高度肥満症が主な治療の対象であり、2024年度は担当部長；出村公一、医長；村上剛平の2名が担当している。

胃癌はHP感染率の減少、内視鏡治療の適応拡大により、手術症例が全国的に減少しているが、2024年度は前年度より増加し45例の胃癌切除を行った。当院では昨年導入された最新型手術支援ロボット「ダビンチXi」をほぼ全例に用いて手術を行っている。また、新たな適応追加となった免疫チェックポイント阻害薬を含めた化学療法を組み合わせた集学的治療も行い、質の高い医療を提供している。

食道癌治療は、大阪大学消化器外科と連携しながら診療を行っている。2024年度は4例の食道切除術を行った。手術適応とならない高度進行癌も多く、免疫チェックポイント阻害剤を含めた化学療法、化学放射線療法を行っている。

GISTを含む粘膜下腫瘍は西田院長就任以降増加傾向であり、昨年度は12例の粘膜下腫瘍切除術を行った。他院からのセカンドオピニオンも多く、他院では治療困難な巨大腫瘍も経験した。消化器内科と合同して行うLECSも積極的に行っており、難易度の高い十二指腸腫瘍に対するD-LECSも施行している。

高度肥満症は新たにGLP-1RA、GLP-1/GIPRAが保険適応となり、社会的関心、ニーズも増加してきている。当院では糖尿病内科、管理栄養士、精神科を含めた14の職種を含む「減量・代謝改善手術チーム」にて定期的なカンファレンスを行いながら治療方針、減量代謝改善手術の適応を検討し、2024年度は2例にスリーブ状胃切除術を施行した。広報の成果にて紹介患者様が増加しており、本年度の手術数の増加が見込まれる。

## &lt;下部消化管&gt;

下部消化管外科は2019年度より担当部長；井出義人、2022年度より医長；野中亮児の2名が担当している。大腸がん（結腸がん、直腸がん）を中心に、良性腫瘍、虫垂炎、大腸憩室症（憩室炎、憩室出血、憩室穿孔）や腸閉塞（イレウス）に対する外科的治療を行っている。特に、大腸がんに対する低侵襲手術、直腸がんに対する肛門温存手術、局所進行直腸がんに対する集学的治療を専門としている。また、痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍といった肛門疾患の手術も行っている。

2023年12月より手術支援ロボット ダビンチXiが導入され、当院でもロボット支援手術が始まっている。

ロボット支援手術は、従来の腹腔鏡手術よりもさらなる低侵襲が期待される手術と考えており、できる限り多くの患者様に適応できるよう心がけている。ダビンチ手術は十分な訓練を経て、認定を受けた医師のみが行うことができ、手術に携わるスタッフも訓練を積み、徹底した安全管理のもとに施行している。

近年、大腸がんは増加しているが、当院での手術件数も増加傾向にある。当院では患者さん一人一人の状態にあわせて治療方針を決定しているが、とくに、体にかかる負担を少なくし、質の高い手術が可能となる低侵襲手術を積極的に取り入れている。また、肛門に近い直腸がんにも出来る限り肛門を温存できるよう、「究極の肛門温存手術」と言われる括約筋間直腸切除術（ISR）も積極的に導入している。進行度に応じて、術前化学（放射線）療法など集学的治療を用いて、出来る限り肛門を温存できるようにしている。

切除不能進行再発大腸癌に対しても、それぞれの患者様の病態、状況に応じた全身化学療法レジメン選択を行い、QOLを保った化学療法の実践を心掛けている。井出は日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医であるため、より先進的な化学療法の実践、周囲医療機関への化学療法の啓蒙等も行い、地域の医療レベルの向上に寄与できるよう、心がけている。

お一人お一人の患者さんにあった、安全で質の高い医療を提供することを第一に、地域の皆様の力になれるよう、全力を尽くしていきたいと考えている。

#### 2024年診療実績

下部消化管（小腸・大腸・肛門）手術 222例

うち結腸癌手術 50例

直腸癌手術 63例

腸閉塞手術 11例

肛門手術 8例

#### <肝胆膵外科>

肝胆膵外科では、肝胆膵領域がん（肝臓癌、膵臓癌、胆道癌、十二指腸癌）、膵神経内分泌腫瘍（NET）、膵囊胞性腫瘍などの腫瘍性病変と、胆囊炎、胆石症、巨大肝嚢胞などの良性疾患が主な治療対象であり、診療部長：森本修邦、医長：山中千尋の2名が担当している。消化器内科、放射線診断科と週1回合同カンファレンスを行い、診断および治療方針の決定を行なっている。多発する肝臓癌の場合、肝切除と焼灼術を組み合わせた治療や、膵臓癌に対する術前化学療法後の根治膵切除など、癌の進行度と患者の耐術能を総合的に評価した上で、手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療によって治療成績の向上に努めている。また、急性胆囊炎に対しては緊急での腹腔鏡下胆囊摘出術を第一選択として、患者の全身状態に合わせて治療方針を決定する。2024年度の手術実績は、手術件数196例：胆囊摘出術154例（うち急性胆囊炎53例）、肝切除20例（肝細胞癌：9例、肝内胆管癌：2例、転移性肝癌：8例、胆囊癌：1例）、術式：葉切除1例、区域・亜区域切除9例、部分切除10例、また焼灼術を2例に施行した。膵切除10例（膵癌：3例、IPMN：2例、胆道癌：3例、十二指腸癌：1例）、術式：膵頭十二指腸切除9例、膵体尾部切除1例。進行癌に対する拡大手術だけでなく、低侵襲手術にも積極的に取り組み肝切除と膵体尾部切除術では、腹腔鏡下手術を第一選択としている。2025年度には肝切除や膵体尾部切除にロボット支援下手術を導入予定である。

#### <一般外科、その他>

ヘルニア手術を91例（うち腹腔鏡手術80例）、婦人科を中心に他科応援手術を3件行った。

#### <学術活動>

2024年度の業績は共著も含めて論文が英文11編、和文1編、学会発表が18件であった。

## ◆スタッフ (◎部長) \_\_\_\_\_

◎高濱 誠、坂本 鉄基

## ◆概要

呼吸器センター外科部門として、呼吸器（肺・縦隔）領域の外科疾患に対して手術治療を中心に診療を行っている。中でも肺癌の治療を専門としており、肺癌の切除成績向上を目指したEvidence Based Medicine (EBM) を実践するためのEvidenceを創り上げることが目標としている。

早期肺癌に対しては、原則的に完全胸腔鏡下もしくは胸腔鏡補助下により侵襲の少ない手術を行っており、術後のQOL改善や早期社会復帰に努めている。2025年3月からロボット支援下による肺癌手術も開始した。また局所進行肺癌に対しては、呼吸器内科および放射線治療科と共同で集学的治療を実践し、手術成績の向上を目指している。総合病院の特性と強みを生かして心臓血管外科、消化器外科、整形外科、耳鼻咽喉科など他科との連携下に他病院では手術困難とされる方でも積極的に各種拡大手術療法を行っている。本年度より硬性気管支鏡を導入し、気管ステント留置術、気管・気管支拡張術も行っている。なお昨年度より手術数は約200%増加した。

大阪大学呼吸器外科診療連携施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

## ◆実績

手術実績（2024年度）128件

原発性肺腫瘍 62件

良性肺腫瘍 2件

転移性肺腫瘍 6件

縦隔腫瘍 8件

気胸 27件

膿胸 12件

気管・気管支狭窄 8件

その他の呼吸器手術 3件

## ◆スタッフ（◎部長）

◎塚本 文音、大谷 陽子、武田 恵美

## ◆概要

スタッフの体制は部長1名、医長1名、専攻医1名。診療内容は乳腺疾患の診断、手術、薬物療法。終末期医療にも対応。がん救急においても、内科、循環器科、整形外科、脳神経外科等との連携により迅速な対応が可能。Weekdayは、すべての曜日で当科医師による初診と再診の外来を行っています。また、初診は予約枠を設けていますが、他医療機関からの紹介がない場合も受け入れています。

早期乳がんに対する新たな治療法であるラジオ波焼灼術が可能な施設として、2024年7月に日本乳癌学会により認定されています。

乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施施設認定であり、乳癌の手術と同時に人工物あるいは自家組織による一期的乳房再建が可能です。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）に対する取り組み：遺伝性乳がんが疑われる方には、遺伝相談外来における遺伝カウンセリングの場を設けています。HBOCと診断され、かつ既に乳がんあるいは卵巣がんと診断された方では2020年4月より、がんがまだ発症していない部位の予防的切除が保険診療となりました（リスク低減乳房切除術、リスク低減卵管卵巣摘出術）。当科でもリスク低減乳房切除術に対応しています。

## ◆実績

乳癌手術	111例
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	2例
リスク低減乳房切除術	2例
乳腺良性腫瘍に対する手術	14例
甲状腺癌に対する手術	1例
甲状腺良性病変に対する手術	1例
その他	11例

## ◆スタッフ（◎部長）

市川 肇（院長補佐）、◎北林 克清、◎政田 健太、勝谷 礼子、折橋 寛典

## ◆概要

JCHO大阪病院心臓血管外科では、2015年の新病院移転時に開設されたハイブリッド手術室の機能を活かし、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術などの低侵襲手術を積極的に行って来ました。ハートチームとして循環器内科との連携強化を継続し、大動脈弁狭窄に対する経カテーテル的大動脈弁置換術も周辺の病院に先駆けて行っております。その他、弁膜症に対する胸骨を切らない右小開胸心臓手術（MICS）や心房細動に対する左小開胸左心耳閉鎖術なども積極的に取り入れ、今後、患者数の増加が予想される成人先天性疾患についても外来も開設しております。

周りの方々のご助力により、開心術症例数が年々増加傾向で、2024年は心臓血管外科専門医の修練基幹施設（過去3年間で300例以上の心臓大血管手術）の認定を得ることが出来ました。

今後も多様な循環器疾患に対応して、それぞれの患者様に最適な治療を行えるよう、また安定した手術成績を残せるよう引き続き努力を続けていきたいと考えております。

## ◆実績

2024年（1月1日～12月31日）手術総数 139例

開心術数 95例（冠動脈 20例、弁膜症 49例、胸部大動脈 24例、その他 2例、重複なし）



## ◆スタッフ (◎部長)

◎榎 孝之、◎山際 啓典、吳村 有紀、一瀬 綾花

## ◆概要

当科は昭和43年5月に開設された伝統のある診療科です。開設以来、市内はもとより、近隣市より紹介していただき、診療に携わってきました。通常の脳神経外科診療以外に、脳疾患救急・脳卒中センター・脳ドッグを担当しています。脳卒中センターは、PSCコア（1次脳卒中センターコア）に認定され、24時間365日体制で、脳神経内科と協力して運営しています。脳卒中専任医師が、直接つながる脳卒中Hot callを常時携帯し、要請に対応しています。

手術は、従来の開頭手術だけでなく、神経内視鏡手術、定位放射線治療、血管内治療（カテーテルによる治療）など、最新の低侵襲な治療にも積極的に取り組んでいます。血管内治療では、脳動脈瘤に対するフローダイバーター(FD)ステント留置術、コイル塞栓術、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する塞栓術、内頸動脈狭窄に対するステント留置術など 多岐にわたる疾患に対応しています。超急性期脳梗塞に対しては、迅速に診断し、適応があれば、rt-PA 静注療法や、機械的血栓回収療法を施行しています。

脳腫瘍においては、良性腫瘍、悪性腫瘍に対応し、手術、化学療法、放射線治療などの集学的治療を行っています。手術は、顕微鏡下に、ナビゲーションシステムや、神経モニターを用いた精度の高い治療を心がけています。髄膜腫などの多血性脳腫瘍に対しては、ハイブリッド手術（カテーテルによる栄養血管塞栓術と開頭摘出術）を行っています。悪性神経膠腫をはじめとした悪性脳腫瘍に対しては、形態的な病理 診断学に加えて、遺伝子解析、分子診断を行っています。当院では、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク、「グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテラーメード治療法の作成に関する臨床治験」に参加し、その結果を参考に、的確な診療を行っています。さらに新しい治療として、交流電場を用いた電場療法を導入しています。

## ◆実績

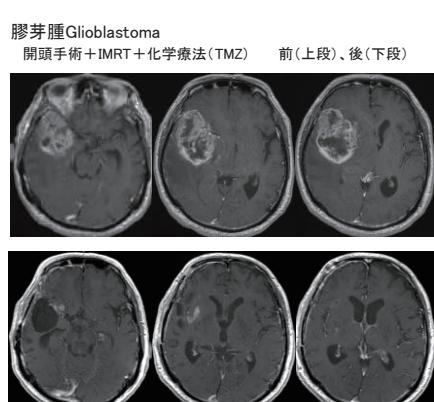
手術件数 (2024/1/1～2024/12/31)

**総 数：170件****直達手術：118件**

脳腫瘍 18件、脳出血 9件、脳動脈瘤（クリッピング術）7件、水頭症 7件、慢性硬膜下血腫 46件、その他 31件

**血管内治療：52件**

動脈瘤（コイル塞栓術）9件、頸動脈ステント留置術 12例、機械的血栓回収療法 25例、AVM/dAVF 1件、その他 5件



## ◆スタッフ (◎部長)

(統括診療部長) ◎馬屋原 豊、桂 央士、上野 圭祐、外川 有里、中嶋 玲那  
レジデント：森田 香菜子、橋本 紘宜、足立 奏美

## ◆概要

糖尿病内分泌内科は令和3年4月に内科から独立しました。それとともに診療部長と筆頭の医長が入れ替わり、人心を一新しました。地域の先生方から信頼される糖尿病専門施設としての陣容を整えるための施策を行っています。また、内分泌疾患の検査入院なども積極的に受け入れています。2022年度より消化器外科とともに糖尿病肥満外科手術を開始し、2023年度には5例の施設要件を満たしました。2024年度より病棟が11階東病棟より11階西病棟に移動しました。1型糖尿病に対するインスリンポンプ療法で、ミニメド780GによるAID (Automated Insulin Delivery) を導入しました。

ガイドラインに準拠した標準的糖尿病治療

- ・大きく変化する2型糖尿病治療における欧米系ガイドラインを鑑みた治療の標準化への取り組み
- 1型糖尿病をきちんと管理できる体制作り

- ・カーボカウント、CSII (インスリンポンプ療法)、AID (Automated Insulin Delivery) など1型糖尿病先進治療への積極的な取り組み
- ・1型糖尿病患者さんへのリアルタイムCGM導入、インスリン治療患者さんへのisCGM (リブレ2) の積極的な導入と看護外来での指導によるコントロールの改善

チーム医療の推進

- ・多職種からなる糖尿病ケアチーム活動の活性化
- ・糖尿病透析予防外来の枠拡大
- ・外来糖尿病教室の継続、世界糖尿病デーイベント
- ・11階西病棟における多職種カンファレンス

糖尿病地域連携

- ・糖尿病連携手帳を用いた、糖尿病地域連携パスの導入
- ・地域の先生方などを対象とした講演活動

糖尿病肥満外科手術

- ・2022年度から消化器外科にて肥満外科手術開始。当科はチームの一員としてサポートしています。

糖尿病患者データベース

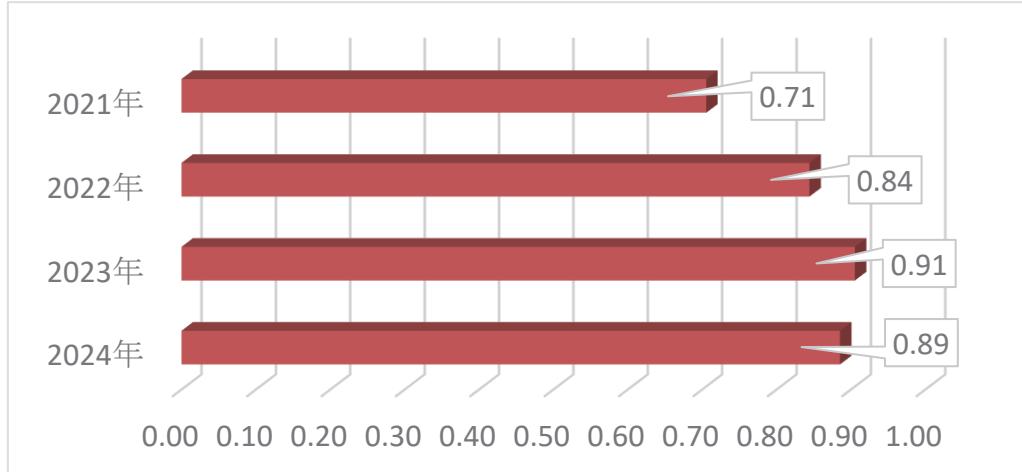
- ・簡易な糖尿病患者データベース作成による、全体的な患者さんの把握

甲状腺・内分泌疾患の精査加療

## ◆実績

- ・外来患者数 14,197人/年
- ・入院患者数 469人/年
- ・糖尿病内分泌内科QI (Quality Indicator)

外来糖尿病患者（透析中の患者は除く）のうち、尿中微量アルブミンを測定して腎症病期分類をおこなっている患者の割合



## ◆スタッフ (◎部長)

◎鈴木 朗、青木 克憲、岩橋 恵理子、山口 慧、谷口 裕郁、山下 千賀子、浅野 良寛

## ◆概要

検尿異常、ネフローゼ症候群、あるいは急激な腎機能低下で発見される腎疾患について、腎生検にて診断し治療を行っております。小児期発症の微小変化型ネフローゼ症候群に対しては積極的にリツキシマブを使用し、ステロイドを減量し副作用を抑えつつ良好な治療成績をあげております。慢性腎臓病については、透析予防外来を開設し、透析導入回避を目標に、最新の知見に基づいた薬物療法、食事療法を提供しております。末期腎不全に至った症例は、療法選択外来を受けていただき各個人の生活スタイルに合わせた最適な腎代替療法を提案させていただきます。当科外来において維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。内シャント狭窄に対するPTAや、ブラッドアクセス作成困難例に対するパーマネントカテーテル留置も行っております。

## ◆実績

## 1) 外来診療

2024年に診療した外来患者数は10941例でした。（2023年9631例、2022年11271例、2021年9412例、2020年8,834例、2019年8,458例、2018年8,316例）

## 2) 入院診療

2024年度の入院症例は487例でした。（2023年度435例、2022年380例、2021年364例、2020年383例、2019年395例、2018年385例）腎生検数28例でした。（2023年22例、2022年21例、2021年33例、2020年22例、2019年32例、2018年40例）、透析導入数は24例（腹膜透析3例）でした。（2023年28例、2022年51例、2021年47例、2020年37例、2019年39例、2018年39例）腎生検診断の内訳は下記の通りでした。

IgA腎症	7
糖尿病性腎症	2
腎硬化症	3
ループス腎炎	2
ANCA関連血管炎	2
微小変化型ネフローゼ症候群	4
巣状糸球体硬化症	4
間質性腎炎	4
計	28

## 3) 血液浄化センター

当院は血液透析導入を主たる機能とする急性期病院ですが、維持血液透析患者17名、腹膜透析患者 11名も管理されています。また、吸着式潰瘍治療にも積極的に取り組んでいます。2023年の各療法実施件数は以下の通りです。

HD	1858	▲561
online HDF	2694	△934
PE (血漿交換)	13	▲2
DFPP	0	▲6
吸着式潰瘍治療 (レオカーナ)	17	△13
GCAP (顆粒球吸着)	32	△17
ICUにおける血液浄化	42	▲36

## 4) 経皮的内シャント拡張術

2019年に導入され、当初は入院患者に発症した内シャント狭窄を対象に治療介入を行っておりましたが、2021年からは院外からの紹介も受ける体制を整えております。2024年度は51例実施しました。

(2023年41例、2022年26例、2021年29例、2020年18例、2019年2例)

## ◆スタッフ（◎部長）

(センター長) 鴨井 博、◎光岡 茂樹、◎田中 陽子、阪上 和樹、津田 誉至、矢野 朔太郎

## ◆概要

呼吸器内科は気管支と肺にまつわる非常に多岐にわたる病気を担当させていただく診療科です。気管支喘息に代表されるアレルギー疾患、タバコが多くに関連するCOPD（慢性閉塞性肺疾患）などの気道疾患、数ある悪性腫瘍の代表である肺癌、細菌性肺炎、肺結核（外来治療のみ）、昨今ではCOVID-19に代表されるウイルス性肺炎などの感染症、リウマチ・膠原病肺に代表される免疫異常や特発性の間質性肺疾患と極めて広い領域を対象にしています。各呼吸器領域の指導医、専門医が在籍しており、かつ当院は呼吸器内科以外の診療科が非常に充実していますので、その特性を活かし、他科とも密接な連携のもとに迅速な診断と最新治療を提供するよう努めています。

## 対応可能疾患：

肺癌、気管支喘息、COPD、肺炎・胸膜炎、肺結核（塗抹陰性の場合）、非結核性肺抗酸菌症、自然気胸、胸水などの胸膜疾患、特発性、膠原病関連などの間質性肺疾患、在宅酸素導入など。

## 実施可能な検査：

気管支鏡（超音波気管支鏡EBUSを含む）、CTガイド下生検、エコーチャンネル下生検、局所麻酔下胸腔鏡、肺機能検査、呼気NO測定検査、PSG検査。

## ◆実績

主な入院：2024年度合計：838例

肺腫瘍：298例

肺炎（呼吸器内科担当分）：177例

間質性肺炎：49例（薬剤性肺障害、過敏性肺炎、リウマチ肺など含む）

感染症（コロナ等）：58例

COPD：26例

気胸：17例

気管支喘息：15例

抗酸菌症（肺結核+肺非結核性抗酸菌症等）：15例

膿胸：14例

肺サルコイドーシス等：11例

胸腺癌等：6例

主な検査

気管支鏡検査：166件

超音波内視鏡検査：25件

局所麻酔下胸腔鏡：12件

## ◆スタッフ（◎部長）

◎長田 学

## ◆概要

感染症はどの臓器にも発生する疾患なので、臓器に関係なく、横断的に各診療科と連携を取りながら診療している。臨床では各診療科からコンサルテーションを受けて担当医と共に感染症患者の診療に当たっており、血液培養陽性患者のチェック、特定抗菌薬（広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬）の管理も行っている。

また院内感染予防対策委員会の委員長として、ICTメンバーの看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務職員と共に、院内の耐性菌の発生・伝播の抑制、医療関連感染症（院内感染）の抑制、血液曝露対策、入職者の予防接種、院内スタッフに対する感染症に関する教育講演や広報活動を引き続き精力的に行っている。

さらに、2022年度より感染対策向上加算1が設定され、ICTチームとしてこれまで以上に地域の医療機関との連携による教育講演活動や感染対策の助言を求められる機会も増えて来ている。

## ◆実績

2024年度は新型コロナウイルス感染症に対する治療や隔離を全例感染症科コンサルトするのではなく、各診療科・病棟で判断する体制に移行した影響か、感染症コンサルト件数は2023年度に及ばなかったが、新型コロナウイルス流行前と比較するとかなり多い状況が続いている。また、ワクチン・渡航外来が大阪府で3か所目、近畿圏でも4か所目の黄熱ワクチン接種医療機関となり、アフリカや南米を中心とした海外渡航者の利用が大幅に増加傾向となっている。

## 1. 院内コンサルテーション

各診療科の医師から感染症の診断、抗菌薬の選択、培養結果の解釈、治療期間、隔離の是非や隔離解除の判断等について相談を受け、必要に応じ直接患者を診察し、担当医のニーズに沿う形で診療の助言を行う。

2024年度は延べ585件のコンサルテーションを受けて対応した。

## 2. 血液培養陽性例への介入

血液培養が陽性になる患者は重篤な感染症を生じているリスクが高い。血液培養が陽性になったら全例細

菌検査室より連絡を受け、カルテの内容、検査、画像等から問題があると判断した場合は主治医または担当医に連絡して治療方針について協議し、必要があればその後も定期的にフォローしている。

2024年度は619件の陽性例があり、その1/3程度について介入を行った。

### 3. 特定抗菌薬許可制

2002年（平成14年）3月より導入された制度で、広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬のような特殊な耐性菌や真菌に有効な抗菌薬を使用する時は事前に許可が必要である。担当医からの情報で適応の有無を判断し、許可する。その後の臨床経過、培養結果を参考にして、狭域抗菌薬への変更(De-escalation)が可能であれば、ASTチームを通じて担当医と協議する。

2024年度は912件の使用許可の申請があった。

### 4. ワクチン・渡航外来

新型コロナウイルス禍による海外渡航制限が解除された2023年に開設された、厚生労働省検疫所と日本渡航医学会より認定を受けた特殊外来である。成人の免疫不全者や高齢者、海外渡航者、医療従事者などを対象とした予防接種を行ったり、高山病やマラリアの予防薬の処方、海外渡航時や留学時の抗体検査・予防接種証明書、診断書作成などの業務を行っている。

2025年4月からは、大阪府で3か所目、近畿圏でも4か所目の黄熱ワクチン接種医療機関となり、大阪はもちろん、近畿一帯や北陸や中国・四国地方からも利用者が訪れるなど、地域のニーズに合わせた予防医療への貢献に取り組んでいる。

## ◆スタッフ (◎部長)

◎(副院長) 金子 晃、◎巽 信之、◎山本 克己、日山 智史、石見 亜矢、西尾 啓、氣賀澤 齊史、  
徳田 有記、松前 高幸、永濱 彰悟、東原 久美、西浦 由貴、佐藤 大竜、波津 和那

## ◆概要

- 消化器内科領域の専門医・指導医として診療活動と診療指導を行い、外来・病棟・内視鏡センター・超音波検査・手術・処置、周術期管理を含めた診療を安全かつ円滑に行うよう努めている。
- 肝疾患領域では、ウイルス性慢性肝疾患に対する抗ウイルス治療に加えて、脂肪肝や自己免疫性肝疾患などの非ウイルス性肝疾患の診断と治療にも取り組んでいる。最近増加傾向にある脂肪肝については教育入院の取り組みを始め、患者教育にも力を入れている。肝細胞癌に対してはラジオ波治療やマイクロウェーブ治療、肝動脈化学塞栓療法、放射線治療に加えて免疫チェックポイント阻害薬を用いた化学療法も積極的に行い、予後の改善をめざした集学的治療に取り組んでいる。
- 胆膵疾患領域においては、救急患者の受け入れ増加に伴う急性膵炎や胆管炎などの救急疾患が増加しているのに加えて、膵癌や胆道癌の患者数も増加しており、積極的に診断、治療に取り組んでいる。また、膵癌の早期発見に向けた患者やクリニックの医師に対する啓蒙活動の取り組みも行っている。
- 消化管疾患においては、食道癌、胃癌、大腸癌に対する内視鏡治療（ESD）に積極的に取り組んでおり、紹介患者の増加に伴い症例数も増加している。また、潰瘍性大腸炎やクロhn病などの炎症性腸疾患も増加しており、治験も含めた新規薬剤の導入を積極的に進め病状の改善に取り組んでいる。
- 癌の領域においても、肝胆膵と消化管の癌に対して、早期診断と治療に取り組み、積極的に内視鏡や超音波器機を用いた低侵襲の癌治療を推進している。また、進行癌に対しても免疫チェックポイント阻害剤を含めた最新の抗癌剤治療に積極的に取り組み予後の改善をめざしている。さらに、緩和医療も含めた終末期医療についても緩和ケアチームと協同して診療を行っている。消化管・肝・胆膵のカンファレンスを定期開催し、消化器内科・消化器外科・放射線診断科・病理科等が協力し適切な治療計画の立案と実行、さらに治療後の評価を行っている。
- 病診・病病連携を深めるため、積極的に院内外で講演活動を行い、新規患者の紹介数の増加に取り組んでいる。
- 地域連携を推進するために地域医師会や医療機関と協力して消化器疾患の研究会を開催し、当院からの情報発信に取り組んでいる。
- 患者教育や啓発のために地域医師会や医療機関と連携して毎年市民公開講座を行っている。
- 若手の医師の教育に力を注ぎ、消化器内科医として必要な知識と技術の習得が行えるよう指導を行っている。また、看護師を含めたコメディカルと協働して円滑なチーム医療が行えるよう指導を行っている。臨床研究にも積極的に取り組めるよう教育を行っている。
- 消化器内科として診療の質の向上に努め、病院運営にも貢献できるよう努めている。適切な教育・指導により人材の確保と育成を行い、さらに、大阪大学と協同して人材の育成や臨床研究の推進に努めている。

## ◆実績

上部内視鏡検査 5341件

下部内視鏡検査 2530件

ERCP 276件

超音波内視鏡 222件

腹部超音波検査 3148件

大腸ポリープ切除術 882件

消化管ESD 244件

内視鏡的止血術 106件

肝癌焼灼術 46件

**◆スタッフ (◎部長)**

◎小笠原 延行、◎三好 美和、佐伯 一、中川 雅美、有田 陽、倉岡 紗野、藏本 見帆、福井 智大、山本 将平、廣瀬 江祐、小畠 理沙子

**◆概要**

冠動脈疾患・末梢動脈疾患・心不全・弁膜症・心筋疾患・不整脈・成人先天性心疾患・静脈血栓塞栓症・睡眠時無呼吸症候群など、各種循環器疾患の診断・治療を行っている。心臓カテーテル検査・心臓超音波検査・心臓核医学検査・冠動脈 CT・心臓 MRI など循環器系の専門検査が可能であり、幅広い領域での臨床・研究を行っている。心不全に関する患者教育・指導に力を入れており、心不全教室による患者教育、病診連携による治療管理体制を進め、心臓リハビリテーションとして、入院から外来への患者指導、運動療法を行っている。

虚血性心疾患の治療に関しては、急性心筋梗塞（急性冠症候群）に対して、24時間体制で、冠動脈再灌流治療を行っている。慢性冠動脈疾患に関しては、運動負荷試験、心筋シンチ、FFRアンギオなどを用いて、虚血の評価を行い、症例ごとに最適な治療を行っている。

不整脈に関してはパルスアブレーションによる心房細動を中心とした各種不整脈に対する治療を積極的に行っており、予後に対する成績評価・有効性を検討している。

徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療ではこのところリードレスペースメーカーの症例が増加しているまた致死性不整脈に対する植込み型除細動器治療や心不全に対する心臓再同期療法も適応を検討しながら行っている。

透析患者や糖尿病患者も多く、重症下肢動脈虚血の症例に対して、皮膚科・形成外科・心臓血管外科・糖尿病内科・腎臓内科で協力して、フットケアチームとして治療にあたっている。

静脈血栓塞栓症は、外科手術や悪性疾患と密接に関係しているため、迅速な診断・治療を心掛けている。抗凝固療法の困難な症例には、肺塞栓予防のため、下大静脈フィルター留置も可能である。

睡眠時無呼吸患者についてはポリソノグラフィーによる検査入院にて、治療の適応を決めている。

心臓血管外科との連携も密接にとっており、冠動脈バイパスや弁膜症の手術も迅速に対応してもらっている。急性大動脈解離に関しては迅速に心臓血管外科にて手術・ステント治療を行っていただいている。

2019年度より経皮的大動脈弁留置術（TAVI）を開始して確実に症例数を増やしている。

特に救急医療には積極的に対応しており、ホットラインも駆使し、24時間体制で、救急隊や地域医療施設からの救急患者を受け入れている。

**◆実績**

冠動脈インターベンション：177件

末梢動脈疾患インターベンション：56件 心臓核医学検査：533件

カテーテルアブレーション：202件 冠動脈 CT：616件

新規ペースメーカー植込み：46件 ICD植込 3件 心臓 MRI：31件

経胸壁心臓超音波検査：6341件 TAVI：21件



◆スタッフ (◎部長) —————

◎竹原 友貴、今中 洋子、川部 僚子、春木 優介

◆概要

地域医療支援病院として近隣医療機関からご紹介いただいた皮膚疾患全般を中心に診療しています。乾癬診療では、日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設です。

難治性の慢性尋麻疹やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹に対する新規治療薬による治療も行っています。

糖尿病性足潰瘍をはじめとする難治性皮膚潰瘍では、原因・病態に即した治療を行い、必要時にはフットケアチームとしてチーム医療を行っています。

陷入爪・巻き爪では爪を極力温存する方針で治療しています(一部自費診療)。

そのほか、局所免疫療法(SADBE)、パッチテスト(パッチテストパネルS、金属アレルゲン、持参品)に対応しています。外陰部に好発する搔痒性皮疹である硬化性萎縮性苔癬の診断も積極的に行ってています。

◆施設認定

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

乾癬生物学的製剤使用承認施設

静脈圧迫処置

◆実績

(令和6年4月～令和7年3月31日)

総外来患者数…7,962

1日平均外来数…32.6

1日平均入院患者数…5.2

総新患者数…627

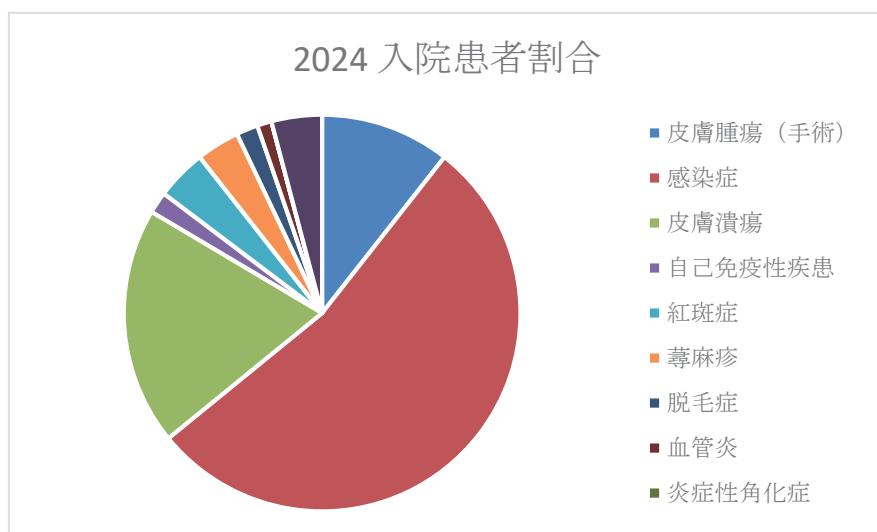
入院手術数…49

外来手術数…94

皮膚生検数…220

論文・著書：英分1編 和文2編

学会・研究会発表:；2演題



## 診療部門 泌尿器科

### ◆スタッフ (◎部長)

◎福原 慎一郎、金城 孝則、伊藤 卓也

### ◆概要

2024年度は常勤医3名の構成で2023年度と同様の人員ですが、2023年度末に藤本部長が定年退職、2024年4月には金城が着任、2024年末に松岡が済生会千里病院部長として転任するにあたり、2024年7月に福原が当院泌尿器科部長として着任し、人員が大きく入れ替わった1年がありました。

昨年度、2024年1月に当院にロボット支援手術機器（ダヴィンチ）が導入され、当科でも2024年3月に前立腺癌に対して、ロボット支援下根治的前立腺全摘除術を開始いたしました。2024年度は、前立腺癌だけでなく、腎癌に対するロボット支援下腎部分切除術、ロボット支援下根治的腎摘除術、腎盂尿管癌に対するロボット支援下根治的腎尿管全摘術、膀胱癌に対するロボット支援下膀胱全摘除術を開始し、ロボット支援手術がもはや標準術式となりつつある泌尿器科において、当院でも先進的かつ標準的な手術を提供できる体制を整備いたしました。

2022年4月に生殖医療の一部保険診療化が開始され、当科にも生殖医療専門医（松岡）が着任し、男性不妊症に対する生殖医療手術（顕微鏡下精索静脈低位結紮術、顕微鏡下精巣内精子採取術）も開始いたしましたが、福原も生殖医療専門医であり、福原の着任後も引き続き男性生殖外科としての顕微鏡手術を行っております。

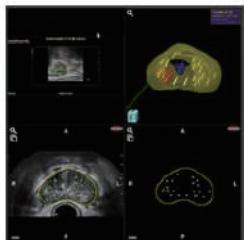
ロボット手術だけでなく、前立腺肥大症に対する低侵襲手術の一つである経尿道的前立腺水蒸気治療（WAVE）を2024年11月に導入、前立腺癌の検出において、より正確な診断が行えるMRI融合前立腺生検も2025年に導入いたしました。

2024年度は手術件数の増加とともに、手術数が大幅に増加いたしました。対応術式の拡大により、さらに増加傾向が続いております。

### ◆実績

泌尿器科年間手術件数 266件 うちロボット手術件数 44件

#### MRI超音波融合前立腺生検システム



#### 前立腺水蒸気治療 (WAVE)



**◆スタッフ (◎部長)**

◎筒井 建紀、◎井上 貴史、◎大八木 知史、清原 裕美子、繁田 直哉、田中 稔恵、一宮 汐里、久原 ゆい、是常 有香、立山 明日香

**◆概要**

10名のスタッフで、外来診療、入院診療、分娩、手術を実施しています。

**◆実績**

令和6年度は、分娩数 475件(うち帝王切開術 108件、吸引分娩 41件、鉗子分娩 7件、双胎分娩6件、無痛分娩73件)、婦人科手術数 299件(うち悪性腫瘍手術 31件、腹腔鏡下手術120件、子宮鏡下手術73件、ロボット支援下手術4件)を取り扱いました。

産科診療では、なるべく医療介入の少ない自然なお産を基本的な姿勢としています。医学的適応があれば、分娩誘発や吸引・鉗子分娩、帝王切開術などを適切に行ってています。妊娠34週以降の分娩症例を取り扱いますので、妊娠34週未満の早産症例については、近隣の分娩施設をご紹介します。分娩時鎮痛をご希望される妊婦さんには、麻酔科・小児科と共に、安全で質の高い和痛分娩を提供できる体制を整えています。さらに、出生前カウンセリングやNIPTなどの出生前検査を実施しています。

婦人科診療では、良性腫瘍、悪性腫瘍、骨盤性器脱、性器形態異常などに対し、開腹手術・内視鏡下手術(腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術・子宮鏡下手術)・腔式手術などの手術療法を行っています。また、新たに導入された医療機器を用いた治療として、子宮頸部異形成に対するレーザー治療や、子宮内膜ポリープに対する子宮鏡シェーバーによる治療があり、入院期間の短縮が可能となりました。また、月経異常・更年期障害など卵巣の機能に関わる女性特有の疾患に対して、ホルモン治療・漢方薬治療を用いた薬物療法など、患者さんの症状に応じて適切な治療をご提案します。また排卵誘発剤を用いた一般不妊治療や子宮卵管造影検査(HSG)などの不妊検査・治療も実施しています。

現在、多くの医療情報はインターネットなどでも得ることができます。しかし、エビデンスに基づく医療として紹介されている情報であっても、それぞれの患者さんにとって必ずしも最適な治療とは限りません。同じ疾患でも、患者さんの年齢や医学的な見地から、最適な治療法は異なることはしばしばあります。また、専門の医師の間ですら治療方針などが異なることは、よく起こることです。これが医療の難しいところです。

私たちは患者さんと向き合い、十分にコミュニケーションをとりながら、必要な治療は何なのか、何が適切な治療なのかを常に考え、最適な治療法を提供できるよう、また新しい病態を含めたあらゆる産婦人科疾患に対応できるよう、日々努力と研鑽を惜しまず診療に取り組んでいます。是非、ご相談にお越しください。専門のスタッフがお待ちしております。

なお、当院は、

- ・日本産科婦人科学会 専門医制度専攻医指導施設
- ・日本周産期・新生児医学会 周産期専門医(母体・胎児)暫定認定施設(補完認定施設)
- ・日本生殖医学会 生殖医療専門医制度認定研修施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
- ・日本女性医学学会 専門医制度認定研修施設
- ・NIPT実施認証医療機関 (基幹施設)

など、多くの産婦人科関連学会の研修施設に認定されています。

## 診療部門 眼科

### ◆スタッフ (◎部長) —————

◎大黒 伸行、◎眞下 永、春田 真実、梅村 享平、部坂 優子、濱野 結貴：視能訓練士 6名

### ◆概要

常勤医師6名（専門医6名）、非常勤医師3名（全て専門医）で診療を行っており、眼科診療の各分野において専門とする医師を配置しております。特に、眼炎症、緑内障、網膜硝子体を得意分野としております。斜視弱視の専門外来は火曜日午後のみとなり、また手術には対応できなくなっております。白内障手術では日帰り手術・入院手術いずれにも患者様のご要望にお応えできるようになっております。

2024年度は網膜硝子体手術を専門とする常勤医が不在であったため、網膜剥離や眼内炎など緊急手術の必要な症例には対応できませんでしたが、今年度は新たに常勤医師（杉澤医師）が加わり対応可能となっております。対象症例がございましたらご紹介ください。

また、新型肺炎流行に伴い中断していました眼圧日内変動検査も再開しております。金曜日に入院していただき、土曜日の朝までの24時間に計8回（約3時間毎）眼圧測定を行います。眼圧は正常なのに視野が進行するような症例では夜間眼圧が上昇していることがあると言われております。そのような症例に適した検査となっておりますので、ぜひご活用ください。現在のところは第2金曜日に3名の枠を設けております。

### ◆実績

令和6年4月から令和7年3月において、白内障手術681件、網膜硝子体手術67件、緑内障手術108件、を行っております。ベーチェット病に対するレミケード治療を受けている方は43名、難治性ぶどう膜炎に対するヒュミラ治療83名、眼内悪性リンパ腫の治療・経過観察を受けている方は60名と難治性ぶどう膜炎に対する治療を積極的に行っております。

## ◆スタッフ (◎部長)

◎前田 陽平、芦田 直毅、永田 明弘、真栄田 圭

## ◆概要

耳鼻いんこう科は耳・鼻・のど・頸部（くび）など幅広い領域をカバーしています。

特に2022年4月に前田が部長で赴任後は前田の専門分野である鼻副鼻腔疾患、特に経鼻内視鏡手術に入っています。また、入院期間も短縮し、短期滞在手術が可能となりました。

慢性副鼻腔炎や鼻腔腫瘍、副鼻腔腫瘍、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症などで手術加療を考慮されている方の紹介が非常に増えています。

もちろん基幹病院の耳鼻咽喉科として耳・のど・頸部など下記のような疾患にも幅広く対応して参ります。頭頸部扁平上皮癌については癌専門施設に紹介する場合がありますが、お気軽にご相談ください。

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設

日本アレルギー学会認定研修施設

日本鼻科学会鼻科手術研修認定施設

## ◆診療内容

慢性副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎を含む）、鼻副鼻腔腫瘍	内視鏡下鼻副鼻腔手術など
鼻中隔湾曲症（前方湾曲を含む）	鼻中隔矯正術など
アレルギー性鼻炎・肥厚性鼻炎	粘膜下下鼻甲介骨切除術・後鼻神経切断術など
頭蓋底腫瘍	頭蓋底手術
慢性涙嚢炎	涙嚢鼻腔吻合術
嗅覚障害	原因に応じた投薬・手術など
慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎	鼓膜形成術・鼓室形成術
甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍	甲状腺腫瘍摘出術・唾液腺腫瘍摘出術
声帯腫瘍	顕微鏡下喉頭微細手術など
慢性扁桃炎・アデノイド増殖症	口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術
頸部膿瘍	切開排膿術など
顔面神経麻痺・突発性難聴	ステロイドを中心とした治療

## ◆実績

## 手術件数（2023年度）

内視鏡下鼻副鼻腔手術	411
下鼻甲介手術	561
鼻中隔矯正術Ⅰ型	264
鼻中隔矯正術Ⅲ型（前彎）	23
鼻中隔矯正術Ⅳ型（外鼻）	6
口蓋扁桃摘出術	95

甲状腺・副甲状腺手術（バセドウ含む）	22
耳下腺・頸下腺手術	9
気管切開術	6
鼓膜形成術・鼓膜チューブ留置術	27
その他	68
合 計	1492

## ◆スタッフ（◎部長）

◎柏木 博子、◎石浦 嘉人、◎松下 浩子、原田 大輔、五味 久仁子、西村 美杉、近藤 可愛、上山 薫、  
井上 泰輔、阪本 夏子

## ◆概要

令和6年度は小児科医10名（日本小児科学会専門医・指導医5名、専門医5名）が小児科に在籍した。日本内分泌学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本アレルギー学会専門医などが常勤医として在籍する他、外来応援医師6名の派遣を受けた。

当院小児科は新生児から成人後の移行期まで幅広く対応可能な総合小児科であり、小児一般診療、専門外来、小児救急医療、周産期医療を提供している。また、大阪府小児地域医療センターの指定を受けており、大阪府小児医療連携体制・受入態勢構築事業にも参画している。国の指針では小児地域医療センターは小児医療圏において中心的小児医療を実施するとされており、大阪市西部地域の基幹病院として、小児医療体制をさらに充実させ、引き続きより良い医療を地域に提供してゆく所存である。

外来は、午前中は一般外来中心、午後からは予防接種、乳児健診とともに、予約制専門外来を行っている。内分泌・骨代謝・骨系統疾患、小児神経、小児消化器、小児循環器、アレルギー、頭痛、遺伝相談の専門外来を開設している。専門外来では特に、成長ホルモン補充療法、性腺抑制療法、骨系統疾患、代謝疾患に対する酵素補充療法やビスホスホネート治療、抗体治療など、川崎病患者長期フォローアップや学校心臓検診の要精査者の精密検査などに力を入れている。地域かかりつけ医からの紹介患者受け入れの他、大阪市中央急病診療所の後送病院として、入院を要する救急患者の受け入れ・診療を担っている。

病棟は、小児病床22床、NICU6床に加えて、プレイルーム2室を備え、小児病棟には保育士が配置され、付き添いあり・なし入院どちらにも対応している。急性疾患・新生児疾患の他、内分泌負荷試験、鎮静下MRI、脳波、食物経口負荷試験、鎮静下小児消化器内視鏡、終夜睡眠ポリグラフ検査などの検査入院や先天性疾患、慢性疾患の入院診療にも対応している。

NICU（新生児集中治療室）は24時間体制で、すべての帝王切開や異常分娩には小児科医が立ち会っている。産婦人科と密に連携し、合併症妊婦やハイリスク妊婦に出生前から関わり、新生児医療へスマーズに移行できるよう取り組んでいる。また近年ニーズの高まる出生前遺伝学的検査にも、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを含むチーム医療体制を構築している。

当院では、親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた」を定期的に開催している他、空き病床を使用して、大阪市産後ケア事業を実施しており、母と子に切れ目ないトータルケアを提供している。また福島区乳幼児健診に交代で出務し、地域保健事業にも貢献している。

研究面では内分泌・代謝疾患や骨系統疾患を中心に、臨床研究・治験を積極的に実施している。教育面では日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）、日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設の認定を受け、小児科各領域の専門医が研修医および学生の教育に取り組んでいる。

## ◆実績

論文・著書 英文1編、和文1編

学会発表・講演 11演題

(人)

新規小児入院患者数	1,343
NICU入院患者数	195
外来患者数	9,695
救急外来患者数	722

**◆スタッフ (◎部長)**

◎山森 英長、松下 紗織、秋山 久徳、精神保健福祉士1名、非常勤心理療法士5名

**◆概要**

当科外来では地域の皆様に貢献できるよう、精神疾患全般の診療を行っております。

認知症の診断・治療の導入・周辺症状への対応、ストレス因関連症、不安症、抑うつ症、統合失調症の治療、神経発達症を含む、思春期・青年期(高校生以上)の精神疾患の診断・治療等、多岐にわたり対応が可能です。2024年4月より、アルツハイマー病疾患修飾薬(レカネマブ/ドナネマブ)による治療を、脳神経内科、放射線診断科はじめ、関係各部署の協力のもと、開始しました。

外来以外では「総合病院の神経精神科」として、他科との連携を重視し、身体疾患により当院他科へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安等への診療（リエゾン精神医学）が重要な役割と考え、診療にあたっております。さらに、チーム医療にも積極的に関わっており、認知症ケアチームのメンバーとして、認知症の方が身体疾患のため入院された際の、周辺症状への対応、ADLや認知機能の低下が生じないような対応を行ったり、緩和ケアチームのメンバーとして精神科医の視点から、がん患者さんの症状緩和や精神症状への対応を、チームメンバー、病棟看護師とともに行っております。

また教育面では、初期研修医の研修・指導を行うとともに、日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会、日本老年精神医学会の専門医研修施設の認定を受けており、精神科専門医、一般病院連携精神医学専門医（精神科リエゾン専門医）、老年精神医学専門医の育成にも力を注いでおります。

**◆実績**

令和6年度診療実績（令和6年4月～令和7年3月）

		合計	月平均
外 来	初 診	290	24
	再 診	6934	578
リエゾン	初 診	412	34

**◆スタッフ（◎部長）**

◎高田 和城、◎村瀬 翔、山下 和哉、松本 涼聖、◎寺川 晴彦

**◆概要**

当科は平成8年の開設以来、脳卒中を中心とした神経内科疾患の診療に従事し、本年もSCUでの脳卒中を中心とした診療に加えて、てんかん・髄膜炎・ギランバレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れている。2023年度より主任部長の高田、脳卒中・神経救急担当部長の村瀬が着任し、脳血管治療専門医である村瀬を中心に脳神経内科でも血管内治療を行っている。一方で、地域医療機能推進の一環として、神経難病の患者さんも増加傾向にあり、遺伝子診断・治療や免疫修飾療法・ボトックス注射などの特殊治療にも対応している。

**◆実績**

本年度は、前年度専攻医中嶋が退職し、専攻医松本が赴任したため昨年同様SCUセンター長1名、部長3名(1名リハビリテーション科部長兼任)・医長1名、内科専攻医1名の計6名での病棟運営および脳外科との共同・院外からの当直専従医の補助によりSCU当直の運営をおこなった。SCU、一般病床を含めて、年間約410名の入院患者を受け入れた。

脳卒中については、t-PAや脳神経外科との協力による血管内治療などの超急性期治療実施件数が、年間21例を維持し、学会が求める施設目標を達成した。当科の脳卒中の入院はそれぞれ脳梗塞153名、脳出血34名で、脳神経外科と連携してのSCU 9床の稼働率は例年通り90%以上で推移していた。脳卒中ネットワークを介しての回復期リハビリテーション病院への転院や療養支援も順調であった。

その他一般神経疾患についても、神経救急疾患に対するICU管理のほか、免疫性神経疾患に対するステロイドパルスや血漿交換を中心とした免疫修飾療法に従事。神経難病に対する特定疾患申請・在宅支援や脳卒中後遺症患者さんをも含めた身体障害認定継続の他、拘縮四肢に対するボトックス治療なども継続している。小児科 柏木部長の協力での遺伝子診断の他、遺伝子治療としての脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセンの髄液内投与治療、多発性硬化症に対する皮下注射製剤を用いた免疫修飾療法や重症筋無力症や視神経脊髄炎に対するバイオ製剤使用も症例に応じて積極的に使用している。

脳卒中以外の主要神経筋疾患は延べ入院数で、ALS(筋萎縮性側索硬化症)：6例、脊髄性筋萎縮症(SMA)：2例、パーキンソン病：9例、脊髄小脳変性症：1例、多発性硬化症/視神経脊髄炎：6例、重症筋無力症：8例、ギランバレー症候群：9例、髄膜炎を含めた神経感染症：6例、てんかん：33例などであった。日本神経学会認定教育施設として、学生実習や初期研修医の受け入れも積極的に行い、初期研修医1年目3名、2年目4名の初期研修医、および日生病院からの内科専攻医1名が当科で研修した。また学会発表として日本神経学会総会で2題（シンポジウム1題、ポスター1題）、日本神経学会地方会で1題発表を行った。

## 診療部門 放射線診断・IVR科

### ◆スタッフ (◎部長)

◎臼杵 則朗、◎北山 聰明、大倉 隆介、崔 朝理、小林 彰太郎

### ◆概要

当科は、現代医療に欠かせない画像診断と画像下治療（IVR：Interventional Radiology）を担っています。CT・MRI・核医学検査（RI）を中心に、高精度な画像診断を提供するとともに、カテーテルを用いた低侵襲治療を幅広く行っています。

5名の放射線診断専門医（うち4名は指導医）が在籍しており、2名はIVR専門医、1名は核医学専門医の資格を有しています。撮影に際しては、依頼医の目的に応じて最適な撮影条件を指示し、最大限の診断情報が得られるよう努めています。診断レポートは迅速に作成し、臨床現場での的確な治療方針決定を支援しています。

また、近隣医療機関からの検査依頼にも積極的に対応しており、当日検査にも柔軟に対応するなど、地域医療連携の充実にも力を入れています。

IVRにおいては「断らないIVR」をモットーに、肝細胞がんに対する塞栓術や中心静脈ポート留置術をはじめ、止血術・ドレナージなどの救急症例にも積極的に対応しています。今後は緩和医療領域にも適応を広げ、より多様なニーズに応えていきます。

教育面でも、日本医学放射線学会による放射線専門医修練施設、日本IVR学会によるIVR専門医修練施設、日本核医学学会による専門医教育機関の認定を受け、後進育成にも取り組んでいます。

画像診断・IVRに関してご相談やご質問があれば、いつでもお気軽にお声かけください。

### ◆実績

2024年度モダリティー別レポート件数およびIVR件数

CT 25091件

MRI 11116件

RI 518件

IVR 133件

**◆スタッフ (◎部長)**

◎西多 俊幸、前角 智子

**◆概要**

放射線治療科は悪性腫瘍を対象にした放射線治療を専門に行います。放射線治療は体外照射と体内照射に大別され、当科で行うのはリニアックを用いた体外照射のみです。放射線治療は目的によって根治的にも緩和的にも適応できますので、ほとんどの癌がなんらかの放射線治療の対象となりえます。また、放射線治療は集学的治療のひとつとして化学療法や手術と併用されますので、当科では他の臨床各科との連携のもとに各種の悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。

体外照射に用いる治療装置として、汎用リニアックであるElekta社製Infinityが設置されており、強度変調照射や体幹部定位照射などの高精度放射線治療にも対応しています。

放射線治療を適切に行うには各分野の専門スタッフの協力が不可欠であり、放射線治療専門医をはじめとして放射線治療専門技師や医学物理士、さらに専従看護師や事務職員などが診療にあたっています。特に高精度放射線治療を安全に施行するには高度な物理学的知識が必要とされるので、医学物理の専門家による支援が不可欠です。また基本的に癌患者が対象であるため、メンタル面でのサポートも含めて看護師の役割が重要であるのも当科の特徴といえます。

放射線治療は根治目的にも緩和目的にも用いることができます。高精度照射に代表される根治照射が注目されますが、癌患者の多くは術後補助療法や緩和医療としての放射線治療を必要としています。当科ではこれら通常照射の重要性をふまえた上で、限られたスタッフで可能な限りの高精度照射も提供できるように努めています。

現在、体幹部定位照射は肺と肝臓を主な対象に施行しており、適応症例では骨転移への定位照射も行っています。

**◆実績**

2024年(1月～12月)

のべ照射件数

2880件

治療計画数

218件 (1門・対向2門：33、非対向・3門：26、4門以上：115、

回転照射：31、体幹部定位照射：13)

総照射部位数

(乳房：52、肺：33、骨：28、脳：8、前立腺：11など)

全治療患者数

146人 (原発巣別 乳腺：55、肺：45、泌尿器系：17、婦人科：8、

消化管：7、肝胆膵：7など)

## 診療部門 麻酔科 緩和ケア・ペインクリニック

### ◆スタッフ（◎部長）

◎山間 義弘、◎佐藤 善一、◎荒井 章臣（2024年1月より）、◎清水 雅子、西田 宙夢、今村 圭祐、大熊 尚美、黒澤 すみれ、古川 寛美

### ◆概要

2024年度のスタッフは麻酔科診療部長1名（山間）、集中治療部長1名（佐藤）、臨床麻酔科部長1名（荒井、2024年1月より）、緩和ケア・ペインクリニック部長1名（清水）、医長2名（西田、今村）、医員3名（大熊、黒澤、古川）の9名、それに加えて非常勤医師の応援で手術麻酔を行っている。また大阪大学歯学部と大阪歯科大学の歯科麻酔科から医科麻酔の研修を1年間受け入れており、初期臨床研修医は麻酔科研修を必須として手術麻酔の基本を中心に月毎のローテーションで研修している。

手術麻酔管理を行う上で、患者の全身状態の把握と評価を行い、術式を考慮した麻酔法を検討することが重要であり、当科では麻酔科専門医が術前診察を行っている。手術中は研修のため初期臨床研修医や歯科麻酔科医が担当医になることがあるが、麻酔科専門医が指導を行い安全な手術麻酔に努めている。手術室12室中、麻酔科管理枠は最大8列として定期手術を受け入れている。

集中治療室においては、日勤帯は佐藤部長を中心に1名が専従医として各科医師と協力しながら患者管理を行っている。2024年度は麻酔科管理手術件数が過去最大となったものの、常勤麻酔科医が減少したため、当直業務は従来の麻酔科、心臓血管外科に加えて内科系・外科系からも協力をいただいている。

2023年よりペインクリニック外来を開設し、清水部長が慢性疼痛管理を行っている。ペインクリニックでは多角的に痛みを診断し、薬物療法だけでなく神経ブロックを含めた治療法を駆使して痛みを軽減しQOL向上を目指すが、痛みの十分な軽減が得られないこともある。慢性化した痛みと「うまく付き合っていく」ことを患者と模索する診療を心掛けている。また緩和ケアチームの一員として緩和ケア外来を2024年より開設し、入院時のみならず外来においても緩和ケアが提供できるように関わり、難治性疼痛に対しては神経ブロックの適応も検討している。

2023年10月より麻酔科医、手術室看護師、薬剤師とともに術後疼痛管理チームを立ち上げた。対象は、術後持続硬膜外麻酔あるいはオピオイドの持続投与を行う消化器外科症例から開始し、2024年には泌尿器外科、呼吸器外科症例を追加し、主科や病棟の協力のもと手術後の回診を行っている。

### ◆実績

2024年度手術症例（2024年4月～2025年3月）

手術症例		
	麻酔科管理症例	4137
	全身麻酔	3620
	脊髄くも膜下麻酔	512
	脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	3
	その他	2

2024年度ペインクリニック外来診療実績（2024年4月～2025年3月）

外来初診	48
外来再診（のべ）	254

## ◆スタッフ（◎部長）

◎妹尾 日登美、◎木下 久美子、久保 茂正（月1回非常勤） 歯科衛生士（鹿島 倫子、永田 恵、安井 麻美）

## ◆概要

歯科口腔外科は歯科医師2名（日本口腔外科学会指導医1名、専門医1名）、歯科衛生士3名で診療を行っています。

埋伏歯の抜歯や難抜歯、歯の移植、口腔粘膜疾患、顎関節症、顎骨のう胞、顎骨腫瘍、炎症性疾患、薬剤関連顎骨壊死、軟組織腫瘍、顎骨骨折、インプラント等に対する診療を行っております。また他科手術・化学療法中の患者様の周術期口腔管理や誤嚥性肺炎等の患者様に対する口腔ケアを積極的に行っており、合併症予防に努めています。

月1回ですが、口腔鍼灸漢方治療を行っており、難治性口内炎の治療や、術後の知覚障害等にも対応しております。

## ◆実績

初診患者数 2039人（紹介率37%）

手術室手術件数 89件

入院患者数 128人

外来手術件数 727件

周術期口腔機能管理人数 838人

## 2024年度 手術室手術件数

埋伏歯抜歯等	41
顎骨囊胞・腫瘍摘出術	30
薬剤関連顎骨壊死腐骨除去・顎骨部分切除術	8
下顎隆起形成術	3
顎骨骨折観血的整復固定手術	2
舌腫瘍摘出術	1
唾液腺腫瘍摘出術	1
放射線性骨髓炎下顎骨部分切除術	1
歯周外科手術	1
インプラント埋入手術	1
計	89

**◆スタッフ (◎部長)**

◎吉田 康之、 中井 千晶、 緒方 正史、 大西 由希子

**◆概要**

病院の診療部門の一つである「病理診断科」は、患者さんの病変の一部から採取された組織(あるいは細胞)を顕微鏡で観察し、その性状(例えば「悪性腫瘍」なのか、それとも「良性腫瘍」なのか等)を調べて病変を診断することを主な業務としています。具体的には、以下の内容となります。

**1. 『病理組織診断』**

例えば、胃カメラ検査が行われた際に胃粘膜に異常が認められると、同箇所から組織の一部が採取されます。このような場合、採取された粘膜組織(これを『生検検体』と呼びます)が当科に提出され、その検体組織から標本が作製されます。そして、顕微鏡下で検体の性状を調べ、「採取された胃粘膜の病変は胃潰瘍なのか、それとも胃癌なのか」等の判定を行います。

また、手術で病変が臓器から摘出された場合、病変から組織標本を作製し、最終的な病理診断を行います。

**2. 『細胞診検査』**

喀痰・尿・胸腹水・子宮頸管や内膜からの擦過材料、乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料をスライドガラスに塗布し、これに必要な処理を施して、上と同様に顕微鏡下にて癌細胞の有無を判定することも行います。

**3. 『術中迅速診断』**

手術中に悪性腫瘍を切除する場合、病変が臓器から完全に切除されているか否かを調べるために、切除断端組織から凍結切片を作製し、これを顕微鏡下で即座に診断します。そして、その結果を手術中の執刀医に連絡します。

**4. 『病理解剖』**

患者さんが極めて難解な疾患で種々の治療の甲斐もなく、または予期しない経過で死亡した場合には、患者さん本人の遺志や遺族の了解の下で『病理解剖』を行い、臨床病理検討会において疾患の解明や診断の的確さ、治療効果等が討議されます。

**5. 『各科との合同カンファレンス』**

内科や外科など複数の診療科と、定期的に症例の検討会を開催しています。これを通じて、以後の診療方針等を議論して決めていきます。

以上のように、当科は病院の診療活動にとって重要な役割を担っております。

**◆実績**

令和6年度(2024.4.1～2025.3.31)

生検・手術材料：6,763件(内術中迅速診断：178件)

細胞診：6,612件

### ◆スタッフ（◎部長）

◎小笠原延行、◎五十嵐 渉、永田 慎平

臨床研修医（2年）：上田 健太郎、岸本 真子、服部 寿紀、福井 翔太、稻井 賢伸、蓮池 良祐、紀田 宝那、山田 航大

臨床研修医（1年）：青野 孝紀、明石 侑里香、鎌田 大喜、清水 廉、高橋 佑生、名島 俊介、橋本 拓志、松崎 僚太、森 菜々美、井上 麻菜美、長井 陽佳里、赤嶺 友樹、大橋 昌功、北村 和嵩

### ◆概要

当院の救急科は、地域の救急医療を担う中核として、診療と初期臨床研修医の教育に力を入れています。当院の診療限界を超える病態を除き、積極的に患者さんを受け入れています。特に、近隣の開業医から緊急で紹介いただく患者さんについては、担当科が不明な場合でも救急科が直接対応することで、円滑な受け入れ体制を確立しています。

#### 研修医教育プログラム

当院の救急研修は、研修医が医師として成長できるよう、実践的な教育に重点を置いています。

#### 1年目研修医

1ヶ月間の救急科ローテーションでは、指導医とともに平日の日勤帯で救急搬送患者の初期対応にあたります。この期間に、問診や身体診察、カルテの記載方法、common diseaseの疾患概念、診断に至る思考プロセスといった基本的な知識・技術はもちろん、患者さんへの接し方や言葉遣い、仕事への責任感やモラルといった人間性も養います。

6月からは、2年目研修医の夜間・休日の救急当直にも加わり、ウォークインを含む比較的軽症の患者さんの診療も経験します。

#### 2年目研修医

夜間・休日の救急当直では、ある程度の判断を自ら行い、救急患者の初期対応にあたります。当院には、研修医を直接補佐する救急A当直医をはじめ、内科、循環器科、外科、脳卒中科、小児科、産婦人科、ICUなど各科の医師が当直しており、幅広い分野でコンサルトできる環境が整っています。

当直翌朝には、救急で診療した症例について、救急科、整形外科、循環器科、内科の部長と検討会を行い、経験症例へのフィードバックを得ることで、知識と技術をより深めることができます。

平成31年度からは、2年目研修医も1ヶ月の救急ローテーションが必須となり、2年間で計2ヶ月の研修期間を通じて、救急医療に必要な十分な知識と技術の習得を目指します。

#### 働き方改革と今後の展望

働き方改革による慢性的なマンパワー不足という課題はありますが、各科医師の協力のもと、その影響を最小限に抑えるよう努めています。今後も各科との連携を強化し、救急患者の受け入れ体制を維持・向上させるとともに、研修医教育にもさらに力を入れていきます。

職員一丸となって、地域が必要とする質の高い救急医療を提供できるよう、邁進してまいります。

### ◆実績

救急外来受診患者数 7,773名

救急搬送受け入れ患者数 5,066名

救急外来からの入院患者数 3,793名

**◆スタッフ (◎部長)**

◎真鍋 侑資、植田 すず、島上 洋 (非常勤)

**◆概要**

当院における関節リウマチ患者さんの診療は、従来リウマチ科で行われていましたが、2002年以降は関節リウマチ以外にも膠原病、血管炎症候群など自己免疫疾患も診療する様になりました。その後膠原病内科外来として独立して外来診療を継続して参りましたが、2023年度より名称を免疫内科と改め常勤1名でスタート致しました。2024年度は常勤2名体制となり、入院診療、初診から急性期、慢性期のフォロー、関節エコーまで行える体制を構築いたしました。

**◆実績****1) 外来診療 (カルテベース)**

2024年度に診療した外来患者数は延べ2603例でした。

(2021年度 164例、2022年度 1368例、2023年度 1629例)

**2) 入院診療 (カルテベース)**

2024年度に診療した入院患者数は116例でした。関節リウマチなどの骨関節や筋関連疾患・膠原病類似疾患、血管炎症候群、IgG4関連疾患などの自己免疫疾患の他、血液疾患（特発性血小板減少症、無顆粒球症）や感染症（肺炎、化膿性脊椎炎など）、アナフィラキシー等、幅広く診療致しました。

**3) 検査**

関節リウマチの早期発見や正確な活動性評価のため2023年度より関節超音波検査を導入しました。

2024年度の関節超音波検査施行件数は110例（2023年度 55例）でした。

### ◆センター長

◎鈴木 朗

### ◆概 要

末期腎不全に至った症例について、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入し、また、維持血液透析患者の入院中の管理を行っています。腎代替療法導入に際しては、同センター看護師が担当する療養選択外来を受診していただき、各療法の特徴につき十分理解していただいた上で、患者さん自身に選択していただいております。自己免疫疾患や肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症など難治性ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレーシス療法、ASOに対する吸着型潰瘍治療（レオカーナ）、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども積極的に行っております。ICUにおける血液浄化療法についても、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しております。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。

### ◆実 績

維持血液透析を28例、腹膜透析を3例導入しました。

維持血液透析患者17名、腹膜透析患者11名も管理されています。2023年の各療法実施件数は以下の通りです。

HD	1858	▲561
online HDF	2694	△934
PE(血漿交換)	13	▲2
DFPP	0	▲6
吸着式潰瘍治療（レオカーナ）	17	△13
GCAP(顆粒球吸着)	32	△17
ICUにおける血液浄化	42	▲36

### ◆ひとこと

当センターは夜間、休日も各種血液浄化療法が施行可能であり、大阪市西部地域における中心的な血液浄化センターです。患者教育も積極的に行っており保存期慢性腎臓病患者を対象に、栄養部、薬剤部、看護部にご協力いただき、毎月「腎臓病教室」を開催しております。どなたでも無料で受講できますのでご興味ある方は当院ホームページをご参照ください。

### ◆センター長

◎山本 克己

### ◆概 要

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、気管支鏡、胸腔鏡、超音波気管支鏡などの検査手技だけでなく、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、総胆管結石破碎術・乳頭切開術、消化管止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、胃瘻増設術、消化管狭窄バルーン拡張術・ステント留置術、EUS下ドレナージ術などの内視鏡治療など、内視鏡を用いた検査・治療の幅広い領域を扱っています。新病院に移った後はリカバリルームを増設しており、近年の社会的ニーズに応えるべく、安楽な内視鏡検査を行うため、消化器内視鏡検査では、鎮静剤を積極的に導入しています。呼吸器領域においては、局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡といった最新の検査も行っています。治療については、特に、高度な技術を要する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数が多いのが特徴で、早期胃癌だけでなく、早期の大腸癌、食道、十二指腸、咽頭癌など幅広い領域の表在癌の治療にあたっており、困難症例を含め、大阪府下だけでなく、他府県からもご紹介いただいている。検査・治療に際しては、合同カンファレンスを定期的に開催し、消化器内科、外科、病理科が密接にコミュニケーションを取りながら診療を行っています。最近は、外科、消化器内科が協力して、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も施行しており、咽頭癌に対するESDは消化器内科と耳鼻科が協力して行っており、先進的な医療も積極的に施行しています。

また、吐下血などの消化管出血や胆管炎などの救急疾患にもオンコール体制を敷いて対応しており、地域医療に貢献しています。

### ◆実 績

2024年度は、内視鏡総件数が8,191件、上部消化管内視鏡検査が5,341件、下部消化管内視鏡検査が2,530件、ESD件数が244件、EMR件数が882件、ERCP件数が276件、気管支鏡件数が197件となっています。

鎮静剤使用割合が年々増加しており、約8割以上の症例で鎮静剤を使用しています。

### ◆センター長

◎榎 孝之 (SCU 責任医師)、◎高田 和城

### ◆概要

脳卒中センターは、脳神経外科4名、脳神経内科4名、リハビリテーション科1名、プライマリーケア診療部 1~2名、看護師18名、専任PT1名、病棟薬剤師1名、栄養士1名、医療福祉相談室7名の多職種連携により、9床の病床で、運営している。脳神経外科・脳神経内科が協力し、脳卒中Hotlineを携帯し、24時間365日体制にて、脳卒中診療を行っている。

日本脳神経血管内治療学会専門医が、常勤医として3名在籍し、超急性期脳梗塞に対して、血栓溶解療法 (tPA)、機械的血栓回収術 (MT) を施行している。また、出血性脳卒中に対しては、緊急開頭術、コイル塞栓術を施行している。

リハビリテーション科と連携して、早期からのリハビリテーションを開始し、早期離床を行っている。医療福祉相談室と連携し、回復期リハビリテーション病院への転院を積極的に行い、自宅復帰・社会復帰を目指している。

大阪脳卒中医療連携ネットワーク (OSN) に計画管理病院として、発足当初より参加している。OSNでは、年3回、全体会議を行い、自己啓発、急性期病院・回復期病院の連携強化、脳卒中啓発イベントである市民講座の開催、脳卒中患者・家族らへの脳卒中サロンの開催などの活動を行っている。

2022年4月1日、日本脳卒中学会認定1次脳卒中センターコア施設に認定された。それに伴い、2022年12月1日より、脳卒中療養相談窓口を外来患者相談窓口内に設置した。脳卒中療養相談士の資格を持つ医師、看護師 (脳卒中リハビリテーション看護認定看護師1名を含む)、MSWが、対応にあたっている。

### ◆実績

(2024/1/1-2024/12/31)

SCU 入室患者数	365名
内訳	
脳梗塞	230名
脳出血	87名
くも膜下出血	17名
一過性脳虚血発作	23名
その他	8名
脳梗塞超急性期血栓溶解療法	11名
脳梗塞超急性期血栓回収術	21名
両者併用	5名
脳出血 頭蓋内血腫除去術	7名
脳動脈瘤緊急クリッピング術	4名
脳動脈瘤緊急コイル塞栓術	6名
脳梗塞開頭減圧術	1名
脳動静脈奇形摘出術、塞栓術	2名

◆センター長

◎塚本 文音

◆概 要

外来治療センターでは、通院での抗悪性腫瘍剤や関節リウマチなどに対する生物学的製剤等の投与を行っています。また、曜日と時間帯を限定して自己血貯血に対応しています。

電動ベッド7台、リクライニングチェア14台が稼働。看護師6名以上が常駐し、薬剤投与中の観察のみならず、帰宅後の有害事象の予防、軽減のための援助を行っています。

◆実 績

令和6年度は、消化器外科、乳腺・内分泌外科、消化器内科、呼吸器内科、泌尿器科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、眼科、脳神経内科が当センターを利用。

令和6年度の化学療法実施延べ件数は4,086件（月平均341件）、貯血実施延べ件数は36件（月平均3件）。

**◆センター長**

◎筒井 建紀（産婦人科 診療部長）

**◆副センター長**

高橋 唯（8階東病棟師長）

**◆概 要**

大阪市西部基本保健医療圏の周産期医療を担う拠点病院として、産科、小児科（認可新生児集中治療室：NICU）で連携して母子医療センターを設置しています。

産科は一次救急を扱っており、大阪府における産婦人科診療相互援助システム（OGCS）に加盟し、母体の様々な病態により急変した際の搬送の受け入れを実施し、地域の産科診療に貢献しています。また、妊婦さんの安全性と利便性の観点から、日頃より病診連携でお世話になっております産婦人科ご開業の先生に妊婦健診をお願いし、分娩は当院で取り扱う「産科オープンシステム」を取り入れています。産科以外に合併症をお持ちの妊婦さんに対しては、総合病院の利点を活かして内科・外科・精神科など院内の他診療科と連携して適切に対応しています。さらに、2022年7月より分娩時鎮痛を希望される妊婦さんに、産婦人科・麻酔科・小児科と共同で、安全で質の高い和痛分娩を提供できる体制を整えています。

産科外来では、医師による通常外来の他に、助産師外来も併設しており、妊娠経過が安定している妊婦さんにご利用いただいています。助産師外来は、妊娠中の様々なご相談にきめ細やかに対応し、好評を得ております。また、当院はNIPT実施認証医療機関の基幹施設であり、出生前遺伝相談外来にて出生前カウンセリングやNIPTなどの出生前検査を実施しています。

入院中の食事メニューは、妊婦さんのご意見をフィードバックしながら、量・質ともに満足していただけるものにグレードアップしており、入院時のアメニティーもますます充実しています。また、令和4年度に一部の病室の改装を行い、さらに快適な入院生活をご提供できるようになりました。

小児科は、院内出生を中心にNICU 6床を確保し、新生児診療を24時間体制で行っています。大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）にも参加しており、大阪の周産期地域医療システムの一翼を担っています。産科と緊密に連絡をとり、看護師・助産師のスタッフとともに、一人ひとりの赤ちゃんに対する最適の治療、退院後のフォローアップ、さらにはご家族全体のトータルな支援を心がけています。

**◆実 績**

令和6年度は、分娩数475件（うち帝王切開術108件、吸引分娩41件、鉗子分娩7件、双胎妊娠6件、無痛分娩87件）で、このうち地域の産婦人科の先生方と連携した産科オープンシステムによる分娩数は83件でした。また、NICUの延入院患者数は805人、新入院患者数は195人でした。

## ◆部長

◎佐藤 善一

## ◆概要

当院のICUは平成9年に循環器科創設と同時に発足した。呼吸器外科担当部長大野喜代志先生、中村康子婦長のもとで開設されたICUは平成20年（2008年）4月からは10床に増床され、平成27年新病院開院とともに12床に増床された。2020年度より、佐藤を含む2名の集中治療専門医体制でICUの日勤を担当し、34名のICU看護師（うちクリティカルケア認定看護師1名）と共に治療を行っている。

毎朝、主治医、麻酔科ICU担当医、看護師とでウォーキングカンファレンスを行い、治療方針の確認を行っている。また、リハビリテーション部、ICT（院内感染コントロールチーム）、NST（栄養サポートチーム）もカンファレンスに参加して緊密な連携を保ち、治療を行っている。高度医療機器は臨床工学技士の管理により安全に使用できている。日本集中治療医学会専門医研修施設の認可をいただいている。

## ◆実績（2024年度）

入室患者数	1427例（男811例、女616例）
平均年齢	71歳
平均在室日数	2.9日

## &lt;診療科内訳&gt;

心臓血管外科	103例	循環器内科	438例
外科（胸部含む）	358例	（一般）内科	32例
脳神経外科	81例	消化器内科	30例
整形外科	209例	神経内科	17例
泌尿器科	58例	呼吸器内科	26例
産婦人科	28例	糖内分泌内科	18例
形成外科	3例	小児科	3例
耳鼻科	19例		
皮膚科	3例		
歯科	1例		

## &lt;その他&gt;

心肺蘇生後	23例
covid19肺炎	7例
陰圧室使用	9例

## 中央部門 手術室

### ◆スタッフ (◎部長)

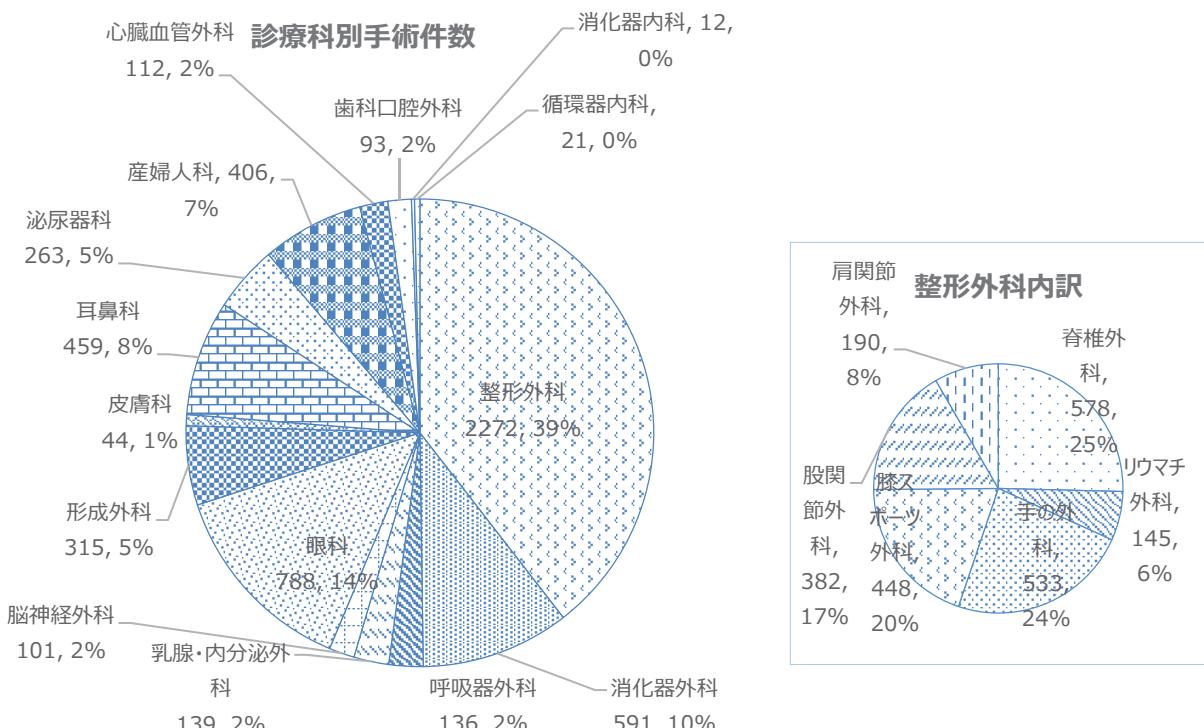
◎山間 義弘、他麻醉科医師8名、(看護師長) 藤原千佳、他看護師38名

### ◆概要

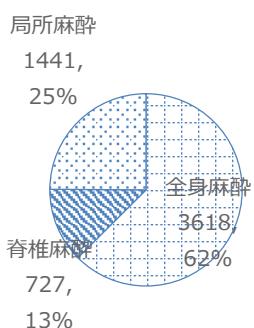
手術室は12室あり、うち4室がバイオクリーンルーム、1室はハイブリット手術室である。入院・外来患者すべての手術を手術室で行っている。

### ◆実績

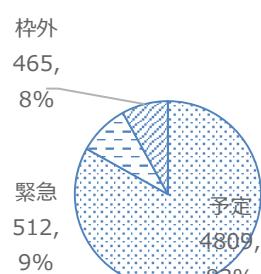
2024年度総手術件数は5753件（診療科別手術件数のグラフは共観手術を含む各診療科の実績件数）で、整形外科が全体の39%を占め、次いで眼科14%、消化器外科10%であった。麻酔は全身麻酔が年々増加し全体の62%であった。総手術件数に対し、予定手術以外の手術（枠外・緊急手術）の占める割合は年々増加傾向にあったが、2024年度は15%に減少した。



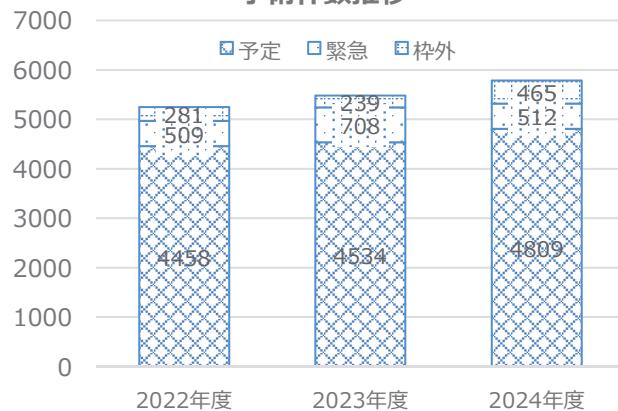
### 麻酔別件数



### 要求度別件数



### 手術件数推移



## 診療協力部門 薬剤部

### ◆スタッフ (◎部長)

◎辻川 正彦、他薬剤師31名、薬剤助手5名

### ◆概要

2025年3月現在、薬剤師32名（定数33名） 薬剤部長：辻川正彦

副薬剤部長：長谷川真美、主任：田中早紀・井上敬之・岡渕直子・角陽子・富永真代

一般薬剤師25名（男5名・女20名、内育児休業2名） 薬剤助手5名、事務1名、SMO4名

施設基準等

病棟薬剤業務実施加算1 …… 11病棟

病棟薬剤業務実施加算2 …… SCU・ICU

薬剤管理指導料、外来化学療法加算1、無菌製剤処理料、がん患者指導管理料（ハ）

チーム医療：ICT・AST・NST・緩和ケア・褥瘡ケア・認知症ケア・せん妄ケア、術後疼痛

学生実務実習受入施設

日本病院薬剤師会	感染制御専門薬剤師	1名
	病院薬学認定薬剤師	14名
	認定指導薬剤師	2名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	6名
	研修認定薬剤師	1名
日本医療薬学会	がん専門薬剤師	1名
日本小児臨床薬理学会/日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師	1名
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療専門薬剤師	1名
日本医療情報学会	医療情報技師	2名
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	1名
日本・アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト	2名
日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム専門療法士	2名
日本循環器学会	心不全療養指導士	1名
日本心臓リハビリテーション学会	心臓リハビリテーション指導士	1名

### ◆実績

外来一般処方箋（枚）	2,964	薬剤管理指導 患者数（人）	14,901	TDM算定件数	1,416
外来注射処方箋（枚）	26,833	指導回数	21,573	採用薬品数	1,216
院外処方箋（枚）	97,168	算定件数	19,874	新規レジメン登録（件）	34
（発行率 %）	98.0	麻薬管理指導加算（件）	352	後発薬品置換率（%）	92.36
入院一般処方箋（枚）	163,591	退院時薬剤情報（件）	2,889	年間治験実施本数	17
入院注射処方箋（枚）	120,078	持参薬調査件数	11,114	新規治験契約件数	7
入院麻薬一般処方箋（枚）	939	持参薬調査剤数	71,251	薬剤情報提供料（件）	1,573
入院麻薬注射処方箋（枚）	7,932			疑義照会件（調剤室）（注射室）	5,046 447
院内製剤件数 （一般） （無菌製剤）	66 41	無菌製剤処理算定件数 (抗がん剤・TPN)	4,157	病棟薬剤業務実施加算（件） (一般病棟11) (SCU・ICU)	24,525 5,429
注射混合調製分取総件数	10,669	処置薬剤払出件数	7,378	医薬品安全研修（回）	10

## 診療協力部門 放射線室

### ◆スタッフ

(技師長) 高谷 道和、他放射線技師30名

### ◆概要

現在、診療放射線技師32名、事務スタッフ11名で放射線室を運営しています。放射線室は地下1階に核医学検査と放射線治療、1階に救急専用の撮影室、2階に一般撮影、CT、MRI、MMG、X-TV、骨密度測定装置等の診断部門、5階に血管撮影室、Hybrid手術室（近畿四国地区で唯一）を配置しています。

我々放射線室スタッフは常に放射線診断、治療の各分野で知識と技術の向上を図りながら専門性を深め、一方では高度な放射線機器を操作し、画質や被ばく線量管理を適切に行っています。中央部門として質の高い診療機能を維持し、特に被ばくに関しては「医療被ばく低減施設認定」も取得しており、日々患者様の医療被ばくを少しでも低減できるよう努めています。地域連携依頼検査においてはCT・MRI・RI検査等を積極的に受け入れ要望に応じた柔軟な対応を行っています。タスクシフト/シェアも業務化しMRI造影・RI検査における静脈穿刺・抜針・止血の運用を始め、現在10名の技師を育成することができ、血管撮影検査においても4名の技師が清潔操作を行っています。

### 装置一覧

装置	台数	スペック等	装置	台数	スペック等
CT	2台	64列 80列	MRI	2台	1.5T、3.0T
血管撮影装置	2台	Single、Biplane	核医学検査装置	1台	SPECT-CT
放射線治療装置	1台	定位照射、IMRT	X線TV装置	3台	FPD
Hybrid-Angio	1台	ハイブリッド手術室	一般撮影装置	5台	FPD、長尺立位撮影台
その他		乳房撮影装置、骨密度測定装置、ポータブル装置、外科用イメージ			
情報システム		放射線部門システム、放射線画像管理システム、放射線読影レポートシステム			

2024年度に整備した放射線機器

①エックス線TV装置：キャノンUltimax-I DREX-UI80

### ◆実績

	2022年度	2023年度	2024年度
一般撮影	59,924	61,901	58,477
乳房撮影	2,588	2,551	2,444
骨密度測定	1,708	1,841	1,831
X線TV	1,533	1,688	1,506
CT	22,566	23,847	25,300
MRI	10,031	10,509	11,116
血管撮影・心カテ	1,052	1,075	1,234
RI	1,147	1,109	1,092
放射線治療	2,842	3,088	2,905
地域連携依頼 CT・MRI・DEXA	1093	1,189	1,255

(件数)

## 診療協力部門 中央検査室

### ◆スタッフ (◎部長)

◎岡田 昌子、<臨床検査技師長 高嶋 学志>、<他 臨床検査技師42名>、<事務員 2名>

### ◆概要

中央検査室は医師である臨床検査科部長 1名、臨床検査技師43名（非常勤4名含む）、事務員 2名のスタッフで外来患者採血、血液・凝固、生化学・免疫化学、尿・便、微生物、輸血管理、病理の各種検体検査および生体検査の生理機能検査を行っています。検体検査においては24時間対応の緊急検査体制、重症感染症の早期診断・医療関連感染の迅速キャッチを目的とした365日 微生物検査日勤体制の確立、認定輸血検査技師を配置させた輸血療法にかかる全ての業務の一元管理等を実現しています。また、生理機能検査においては、循環器や消化器をはじめとする認定超音波検査士を中心に検査を実施しています。中央検査室は2023年度に国際規格である ISO 15189の認定を取得しました。さらに、翌年のサーベイランスでも良好な成績から認定は継続中です。また、2024年度に行われた病院機能評価においても検査室は最高評価のS評価を2つ得ております。私たちは、これからもこの体制を維持運営するために各検査部門において検査の品質チェックを行い、正確で信頼される検査結果を迅速に報告できるよう努めてまいります。そして新しい知識や技能向上を常に意識し専門分野の認定資格を積極的に取得することを目指し臨床検査の質の向上を図ってまいります。



### ◆主な資格と取得人数

認定輸血検査技師	3名	細胞検査士	7名
認定一般検査技師	1名	国際細胞検査士	4名
認定臨床微生物検査技師	1名	二級臨床検査士 血液学	5名
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	1名	〃 臨床化学	2名
感染制御認定臨床微生物検査技師・ICMT	1名	〃 微生物	4名
栄養サポートチーム専門療養士	1名	〃 病理学	2名
超音波検査士 循環器	5名	緊急臨床検査士	11名
〃 消化器	5名	有機溶剤作業主任者	8名
〃 体表臓器	1名	大阪糖尿病療養指導士	2名
乳がん検診超音波検査実施者	1名	遺伝子分析科学認定士	1名

### ◆実績

2024年度検査実績を2023年度と比較し表記しました。

コロナが第5類になったことで肺機能関連検査が解除され件数が増えてきています。

検体検査	2024年度	2023年度	生理検査	2024年度	2023年度
外来採血	73,939件	72,579件	心電図関連	17,332件	17,723件
生化学	120,144件	116,179件	肺機能関連	4,451件	1,988件
血液・凝固	142,461件	144,556件	超音波 心臓	4,438件	4,035件
尿検査	76,759件	87,857件	超音波 腹部	5,016件	5,063件
微生物 培養	25,998件	25,027件	超音波 その他	2,136件	2,008件
微生物 迅速	21,574件	21,018件	耳鼻科関連	1,213件	923件

## 診療協力部門

## 栄養管理室

### ◆スタッフ

管理栄養士 6名

### ◆概要

患者給食部門は全面委託であり、約35名の給食会社スタッフで給食管理・食数管理を担っています。病院管理栄養士は、その管理に携わり、給食がより良いものになるように給食会社スタッフと協議をしています。

患者給食は全面委託しているため、病院管理栄養士は、栄養指導と栄養管理をメインに行うことが可能になっています。

栄養食事指導件数の増加に取り組んでおり、医師・看護師の協力もあり、年間4000件以上の実施件数を維持しています。

個人栄養食事指導の他、糖尿病教室、腎臓病教室に参加し集団指導も実施しています。また、糖尿病透析予防・慢性腎臓病透析予防外来を医師・看護師と協力して実施しています。

早期栄養介入管理加算、周術期栄養管理加算も継続して算定しています。

チーム医療では、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、摂食嚥下チーム、褥瘡対策チームに参加し、回診に同行、患者さんに適切な栄養管理ができるよう努めています。その他、糖尿病ケアチーム、減量・代謝改善チームの一員としても活動しています。

### \*認定資格取得

- ・糖尿病療養指導士：4名
- ・NST専門療法士：1名
- ・病態栄養専門管理栄養士：1名

### ◆実績

#### \*2024年度栄養食事指導算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院初回	93	117	120	143	157	158	134	140	161	117	144	120	1604
入院2回目以降	89	78	96	87	48	50	42	35	52	35	44	38	694
外来初回	40	38	41	45	56	47	50	40	53	37	40	33	520
外来2回目以降	116	106	118	130	128	109	151	119	115	141	111	132	1476
合計	338	339	375	405	389	364	377	334	381	330	339	323	4294
1日平均件数	16.1	16.1	18.8	18.4	18.5	19.2	18	16.7	19.1	17.4	18.8	16.2	17.7

#### \*2024年度栄養関連業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病透析予防管理料	8	9	12	8	22	20	23	27	30	23	31	29	242
慢性腎臓病透析予防管理料					1	1	1	3	1	2	1	1	11
栄養情報連携料	3	3	38	48	11	11	5	7	8	2	8	8	152
早期栄養介入管理加算	133	153	132	178	151	139	136	123	131	127	124	125	1652
周術期栄養管理実施加算	296	293	272	341	348	291	312	276	305	306	305	295	3640
緩和ケア個別栄養食事加算	37	82	93	54	57	31	57	37	40	29	38	36	591
栄養サポートチーム加算	29	54	52	55	58	57	78	63	70	52	48	44	660
NST回診件数	35	59	54	56	59	57	83	65	70	54	50	44	686
NST新規依頼件数	23	21	22	23	28	24	33	37	36	23	18	33	321

## 診療協力部門

# 臨床工学室

### ◆スタッフ (◎技士長)

◎勝賀瀬 朗、他臨床工学技士12名

### ◆概要

当院の臨床工学室は、13名の臨床工学技士で組織されています（2025年3月1日現在）。医療機器管理、血液浄化、心臓カテーテル検査・治療、心臓電気生理学的検査・アブレーション、人工心肺、手術室、集中治療室、呼吸療法、心臓植込み型電気的デバイス関連、睡眠時無呼吸症候群検査、24時間自由行動下血圧測定など、各部門において関連業務に携わっています。その他、各種委員会活動や、医療機器の取り扱いに関する研修を行っています。

2021年11月より、休日、夜間の当直体制を導入しました。緊急カテ、緊急手術、医療機器のトラブル等に迅速な対応できるようになり、2022年1月からは「特定集中治療室管理料1」を算定できるようになりました。また、2023年度より、TAVIおよび心臓カテーテル検査・治療時の清潔介助業務を開始、2024年より手術支援ロボットの管理業務や内視鏡業務に参画し、業務内容の充実と医師のタスクシフトを積極的に進めています。病院の運営に資するとともに、各診療科や看護部をはじめ各部署と協働して安心で安全な医療の提供に努めます。

### ◆実績

2024年度実績

業務	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ICU HD/HDF/ECUM	件	1	4	5	4	4	1	5	3	2	5	2	6	42
特殊血液浄化	件	3	12	7	2	5	8	8	8	7	1	3	1	65
(PE)	件	0	0	5	0	0	0	3	4	1	0	0	0	13
(DFPP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(エンドトキシン吸着)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(LDL)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(DFT)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(LCAP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
(GCAP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(CART)	件	0	2	2	2	4	4	5	4	3	1	3	1	31
IABP	件	2	2	1	0	0	3	2	2	1	5	3	3	24
PCPS	件	0	1	0	1	0	1	0	0	0	2	2	1	8
人工心肺	件	3	3	3	5	2	1	7	4	5	6	4	8	51
TAVI(清潔操作業務)	件	1	0	2	2	3	3	3	0	1	1	1	2	19
ロボット支援下手術	件	11	12	12	12	10	12	14	12	8	14	15	11	143
術中自己血回収術(整形外科)	件	46	41	43	47	39	37	40	39	52	37	38	47	506
アンギオ室業務	件	94	79	88	99	92	92	102	102	120	95	97	100	1160
(GAG)	件	31	28	34	49	29	31	38	37	47	42	29	38	433
(PCI)	件	14	10	12	14	13	19	21	20	25	23	16	19	206
(AoG)	件	5	8	5	5	2	5	4	3	1	1	4	2	45
(PPI)	件	6	3	6	3	2	8	6	1	2	1	2	2	42
(EPS)	件	19	15	15	14	23	15	16	21	23	14	23	20	218
(ABL)	件	19	15	16	14	23	14	17	20	22	14	23	19	216
CIEDs業務	件	67	75	65	77	39	62	67	81	47	47	49	59	735
植込み	件	7	5	7	11	3	9	7	7	4	7	6	7	80
(IPG/CRT-P)	件	6	4	4	9	2	6	6	5	3	5	4	5	59
(ICD/CRT-D)	件	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	6
(ILR)	件	1	0	2	1	0	1	1	2	1	2	2	2	15
PM外来	件	39	48	44	41	24	42	49	55	32	29	27	41	471
日勤帯対応	件	17	20	9	17	10	8	7	15	7	9	11	8	138
当直帯対応	件	2	0	0	3	1	1	2	1	2	0	2	0	14
MRI撮像	件	2	2	5	5	1	2	2	3	2	2	3	3	32
SAS検査(フルPSG)	件	2	2	3	4	3	1	4	0	1	3	1	2	26
心拍出量測定(エスクロン)	件	5	4	8	4	5	1	2	1	3	1	1	0	35
ABPM	件	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
医療機器 点検総数	件	823	918	909	1073	957	1156	1024	1048	1188	1196	1023	1136	12451
(定期点検)	件	45	71	83	133	57	310	38	85	94	79	96	50	1141
(始業点検、回路接続確認等)	件	778	847	826	940	900	846	986	963	1094	1117	927	1086	11310
医療機器 修理対応総数	件	46	48	56	71	52	41	55	71	48	65	33	56	642
(院内修理/対応)	件	35	40	40	53	35	29	34	52	39	50	23	37	467
(メーカー修理依頼)	件	11	8	16	18	17	12	21	19	9	15	10	19	175

## ◆スタッフ

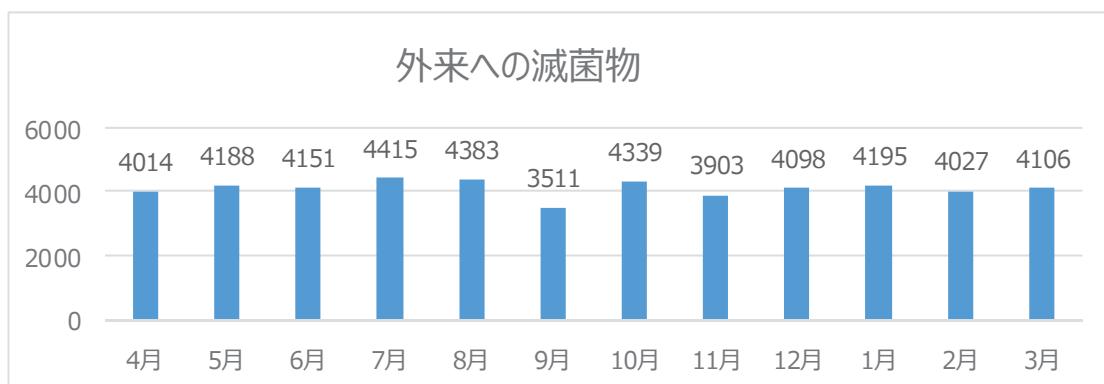
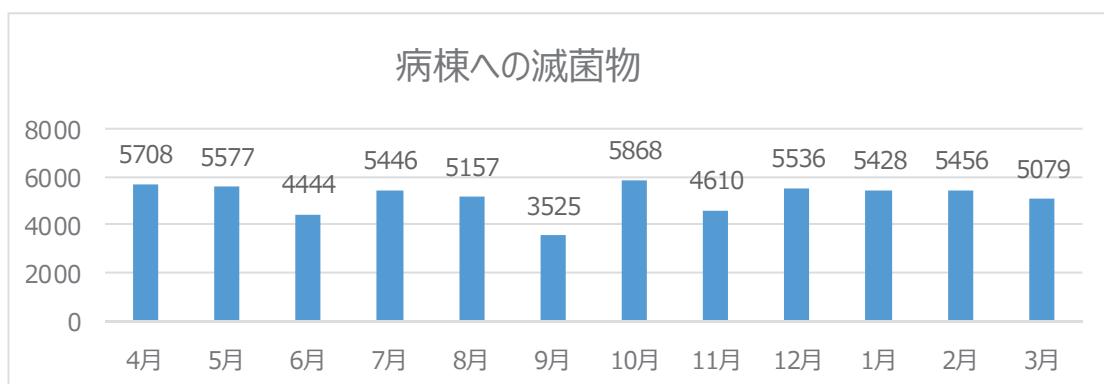
(看護師長) 藤原 千佳

## ◆概要

中央材料室は洗浄室と組立室、既滅菌室から成り立っており、医療器械の洗浄から滅菌に至る業務を一括して行っている。

## ◆実績

手術件数の増加に伴い、手術室への滅菌物の払い出しが増加している。



## ◆スタッフ

(部長) 市川 肇、(室長) 三村 麻紀子、他看護師12名、医療社会福祉士6名、事務7名

## ◆地域連携室

地域医療支援病院に必要な前方支援を担当する地域連携室の主な業務は、救急紹介患者の診療支援、紹介患者の予約診療支援、開放型病床・産科オープンシステムの支援、特殊検査の予約管理、地域連携バスの管理、広報活動などをおこなっている。

また、2025年12月からは、WEB予約およびカルテ公開システムを導入、普及、利用拡大に向けとりくんでいる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2023年度
診療予約件数	1,441	1,357	1,372	1,475	1,232	1,225	1,449	1,290	1,304	1,343	1,192	1,291	15,971	15,012
救急/入院相談受付件数	192	236	196	235	196	196	208	195	249	244	215	223	2,585	1,939
検査申込受付件数	114	112	155	122	98	106	149	114	79	99	117	111	1,367	1,336

## ◆医療福祉相談室

医療福祉相談室は、看護師とMSWが、それぞれの専門知識を活かし、患者さん・ご家族が、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、院内多職種や地域関係職種と協働して入退院を支援、また医療福祉相談などに対応している。

入院が予定された患者さんに対し、入院生活の説明や治療経過の説明等を行い、患者さん・ご家族が、安心して入院医療を受けられるように入院時支援を実施、対象者拡大に向け努めている。

退院支援では、入院後早期から病棟スタッフ等と協力しながらスムーズな退院を目指している。入退院支援加算算定件数、退院調整件数も年々増加し、回復期病院や在宅医療・介護職種との連携強化を図っている。医療福祉相談では、入院中・外来通院中の患者さんやご家族の、在宅療養に関する不安、社会福祉制度の申請やサービスに関する情報提供等を行っている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2023年度
入院時支援件数	530	516	518	616	514	480	550	445	545	552	550	583	6,399	5,738
退院調整件数	113	130	94	134	116	113	109	91	102	102	113	114	1,331	1,201
医療福祉相談件数	177	128	97	97	78	83	93	61	62	59	67	88	1,090	1,181

## ◆スタッフ

センター長：光岡 茂樹、看護師：土岐 昌世（がん化学療法CN）、MSW：松山 拓也

## ◆概要

当院は大阪府がん診療拠点病院に指定されており、2名の認定がん専門相談員の資格を持つスタッフが配置されている。がん相談支援センターでは、がん患者、家族、地域住民に対して、がんに関する信頼性のにおける情報をわかりやすく提供し、適切かつ効果的に活用できるための支援を目的とし活動している。

タイムリーかつ気軽に相談できるように予約なしでも面談や電話相談のできる体制としている。相談内容に応じて、医師、認定・専門看護師、MSW、栄養士、薬剤師など院内多職種だけでなく、院外とも連携している。また、当院の患者・家族を対象に、がんのことを気兼ねなく語り合う交流の場である「がんサロン」や外来オープンスペースを活用した情報提供の場である「オープンキャンパス」を積極的に開催している。

## ◆実績

(1) がん相談（2024年4月～2025年3月）：計933件（月平均77.8件）

厚生労働省科学研究「がん対策における進歩管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」作成の相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容を入力している。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	79	87	81	104	72	74	76	68	75	54	61	102	933

相談にこられる患者さんのがんの部位の上位件数は以下の通りであった。

相談内容	件数	対応内容	件数
乳房	200	子宮	36
肺	98	食道	35
大腸	89	前立腺	24
脾臓	63	腎臓・尿管・膀胱	15
胃	60	卵巣	14
肝臓・胆道・胆のう	40	耳鼻咽喉・口腔	7

(2) オープンキャンパス・がんサロン

院内多職種や院外専門家と連携し、年間予定に従い開催している。

開催月	オープンキャンパス	がんサロン
5月	がんについて知ろう！ がんとお金と人生会議	がんとお金のはなし
6月		心のケア・ストレスとの付き合い方
7月	よくわかる！がんの授業 「がんの基本とがん相談」	リンパ浮腫予防とセルフケア(上肢)
9月	肺がんについて・がん治療とお口の健康	椅子を使った簡単エクササイズ
10月	がん検診啓発集中キャンペーン	がんになってからのお金と仕事の話
11月		おしゃべり会
12月	(アピアランスケアについて)	スキンケアとパーソナルカラー診断
1月		がん治療と栄養について
2月		緩和ケアについて
3月	がん相談支援センターについて	一緒に作る手作り帽子

## 医療安全管理部 医療安全管理室

### ◆スタッフ

◎市川 肇医療安全管理部長、堀 美和子医療安全管理室長、看護部長、事務部長、専任リスクマネージャー1名、医療放射線管理責任者1名、薬剤師1名、医療機器安全管理責任者1名、放射線技師1名、臨床検査技師1名、計10名

### ◆概要

医療安全管理室は、専門的かつ高度な医療技術を提供する体制を確保するための基盤となる医療安全管理を行うために設置されている部門です。

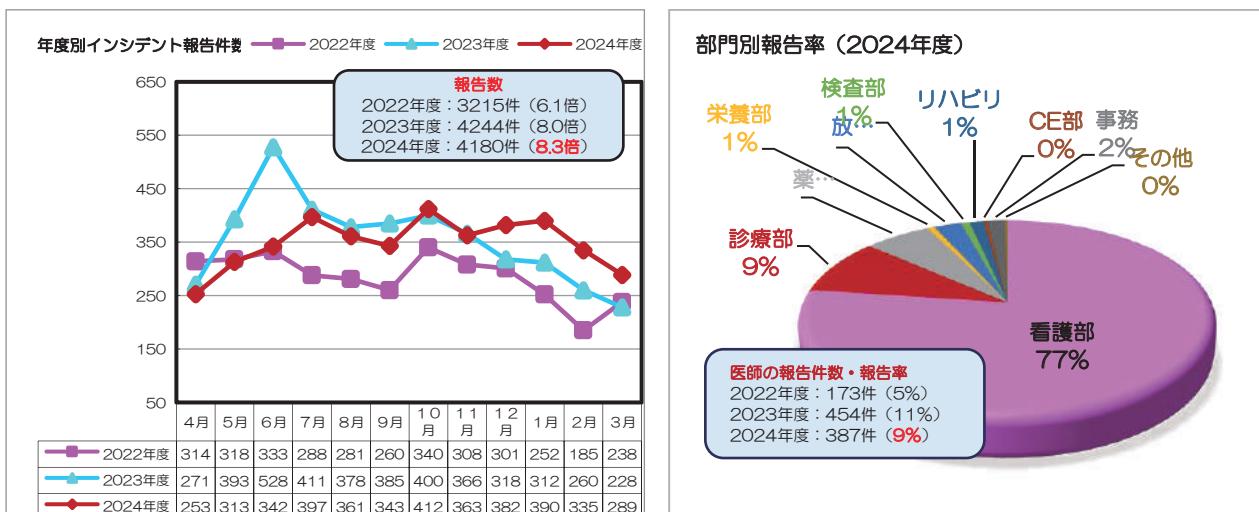
医療安全管理室では、患者さん・ご家族が安心して安全な医療を受けられる体制を構築し、かつ職員が安心して安全な医療が提供できる環境を整えることを目標として活動を行っています。医療の安全と信頼、患者さんへの医療サービスの質の向上、医療事故を未然に防止するための組織及び体制の整備、医療安全に関わる全ての職員の医療安全風土の醸成及び啓発を組織横断的に活動しています。

インシデント・アクシデント発生時は、『隠さない、逃げない、誤魔化さない』を基本方針として、いかなる場合も真実を説明し、真摯に対応していきます。

### ◆実績

2024年度目標：インシデントレポート報告数を稼働病床数の5倍以上、医師の報告率10%以上の推進と定着

(報告する文化の醸成)



※ 診療部へ医療安全情報として「医師への回覧版」を配布（1回/月）

※ 医療安全たよりの発刊（1回/2か月）

※ 医療安全教育

2回/年の講演会（参加率100%）

第1回 「RRSで未然に防ぐ！」

第2回 「患者さんとのカルテ共有を見据えたカルテの書き方」

第3回 「医療事故被害者から医療者へ伝えたいこと」

※ CVC挿入手順講習会（認定制度）

※ RCA分析：看護部が主体となり、関係した多職種が参加して実施。（2007年より導入）

※ 院内リスクパトロール

医療安全管理対策委員会で年間計画立案、多職種で実施（6回/年）

医療安全管理室内で適宜実施。（マニュアル遵守状況、インシデント発生状況・対策の検討及び共有）

## 医療情報管理部 医療情報管理室

### ◆スタッフ —

◎北山 聰明、辻川 正彦、桂 央士、樋脇 鷹

### ◆概要

医療情報管理室は1989年6月、医療情報課として病院のIT化を担うため設置されました。当初は医事会計システム中心でしたが、時代とともにオーダーリング、電子カルテシステムと拡張して参りました。現在では全ての部署に電子カルテが浸透し、また部門ごとに専用システムを導入、ITインフラ整備は一通り完了いたしました。2024年3月には3期目となる電子カルテシステムの更新を行い、長らく使用しておりましたNEC社のシステムから富士通社のシステムへとリプレイスを完了いたしました。

新病院情報システムは、パッケージ製品の電子カルテを採用するとともに、画像システムの集約化や地域連携システム稼動等のほか、国策である電子処方箋の実装も早期に実現するなど、幅広く病院情報システムの強化に着手しました。また、DXや働き方改革・業務改善への取り組みの屋台骨として重要な部門として、生成AIやスマートフォンの導入など、病院情報システム全体の構成検討にも力を入れております。2025年度にはNWインフラの更新が控えており、次世代の医療を支えるべく日々の業務に従事しております。

### ◆実績

1988(昭和63)/12	医事会計システム導入
1994(平成6)/3	医事会計システム更新
2004(平成16)/3	オーダーリングシステム (NEC Ordering system) 導入
2008(平成20)/5	電子カルテシステム (NEC MegaOakHR2.5) 導入
2015(平成27)/5	新病院への移転に合わせ、電子カルテシステム (NEC MegaOakHR R9.0.1更新)
2024(令和6)/3	電子カルテシステム (富士通 Lifemark-HX) 更新

# 医療情報部 診療情報管理室（病歴室）

## ◆スタッフ

(主任診療情報管理士) 西 奈美子、他診療情報管理士5名、事務員2名、非常勤職員1名、派遣職員2名

## ◆概要

診療情報管理室は、診療情報部門とカルテ部門との2部門で構成されています。

### 【診療情報管理】

#### ①入退院患者においての統計業務（病歴統計）

- ・月次統計(退院患者統計：退院サマリ完成率・クリティカルパス使用率・死亡退院リスト・剖検率・部位別がん登録患者数・DPC使用率・分析・分娩新生児情報集計等)
- ・年次統計（国際疾病分類別・手術件数・合併症件数・麻醉件数・分娩件数等診療科別集計表
- ・診療科別転帰統計、死亡原因別死亡数、合併症件数、麻醉件数、退院患者数等)
- ・患者情報抽出（手術別・病名別等）
- ・がん統計分析
- ・DPC入院期間分析 ・クリティカルパス分析

#### ②DPC精度管理

- ・DPC出来高差分チェック ・副傷病名確認

#### ③DPC請求の病名確認

- ・入院、退院患者のDPC病名「ICDコード」の確認、
- ・DPC基礎調査 付加コード・OP初再回・がん登録のチェック

#### ④入院患者情報入力および質的点検

- ・診療情報管理システム（メディバンク）への入院患者情報入力  
(電子カルテ・退院サマリの点検、病名コードICD-10・手術及び処置ICD-9-CM・患者情報等の登録)

#### ⑤がん登録

院内がん登録・予後調査参加・QI研究参加・神経内分泌腫瘍専門施設情報公開プログラム参加等

#### ⑥退院時サマリ管理・督促

#### ⑦診療情報開示

#### ⑧電子カルテ質的監査・手術記録確認・量的監査

#### ⑨入院すぐの手術・ICD・DPCの確認

#### ⑩電子カルテへの文書・新規スキャン・Excelチャートの管理・テンプレート作成等

#### ⑪診療情報管理・略語集管理等

### 【カルテ管理】

#### ①書類のスキャン取込

#### ②カルテ庫へID別の患者ファイル書類保管

#### ③患者ファイル管理（書類回収・ファイル新規作成・貸出・返却・未返却の督促）

#### ④紙カルテ管理（依頼のカルテ準備・返却・整理・未返却の督促）

#### ⑤保存期間超えの紙カルテ・患者ファイル管理（永久保存管理・廃棄）

◆実績

【クリティカルパス】

DPC退院期間見直し調整：全診療科

クリティカルパス登録：920件

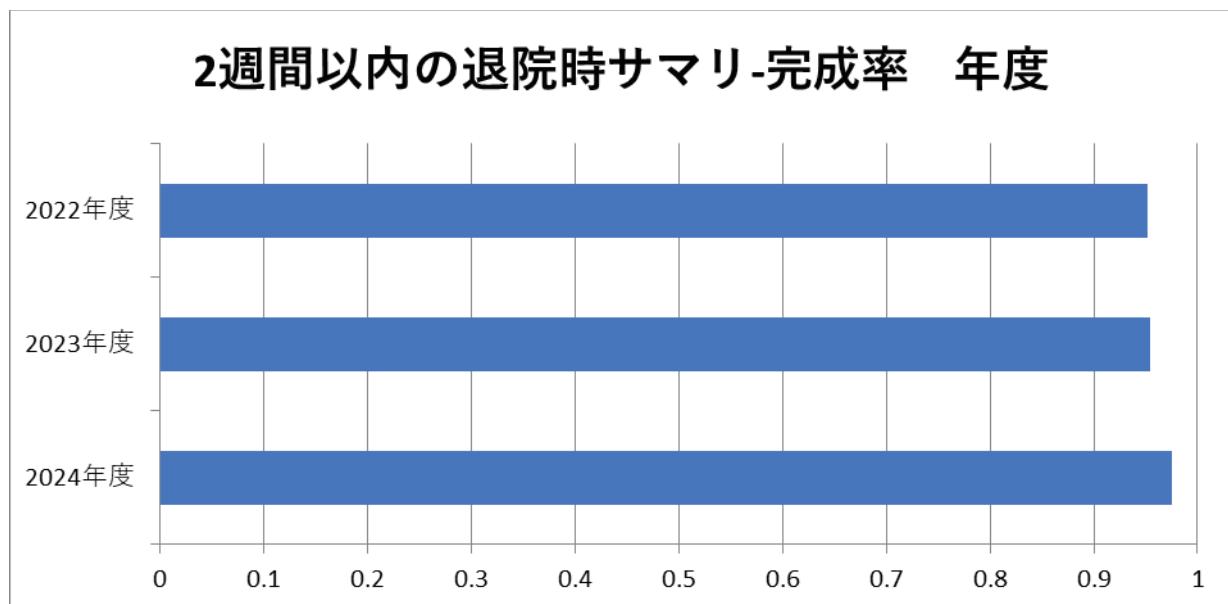
【文書統一フォーマット】

同意書文書統一フォーマット作成：約1,700件全科変更

【ICD確認・退院内容登録】

退院患者15,083人

【サマリ記載率の推移】



# 健康管理センター

## ◆スタッフ

(センター長) 金子 晃、看護師(保健師) 1名、臨床検査技師 1名、スタッフ 2名

## ◆概要

当健康管理センターは1959年(旧大阪厚生年金病院時代)に創設され、これまで多くの皆様にご利用いただきました。当センターは病院併設型の施設のため、臨床経験豊富な各科専門の医師が検査・読影・判定を行っており、また人間ドックで異常が見つかった場合には当院で精密検査を受けることができます。一日ドック・二日ドックには日本人間ドック・予防医療学会で推奨されている基本項目が含まれており、人間ドック当日に医師から結果説明を聞くことができます。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で受診者数が減少しましたが、その後予約枠の拡充や鎮静剤を使用した胃カメラの導入等により2023年、2024年は新型コロナウイルス感染症流行前と比較して受診者数が増加しています。

当院は、受診者が安心して質の高い人間ドックを受けられる健診施設として、日本人間ドック・予防医療学会より「人間ドック健診施設機能評価」の認定を受けております。今後も受診者の満足度向上のため、日々取り組んでまいります。

## ◆実績

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)利用者

【基本ドック】		【オプション項目】		
一日ドック	1056名	脳ドック	132名	VSRAD 46名
二日ドック	49名	肺がんドック	185名	骨ドック 48名
シルバー半日ドック	9名	大腸CT	71名	骨密度 11名
脳ドック(単独)	12名	大腸カメラ	92名	女性検診セット 249名
大腸CT(単独)	6名	腫瘍マーカー	461名	婦人科健診 75名
		ピロリ抗体検査	83名	乳腺超音波 61名
		内臓脂肪CT	43名	マンモグラフィ 64名
		View39(アレルギー)	33名	胃カメラ鎮静 196名
		花粉症(アレルギー)	1名	喀痰細胞診 122名
		HTLV-1抗体	18名	

### 検査別受診者

検査	受診者数	要精検者		精検受診者	
		人	率(%)	人	率(%)
上部消化管X線	60	4	6.7%	1	25.0%
上部消化管内視鏡	992	130	13.1%	122	93.8%
便潜血	1105	56	5.1%	36	64.3%
胸部X線	1103	22	2.0%	16	72.7%
マンモグラフィ	313	18	5.8%	13	72.2%
乳腺超音波	310	10	3.2%	8	80.0%
子宮頸部細胞診	321	16	5.0%	11	68.8%

### 発見がん症例

胃癌	3名	子宮体癌	1名
肺癌	1名	卵巣癌	1名
膀胱癌	1名	乳癌	1名
前立腺癌	2名		

# 大阪病院附属看護専門学校

## ◆スタッフ

(学校長) 西田 俊朗、(副校长) 谷岡 美佐枝、馬屋原 豊、(事務長) 細井 昌宏、  
(教務主任) 三浦 千里、専任教員9名、事務員2名

## ◆概要

大阪病院と附属看護専門学校が共通の「Autonomy：自律」をコンセプトとし、看護師として必要な専門的知識と技術を習得し、同時に豊かな人間性を養い、社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる自律した人物を育成することを目的としている。

第5次カリキュラム改正が行われ、新たな科目の「キャリアデザインⅡ」の中で学生が学校祭の企画運営を主体的に行っている。また、学校祭を大阪病院のオープンキャンパスと地域の区民祭りを同日に実施することで、300名あまりの来校者数となり多くの地域の方に学校祭を楽しんでいただいた。さらに「地域で暮らす人の理解」の科目では、1年生でフィールドワークや地域でのボランティアへの参加を促し、生活の基盤である地域で暮らす人を早期に理解するとともに、社会貢献をしている。

また、大学志向化および若年者の人口減少により専門学校の受験者数も減少している。本校の受験者数は今のところ維持はできているが、先を見据えて寮や奨学金などの学習環境を整えるとともに、オープンキャンパスや高校・塾への訪問などを積極的に実施し、その中で本校の特徴（JCHOのスケールメリット等）を伝え、広報活動を行っている。さらに、大阪府の看護専門学校では先駆けて放送大学とのダブルスクール制度の導入に向けて取り組んでいる。

このように、基礎教育を充実させることで質の高い看護実践者を育成し、大阪病院のみでなくJCHO組織における看護師を育成している。

## ◆実績

### 1. 令和6年度 学生数（令和6年4月現在）

	1年生	2年生	3年生	合計	充足率
学生数	43人	43人	43人	129人	107.5%

### 2. 令和6年度 卒業者の状況（令和7年3月卒業）

卒業者数	大阪病院	JCHO関連病院	その他病院	合計
37人	26人	6人	5人	37人

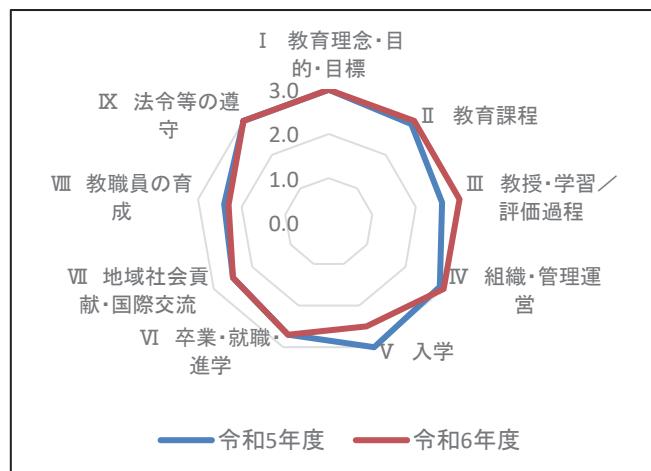
### 3. 第114回 看護師国家試験の合格率：100%（全国合格率：90.1%）

### 4. 令和7年度 入試状況

学年定員数 40人	方法		応募者数	受験者数	実施日
	推薦入試	公募推薦 社会人特別選考			
		一般入試	27人	23人	令和6年12月7日
		合計	110人	103人	

### 5. 研究活動状況：研究授業は年間10回実施、学会は発表者1名、共同研究者1名

### 6. 令和6年度 自己点検・自己評価および学校関係者評価（学校関係者評価 令和7年3月11日実施）



#### 【学校関係者評価結果の概要】

- II.III.IVでは、ケアを受ける対象者の権利を保障するため、受け持ちの同意書について検討したことや、広報活動の充実、学生への支援を強化したことで、評価は上がった。
- V.VI.VIIIでは、資料の提示不足、実施しているが充分に分析・評価ができておらず評価が下がった。PTCAサイクルを丁寧に回し、改善策を考え可視化することが課題と考える。

## チーム医療 感染対策チーム（ICT）

### ◆メンバー構成

◎長田 学、◎鴨井 博、井上 泰輔、小井 里香、安藤 祐璃、福田 央子、筒井 孝一、井上 敬之、吉田 美奈、中野 友寛、丸山 華穂

### ◆概要

<重点目標>

1. 標準予防策（手指衛生）の徹底
2. 手術部位感染（SSI）発生率の低減とMRSA保菌者に対する術前抗菌薬の検討  
(人工膝関節手術（TKA）0.6%以下、心臓血管外科開胸手術SSIサーベイランス開始)
3. 末梢留置カテーテルサーベイランスの実施

### ◆実績

1. 手指衛生の過程を評価する手指衛生直接観察を実施した（2024年10月）。患者接触前、患者接触後、点滴作成前、パソコン操作後の4つのタイミングを観察した。1500機会観察し、実施率は54%であった。特に患者接触前の実施率が40%と低かった。1患者1日当たりの手指衛生回数は2023年度11.3回から2024年度は10.8回と低下した。今後、手指衛生直接観察を継続的に実施し、手指衛生が習慣化する取り組みが今後の課題である。
2. TKAのSSI発生率は2023年0.6%（SSI発生1件）、2024年1.2%（SSI発生2件）であった。人工関節手術はハイリスク手術であり、MRSA保菌者の予防抗菌薬にVCM使用について提案し、院内感染対策委員会で承認を得た。2025年1月のTKA対象症例に鼻腔培養検査を実施し、MRSA保菌者にVCM予防抗菌薬投与ができるよう、仕組みを構築した。  
2024年7月より心臓血管外科開胸手術でSSIサーベイランスを開始した。対象手術件数は27件でSSI発生件数1件、SSI発生率は3.7%であった。
3. 末梢留置カテーテルの留置期間を延長（4日→7日）することを目的に、サーベイランスを実施した。プロセスサーベイランスも併せて実施し、対象病棟スタッフ全員にカテーテル感染防止技術の自己評価、他者評価を前期・後期の2回実施し、技術の徹底を図った。データ収集期間は前期4週間、後期は留置期間を7日間に延長し6週間実施した。カテーテル使用比（のべカテーテル使用日数/のべ入院患者数）は前期0.3、後期0.32、感染発生は前期・後期ともに0件であった。

## チーム医療 椎瘡対策チーム

### ◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員

### ◆概要

【目的】褥瘡発生および重症化を予防し、褥瘡対策における医療の質向上を目指す。

#### 【活動内容】

褥瘡対策委員会 開催（月1回）

褥瘡回診・カンファレンス（毎週）

褥瘡に関する診療計画書の作成・褥瘡予防治療計画書の作成、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定期圧用具の適正使用、管理

褥瘡に関するコスト算定状況の把握

褥瘡対策講演会

院内職員向けYouTube配信 日時：2025年1月27日～2025年2月28日のべ視聴者数：319名

看護師対象ラダー別研修実施

オープンキャンパス開催（患者対象）

褥瘡を保有した状態で退院し地域で療養を続ける方や、褥瘡発生リスクの高い方については、在宅でも褥瘡が発生しないように地域の医師や看護師、施設などと連携しています。

### ◆実績

褥瘡発生率（褥瘡発生数/延べ入院患者数×1000）=0.36

褥瘡推定発生率（（調査日に褥瘡を保有する患者数－入院時すでに褥瘡保有が記録されていた患者数）/調査日の施設入院患者数×100）=0.83

褥瘡対策に関する診療計画書の作成 4,144件、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定期数 2,216件

## チーム医療 栄養サポートチーム (NST : Nutrition support team)

### ◆メンバー構成

医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士

### ◆概要

『栄養』とは、全ての治療行為の土台となる重要なものです。栄養サポートチーム(NST:Nutrition Support Team)は主治医と連携して、患者さんの治療を栄養面から支えます。あらゆる診療科の患者さんに対し、栄養状態の評価と栄養不良時の栄養管理を行い、手術・薬物療法など各専門科の治療が安全・円滑に進むように支援します。

経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養といった栄養投与経路およびデバイスの提案、病態や摂食嚥下機能に応じた食事・栄養補助食品の提案、経腸栄養・経静脈栄養メニューの提案など、入院中だけでなく退院後の生活も踏まえた適正な栄養管理について継続的に提案・支援します。経腸栄養による下痢など栄養管理におけるトラブルにも対処します。

患者さんが少しでもよくなることを願い、チーム一丸となって活動しています。

### ◆実績

日本栄養治療学会 NST稼働施設認定

2024年度：栄養サポートチーム回診件数 686件

栄養サポートチーム加算算定件数 660件

## チーム医療 ブレストチーム

### ◆メンバー構成

乳腺内分泌外科医師、看護師（乳がん看護認定看護師など）、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士

### ◆概要

乳がんの治療には、手術・放射線治療・薬物療法（化学療法薬・ホルモン療法薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬）があり、これらの治療を単独あるいは複数を組み合わせて行います。がんのサブタイプや病期・年齢・全身状態・併存疾患の有無などに加え、患者さんの希望を考慮し治療法を決定します。また、治療期間は術後の経過観察を含めますと10年以上と長期に及ぶため、この間、治療を納得して円滑に行うためには、治療に伴う副作用対策や心理・社会的な問題に対するサポート体制が重要です。患者さんがより良い環境で標準治療を安心して受けて頂けるよう、院内外の医療従事者が協力・連携したチーム医療を行っています。

乳がんは、早期発見できれば治癒が可能な疾患です。乳がん検診をはじめ、各治療期～終末期まで、多職種医療チーム・患者会のがんサバイバーの方々とも協力しながら、乳がん患者さんとご家族が、その方らしい生活ができるようサポートしています。

### ◆実績

●ピンクリボンキャンペーン in JCHO大阪病院（2024年10月1日～31日の1か月間）

J.M.Sプログラムとして、10月20日(日)に乳がん検診を実施。検診者16名。

●第34回乳がん患者会「つながり」総会の開催

日 程：2024年10月12日(土)

●乳がん検診

毎週木曜、第4週の水曜に乳がん検診、毎週月曜の女性がん検診（乳がん検診と婦人科検診）

2024年度検診者438名

**◆メンバー構成**

医師（緩和医療学会認定医など）、看護師（がん看護専門看護師）、薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師）、管理栄養士、理学療法士、公認心理士など

**◆概要**

## &lt;活動内容&gt;

**●緩和ケアチームラウンド**

適宜、専従看護師を中心に緩和ケアチームメンバーがベッドサイドへ訪問し、症状の評価や薬剤の提案、ケアの実施・提案、依頼者とカンファレンスを行い、必要時は他職種連携を行う。

**●緩和ケアチームカンファレンス・チーム回診**

週1回緩和ケアチームメンバー全員で症例検討を行い、回診を実施している。

**●緩和ケア研修会開催（参加者22件）****◆実績**

新規依頼件数合計は214件（前年度192件）と増加した。呼吸器内科、消化器内科、消化器外科の順で依頼数が多かった。介入時のPSが良い患者や治療中の患者が多いことは、早期から緩和ケア介入ができると考えられる。

**◆メンバー構成**

医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士

**◆概要**

呼吸ケアチームは、2010年6月より活動を開始しました。一般病棟において48時間以上継続して人工呼吸器を装着し、装着日から1ヶ月以内の患者さんを対象に、人工呼吸器離脱に向け適切な人工呼吸器の設定や口腔状態の管理などを総合的に行うことを目的に活動しております。

活動内容は、

- ①抜管に向けた適切な鎮静や呼吸器の設定についての検討
- ②人工呼吸器の安全管理
- ③口腔内の衛生管理
- ④廃用予防のケア
- ⑤呼吸リハビリテーション
- ⑥人工呼吸器関連肺炎予防のケアなどの実施や指導・相談です。

当院では、人工呼吸器離脱を目指した管理は集中治療室で行うことが多いため、呼吸ケアチームの役割は呼吸器からの離脱を目指すというより、安全・安楽な人工呼吸管理を行うことを目的とした活動が多いのが現状です。一般病棟では、経験の少ない人工呼吸器装着患者さんに対して、多方面からの介入を行うことで、安全で質の高い医療・看護の提供ができるように活動を続けていきます。

## ◆メンバー構成

医師、看護師、義肢装具士、理学療法士

## ◆概要

糖尿病足潰瘍、重症虚血肢の治療・看護の方針をチームで検討、足病変の早期発見および重症化の予防。

## ◆実績

## 1. フットケア外来

- 2024年5月～7月糖尿病内科通院患者に「足チェックシート」による足のスクリーニング実施
- 糖尿病合併症管理料算定件数：783件（2024年1月～12月）

## 2. 血液浄化センターフットケア回診

- 1) 必要時実施し、下肢末梢管理加算を算定

## 3. フットケアチームミーティング

定例会（月1回開催）

困難症例について適宜検討会を実施

地域講演会に向けての準備・調整

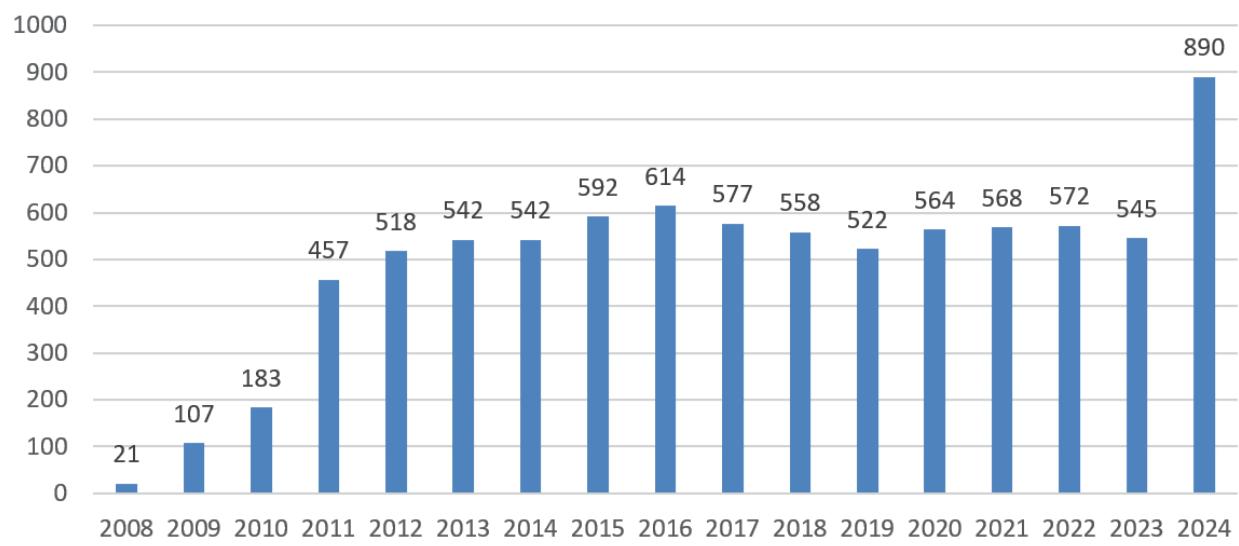
## 4. フットケア・スキンケア検討会開催：地域対象

- 2024年度は12月15日（日）に第8回フットケア・スキンケア講演会実施。  
爪切り・圧迫療法などの体験コーナーを合わせて実施。

## 【次年度に向けて】

- 後方支援病院とのネットワークづくり、連携の強化・推進
- 院内チーム活動の連携の強化、理学療法士参画による拡充
- 地域医療のフットケアに対する、知識や情報の提供と連携
- 院内の足へのスキンケアレベルの強化

## 糖尿病合併症管理料



◆メンバー構成

医師、看護師、MSW、事務員

◆概要

全国的に児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、障がい者虐待は増加傾向にあり、当院でも虐待対応の体制を整え、行政への通報や支援の依頼を行い対応している。患者の権利を守り、患者と家族の健全な家庭関係構築を目指して、2021年に虐待対策委員会を発足、現在年3回定期例会を開催している。委員会メンバーは医師、看護師、MSW、事務員と多職種にわたっている。症例発生時の対応を明確化するために、院内虐待対応マニュアルを作成し、病院職員全体で対応に取り組んでいる。

迅速かつ適切な治療や支援を行うために小委員会として児童虐待対策チーム、家庭内暴力対策チーム、高齢者虐待対策チーム、障がい者虐待対策チームを設置しており、各チームは医師、看護師、MSWで構成されている。症例発生時は当該部署と各チームで情報共有を行うとともに必要時はカンファレンスを開催して対応を検討し、積極的に行政など相談窓口との連携も行っている。

◆実績

・2024年度新規虐待対応件数

児童虐待：8件

家庭内暴力：1件

高齢者虐待：6件

障がい者虐待：0件

・養育支援研修会(年2回)

・新規採用者オリエンテーション(年1回)

「当院における虐待対応について」

### ◆メンバー構成

医師、看護師、PSW、作業療法士、薬剤師、事務員

### ◆概要

超高齢化社会となり、高齢者、特に認知症高齢者の入院がますます多くなることが予想されます。認知症高齢者が入院するとせん妄の発症や環境の変化に適応できず行動・心理症状(BPSD)が出現し、退院の遅延・自宅での生活が困難となる、認知機能やADL がさらに低下するなどの問題が生じやすいのが現状です。そのため、認知症患者のケアの質の向上を図ることで認知症高齢者が安心して身体治療を受け、早期に住み慣れた場所に戻ることを目標に活動を行っています。かかりつけ医の先生方にも信頼してご紹介いただけるような病院となることを目指し、多職種でのチーム活動を行っています。

### ◆実績

認知症ケアチーム回診新規患者数・回診件数・算定件数

	R4年度	R5年度	R6年度
依頼患者数	765	634	757
認知症ケア加算1算定回数	9966	7828	8807

依頼内容

せん妄予防	430	身体拘束解除	17
症状コントロール	435	意思決定支援	23
BPSDへの対応	82	家族支援	16
コミュニケーション支援	74	その他	4
生活機能の改善	104		

※複数依頼含

### ◆メンバー構成

医師、看護師、リハビリテーション技師、MSW、薬剤師をはじめとする多職種

### ◆概要

当院では、腫瘍疾患に対する診断・治療方針を多角的に検討するため、腫瘍カンファレンスを開催しています。腫瘍内科、外科、放射線治療科、病理診断科、画像診断科をはじめ、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士、医療ソーシャルワーカー（MSW）、事務部門など多職種が参加し、チーム全体で患者さんに最適な治療と支援を提供できるよう議論を重ねています。

カンファレンスでは、診療ガイドラインや最新のエビデンスを踏まえつつ、患者さんの全身状態、生活環境、社会的背景、栄養状態などを総合的に評価し、個々のニーズに応じた治療戦略を検討しています。さらに、参加職種間で情報を共有することで、医療の質向上と安全性の確保に努めています。

今後も本カンファレンスを通じ、医療・福祉・事務の各部門が一体となって、地域のがん診療の中核としての役割を果たし、患者さんとご家族に寄り添った最善の医療を提供してまいります。

## ◆スタッフ

看護部長	谷岡 美佐枝		
副看護部長	岩田 富美	中村 明美	田中 真由美
所属	看護師長	所属	看護師長
教育担当	森本結美	12階東病棟	北由美
看護外来担当	清水加世子	12階西病棟	松岡亜紀
がん看護担当	志方優子	13階西病棟	森田玲子
糖尿病看護担当	前田結香	ICU	東城夏恵
病床管理担当	遠藤聖美	手術室	藤原千佳
母子医療センター	高橋唯	外来(一般診療)	鈴木志帆
8階西病棟	峯真由美		下田真代
8階南病棟	今井康乃	外来治療センター	今井康乃(併任)
9階東病棟	長辻玲子	内視鏡センター	福永花子(併任)
SCU	長辻玲子(併任)	血液浄化センター	玉置ひろみ(併任)
9階西病棟	金森恵子	救急室	松山佳子
10階東病棟	福永花子	放射線科	松山佳子(併任)
10階西病棟	藤澤千穂	医療福祉相談室	細井きみ江
11階東病棟	狩野智恵	医療福祉相談部	三村麻紀子
11階西病棟	玉置ひろみ	医療安全管理室	堀美和子

## ◆看護部の理念

地域住民の健康で幸福な生活を支える看護

## ◆2024年度 看護部重点目標及び評価

## 目標1. 選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

## 【主な活動内容】

- 効果的な病床運営を行う
- 診療報酬算定件数の増加
- 増える救急要請への柔軟な対応

## 【結果・評価】

病院の方針に準じた病床管理を展開したが、4・5月の低迷による稼働率が影響し、病床稼働はKPIを達成できなかつた。その他のKPIについてはほぼ達成した。

## 目標2. 患者サービス向上に向けた体制整備を行う

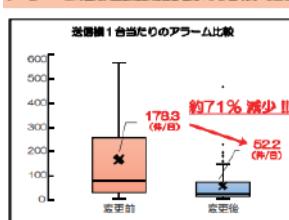
## 【主な活動内容】

病院機能評価受診の準備と評価後の整備  
モニターアラーム対応力の向上

## 【結果・評価】

S評価×5 B評価×5 A評価×78 C評価なし  
アラーム設定を変更することで、患者の安全を確保し、業務環境の改善が図れた。

## アラーム設定変更前後の比較(送信機1台当たりのアラーム鳴動件数)



「静かになった」との意見が多く聞かれた。  
アラームに対して「音量が変わった」「音量が高くなった」という意見があった。  
今回のアラーム設定以降にモニターでの見落とし等のトラブルは確認されていない。



## 目標3. 急性期病院として社会のニーズと変化に対応した人材を育成する

## 【主な活動内容】

看護管理者の育成  
主任(内部呼称)看護師の配置  
副師長登用試験受験への支援を実施

## 【結果・評価】

認定看護管理者教育課程受講者  
ファースト6名 セカンド0名  
認定看護管理者認定審査合格者 1名  
主任(内部呼称)看護師の配置 15名  
うち4名が副看護師長となった  
副師長登用試験の合格者 5名(合格率100%)

## 目標4. お互いに対話し、協働できる職場づくりを行う

## 【主な活動内容】

看護補助者へのタスクシフト・シェアの推進  
昨年尾に引き続き、職員満足度調査を実施した。

## 【結果・評価】

直接ケアが実施できる補助者と適切に指示を出せる看護師の育成が課題である。  
職員満足度調査は、昨年度の結果と概ね変化なし。他病院と比較して、高いレベルに位置していた。

## 目標5. 地域住民の暮らしと健康を支えるための啓発・教育活動を継続する

## 【主な活動内容】

①地域住民への教育・研修を実施した。  
②地域の医療・介護従事者への教育・研修を実施した。

## 【結果・評価】

①663回、②263回開催ができた。地域の医療者向け研修は、JCHO内で最高回数であった。

◆看護部の委員会の活動状況

各種会議・委員会名	委員長	主な活動
看護師長会	谷岡 美佐枝	2024年度看護部重点目標を達成にむけての活動を行った。また、看護部内で生じる問題や課題について検討し、よりよい看護の提供に努めた。
副看護師長会	谷岡 美佐枝	2023年度に引き続き、4グループに分かれてQC活動を実施した。 テーマ「医師との対話でteam力up」「挨拶でつながる心の輪」「薬剤部・看護部のハーモニー」「仕事のやりがい度アップ！」
教育運営会議	中村 明美	日本看護協会の「生涯学習ガイドライン」をもとに、当院の教育目標などの再確認を行った。看護部教育理念の実現に向け生涯学習の基盤作りを行った。
看護ケア推進会議	中村 明美	看護の質向上に向けて、看護部委員会・ワーキンググループの開催方法を変更した。毎月委員会を開催せず、一定期間現場で課題に取り組み、PDCAを回した結果を委員会で意見交換し、次の取り組みを共有する場となった。
看護の質評価委員会	中村 明美	病院機能評価受審の準備に加えて、今年度から全病棟でDiNQLに取り組んだ。また、例年実施している構造評価・過程評価に加え、PX調査を実施した。
臨床教育委員会	森本 結美	看護部教育計画の実施、評価を行い、自律して学び続ける看護職員の育成に向けて、看護実践習熟度段階に沿った次年度の研修立案を検討した。また、2年目看護師への継続的な支援体制強化を検討し、計画表の作成を行った。
学生教育委員会	森本 結美	効果的な臨地実習に繋げるために、看護学校教員と共に現状の把握を行い、看護学生支援や指導者の育成について取り組みを行った。
記録委員会	狩野 智恵	2024年度3月に更新とされた電子カルテ上での看護過程の展開を中心に記録マニュアル改定を実施した。看護過程評価では前年度と比較しポイント低下しており、今後新カルテでの記録について教育を強化することが課題である。
看護サービス委員会	松山 佳子	接遇マニュアルの改訂、接遇啓発の標語を検討し、年4回掲示した。前年度一部業務改善に取り組み、調査の結果、前残業、情報収集等に減少が認められた。
安全管理委員会	北由 美	積極的なレポート提出を促し、年間4177件（うち0-1レベル3071件）の提出があった。関連職種間で対話し、対策立案、業務改善に繋げることができた。
がん看護運営委員会	志方 優子	「生活のしやすさに関する質問票」の結果評価をデータ化したこと、自部署の傾向や課題が明らかとなり、患者の苦痛緩和に向けた対応策まで検討できた。
看護部審査会（研究審査）	中村 明美	院内研究者の倫理審査6件、院外研究者の倫理審査82件であった。学会発表者は3名であった。
看護部審査会（ラダー審査）	中村 明美	7.10月にラダー審査を実施した。 例年実施している年度末の審査は、新ラダーへの変更があり、実施していない。
感染予防実行委員会	小井 里香	快適な病床環境提供のため、環境整備実施のための仕組みを見直した。看護補助者に業務委譲した10部署中、仕組みが機能していたのは2部署であった。
褥瘡対策実行委員会	清水 加世子	各部署で褥瘡ハイリスク患者のケースカンファレンスを行い、褥瘡予防・改善にむけたケアの実践をめざした。今後も、予防介入を継続していく。
入退院支援実行委員会	細井 きみ江	各部署の課題解決に向けて多職種との退院目標の共有や連携方法について検討。訪問看護ステーションとの連絡会開催（2回/年）し、意見交換を実施した。
摂食嚥下・栄養管理実行委員会	吉田 文子	早期より栄養・口腔・嚥下評価を行い、対象に応じた栄養改善に取り組んだ。SGA評価率の向上、栄養介入が必要な患者の看護計画立案は課題である。
認知症ケア実行委員会	富永 純子	認知症患者様が環境が変わることでの混乱を最小限にし、適切な治療を受け、住み慣れた場所へ戻る支援体制を整えられるよう活動しています。
クリティカルケア実行委員会	景山 恵利	患者の急変予測ができる目的にNEWS2スコア運用開始し、該当患者は医師への報告やカンファレンスを実施。搬送基準にも活用開始した。
クリティカルパス・看護基準委員会	藤澤 千穂	新カルテでのデータ集積・活用に向け、アウトカム評価やバリアンス評価を確実に入力するよう各部署取り組んだ。また患者バス修正に向け方向性を定めた。
看護手順委員会	峯真由美	看護手順の見直しを1回/年行っている。2024年度は電子カルテの移行もあり、新システムに合った手順になるよう重点的に修正を行った。各部署が責任を持ち安全に実施できるかといった視点を持ち改訂を行った。
看護補助者委員会	岩田 富美	感染防止・経費削減の視点で業務改善を実施した。年間、アンダーパッドは33,250円の削減、ELシーツは351,800円の削減、消臭ビーズは使用廃止した。耐圧分散寝具は、故障がないよう取り扱いについて勉強会を開催した。
特定行為研修修了者委員会	中村 明美	2024年度より、JCHO大阪病院において特定行為研修修了者が安全に特定行為実践を行い、医療の質の向上を目指すために『特定行為研修修了者委員会』を立ち上げた。実施マニュアルなどを作成し、体制整備を行った。

◆教育全般

1. 資格取得者、長期研修修了者数

2025年度3月末現在

専門看護師	1	認定看護管理者	3
認定看護師	15	サードレベル修了者	2
特定行為研修修了者	17	セカンドレベル修了者	21
		ファーストレベル修了者	48

新人看護師一人あたりの研修合計時間 319時間 35名が受講を修了した

2. 院内研修

1) 新人看護職員研修プログラム

研修名		
新採用時研修	看護倫理	メンタルヘルス
3ヶ月研修	看護過程	コミュニケーション
6ヶ月研修	看護記録	スキンケア
9ヶ月研修	救急看護	感染
12ヶ月研修	TeamSTEPPS	がん看護
災害看護	摂食嚥下障害看護	ジョブローテーション研修
入退院支援	高齢者・認知症看護	フィジカルアセスメント（呼吸・循環・脳）
周手術期看護		重症度、医療・看護必要度研修

今年度4月の新人看護師は36名であった。新人看護職員研修として23項の研修を計画し実施した。

看護基礎教育から組織社会化への移行をスムーズにする目的として、2023年度から導入した集合研修とジョブローテーション研修を継続して行った。今年度より定期的な個人面談を開始し、看護部全体による教育支援を開始した。今年度の離職率は5.5%と低値を維持する事ができた。

## 2) クリニカルラダー別教育計画

研修名	受講者数	研修名	受講者数
看護倫理Step1	13	新人看護職員実地指導者研修Part1	9
看護倫理Step2	13	新人看護職員実地指導者研修Part2	9
看護倫理Step3	11	教育担当者研修Part1	6
看護過程Ⅱ	39	教育担当者研修Part2	6
リーダーシップⅡ - 1	42	実習指導者研修Part1	12
リーダーシップⅡ - 2	29	実習指導者研修Part2	9
リーダーシップⅢ	18	プリセプターシップ研修	39
フィジカルアセスメントⅡ	18	プリセプターフォローアップ研修	28
入退院支援Ⅱ	20	スキンケアⅡ	26
入退院支援Ⅲ	6	スキンケアⅢ	8
院内留学	3	高齢者・認知症看護Ⅱ Step1	22
がん看護Ⅱ	12	高齢者・認知症看護Ⅱ Step2	16
感染管理Ⅱ	22	スペシャリスト留学（がん・WOC・糖尿病）	3
感染管理Ⅲ	9	摂食嚥下障害看護Ⅱ Step1	18
摂食嚥下障害看護Ⅲ	7	摂食嚥下障害看護Ⅱ Step2	6

今年度のクリニカルラダー別教育研修として、30項目の研修を計画し実施した。

看護職は人々の期待に応え役割を發揮するために、変化する社会やニーズに合わせて新たな知識や技術を学び直し、継続的な学習を主体的に取り組むことが必要である。

そのため、次年度に向け、看護実践能力習熟段階の評価表への変更と当院の理念・方針、看護部教育理念・目的・目標の沿いクリニカルラダー別教育研修の見直しを行った。

今年度の看護職員離職率は13%であった。2年目看護師の離職率は、17.3%であった。そのため、2年目看護師の教育体制の強化を行い、2年目看護師教育計画表、支援看護師の配置、集合研修を次年度より計画した。

## 3) 看護補助者

4月より看護婦補助者5段階キャリアラダーの運用を開始した。副看護師長に他者評価の権限を付与し看護師と看護補助者の共同推進を目指した。新たなキャリアラダーに基づいた研修会の企画をした。

研修名	目標	対象	学研 e-learning
概論	組織の機能、看護補助者の役割を理解できる。	看護補助者 全員	[BAA2401-a] 医療制度の概要および 病院の機能と組織の理解 16分 [BAA2402] チームの一員としての看護補助者業務の理解 19分
労働安全衛生	メンタルヘルス・ハラスマントに関する基礎知識を習得し自らの言動・行動を考えることができる	看護補助者 全員	[BAA2404-a] 労働安全衛生について 11分
倫理	看護補助者に求められる倫理について理解できる	看護補助者 全員	[BAA2406-a] 医療現場における倫理 18分 [BAA2403-a] 医療現場における守秘義務 10分
接遇	看護補助者に求められる接遇やコミュニケーションについて理解できる	看護補助者 全員	[CK2401-a] 信頼関係を築く医療接遇の在り方 15分
清拭 おむつ交換 寝衣交換 食事介助	①周辺業務・直接ケアに必要な知識・技術を習得できる。 ②ボディメカニクスを理解し援助ができる ③援助実施前後の環境調整の必要性が理解できる ④清拭、おむつ、体位変換の方法が理解できる ⑤安全に食事ができる援助の方法が理解できる	直接ケアを行なう(ラダーⅢ)	[BAA2409] 清潔のお世話～清拭、洗髪～約10分 [BAA2410] 排泄のお世話～排尿、排便のお世話など～20分 [BAA2411] 食事のお世話～食事介助の基本～26分
移乗・移送	ラダーⅡ：安全な車椅子の移乗方法と移送方法の留意点を理解し実施できる。 ラダーⅢ：安全な車椅子の移乗方法と移送方法の留意点を理解しラダーⅡ・Ⅲの看護補助者に指導ができる。	看護補助者 (ラダーⅡ・Ⅲ)	[BA2414] 移動のお世話～歩行、車椅子、ストレッチャー、スライディングサポート～ 12分
認知症	周辺業務・直接ケアに必要な知識・技術を習得できる。	看護補助者 全員	[BAA2418] 認知症患者の対応 16分
コミュニケーションⅠ	看護補助者として行動するためのコミュニケーション技術について学ぶ	看護補助者 (ラダーⅠ・Ⅱ)	[CA2403-c] チーム医療における医療対話推進のスキル 9分
<b>●集合研修</b>			
研修名	目標	対象	学研 e-learning
コミュニケーションⅡ	看護補助者として行動するためのコミュニケーション技術について学ぶ	看護補助者 (ラダーⅢ)	[CA2403-c] チーム医療における医療対話推進のスキル 9分 e-ラン視聴後ロールプレーティング
フォロワーシップ	フォローアップについて知識を習得できる。	看護補助者 (ラダーⅣ)	[ALA2453] メンバーシップ・フォローアップ e-ラン視聴後ロールプレーティング
感染・安全	安全な療養環境を提供するための知識を習得できる。	看護補助者 全員	講義

## 看護部門 母子医療センター（8階東病棟・NICU）

（看護師長）高橋 唯、助産師29名、看護師5名 産婦人科：18床 小児科：6床

### ◆重点目標と実績

8階東病棟とNICUは“母子医療センター”として産科医、小児科医、助産師、看護師が24時間体制で連携・協働し、安全な周産期管理を目標に、正常分娩だけでなくハイリスク分娩や新生児管理を行っている。

2024年度は、産婦のニーズに応えるため無痛分娩の体制を整備するとともに、産後ケア受け入れ体制の強化、パーソナルマタニティクラスの導入、マタニティクラスのハイブリッド開催などに取り組み、子育て世代包括支援に貢献した。2024年度の実績は、分娩件数475件／年、無痛分娩件数76件／年、産後ケア利用者数のべ123名／年であり、いずれも2023年度を上回ることができた。

## 看護部門 9階東病棟

（看護師長）長辻 玲子、看護師24名 脳神経外科・脳神経内科・整形外科 39床

### ◆概要

9階東病棟は、脳神経外科、脳神経内科、整形外科の混合病棟である。入院患者の内訳は脳外科疾患患者が35%、脳内科疾患患者が33%、整形外科疾患患者が24%である。脳外科・脳内科疾患患者の約半数は脳卒中疾患である。整形外科患者のほとんどは脊椎疾患であり手術目的である。急性期の看護を実践するとともに在宅療養支援を重点に行っている部署である。

### ◆実績

1)予定入院患者、救急患者、転入患者をスムーズに受け入れ、効果的な病床運営を行うために新入院患者636名 病床稼働率87%の維持を目指とした。オープンキャンパスを実施し広報活動に努めた。結果、新入院患者数は、725名で目標値に達したが、稼働率は86.8%であり目標値に若干到達できなかった。2) SCU・他職種とともに在宅療養支援を実施し、DPC II期末までの退院、転院を目指し約63%の患者がII期末までに退院、転院をすることができた。

## 看護部門 SCU（脳卒中ケアユニット）

（看護師長）長辻 玲子 看護師17名 脳神経外科 脳神経内科 9床

### ◆概要

脳卒中ケアユニットは全室個室9床を有し、急性期の脳卒中（脳出血・脳梗塞・くも膜下出血）患者を対象としている。脳卒中発症初期から、医師・看護師・多職種協働し急性期の脳卒中患者の回復促進に努めている。

### ◆実績

1)緊急入院・院内発症患者のスムーズな受け入れができるよう病床管理を行い、緊急入院患者342名 病床稼働率96%の維持を目指したが、緊急入院患者313名、病床稼働率94.3%と目標値に達することができなかった。

2)患者サービス向上に向けた体制整備を行うことを目標に、嚥下障害を有した脳卒中患者の経口摂取再獲得に向けた摂食機能療法を1020件実施した。

## 看護部門 9階西病棟

（看護師長）金森 恵子 看護師28名 循環器内科・心臓血管外科：45床

### ◆重点目標と実績

9階西病棟は、慢性疾患を抱える高齢者の入院が多い病棟である。その為、住み慣れた地域へ早期退院することができるよう、入院早期から患者様、家族様の退院目標を確認し、多職種、医療・介護従事者と情報共有や連携強化を行い早期退院することができるよう支援を実践している。

また、慢性疾患患者をサポートする為ハートチームをつくり、医師、看護師、理学療法士、栄養部、薬剤部と共に患者様、家族様を多職種でサポートしている。心不全に関する知識向上に向けて心不全教室のDVD指導や個別指導、その人らしく生きることができるよう、患者様、家族様が大事にしている思いを確認しながらACPにも力をいれている。今後は、ACPの質向上に向けた取り組みが課題である。

## 看護部門

# 10階東病棟

(看護師長) 福永 花子、10階東病棟看護師20名 内視鏡センター看護師9名 消化器内科：45病床

### ◆重点目標と実績

1. 選ばれる急性期病院になるため病院経営に参画する。

目標値：病床稼働率 87%以上 EMRとESDの合計件数 1200件/年 消化管内視鏡手術600件/年

2024年より消化器内科病棟と内視鏡センターが一つの部署となった。今まで以上に連携を強化し、緊急治療検査や緊急入院を円滑に受け入れ、安全な医療を提供できるよう努めた。

結果：年間653名の緊急入院患者を受け入れ、病床稼働率は87.2%と目標を達成できた。

EMRとESDの合計件数は1126件/年 消化管内視鏡手術626件/年となった。

今後も消化器疾患の診断期から終末期と幅広い病期にわたる患者さんへ質の高い医療を提供していく。

## 看護部門

# 10階西病棟

(看護師長) 藤澤 千穂、看護師24名 消化器外科・消化器内科・歯科：45床

### ◆重点目標と実績

10階西病棟は消化器外科を主とした混合病棟であり、緊急入院・緊急手術の対応や、手術以外の急性期から終末期までの入院治療が必要な方へ専門性を活かした看護を提供している。2024年度は、効果的な病床運営ができることを目標に病床稼働率87%を目指す。結果、1日平均患者数38.2人（病床稼働率85%）緊急入院34%であった。科別稼働率は消化器外科84.3%、消化器内科68%、歯科口腔外科46.6%であった。

看護師の育成においては、院内研修だけでなく、がん看護・ACP・急変対応など院外研修に積極的に参加し実践力向上に取り組んだ。また部署での急変経験から、NEWS2スコアの活用やRRSTへの早期相談の重要性を認識しクリティカルケアの実践強化に取り組み、呼吸数測定率は98%、スコアをもとにしたカンファレンス実施率は78%に上昇した。

## 看護部門

# 11階東病棟

(看護師長) 狩野 智恵、看護師24名 呼吸器センター（呼吸器内科・呼吸器外科）：45床

### ◆重点目標と実績

#### 1. 呼吸器センターとして効率的な病床管理を行う

1) 入院患者1日平均38名以上、病床稼働率88% (KPI)

2) DPC II期以内退院72%

新入院患者数1011名（▲136名）内直入患者481名（▲92名）病床稼働率84.3%（前年83.2%）

平均在院日数12.5日（前年14.4日）回転数33.2（前年29.8）DPC II期以内の退院58%（前年56.8%）

病棟看護師全員が退院支援できるように病棟目標として掲げ、医師・MSW・薬剤師・理学療法士と連携強化することで平均在院日数は短縮し、新入院患者数が増加した。緊急入院も年間92名増加。

目標値には至らなかったが、病床の効率的な運用には繋がった。

#### 2. 患者の尊厳を大切にし、呼吸器疾患患者のニーズに合った看護を提供する

病床編成によって呼吸器センター専門病棟となり、呼吸器疾患のクリティカルケア・肺がん看護・慢性疾患看護の向上が求められる。手術件数156件と倍増。肺癌手術の増加に伴い診断や補助療法の患者も増加。

呼吸器患者の看護のため医師とともに勉強会を実施。また、医師を含む他職種とのカンファレンスを開催。

特定行為受講者2名、ICLS受講1名、ELNEC受講1名

年間死亡患者数45名/年。デスカンファレンス、倫理検討を実施し振り返りを実施。意思決定支援の強化は今後の課題。

#### 3. 看護の質を担保したタスクシフト・業務整理を行いWLBを改善させる

業務整理、補助者との協働により一人当たりの超過勤務時間は20時間から13時間/月へ減少。平均有給休暇11日取得。離職は前年度から決定していた1名のみ。褥瘡発生率・転倒率とも減少。

## 看護部門

# 11階西病棟

(看護師長) 玉置 ひろみ、看護師21名、泌尿器科・腎臓内科・糖尿病内科・免疫内科：45床

### ◆重点目標と実績

#### 1. 効果的な病床運営を行う

(目標：病床稼働率88%、DPC II期以内退院割合65%以上)

結果、病床稼働率85.8%、DPC II期以内退院割合56%

目標達成には至らず。診療科編成が変更され、内科疾患患者の入院期間が長くDPC II期以内の退院が難しい症例が増加した。また、自宅退院が困難な患者の転院調整に時間を要したことの一因となっている。医師・退院調整部門と連携しスムーズな退院調整を図る必要がある。

#### 2. ACP推進と看護倫理に取り組む

(目標：倫理カンファレンス年2回以上)

結果、年間10件実施

認知機能が低下し、意思決定が困難な患者の意思決定支援を多職種チームで実施した。

内容は、透析治療の決断や栄養経路・手術の実施などであった。

施設や独居で過ごされており、身寄りのない患者に必要な医療と本人の推定意思の確認を時間と地域の医療介護支援の方々を交え実施できた。

## 看護部門

# 12階東病棟

(看護師長) 北 由美 看護師 23名 整形外科 45床

### ◆重点目標と実績

#### 選ばれる急性期病院にするために病院経営に参画する

KPIである病床稼働率89%を目指し、DPC II期以内での退院や在院日数を意識したベットコントロールを行った。2024年度の1日平均患者数は37名、DPC II期での退院は67%であった。病床稼働率は85.9%であり、目標には至らなかった。

急性期の整形外科病棟であり、若年から高齢者までの幅広い患者に対し、周術期や緊急入院の対応ができるよう病床運営を行った。患者と退院目標を共有し、退院後安心した生活が送れるよう看護介入や、看護実践を日々行っている。今後は整形外科看護師としてさらに専門性の高い看護が行えるような人材育成を行っていきたい。

## 看護部門

# 12階西病棟

(看護師長) 松岡 亜紀、看護師24名、整形外科：45病床

### ◆概要

整形外科病棟では、人工関節、脊椎外科、リウマチ・関節炎、スポーツ整形、手外科・外傷の5センターに分かれ専門性の高い診療に関わる看護を担っています。手術を行う患者様が多く、入退院支援などの他部門や理学療法士などの多職種とも協働しながら、円滑な退院支援が行えるよう、日々看護を実践しています。

### ◆実績

#### 1. 選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

1日平均入院患者数39名、病床稼働率86.6%、直入院患者割合17.5%であった。DPC II期内退院を目標に、病床稼働率が保てるよう調整を行ながら病床運営を行った。

#### 2. 患者サービス向上に向けた体制整備を行う

患者のニーズに応じた質の高い医療の提供を目標に身体拘束低減に取り組んだ結果、3.3%と目標値であった8%を大幅に減少することができた。

## 看護部門

# 13階西病棟

(看護師長) 森田 玲子、看護師22名、眼科・耳鼻いんこう科・皮膚科・形成外科：45床

### ◆重点目標と実績

#### 選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

DPC II 期間内の退院割合は 6.8%、病床稼働率 6.9%、平均在院日数5.2日であった。緊急入院の受け入れをスムーズに受け入れるための業務体制を整備し、空床の活用をおこなった。インフルエンザやCOVID-19罹患患者の増加時は受け入れ病床を確保し、柔軟に対応できるように努めた。

超高齢・独居患者の入院が増加しており、退院支援が必要な患者が増えている。退院後の療養生活について患者・家族へ確認し、必要なサービス等を整えられるようカンファレンスを行い医師と共にしながら早期の退院を目指したい。

## 看護部門

# 一般診療外来

(看護師長) 鈴木 志帆、下田 真代 看護師 32.8名

### ◆重点目標と実績

選ばれる急性期病院を目指し、患者サービスの向上に向けた体制整備と、質の高い看護の提供を目標としている。2024年度の外来患者総数は253,933名で、1日平均約1,040名、紹介率は80.4%であった。患者サービスの向上と業務の効率化を目的に、2024年7月には自動到着確認システムを導入し、2025年3月からは一部診療科でAI問診の導入を行った。また、外来機能の拡充を図るため、同年3月に一部の外来を13階へ移転している。

看護サービスでは、外来のクレドである「温かさ」を大切にしながら、一部受け持ち制を取り入れ、患者一人ひとりに寄り添った看護の実践に努めた。その結果、継続看護への意識が高まり、在宅療養支援や意思決定支援への介入件数が大幅に增加了。また、診察への看護師同席数も増えており、より個別性のある看護が提供できるよう努めている。今後は多職種との連携をさらに強化し、患者が地域で安心して暮らし続けられるように支援体制を整えていく。

## 看護部門

# 外来（治療検査）

(看護師長) 今井 康乃、看護師6名

### ◆重点目標と実績

1. 外来治療センター・放射線治療室を効果的に運用し、治療件数の増加に対応する
2. がん患者のニーズを捉えて、包括的な視点をもった看護が提供できる看護師を育成する。

外来治療センター内の体制整備やSNSなどの広報活動を行った。また、がん薬物療法・放射線療法の看護実践向上にむけた教育や外来・病棟とのカンファレンスなどを、がん薬物療法看護認定看護師を中心に行い、がん患者への質の高い看護が提供できるよう努めた。さらに女性病棟との連携を密に行うことで、入院から外来治療に向けた継続看護につなげることもできた。新たに3名がIVナースの認定を取得し、外来化学療法実施件数は4086件と過去最高の件数となった。

## 看護部門 救急室

(看護師長) 松山 佳子、看護師 20名

### ◆重点目標と実績

1. 救急患者の受け入れ体制を整備し、救急搬送台数5000件（1日14台）緊急入院3300人を目指す
2. 血管造影室を効果的に運用し、検査・治療・緊急検査件数の1割増を目指す。

地域の救急患者を早急に受け入れ、検査・治療が行えるよう、救急体制の整備に加え、医師・救急救命士・看護師など多職種の連携強化、拡充に努めた。特に院内救急救命士とのタスクシフト/シェアでは、救命処置や緊急処置の介助、病院救急車の運用などを拡充し、近隣の救急隊と情報交換を密に行った。また、救急看護、トリアージ、家族へのケアなどを多職種で共有し、知識・技術の向上や協働の強化を図り、質の高いケアの提供に努めた。

放射線科では多くの検査・治療を受け入れる体制を整備するとともに、Intervention Nursing Expertを中心に質の高い看護が提供できるよう努めた。また、救急室と密に連携を図ることで、状態の把握が容易に行え、緊急検査・治療を早期に開始することができ、時間の短縮に繋げることができた。

救急患者総数	8223人
救急搬送台数	5052台
緊急入院数	3736人
救急搬送応需率	87.7%
血管内検査・治療件数/うち緊急検査・治療件数	1168件/271件

## 事務部門 総務企画課

### ◆スタッフ

課長 小西 英康、他事務職員9名、非常勤職員7.9名、派遣職員 1名及び委託職員等

2024年度のC R E D Oは、『成長』

- プロフェッショナルとして「心・技・体」を磨き続けているか？

### ◆ 概要

総務企画課では、当院の特徴として、次から次に中長期を見据えたプロジェクトが立上る傾向にある一方で、業務改善を踏まえた様々な改善・提案が求められるなど日々の業務を超越した何かが多い。そのため、今一度、原点に立返り、自身の担当業務のスペシャリストとなるような気概をもち、地に足をつけて、丁寧にかつ迅速に業務に取組む”実務力”を個々に身につけることを頭の片隅に置き、業務に取り組んだ。

あらためて、総務企画課は、総務係・給与係・職員係・厚生係・経営企画係・業績評価係の6つの係の他、安全管理対策担当・図書室・医局秘書・秘書室の他、守衛室・中央監視室・電話交換等も含めて構成。

総務係は関係官公庁への許認可申請・届出、連絡調整、会議、諸行事に係る事務、行政対応、情報開示、施設管理、患者搬送、自動車運転、投書及びクレーム対応、電話交換、図書及び医局の管理など各部署の業務が円滑に遂行できるよう広範囲の業務を、給与係と職員・厚生係は諸制度の運用及び院内規程の制定・改廃、給与係は人事・給与及び賞罰、職員係・厚生係は労務管理、職員の倫理、臨床研修関係事務及び職員の教育・研修、職員の健康管理並びに福利厚生、経営企画係の所掌は将来構想戦略室と共に所掌、業績評価係は病院評価や職員の業績評価に関する業務をそれぞれ所掌しているほか、幹部職員のスケジュール等を管理する秘書室、医局を管理する医局秘書、図書室の管理、そして職員の安全管理対策担当を所掌する警察官O B 2名を配置している。

### ◆ 実績

#### ● 第三者評価

- 病院機能評価3.0g.ver.3.0 受審・認定及び結果を踏まえた、改善への取組
- NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP） 初受審・認定及び結果を踏まえた、改善への取組  
総務企画課としては、第三者評価の受審・認定にあたり、山崎 芳郎名誉院長のご支援・ご指導に感謝しております。万感の意を込めて、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### ● 増収及び費用節減対策

- 地域医療構想等を踏まえた病床のダウンサイ징（565→505床）病床機能再編支援事業（単独支援給付金）及び13階改修工事のための令和6年度大阪府病床転換等促進事業（ダウンサイ징事業）。
- 職員定数について、次年度の体制構築のための、タスクシフト・シェア及び増収対策の観点から、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士及び心理療法士について、本部に増員協議し、令和7年度の増員を実施。
- 令和6年度診療報酬改定に伴う、特定集中治療室管理料1の要件変更に伴う勤務体制等を整備。

#### ● 人員管理

- 病院運営に必要な人員確保、適正配置。
- 法令等諸規程に基づく業務委託及び人材派遣関係の調整等。
- 出退勤管理、時間外勤務の適正管理、年次休暇の取得促進（年5日取得100%達成）。
- 医師の働き方改革への対応。
- 障がい者雇用への取組（令和7年4月からの法定雇用率引上げへの対応。6月時点では達成。）
- 広報部の設置

#### ◆ その他

- 幹部管理会議、所属長会議及び医局連絡会の企画・運営。
- 職員健診（過重労働の軽減、健康診断受診率の向上及びJCHO神戸中央病院への健診委託）。
- 篤志解剖体慰靈祭の開催（コロナ禍により令和2年度及び3年度は自粛、令和4年度より再開）。
- 個人情報及びコンプライアンスの意識啓蒙。
- ハラスマント防止対策委員会の企画・運営及びハラスマント相談窓口
- 大阪市保健所及び税務調査への適切な対応。
- J M E C C（内科専門プログラムに附帯する必修講習）及びI C L S（初期臨床研修プログラムに附帯する必修講習）について、自院定期開催。
- 検査技師長及び看護部と共に朝のあいさつ運動を企画・実施。看護部は大阪病院賞受賞。検査技師長と事務部は活動継続実施中。
- 災害用B C Pマニュアルの作成と年2回の防災訓練。
- 大阪病院賞の見直しと大阪病院特別賞の制定。

# 将来構想戦略室

## ◆スタッフ

(室長) 院長 (室次長) 事務部長 (室次長代理) 総務企画課長 (室長補佐) 栗本 真吾

## ◆概要

将来構想戦略室は、病院のビジョン・コンセプトや、地域医療構想を踏まえた自院の機能・他院との連携のあり方など中長期の自院の将来構想を策定、それらの構成要素となる、新型コロナウイルスの影響や疾病構造の変化を踏まえた診療体制、行政機関や地域内の医療・介護事業者から今後求められる役割、地域の医療従事者の需給見込みも踏まえた自院の人員配置や今後の人材確保策などの検討・分析を行うこと等を所掌した。

## ◆実績(主な室目標)

### ● 定性評価

- ・ 近隣医療機関への訪問活動を強化（医療機関別、住所別等データ、実績等を作成し、地域医療連携室は当該データを基準に訪問活動）。
- ・ 新理念新ビジョン共創プロジェクトサポートメンバーとして、新理念の接着及びVision for 2030の実現に向けた各種取組み（プロジェクトシーズン2の支援、戦略委員会の立上げ）。
- ・ 診療科別入院患者数を毎日更新するシステムを構築し、緊急入院受入れの参考資料等に活用。
- ・ 各診療科担当医へDPCデータを元にヒアリングを定期的に開催。診療科毎の問題点等を提起し、DPC制度等に関する基本知識を担当医に周知。  
(必要に応じてベンチマークシステム(LIBRA、ヒラソル)を活用)
- ・ 診療科毎に設定した重要評価指標(KPI)について、所属長会議で報告。
- ・ 大阪医事研究会へ積極的に参加し、参画病院と情報交換を密に行う（診療科別入院患者数等）。

### ● 定量評価

- ・ 職員業績評価に連動する診療科目標（重要評価指標（KPI））のフォーマット及び項目を設定、各診療部長はフォーマットに沿って数値目標と部門目標を設定し、院長ヒアリングを実施した。
  - ・ リアルタイムで全入院患者のDPC期間（現在どの入院期間に該当しているか）を目視できるようなシステムを構築。DPCII期以内退院調整に活用。
  - ・ 診療報酬改定に伴う当院の変更点（急性期充実体制加算等）について、病床管理運営委員会等で報告（DPCII期以内での退院を目指す理由等について説明。）。
- ※ DPC入院期間II期以内退院率 71.5%（対前年度+2.8%）
- ・ 急性期充実体制加算の算定と算定維持に向けた取組み（特に消化管内視鏡手術及び心臓胸部大血管手術の増加に向けて、所属長会議等で意識啓蒙を図る）。

### ◆ 取組内容等

- ・ 2024年度各診療科の病床数及び重要評価指標（KPI）を策定。
- ・ 新理念・新ビジョンの構築に関連して、新理念と職員の接着に向けての取組み及び当院の将来像（ビジョン）を目指すための中長期的な戦略を元にした目標数値（重要評価指標：KPI）の達成度評価。
- ・ 診療報酬において、上位基準の取得・維持のために必要な施策を検討、新たな算定可能項目等を常に模索すること（厚生労働省HP等に掲載されている議事録等を注視）。
- ・ 収益だけでなく費用の点からも改善可能な項目等について検討する。
- ・ DPC分析ソフトを用いた他院とのベンチマークを行い、当院の現状（パス内容、入院期間等）について検討し、課題解決を行う（クリティカルパス委員会）。

## 事務部門 経理課

### ◆スタッフ

(課長) 森山 伸一、他事務員5名、非常勤事務員2.4名、派遣職員

### ◆概要

経理課は、経理係と契約係の2つの係で構成されている。

経理係は日々の売上金収納、資金管理、決算業務、経営分析、医事課との連携による医業未収金残高管理、予算策定、寄附に関するなど院内のお金に纏わる様々な事務処理を担当している。

契約係は病院運営に必要不可欠な医療機器・医薬品・診療材料の調達、資産管理、修理対応などのほか、契約業者を選定するための入札事務を担当している。当院は独立行政法人に属する病院で契約業者の選定方法において透明性や公平性を求められることから、原則、一般競争入札を実施している。

令和6年度は経常収益が過去最高値を更新した一方、職員等の処遇改善、物価高騰、機器整備等により生じる減価償却など費用負担も同様に増加しており、非常に厳しい経営状況に置かれており、次年度以降もこの状況が続くものと思われます。

我々は経理課員として、中長期的計画の策定と費用削減に努めてまいります。

### ◆実績（主な課目標）

- 債権管理事務の適切かつ効率的な実施
- 黒字経営の実現に向けた費用減対策への積極的な取り組み
- 医療機器等の計画的な整備を推進

#### ①主な高額機器整備実績

- ・令和6年12月 カテーテルアブレーションシステム（CARTO3）を新設
- ・令和7年 3月 デジタルX線TV装置を更新
- ・令和7年 3月 心臓手術用4K3D内視鏡システムを新設

#### ②寄附実績

- ・ご寄附をいただいた方 26名 合計金額 29,744千円

### ◆年度別決算状況

(単位：千円)

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
診療業務収益	17,279,342	18,302,877	19,365,387	18,631,332	19,506,927
入院診療収益	10,730,911	10,875,417	11,960,805	12,430,729	13,353,706
(平均点数)	(7,192.3)	(7,431.0)	(8,672.1)	(8,857.1)	(8,943.7)
(平均患者数)	(408.8)	(401.0)	(377.9)	(385.8)	(409.1)
外来診療収益	4,635,389	4,866,717	4,958,272	5,120,017	5,100,608
(平均点数)	(1,845.2)	(1,869.7)	(1,921.7)	(2,025.0)	(1,965.7)
(平均患者数)	(1,033.8)	(1,075.3)	(1,061.8)	(1,038.6)	(1,067.8)
【経常収益】	17,441,448	18,440,981	19,537,368	18,804,971	19,670,576
診療業務費	16,743,526	17,159,105	18,294,697	18,853,043	19,260,181
給与費	8,010,719	8,276,795	8,615,136	8,634,254	8,624,723
材料費	5,136,734	5,426,748	5,769,556	6,324,898	6,506,334
設備関係費	1,581,821	1,464,614	1,680,892	1,534,735	1,909,512
(減価償却費)	(1,009,349)	(883,089)	(978,453)	(893,800)	(1,228,918)
経費	722,771	733,006	818,797	848,065	820,265
【経常費用】	16,910,590	17,326,369	18,508,885	18,780,964	19,455,056
【経常利益】	530,858	1,114,611	1,028,483	24,007	215,520

◆スタッフ

(課長) 橋 弘城、他事務員15名（医師事務作業補助者（MA）含む）、非常勤事務員10名（医師事務作業補助者（MA）含む）派遣職員24名（医師事務）

◆概要

医事課は、病院の窓口として医療事務全般に関わる業務を担当しています。

【外来部門】（委託）

- 初診受付
- 再診受付（自動再診受付機）
- 保険確認
- 外来計算
- 支払窓口（自動精算機）
- 救急受付
- 外来レセプト（外来レセプトの作成・点検、査定対応）

【入院部門】（職員・派遣）

- 入院計算（入院診療費の計算、請求書の発行、入院レセプトの作成・点検、査定対応）DPC制度に基づき入院患者の医療事務全般を担っています。（DPC請求・平成18年4月～）
- 入院センター（入院申込手続き、入院当日受付）
- 公費医療（労災・生保等のレセプト請求、諸法手続き、自賠責）

【その他】

- 未収金処理（未収金の督促・管理）（未収金回収プロジェクト委員会の開催・平成17年9月～）
- 統計、システム対応（レセプト電算処理、諸統計作成、システムメンテナンス）
- 検診（人間ドック、乳がん・女性がん検診の受付・請求）
- 文書（介護保険主治医意見書・生命保険診断書等作成の医師依頼及び調整）
- 各診療科外来にて医師の事務作業補助業務を行う医師事務作業補助者（MA）

◆実績

医事課では、安心安全な医療提供の一翼を担うため、待ち時間の短縮や患者サービスの向上などを目的として、毎月1回勉強会を開催しています。その中で、保険請求や接遇について、さらなるレベルアップを目指して努力しています。

診療報酬算定漏れの減少や算定アップに向けた取り組みを行っています。経営マネジメントの役割を担い、さらにチーム医療の一員として、事務的業務において医療サービスを側面的にサポートしていくたいと考えております。また、医師の働き方改革に伴い、医師事務作業補助体制加算（15対1）を取得し、タスクシフト推進及び体制強化を図ります。

**【2024年（令和6年度）委員会一覧】**

	委員会名	委員長	主幹課
1	広報委員会	前田 陽平	
2	図書委員会	北山 聰明	総務企画課
3	臨床研修管理委員会	馬屋原 豊	総務企画課
4	医学倫理委員会	金子 晃	総務企画課
5	院内感染予防対策委員会	長田 学	総務企画課
6	医療安全管理(兼事故調査)委員会	市川 肇	医事課/総務企画課
7	医療安全管理対策委員会	市川 肇	総務企画課
8	労働安全衛生委員会	西田 俊朗	総務企画課
9	防災対策委員会	細井 昌宏	総務企画課
10	医療ガス安全管理委員会	山間 義弘	総務企画課
11	放射線障害予防委員会	西多 俊幸	総務企画課
12	診療情報管理委員会	市川 肇	診療情報管理室
13	医療情報運営管理委員会（兼）情報セキュリティ委員会	北山 聰明	医療情報室
14	診療情報提供委員会	中田 活也	医事課
15	保険等調整検討委員会（兼）DPC コーディング委員会	筒井 建紀	医事課
16	クリティカルパス推進委員会	島田 幸造	看護部
17	医療の質の評価委員会	馬屋原 豊	医事課
18	脳死判定委員会	榎 孝之	総務企画課
19	施設整備委員会	中田 活也	経理課
20	診療材料委員会	小笠原 延行	経理課
21	薬事委員会	鴨井 博	薬剤部
22	治験審査委員会	金子 晃	薬剤部
23	委託研究審査委員会	塚本 文音	経理課
24	輸血療法委員会	中田 活也	中央検査室
25	栄養管理委員会	馬屋原 豊	栄養管理室
26	プライマリケア・救急医療運営委員会	小笠原 延行	総務企画課
27	中央検査室運営委員会	岡田 昌子	中央検査室
28	病理科運営委員会	吉田 康之	病理科
29	放射線室運営委員会	西多 俊幸	放射線室
30	手術室運営委員会	山間 義弘	麻酔科
31	集中治療部運営委員会	佐藤 善一	集中治療室
32	リハビリテーション運営委員会	寺川 晴彦	総務企画課
33	人間ドック運営管理委員会	金子 晃	医事課
34	内視鏡センター運営委員会	山本 克己	経理課
35	母子医療センター運営委員会	筒井 建紀	医事課
36	病床管理運営委員会	谷岡 美佐枝	医事課
37	褥瘡対策委員会	竹原 友貴	看護部
38	ボランティア活動運営委員会	谷岡 美佐枝	総務企画課
39	働き方改革・業務改善委員会	馬屋原 豊	看護部
40	虐待対策委員会	島田 幸造	医療福祉相談室
41	診療環境健全化推進委員会	市川 肇	総務企画課
42	契約審査委員会	中田 活也	経理課
43	がん診療運営委員会	井出 義人	医事課
44	認知症ケアチーム運営委員会	山森 英長	医事課
45	特定行為研修委員会	馬屋原 豊	看護部
46	棚卸実施委員会	細井 昌宏	経理課
47	外来運営委員会	北 圭介	医事課
48	利益相反(COI)委員会	金子 晃	総務企画課
49	透析機器安全管理委員会	鈴木 朗	総務企画課
50	臨床倫理委員会	金子 晃	総務企画課
51	RRS 運営委員会	佐藤 善一	
52	教育研修委員会	金子 晃	総務企画課
53	高難度新規医療技術、未承認新規医薬品・医療機器等審査委員会	武中 章太	薬剤部・医事課
54	外国人患者対応運営委員会	中田 活也	医事課
55	戦略委員会	西田 俊朗	将来構想戦略室
56	患者サービス向上委員会	谷岡 美佐枝	看護部
57	医療機器等投資検討委員会	西田 俊朗	経理課





# 業 績





## 整形外科

### 【原著・総説・著書】

1,Temporin K

Bone deformity in sports-related elbow osteoarthritis – influence of osteochondritis dissecans of the capitellum: A cross-sectional study

Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery. 2024 ; 29(2) : 1685-91

2,Takenaka S

Risk Factor Analysis of Surgery-related Complications in Primary Thoracic Spine Surgery for Degenerative Diseases and Characteristics of the Patients Also Undergoing Surgery on the Cervical and/or Lumbar Spine  
Clin Spine Surg. 2024 ; 37(5) : E170-8

3,轉法輪 光

上肢骨折のケアの根拠

整形外科看護. 2024 ; 29(2) : 150-5

4,三好 祐史

開心術後に発症した腕神経叢損傷の6例

日本手外科学会雑誌. 2024 ; 40(5) : 136-8

5,島田幸造

上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する骨膜付き肘筋有茎骨移植

Monthly Book Orthopaedics. 2024 ; 37(3) : 51-7

6,三好 祐史

橈骨頭骨折に対する関節鏡補助下骨接合術

日本肘関節学会雑誌. 2024 ; 31(2) : 53-6

7,河野 剛之

腰椎椎弓に発生し、硬膜を穿破した動脈瘤様骨囊腫の1例

中部日本整形外科学会雑誌. 2024 ; 67(2) : 191-2

8,中矢 亮太

フルHAシステムにおけるpatient specific templateの有用性

Hip Joint. 2024 ; 50(1) : 430-3

9,中矢 亮太

カーブドショートシステムにおけるPatient Specific Template の有用性

日本人工関節学会誌. 2024 ; 54 : 199-200

10,岡本 恭典

カーブドショートシステムの固定様式とstress shielding進行の関連

Hip Joint. 2024 ; 50(1) : 128-34

11,岡本 恭典

モジュラー型テーパーコーンショートシステムの短期成績

日本人工関節学会誌. 2024 ; 54 : 205-6

12,北 圭介

【ナースのギモン大解決!ケアの根拠がまるわかりin整形外科病棟】膝関節のケアの根拠

整形外科看護. 2024 ; 29(2) : 142-9

13,北 圭介

整形外科 名人のknow-how 生体力学特性に基づいた新規半月板修復術 半月板円周線維補強術(mCFA)

整形・災害外科. 2024 ; 67(4) : 334-7

14,北 圭介

【膝蓋大腿関節障害の治療】自家腱を用いた内側膝蓋大腿靱帯再建術の限界と追加手術の適応.

整形・災害外科. 2024 ; 67(1) : 25-31

15,轉法輪 光

モンテジア骨折・前腕骨急性塑性変形

整形外科保存治療ハンドブック. 2024 ; 143

16,轉法輪 光

肘関節外傷後の鏡視下および観血的関節授動術

整形外科SURGICAL TECHNIQUE BOOKS⑪ 肘の外傷-診断・手術・保存療法. 2024 ; 208-14

17,三好 祐史

小児上腕骨顆上骨折の保存療法

整形外科SURGICAL TECHNIQUE BOOKS⑪ 肘の外傷-診断・手術・保存療法. 2024 ; 181-6

18,島田幸造

肘関節鏡手術の基本手技

新オーエス・ネクサス12・上肢の関節鏡視下手術. 2024 ; 12 : 56-68

- 19,武中 章太  
腰部の痛みと治療のアプローチ  
臨床スポーツ医学【その痛みはどこから-スポーツによる外傷・障害-】部位別の疼痛と治療のアプローチ. 2024 ; 41(12) : 1282-8
- 20,武中 章太  
新しい治療法 人工椎間板  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 474-5
- 21,武中 章太  
術後合併症 術後上肢麻痺  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 471-3
- 22,武中 章太  
術後合併症 髄液漏  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 468-70
- 23,武中 章太  
術後合併症 創部感染  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 463-7
- 24,武中 章太  
術後合併症 術後硬膜外血腫  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 460-2
- 25,武中 章太  
術後合併症 ドレーンの管理と麻痺の早期発見  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 457-9
- 26,山田 修太郎  
代表的な疾患 頸椎椎間板ヘルニア  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 428-30
- 27,山田 修太郎  
代表的な疾患 頸椎後縦靭帯骨化症  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 424-7
- 28,金山 完哲  
代表的な疾患 頸椎症性神経根症  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 420-3
- 29,金山 完哲  
代表的な疾患 頸椎症性脊髄症  
整形外科看護【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】. 2024 ; 29(5) : 416-9
- 30,中矢 亮太  
【ナースのギモン大解決!ケアの根拠がまるわかりin整形外科病棟】DVTケアの根拠  
整形外科看護. 2024 ; 29(2) : 169-73
- 31,岡本 恒典  
【ナースのギモン大解決!ケアの根拠がまるわかりin整形外科病棟】人工股関節のケアの根拠  
整形外科看護. 2024 ; 29(2) : 134-41

### 【学会発表】

- 1,Kita K  
Meniscal Circumferential Fiber Augmentation  
81th APAC Symposium 2024 Advanced Techniques Shoulder & Knee. 2024.4, Sydney
- 2,Kita K  
Quantitative analysis of the morphology of the trochlea with recurrent patellar dislocation using MRI  
20th International Patellofemoral Study Group. 2024.8, Montana
- 3,Shimada K  
Role of Arthroscopy in Managing OCD in Athletes  
17th Alexandria Hand & Microsurgery Congress. 2024.10, Alexandria
- 4,Takenaka S  
Mortality and morbidity among dialysis-dependent patients undergoing spine surgery: insights from a prospective surgeon-maintained database  
Eurospine. 2024.10, Vienna
- 5,Nishikawa M  
High relationship between interphalangeal osteoarthritis and calcium pyrophosphate dihydrate crystal in operated knee osteoarthritis  
25th European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology. 2024.5, Hamburg

- 6,吉村 長晃  
局所的な関節軟骨の翻転により著明な関節内水腫をきたした一例  
第6回関西関節鏡・膝関節研究会. 2024.3, 京都
- 7,吉村 長晃  
当院におけるSchatzker分類II & III型脛骨プラトー骨折に対する関節鏡視下整復固定術の治療成績と手術時の工夫  
第142回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 2024.4, 米子
- 8,木ノ本みづき  
近位脛骨骨切り術後感染のリスク因子の検討  
第1回AKOのリスクを語る会. 2024.7, 大阪
- 9,木ノ本みづき  
外側半月板損傷における半月板円周線維補強術を併用した半月板縫合術の短期成績  
第2回日本スポーツ整形外科学会2024. 2024.9, 東京
- 10,熨斗 優樹  
解剖学的単束前十字靱帯再建術後半年における大腿四頭筋腱および膝蓋腱の移植腱のMRI評価  
第2回日本スポーツ整形外科学会2024. 2024.9, 東京
- 11,木ノ本みづき  
内側楔状開大式近位脛骨骨切り術後早期感染のリスク因子の検討  
第30回日本最小侵襲整形外科学会. 2024.11, 福井
- 12,熨斗 優樹  
内側半月板後角フラップ損傷における半月板最小切除の治療成績  
第30回日本最小侵襲整形外科学会. 2024.11, 福井
- 13,木ノ本みづき  
近位脛骨骨切り術後感染のリスク因子の検討 -内側開大式 vs 外側閉鎖式-  
第2回日本膝関節学会. 2024.12, 那覇
- 14,熨斗 優樹  
遠位大腿骨内反骨切り術における下肢アライメント変化の検討  
第2回日本膝関節学会. 2024.12, 那覇
- 15,木ノ本みづき  
内側半月板後根断裂(MMPRT)に対して半月板円周線維補強術 (CFA) を施行した症例  
第24回大阪スポーツ障害・外傷を語る会. 2024.12, 大阪
- 16,熨斗 優樹  
内側円板状半月板に対して縫合術を施行した2例  
第24回大阪スポーツ障害・外傷を語る会. 2024.12, 大阪
- 17,三好 祐史  
橈骨頭骨折に対する関節鏡補助下手術  
第36回日本肘関節学会学術集会. 2024.3, 札幌
- 18,三好 祐史  
手術加療を行った屈筋腱皮下断裂21例の病態と治療  
第67回日本手外科学会学術集会. 2024.4, 奈良
- 19,桐村 秀哉  
内側に生じた弾発肘の1例  
第23回肩と肘を語る会. 2024.7, 京都
- 20,桐村 秀哉  
上腕骨小頭骨折に対して関節鏡補助下で内固定を行った1例  
第30回日本最小侵襲整形外科学会. 2024.11, 福井
- 21,三好 祐史  
TRASH elbowへ至った上腕骨遠位骨端線離開  
第62回大阪骨折研究会. 2024.11, 大阪
- 22,Shimada K  
Arthroscopic surgery for sports-related injuries of the elbow in adult  
第52回日本関節病学会. 2024.7, 東京
- 23,島田幸造  
投球肘障害に対する手術治療  
第143回中部日本整形外科災害外科学. 2024.10, 神戸
- 24,三好 祐史  
前腕部での腫瘍広範切除後の手指伸筋機能の再建  
手の外科懇話会. 2024.10, 大阪
- 25,武中 章太  
85歳以上症例の増加傾向と脊椎手術合併症 大阪脊椎脊髄グループデータベース2024(会議録)

- 第53回日本脊椎脊髄病学会. 2024.4, 神奈川  
26,武中 章太  
就労患者に対して全内視鏡下に摘出した頸椎椎間板ヘルニアの4例  
第59回日本脊髄障害医学会. 2024.11, 沖縄
- 27,金山 完哲  
先天性側弯症に対する多数回術後の141度  
局所後弯部偽関節による胸髄症の1例  
-術中・術後合併症を減らす工夫-  
第33回日本脊椎インストゥルメンテーション学会. 2024.9, 札幌
- 28,金山 完哲  
肩関節炎による関節破壊に対してロモソズマブ投与により関節面のリモデリング効果を認めた1例  
第26回日本骨粗鬆症学会. 2024.10, 金沢
- 29,金山 完哲  
腰椎椎間孔狭窄における固定術とFESSの比較検討  
第27回日本低侵襲脊椎外科学会. 2024.11, 大阪
- 30,山田 修太郎  
頸髄症に対する頸椎後方除圧固定術による過度の頸椎前弯獲得はT1Sを増大しうる  
第53回日本脊椎脊髄病学会. 2024.4, 神奈川
- 31,山田 修太郎  
骨粗鬆症性椎体骨折の2レベル前方椎体置換術で4ロッドコンストラクトでの再建により骨癒合を得た2例  
第59回日本脊髄障害医学会. 2024.11, 沖縄
- 32, 吉村 長晃  
TKA後感染に対して間欠的膝関節内高濃度抗菌薬投与を施行した一例  
第54回日本人工関節学会. 2024.2, 京都
- 33,本城 文哉  
SARS-CoV-2 mRNAワクチン接種後に関節リウマチを発症した1例  
第66回日本リウマチ学会. 2024.4, 神戸
- 34,松本 遼季  
脛骨インサートの摩耗による大腿骨コンポーネント後方脱臼に対して、保存的に対応した一例  
第12回日本膝関節学会. 2024.12, 沖縄
- 35,中矢 亮太  
カーブドショットシステムにおけるPatient Specific Templateの有用性  
第54回日本人工関節学会. 2024.2, 京都
- 36,中矢 亮太  
股関節クリニックにおける働き方改革 ~症例数の多い病院における実状~  
関西股関節研究会. 2024.4, 大阪
- 37,中矢 亮太  
モジュラーネックによる前捻角調整とシステムによる前捻角調整とのROM比較研究  
第51回日本股関節学会. 2024.10, 岡山
- 38,岡本 恭典  
モジュラー型テーパーコーンショットシステムの短期成績  
第54回日本人工関節学会. 2024.2, 京都
- 39,岡本 恭典  
カーブドショットシステムを使用したTHA術後のstress shieldingへの影響因子  
第52回日本関節病学会. 2024.7, 東京
- 40,岡本 恭典  
ショットテーパーウェッジシステムの中期成績- TriFit TS術後7年以上の臨床成績 -  
第51回日本股関節学会. 2024.10, 岡山

### 【学会講演】

- 1,北 圭介  
進化する変形性膝関節治療のアップデート  
関西変形性膝関節症WEBセミナー. 2024.2, 大阪
- 2,北 圭介  
"半月板の生体力学に基づく新しい修復術  
半月板円周線維補強術のコツ"  
Stryker's Arthroscopic Training 豚膝を用いた半月板縫合. 2024.3, 札幌
- 3,北 圭介  
Meniscal circumferential fiber augmentation technique

- 日本Knee osteotomy and Joint Presservation研究会. 2024.4, 高松
- 4,北 圭介  
Meniscal circumferential fiber augmentation technique  
Stryker's Arthroscopic Training CFA. 2024.6, 大阪
- 5,北 圭介  
OWHTOのピットフォール  
大阪大学AKOセミナー. 2024.6, 大阪
- 6,北 圭介  
新規半月板修復術『半月板円周線維補強術』が与えるインパクト  
下鴨整形疾患ファーラム. 2024.7, 京都
- 7,北 圭介  
半月板円周線維補強術による半月板修復成績向上の可能性  
日本スポーツ整形外科学会2024. 2024.9, 東京
- 8,北 圭介  
半月板円周線維補強術による半月板機能温存の試み  
中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 2024.10, 神戸
- 9,北 圭介  
膝関節機能温存のための新しい半月板縫合術-半月板円周線維補強術-  
日本最小侵襲整形外科学会. 2024.11, 福井
- 10,北 圭介  
半月板円周線維補強術による半月板機能温存は膝関節の未来を変えられるか  
中国・四国整形外科学会. 2024.11, 広島
- 11,北 圭介  
病態と病因から考える膝蓋骨不安定症の診断と治療  
日本膝関節学会. 2024.12, 那覇
- 12,北 圭介  
解剖学的かつ生体力学的に理にかなった新規半月板修復術 -半月板円周線維補強術-  
日本膝関節学会. 2024.12, 那覇
- 13,轉法輪 光  
成人の肘頭疲労骨折の診断と治療 診断治療のコンセプトと実際2  
神楽坂スポーツ医学セミナー. 2024.12, 大阪
- 14,島田幸造  
肘関節の面白さ、肘関節鏡の面白さ  
奈良肘関節研究会. 2024.1, 奈良
- 15,島田幸造  
血友病性関節症Up to date ~定期補充療法下における関節症の診療~  
J-HEART in 神奈川 血友病チーム医療ワークショップ. 2024.10, 横浜
- 16,島田幸造  
整形外科医から見る血友病性肘関節症  
Hemophilic Elbow Arthropathy Seminar. 2024.11, 横浜
- 17,金山 完哲  
いつのまにか背骨が折れている！そうならないために今からできること  
福島区民公開健康講座. 2024.3, 大阪
- 18,金山 完哲  
骨粗鬆症性椎体骨折～投薬治療の基本から地域連携の応用まで～  
OVF診療の地域連携を考える in 梅田. 2024.3, 大阪
- 19,金山 完哲  
先天性側弯症に対する多数回術後の  
141度局所後弯部偽関節による胸髄症の1例－術中・術後合併症を減らす工夫－  
脊椎外科を学ぶ会. 2024.3, 大阪
- 20,金山 完哲  
脊椎内視鏡手術の特性とハードル～Open畠からの術式拡大～  
大阪脊椎外科フォーラム. 2024.7, 大阪
- 21,金山 完哲  
Assisted FEESによる脊椎内視鏡下手術の有用性と手技のポイント  
NOVA Spine Surgeons Assembly. 2024.9, 大阪
- 22,金山 完哲  
術者好みにアレンジ可能なAFESSの有用性と可能性について

- 関西MIST研究会. 2024.10, 大阪
- 23,金山 完哲  
分かりやすい骨粗鬆症治療の考え方と実践、病診連携の重要性について  
福島区医師会学術講演会. 2024.11, 大阪
- 24,金山 完哲  
先天性側弯症に対する多数回術後の141度  
局所後弯部偽関節による胸髄症の1例  
ZimVie難治症例検討会. 2024.12, 大阪
- 25,武中 章太  
思春期側弯症の診断、治療  
地域で取り組む疼痛治療セミナー. 2024.2, 大阪
- 26,武中 章太  
当院における脊椎低侵襲手術について  
地域で取り組む疼痛治療セミナー. 2024.9, 大阪
- 27,武中 章太  
高齢者の成人脊柱変形に対する保存治療と手術治療～骨粗鬆症治療を含めて～  
大阪整形外科セミナー. 2024.8, 大阪
- 28,武中 章太  
脳rs-fMRIを用いた頸髄症の新規バイオマーカー探索－多施設研究データの解析－  
脊柱靭帯骨化症 令和6年第2回合同班会議 . 2024.11, 東京
- 29,武中 章太  
高難度成人脊柱変形手術における超音波メスの使用による安全性の向上  
日本低侵襲脊椎外科学会. 2024.11, 大阪
- 30,武中 章太  
後縦靭帯骨化症・病気の正しい理解と新しい知見  
大阪脊柱靭帯骨化症友の会 講演会. 2024.10, 大阪
- 31,武中 章太  
MED/MELの適応と手技上のコツ, Pitfallについての講義/ハンズオン  
Spinal Training Course. 2024.2, 川崎
- 32,山田 修太郎  
骨粗鬆症性椎体骨折に対して4ロッドコンストラクトを併用した2レベル前方椎体置換術を行い骨癒合を得た2例  
大阪骨折研究会. 2024.11, 大阪
- 33,中矢 亮太  
当院におけるModulusの適応  
Modulus Users Forum. 2024.6, 金沢
- 34,岡本 恭典  
RM cup with optimysの可能性 ②  
Bone Preservation with CT Navigation optimys Users Meeting 2024. 2024.11, 東京
- 35,中田 活也  
知っていましたか? Curved Short Stem・・もう10年経ちました・・  
日本人工関節学会. 2024.2, 京都
- 36,中田 活也  
フルH A ステム  
OECスタンダードコースHip. 2024.3, 大阪
- 37,中田 活也  
ALSAにおけるBikini/Path/CSSの有用性  
HIP AL-Supine Path Seminar. 2024.6, 名古屋
- 38,中田 活也  
セメントレスシステムの歴史的背景から見た近未来の人工股関節  
MX人工股関節研究会. 2024.7, 軽井沢
- 39,中田 活也  
Anterolateral supine approach  
OECスタンダードコースHip. 2024.7, 東京
- 40,中田 活也  
セメントレスシステムの手術手技～コツとpitfallへの対応～  
OECスタンダードコースHip. 2024.7, 東京

## リウマチ科

### 【学会発表】

- 1,本城文哉、西川昌孝、真鍋侑資、島上洋、  
SARS-CoV-2 mRNAワクチン接種後に関節リウマチを発症した1例  
第68回日本リウマチ学会。2024.4.19, 神戸
- 2,Masataka Nishikawa, Hajime Owakim Katsuya Nakata  
High relationship between interphalangeal osteoarthritis and calcium pyrophosphate dihydrate crystal in operated knee osteoarthritis  
25th EFORT Congress of the European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology.  
2024.5.22, Hamburg, Germany
- 3,松本遼季、西川昌孝、中田活也  
脛骨インサートの摩耗による大腿骨コンポーネント後方脱臼に対して、保存的に対応した一例  
第2回日本膝関節学会。2024.12.6, 沖縄
- 4,中谷裕貴、西川昌孝、中矢亮太、岡本恭典、中田活也  
90歳以上の超高齢者に対する人工膝関節置換術  
第55回日本人工関節学会。2025.2.21, 名古屋

## 脊椎外科

### 【原著・総説・著書】

- 1,Takenaka S, Kaito T, Fujimori T, Kanie Y, Okada S.  
Risk Factor Analysis of Surgery-related Complications in Primary Thoracic Spine Surgery for Degenerative Diseases and Characteristics of the Patients Also Undergoing Surgery on the Cervical and/or Lumbar Spine.  
Clin Spine Surg.2024 Jun 1;37(5):E170-E178. doi: 10.1097/BSD.0000000000001570.
- 2,Ukon Y, Takenaka S, Hirai H, Sugiura T, Sakai Y, Fujimori T, Furuya M, Kanie Y, Okada S, Kaito T.  
Establishment of Scoring to Predict Severe Complication After Pyogenic Spondylodiscitis Surgery.  
Clin Spine Surg.2025 Jan 29. doi: 10.1097/BSD.0000000000001756. Epub ahead of print.
- 3,Aono H, Takenaka S, Nagamoto Y, Tobimatsu H, Yamashita T, Furuya M, Ishiguro H, Iwasaki M.  
Impact of Spinal Instrumentation on Early Postoperative Inflammatory Markers: A Comparative Analysis in the Same Patient Cohort with or without Instrumentation.  
World Neurosurg.doi: 10.1016/j.wneu.2025.123681. Epub 2025 Mar 10.
- 4,Ishiguro H, Takenaka S, Hamamoto S, Hoshiyama M, Tsukazaki H, Okada S, Kaito T.  
Comparison of anterior spinal fusion and posterior cervical foraminotomy for cervical spondylotic radiculopathy in terms of postoperative recovery of upper-limb motor deficits  
J Clin Neurosci.2024 Nov;129:110873. doi: 10.1016/j.jocn.2024.110873.
- 5,Ukon Y, Kaito T, Hirai H, Kitahara T, Bun M, Kodama J, Tateiwa D, Nakagawa S, Ikuta M, Furuichi T, Kanie Y, Fujimori T, Takenaka S, Yamamuro T, Otsuru S, Okada S, Yamashita M, Imamura T.  
Cellular senescence by loss of Men1 in osteoblasts is critical for age-related osteoporosis.  
Cell.2024 Oct;23(10):e14254. doi: 10.1111/acel.14254.
- 6,Kanie Y, Takenaka S, Kitahara T, Furuya M, Ukon Y, Fujimori T, Okada S, Kaito T.  
Appropriate pelvic obliquity measurement method in Lenke type 5C adolescent idiopathic scoliosis: a preliminary study.  
J Spine Surg.Aging 2024 Jun 21;10(2):255-263. doi: 10.21037/jss-23-138.
- 7,Kita K, Fujimori T, Suzuki Y, Kaito T, Takenaka S, Kanie Y, Furuya M, Wataya T, Nishigaki D, Sato J, Tomiyama N, Okada S, Kido S.  
Automated entry of paper-based patient-reported outcomes: Applying deep learning to the Japanese orthopaedic association back pain evaluation questionnaire.  
Comput Biol Med. 2024 Apr;172:108197. doi: 10.1016/j.combiomed.2024.108197.
- 8,Takenaka S, Kaito T, Fujimori T, Kanie Y, Okada S.  
Risk Factor Analysis of Surgery-related Complications in Primary Thoracic Spine Surgery for Degenerative Diseases and Characteristics of the Patients Also Undergoing Surgery on the Cervical and/or Lumbar Spine.  
Clin Spine Surg. 2024 Jun 1;37(5):E170-E178. doi: 10.1097/BSD.0000000000001570.

- 9,Maki S, Furuya T, Katsumi K, Nakajima H, Honjoh K, Watanabe S, Kaito T, Takenaka S, Kanie Y, Iwasaki M, Furuya M, Inoue G, Miyagi M, Ikeda S, Imagama S, Nakashima H, Ito S, Takahashi H, Kawaguchi Y, Futakawa H, Murata K, Yoshii T, Hirai T, Koda M, Ohtori S, Yamazaki M.  
 Multimodal Deep Learning-based Radiomics Approach for Predicting Surgical Outcomes in Patients with Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.  
*Spine (Phila Pa 1976)*. 2024 Nov 15;49(22):1561-1569. doi: 10.1097/BRS.00000000000005088.
- 10,武中章太  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】新しい治療法 人工椎間板  
 整形外科看護29巻5号 Page474-475(2024.05)
- 11,武中章太  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】術後合併症 術後上肢麻痺  
 整形外科看護29巻5号 Page471-473(2024.05)
- 12,武中章太  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】術後合併症 髄液漏  
 整形外科看護29巻5号 Page468-470(2024.05)
- 13,武中章太  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】術後合併症 創部感染  
 整形外科看護29巻5号 Page463-467(2024.05)
- 14,武中章太  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】術後合併症 術後硬膜外血腫  
 整形外科看護29巻5号 Page460-462(2024.05)
- 15,武中章太  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】術後合併症 ドレーンの管理と麻痺の早期発見  
 整形外科看護29巻5号 Page457-459(2024.05)
- 16,武中章太  
 【その痛みはどこから-スポーツによる外傷・障害-】部位別の疼痛と治療のアプローチ 腰部の痛みと治療のアプローチ  
*臨床スポーツ医学*41巻12号 Page1282-1288(2024.12)
- 17,金山完哲  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】代表的な疾患 頸椎症性神経根症  
 整形外科看護29巻5号 Page420-423(2024.05)
- 18,金山完哲  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】代表的な疾患 頸椎症性脊髄症  
 整形外科看護29巻5号 Page416-419(2024.05)
- 19,山田 修太郎  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】代表的な疾患 頸椎椎間板ヘルニア  
 整形外科看護29巻5号 Page428-430(2024.05)
- 20,山田 修太郎  
 【ここまで知っておけば超安心!頸椎術後の症状とケア】代表的な疾患 頸椎後縦靭帯骨化症  
 整形外科看護29巻5号 Page424-427(2024.05)

### 【学会発表】

- 1,Shota Takenaka, Takahito Fujimori, Yuya Kanie, Takashi Kaito  
 Mortality and morbidity among dialysis-dependent patients undergoing spine surgery: insights from a prospective surgeon-maintained database  
*Eurospine*. 2024/10/2, オーストリア, ウィーン
- 2,H Aono, S. Takenaka, Y Nagamoto, H Tobimatsu, M Furuya, H Ishiguro, M Iwasaki  
 Impact of spinal instrumentation on early postoperative inflammatory markers: a comparative analysis in the same patient cohort with or without instrumentation  
*Eurospine*. 2024/10/2, オーストリア, ウィーン

3,山田 修太郎, 金山 完哲, 武中 章太

頸髄症に対する頸椎後方除圧固定術による過度の頸椎前彎獲得はT1Sを増大しうる

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

4,浦川 ひかり, 武中 章太, 濱本 秀一, 塚崎 裕之, 長本 行隆, 中嶋 望, 石黒 博之, 柏井 将文, 林 潤三, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 藤森 孝人, 森口 悠, 岡田 誠司, 海渡 貴司

脊椎固定術後の手術部位感染(SSI)におけるインストゥルメンテーション抜去のリスク因子の検討

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

5,藤森 孝人, 喜多 洋介, 蟹江 祐哉, 武中 章太, 海渡 貴司, 古家 雅之, 鈴木 祐紀, 幸 博和, 中嶋 望, 杉浦 剛, 石黒 博之, 釜谷 崇志, 塚崎 裕之, 坂井 勇介, 星山 政輝, 岡田 誠司

MRI画像と臨床情報を統合して脊髄腫瘍を鑑別するBi-Modal AIの開発

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

6,蟹江 祐哉, 古家 雅之, 藤森 孝人, 武中 章太, 海渡 貴司, 岡田 誠司

思春期特発性側彎症に伴う仙椎変形と適切な仙骨傾斜パラメータ

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

7,古家 雅之, 武中 章太, 藤森 孝人, 蟹江 佑哉, 長本 行隆, 中嶋 望, 三輪 俊格, 杉浦 剛, 金山 完哲, 大西 厚範, 星山 政輝, 山岸 亮, 坂井 勇介, 釜谷 崇志, 橋本 国彦, 岡田 誠司

腰椎手術における高位誤認手術の実際 大阪脊椎脊髄グループデータベース研究

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

8,古家 雅之, 武中 章太, 藤森 孝人, 蟹江 佑哉, 長本 行隆, 中嶋 望, 三輪 俊格, 杉浦 �剛, 金山 完哲, 大西 厚範, 星山 政輝, 山岸 亮, 坂井 勇介, 釜谷 崇志, 橋本 国彦, 岡田 誠司

腰椎手術における高位誤認手術の発生様式とその原因 大阪脊椎脊髄グループデータベース研究

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

9,武中 章太, 長本 行隆, 藤森 孝人, 古家 雅之, 蟹江 祐哉, 海渡 貴司, 岡田 誠司

85歳以上症例の増加傾向と脊椎手術合併症 大阪脊椎脊髄グループデータベース2024

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

10,青野 博之, 武中 章太, 飛松 秀和, 長本 行隆, 古家 雅之, 石黒 博之, 大西 厚範, 岩崎 幹季

PLIF後のケージ後方脱転の予防対策

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

11,坂浦 博伸, 池上 大督, 藤森 孝人, 杉浦 剛, 山田 修太郎, 金山 完哲

チューリッヒ跛行質問票による開窓術後再悪化に対するRevision PLIFの臨床成績 Primary PLIFとの比較

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

12,坂浦 博伸, 池上 大督, 藤森 孝人, 杉浦 剛, 山田 修太郎, 金山 完哲

頸椎症性脊髄症に対する椎弓形成術後の頸椎後彎化・矢状面バランス不良化に伴う全脊椎・骨盤矢状面パラメータ変化量の特徴

第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2024/4/17, 千葉

13,藤森 孝人, 喜多 洋介, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 武中 章太, 海渡 貴司, 鈴木 裕紀, 木戸 尚治, 岡田 誠司

深層学習を活用した紙形式のJOABPEQを自動で読み取るAIの開発

第97回日本整形外科学会学術総会. 2024/5/23, 福岡

14,藤森 孝人, 長本 行隆, 武中 章太, 海渡 貴司, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 右近 裕一朗, 松本 富哉, 奥田 真也, 岩崎 幹季, 岡田 誠司

成人脊柱変形に対する疾患特異尺度の開発

第97回日本整形外科学会学術総会. 2024/5/23, 福岡

15,王谷 英達, 伊村 慶紀, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 藤森 孝人, 竹中 聰, 田宮 大也, 若松 透, 中井 翔, 武中 章太, 岡田 誠司  
骨・軟部腫瘍に対する低侵襲・ナビゲーション支援治療 骨転移に対する低侵襲治療

第97回日本整形外科学会学術総会. 2024/5/23, 福岡

16,藤森 孝人, 喜多 洋介, 鈴木 裕紀, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 武中 章太, 海渡 貴司, 岡田 誠司, 木戸 尚治  
紙ベースで取得された患者報告型アウトカムを画像化して、自動読み取りするAIの開発

第43回日本医用画像工学会大会. 2024/8/5, 東京

17,金山 完哲, 西本 竜史, 中田 活也, 島田 幸造  
肩関節炎による関節破壊に対してロモソズマップ投与により関節面のリモデリング効果を認めた1例  
第26回日本骨粗鬆症学会. 2024/10/11, 金沢

### 【学会講演】

- 1,金山 完哲  
脊椎内視鏡手術の特性とハードル～Open畠からの術式拡大～  
第64回大阪脊椎外科フォーラム. 2024/7/22, 大阪
- 2,武中 章太  
高齢者の成人脊柱変形に対する保存治療と手術治療  
～骨粗鬆症治療を含めて～  
第67回 大阪整形外科セミナー. 2024/8/3, 大阪
- 3,武中 章太  
当院における脊椎低侵襲手術について  
地域で取り組む疼痛治療セミナー. 2024/9/20, 大阪
- 4,金山 完哲  
Assisted FESSによる脊椎内視鏡下手術の有用性と手技のポイント  
NOVA Spine Surgeons Assembly. 2024/9/21, 大阪
- 5,金山 完哲  
術者好みにアレンジ可能なAFESSの有用性と可能性について  
第28回関西MIST研究会. 2024/10/19, 大阪
- 6,武中 章太  
後縦靭帯骨化症・病気の正しい理解と新しい知見  
大阪脊柱靭帯骨化症友の会 講演会. 2024/10/27, 大阪
- 7,金山 完哲  
分かりやすい骨粗鬆症治療の考え方と実践、病診連携の重要性について  
福島区医師会学術講演会. 2024/11/19, 大阪
- 8,武中 章太  
脳rs-fMRIを用いた頸髄症の新規バイオマーカー探索－多施設研究データの解析－  
脊柱靭帯骨化症 令和6年第2回合同班会議 . 2024/11/22, 東京
- 9,武中 章太  
高難度成人脊柱変形手術における超音波メスの使用による安全性の向上  
第27回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会. 2024/11/22, 大阪
- 10,山田 修太郎  
骨粗鬆症性椎体骨折に対して4ロッドコンストラクトを併用した2レベル前方椎体置換術を行い骨癒合を得た2例  
第62回大阪骨折研究会. 2024/11/30, 大阪
- 11,金山 完哲  
先天性側弯症に対する多数回術後の141度局所後弯部偽関節による胸髄症の1例  
ZimVie難治症例検討会. 2024/12/14, 大阪
- 12,金山 完哲  
繰り返す恐怖の術後血腫の症例～Openおよび内視鏡の症例～  
第17回M&Mカンファレンス. 2025/3/15, 大阪
- 13,金山 完哲  
骨粗鬆症の素朴な疑問に答えます～ためになるQ&A～  
大阪病院院内骨粗鬆症講演会. 2025/3/26, 大阪

## スポーツ医学科

### 【原著・総説・著書】

1,北圭介

【ナースのギモン大解決!ケアの根拠がまるわかりin整形外科病棟】膝関節のケアの根拠  
整形外科看護 2024年29巻2号 Page142-149

2,北圭介

【膝蓋大腿関節障害の治療】自家腱を用いた内側膝蓋大腿靭帯再建術の限界と追加手術の適応.  
整形・災害外科 2024年67巻1号 Page25-31

3,北圭介

整形外科 名人のknow-how 生体力学特性に基づいた新規半月板修復術 半月板円周線維補強術(mCFA)  
整形・災害外科 2024年67巻4号 Page334-337

### 【学会発表】

1,吉村 長晃

当院におけるSchatzker分類Ⅱ & Ⅲ型脛骨プラトー骨折に対する関節鏡視下整復固定術の治療成績と手術時の工夫  
第142回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 2024/4/12, 米子

2,木ノ本みづき

近位脛骨骨切り術後感染のリスク因子の検討

第1回AKOのリスクを語る会. 2024/7/13, 大阪

3,木ノ本みづき

外側半月板損傷における半月板円周線維補強術を併用した半月板縫合術の短期成績

第2回日本スポーツ整形外科学会2024. 2024/9/13, 東京

4,熨斗 優樹

解剖学的単束前十字靭帯再建術後半年における大腿四頭筋腱および膝蓋腱の移植腱のMRI評価

第2回日本スポーツ整形外科学会2025. 2024/9/14, 東京

5,木ノ本みづき

内側楔状開大式近位脛骨骨切り術後早期感染のリスク因子の検討

第30回日本最小侵襲整形外科学会. 2024/11/8, 福井

6,熨斗 優樹

内側半月板後角フラップ損傷における半月板最小切除の治療成績

第31回日本最小侵襲整形外科学会. 2024/11/9, 福井

7,木ノ本みづき

近位脛骨骨切り術後感染のリスク因子の検討 -内側開大式 vs 外側閉鎖式-

第2回日本膝関節学会. 2024/12/5, 那覇

8,熨斗 優樹

遠位大腿骨内反骨切り術における下肢アライメント変化の検討

第2回日本膝関節学会. 2024/12/5, 那覇

9,木ノ本みづき

内側半月板後根断裂(MMPRT)に対して半月板円周線維補強術 (CFA) を施行した症例

第24回大阪スポーツ障害・外傷を語る会. 2024/12/21, 大阪

10,熨斗 優樹

内側円板状半月板に対して縫合術を施行した2例

第24回大阪スポーツ障害・外傷を語る会. 2024/12/21, 大阪

11,熨斗 優樹

内側円板状半月板に対して縫合術を施行した2例

第37回関西関節鏡膝研究会. 2025/3/1, 奈良

12,齋藤謙太郎

脛骨内側プラトーの骨破壊を伴う内側型変形性膝関節症に対してCWHTOを施行した2例

第38回関西関節鏡膝研究会. 2025/3/2, 奈良

## 【学会講演】

1,北 圭介

Meniscal circumferential fiber augmentation technique

第3回日本Knee osteotomy and Joint Presservation研究会. 2024/4/19, 高松

2,北 圭介

Meniscal circumferential fiber augmentation technique

Stryker's Arthroscopic Training CFA. 2024/4/28, 大阪

3,北 圭介

OWHTOのピットフォール

大阪大学AKOセミナー. 2024/6/22, 大阪

4,北 圭介

新規半月板修復術『半月板円周線維補強術』が与えるインパクト

第33回下鴨整形疾患ファーラム. 2024/7/6, 京都

5,北 圭介

半月板円周線維補強術による半月板修復成績向上の可能性

第2回日本スポーツ整形外科学会2024. 2024/9/12, 東京

6,北 圭介

半月板円周線維補強術による半月板機能温存の試み

第143回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 2024/10/4, 神戸

7,北 圭介

膝関節機能温存のための新しい半月板縫合術-半月板円周線維補強術-

第30回日本最小侵襲整形外科学会. 2024/11/8, 福井

8,北 圭介

半月板円周線維補強術による半月板機能温存は膝関節の未来を変えられるか

第57回中国・四国整形外科学会. 2024/11/24, 広島

9,北 圭介

病態と病因から考える膝蓋骨不安定症の診断と治療

第2回日本膝関節学会. 2024/12/5, 那覇

10,北 圭介

解剖学的かつ生体力学的に理にかなった新規半月板修復術 -半月板円周線維補強術-

第2回日本膝関節学会. 2024/12/5, 那覇

11,Kita K

Meniscal Circumferential Fiber Augmentation

APAC Symposium 2024 Advanced Techniques Shoulder & Knee. 2024/6/27.Sydney

12,Kita K

Quantitative analysis of the morphology of the trochlea with recurrent patellar dislocation using MRI

International Patellofemoral Study Group. 2024/8/12. Montana

## 手外科・外傷センター

### 【原著・総説・著書】

1,三好祐史、轉法輪光、宮村聰、島田幸造  
橈骨頭骨折に対する関節鏡補助下骨接合術

日本肘関節学会雑誌 2024;37:53-56

2,Temporin K, Miyoshi Y, Miyamura S, Oura K, Shimada K

Bone deformity in sports-related elbow osteoarthritis – influence of osteochondritis dissecans of the capitellum:  
A cross-sectional study

Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery 2024; 29: 1685-1691

3,島田幸造

上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する骨膜付き肘筋有茎骨移植

Monthly Book Orthopaedics 2024;37:51-57

4,島田幸造

肘関節鏡手術の基本手技

新オーエス・ネクサス12・上肢の関節鏡視下手術 2024;58-68

5,島田幸造

変形性肘関節症の診断・治療指針

運動器診療最新ガイドライン第2版 2025;407-409

## 【学会発表】

1,三好 祐史

手術加療を行った屈筋腱皮下断裂21例の病態と治療

日本手外科学会学術集会. 2024/4/25, 奈良

2,桐村 秀哉

内側に生じた弾発肘の1例

肩と肘を語る会. 2024/7/27, 京都

3,桐村 秀哉

上腕骨小頭骨折に対して関節鏡補助下で内固定を行った1例

日本最小侵襲整形外科学会. 2024/11/9, 福井

4,三好 祐史

TRASH elbowへ至った上腕骨遠位骨端線離開

大阪骨折研究会. 2024/11/30, 大阪

5,Shimada K

Arthroscopic surgery for sports-related injuries of the elbow in adult

日本関節病学会. 2024/7/19, 東京

6,島田幸造

投球肘障害に対する手術治療

中部日本整形外科災害外科学. 2024/10/4, 神戸

7,三好 祐史

前腕部での腫瘍広範切除後の手指伸筋機能の再建

手の外科懇話会. 2024/10/19, 大阪

8,三好 祐史

上腕骨外側上顆炎に関与する肘外側不安定性の評価と術後成績との関連

日本肘関節学会. 2025/3/14, 岡山

## 【学会講演】

1,轉法輪 光

成人の肘頭疲労骨折の診断と治療 診断治療のコンセプトと実際2

神楽坂スポーツ医学セミナー. 2024/12/7, 大阪

2,島田幸造

血友病性関節症Up to date ~定期補充療法下における関節症の診療~

J-HEART in 神奈川 血友病チーム医療ワークショップ. 2024/10/5, 横浜(web)

3,Shimada K

Role of Arthroscopy in Managing OCD in Athletes

17th Alexandria Hand & Microsurgery Congress. 2024/10/10. Alexandria, Egypt (web)

4,島田幸造

整形外科医から見る血友病性肘関節症

Hemophilic Elbow Arthropathy Seminar. 2024/11/8, 横浜

5,島田幸造

関節鏡が可能にした肘関節温存手術 -肘関節鏡がもたらした新知見-

第34回京都手外科集談会. 2025/3/8, 京都

## リハビリテーション科

### 【学会発表】

1,坂上譲、寺川晴彦

抗リン脂質抗体症候群による難治性狭心症に対してリハビリテーション治療を実施した一例

第61回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2024/6/13-16.東京

2,大塚秀人、坂上譲、水田裕文、前田香、寺川晴彦

視床出血による重度感覺障害に対して感覺入力によるリハビリテーション訓練により、歩行獲得を目指した一例

第61回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2024/6/13-16.東京

3,清水雅子、岩崎輝夫、山森英長、志方優子、松下沙織、大谷陽子、伊藤拓也、藤原麻衣、佐藤和佳、永渕輝佳、片桐直子、由良優実夫、寺川晴彦

疼痛コントロール目的で介入し、非がん性疼痛を疑い理学療法にて軽快した肺がん患者の1例

第29回日本緩和医療学会学術大会. 2024/6/14-15.神戸

4,水田典孝、佐伯一、大江実穂、永渕輝佳、水田裕文、寺川晴彦

外来心臓リハビリテーションにおける高強度インターバルトレーニングの有効性

第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 2024/7/15-16.神戸

5,田中健毅、北山幸子、興田夏美、寺川晴彦

人間ドック受診者におけるロコモ25評価結果と将来の転倒発生との関連：前向き調査研究

第78回日本体力医学会大会. 2024/9/4, 佐賀

6,赤崎千春、高橋憲、松本恵理子、由良優実夫、水田裕文、前田香、寺川晴彦、高嶋学志

肢位の違いが骨盤底筋随意収縮に与える影響～超音波画像診断装置と一事例実験デザインを用いた検証～

第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2024/11/1-3.岡山

7,山中優、吉田はる香、由良優実夫、水田裕文、寺川晴彦

MTDLP及び応用行動分析学に基づく介入により行動変容を認めた認知症の一例

第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2024/11/1-3.岡山

8,松本恵理子、赤崎千春、西川紀子、清水加世子、塙本文音、前田香、寺川晴彦

当院における“リンパ浮腫外来”的現状と課題

第9回地域医療総合医学会. 2024/11/29-30.仙台

9,由良優実夫、志方優子、清水雅子、水田裕文、前田香、寺川晴彦、永渕輝佳

がん患者の筋・筋膜性疼痛に対するチーム医療の取り組み

第9回地域医療総合医学会. 2024/11/29-30.仙台

10,内田直祐、伊藤博人、松本恵理子、木下佳子、権藤要、前田香、寺川晴彦

半月板縫合術後の下肢麻痺に対し義肢装具との密な連携が歩行の改善に有効であった一例

第9回地域医療総合医学会. 2024/11/29-30.仙台

11,酒井宏樹、佐伯一、水田裕文、木下佳子、寺川晴彦

手術適応に迷う重症心房性機能性MR症例に対してCPXを用いて実施した外来心リハの検討

第10回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会. 2025/2/9, 京都

12,南頼康、寺川晴彦

重症急性膵炎患者に対する早期リハビリ介入により自宅退院可能となった一症例

第64回近畿理学療法学術大会. 2025/2/23, 奈良

## 消化器外科

### 【原著・総説・著書】

1,Nishida T

Molecular and clinicopathological features of KIT/PDGFR $\alpha$  wild-type gastrointestinal stromal tumors.

Cancer Sci. 115, 3, 894-904

2,Nishida T

Ripretinib as a second-line therapy for advanced gastrointestinal stromal tumors in the era of precision medicine.

AME Clin Trials Rev. 32, 2, doi: 10.21037/actr-24-14

3,Nishida T

Long-term adjuvant therapy for high-risk GIST: towards tailored imatinib duration?

Ann Oncol.. 35,12, 1083-1084

4,Teranishi R

Takahashi T, Sato S, Sakurai K, Kishi K, Hosogi H, Nakai T, Kurokawa Y, Fujita J, Nishida T, Hirota S, Tsujinaka T

Gastric Cancer. 27,2, 355-365

5,Wu X,

Iwatsuki M, Takaki M, Saito T, Hayashi T, Kondo M, Sakai Y, Gotohda N, Tanaka E, Nishida T, Baba H

Gastric Cancer. 27, 2, 235-247

6,Hirota S

Tateishi U, Nakamoto Y, Yamamoto H, Sakurai S, Kikuchi H, Kanda T, Kurokawa Y, Cho H, Nishida T, Sawaki A, Ozaka M, Komatsu Y, Naito Y, Honma Y, Takahashi F, Hashimoto H, Udo M, Araki M, Nishidate S

Int J Clin Oncol. 29, 6, 647-680

7,Komatsu Y

Muro K, Chosa M, Hirano K, Sunaya T, Ayukawa K, Hattori K, Nishida T

Front Oncol. 14, 17, 1412144

8,Kawai A

Yoshida A, Shimoji T, Kobayashi E, Yonemori K, Ogura K, Iwata S, Nishida T

Cancer Sci. 115, 8, 2831-2838

9,Natsume M

Niwa M, Ichikawa S, Okamoto T, Tsutsui H, Usukura D, Murata T, Abe R, Shimonaka M, Nishida T, Shiina I, Obata Y

J Biol Chem. 26, 107327

10,Sato Y

Morita S, Yoshida A, Yoshinaga S, Nishida T

Clin J Gastroenterol. 17, 1, 18-22

11,Saito Y

Takahashi T, Nishida T, Murakami K, Endo S, Nishikawa K, Kimura Y, Motoori M, Tanaka K, Miyazaki Y, Makino T, Kurokawa Y, Yamasaki M, Nakajima K, Eguchi H, Doki Y

Am Surg. 90. 3, 386-392

12,西田俊朗

High-risk GISTに対する治療戦略

消化器内視鏡. 36, 7, 1023-1026

【学会発表】

1,Morimoto O

Treatment and Outcome of pancreatic cancer in elderly patients over 80 years old

The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery .6/28-6/29 Hiroshima

2,西田俊朗

消化管間質腫瘍（GIST）における遺伝子変異と遺伝子型毎の臨床病理学的特徴

第124回日本外科学会定期学術集会. 4/18-4/20 名古屋

3,森本修邦

高齢者脾癌に対する脾頭十二指腸切除術の治療成績

第79回日本消化器外科学会総会. 7/17-19 山口

4,井出義人

再発鼠経ヘルニアに対する治療戦略

第22回日本ヘルニア学会学術集会. 5/24-25 新潟

5,井出義人

PDM(persistent descending mesocolon)に対する腹腔鏡下大腸癌手術の工夫

第79回日本消化器外科学会総会. 7/17-19 山口

6,井出義人

ロボット支援下直腸切断術におけるストーマ造設の工夫

第79回日本大腸肛門病学会学術集会. 11/29-30 横浜

7,井出義人

直腸脱に対するLaparoscopic suture rectopexyの工夫と治療成績

第37回日本内視鏡外科学会総会. 12/5-12/7 福岡

8,出村公一

当院における非乳頭部十二指腸腫瘍に対するD-LECSの検討

第96回日本胃癌学会総会. 2/28-3/1 京都

9,出村公一

当院における減量・代謝改善手術の初期治療成績

第42回日本肥満症治療学会学術集会. 10/19-20 横浜

10,出村公一

当院における胃癌に対するロボット支援下胃切除の導入

第37回日本内視鏡外科学会総会. 12/5-7 福岡

11,山中千尋

脾癌術後再発の上腸間膜静脈狭窄による拳上空腸静脈瘤に対し経皮経肝門脈ステントと塞栓術が奏功した一例

第79回日本消化器外科学会総会. 7/17-7/19 下関

12,山中千尋

腹腔鏡下肝右葉切除を施行した多発肝原発類上皮血管内皮腫の一例

第37回日本内視鏡外科学会総会. 12/5-12/7 福岡

13,村上剛平

当院における進行再発胃癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の検討

第96回日本胃癌学会総会. 2/28-3/1 京都

14,村上剛平

腹壁瘢痕ヘルニアに対するeMILOSの治療成績

第79回日本消化器外科学会総会. 7/17-7/19 下関

15,村上剛平

胃粘膜下腫瘍に対する単孔式腹腔鏡下手術の工夫

第37回日本内視鏡外科学会総会. 12/5-12/7 福岡

16,岡啓史

ICG蛍光法による血流評価で追加切除を行った大腸癌手術についての検討

第37回日本内視鏡外科学会総会. 12/5-12/7 福岡

17,岡啓史

腸回転異常症を伴う多発大腸癌に対して腹腔鏡下手術を施行した1例

第79回日本消化器外科学会総会. 7/17-7/19 山口

18,山川拓真

後期研修医のTAPP手技の習得に関する検討

第37回日本内視鏡外科学会総会. 12/5-12/7 福岡

## 呼吸器外科

### 【原著・総説・著書】

1,高濱 誠

気管軟化症手術

胸部外科. 2024 Vol.77 p.496

2,高濱 誠

膜様部の連続性を確保した気管分岐部切除・再建術

胸部外科. 2024 Vol.77 p.1124

3,Takahama M.

A drastic post operative course after the resection of primary pulmonary choriocarcinoma in a male.

Respirol Case Rep. 2024 ;12(7)::e01400

### 【学会発表】

1,高濱 誠

気管支の軸方向を考慮した硬性気管支鏡下Intervention手技

第41回日本呼吸器外科学会. 2024/5/31, 軽井沢プリンスホテル

2,高濱 誠

硬性気管支鏡によるInterventional Pulmonology

第32回日本呼吸器内視鏡学会専門医大会. 2025/2/22, 大津市民会館

### 【学会講演】

1,高濱 誠

気道狭窄に対するInterventional Pulmonology

日本呼吸器内視鏡学会会員. 2024/6/26, 大阪

2,高濱 誠

局所進行肺癌に対する拡大手術と気道Intervention

日本呼吸器外科学会会員. 2024/6/3~7/12. E-learning

3,高濱 誠

Interventional Pulmonology

日本呼吸器内視鏡学会会員. 2024/7/27, 大阪

4,高濱 誠

呼吸器外科医が考える術後補助療法の至適患者像

m3会員（呼吸器内科医/外科医）. 2024/5/13, WEB講演

5,高濱 誠

硬性気管支鏡による気道Intervention

m3会員（呼吸器内科医/外科医）. 2024/9/2~9/8. WEB講演

6,高濱 誠

呼吸器スキルアップセミナー 胸腔ドレナージ

日本呼吸器学会会員. 2024/8/17, 大阪

7,高濱 誠

硬性気管支鏡・ステント

日本呼吸器内視鏡学会会員. 2025/1/24, 神戸

## 乳腺・内分泌外科

### 【学会発表】

1.大谷 陽子

心毒性薬剤使用中の乳癌患者におけるGLS(スペックルトラッキング法)による収縮能低下の早期発見の試み

第31回日本乳癌学会学術総会. 2023/6/29. パシフィコ横浜ノース

2.笠原 千聖

再生不良性貧血を併存する乳癌に化学療法を安全に施行した一例

第31回日本乳癌学会学術総会. 2023/6/29. パシフィコ横浜ノース

3.釜野 真由子

乳癌多発肝転移に対する化学療法中に偽性肝硬変をきたし、食道静脈瘤を認めた2例

第31回日本乳癌学会学術総会. 2023/6/29. パシフィコ横浜ノース

## 心臓血管外科

### 【学会発表】

1.勝谷 礼子

後腹膜線維症加療中に腹部大動脈仮性瘤を繰り返した大動脈周囲炎の1例

第37回血管外科学会近畿地方会. 2024/3/2, 大阪

2,Kitabayashi K

Semi-order fenestrated thoracic stent-graft for distal arch aortic pathologies

72th ESCVS. 2024/5/25-28. Istanbul

3,勝谷 礼子

心房中隔欠損症術後、遺残シャント閉鎖術および経中隔アプローチにて三尖弁置換術を施行した孤立性右胸心の一例

第67回関西胸部外科学会. 2024/6/13-14. 大阪

4,北林 克清

B型大動脈解離に対する開窓型ステントグラフト内挿術後、3ヶ月目にエンドリークが消失した症例

第138回日本循環器学会近畿地方会. 2024/12/7, 大阪

## 脳神経外科

### 【原著・総説・著書】

1.Terakawa T, Hayasaka Y, Umeki Y, Ikeda M, Matsuoka Y, Mizuki M, Matsui S, Nakahara W, Matsunaga H, Morris S, Nishida T, Sakaki T, Yoshimoto T, Ueda S

Tyrosine Kinase Inhibitor-induced Cerebrovascular Occlusion Presenting with Moyamoya Disease-like Stenosis of the Circle of Willis

Intern Med.. Nov 1;63(21):2977-2981

### 【学会発表】

1,豊田佐織、山際啓典、吳村有紀、榎孝之

無症候性出血を繰り返す転移性悪性黒色腫の1例

第85回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会. 2024/4/6, 大阪

2,一瀬綾花、原田敦子、清水東与、角野喜則、前野和重、荒木亮祐

脊髄係留解除術を施行した点状軟骨異形成症の1例

第52回日本小児神経外科学会. 2024/8/8, 富山

3,一瀬綾花、吳村有紀、山際啓典、榎孝之

Superior Petrosal SinusおよびPetrosal Veinの脳静脈洞血栓症の1例

第54回日本脳卒中の外科学会学術集会. 2025/3/7, 大阪

4,村瀬翔、松本涼聖、山下和哉、上田周一、一瀬綾花、吳村有紀、山際啓典、榎孝之、寺川晴彦、高田和城

当院の脳卒中診療における頭部CT perfusionの臨床的意義

第50回日本脳卒中学会学術集会. 2025/3/8, 大阪

5,濱本 晴子、岡崎 周平、隅 寿恵、藤本 京利、権 泰史、高垣 匠寿、笹原 祐介、神吉 秀明、河野 友裕、高杉 純司、

藤本 康倫、由上 登志郎、藤中 俊之、本山 靖、橋本 弘行、榎 孝之、横江 勝、坂口 学、貴島 晴彦、望月 秀樹

多施設共同研究による急性期脳卒中治療開始時間に影響を与える施設因子の解析

第50回日本脳卒中学会学術集会. 2025/3/7, 大阪

## 糖尿病内分泌内科

### 【学会発表】

1,上野 圭祐、藤吉 仁史、森本 尚喜、門澤 莉菜、桂 央士、馬屋原 豊

慢性腎臓病を有する2型糖尿病患者におけるグリニド薬の安全性および有用性についての臨床研究

第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024/5/17, 東京

2,焦 裕之、武呂 誠司、最上 伸一、小杉 圭右、橋本 久仁彦、北川 良裕、馬屋原 豊、徳田 好勇、谷本 吉造、川岸 隆彦、谷口

敏雄、庄司 繁市、久米田 靖郎、吉内 和富、岡野 理江子、村田 佳織、姜 信午、安田 哲行

Tirzepatideに関するアンケート調査

第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024/5/17, 東京

3,足立奏美、桂央士、橋本紘宣、森田香菜子、上野圭祐、外川有里、馬屋原豊

高度な栄養不良により脂肪組織の膠様変性をきたし低血糖が頻発した一例

第61回日本糖尿病学会近畿地方会. 2024/10/26, 大阪

## 腎臓内科

### 【原著・総説・著書】

1. Yamaguchi S, Hamano T, Oka T, Doi Y, Kajimoto S, Sakaguchi Y, Suzuki A, Isaka Y  
Low-grade proteinuria and atherosclerotic cardiovascular disease: A transition study of patients with diabetic kidney disease  
PLoS One. 2022 Feb 25; 17(2): e0264568
2. Yamaguchi S, Hamano T, Oka T, Doi Y, Kajimoto S, Shimada K, Matsumoto A, Sakaguchi Y, Matsui I, Suzuki A, Isaka Y  
Mean corpuscular hemoglobin concentration: an anemia parameter predicting cardiovascular disease in incident dialysis patients  
J Nephrol. 2022 Mar; 35(2): 535–544

### 【学会発表】

3. 青木克憲, 玉井那実, 川野祐暉, 宮川博光, 山口 慧, 岩橋恵理子, 鈴木 朗疼  
痛緩和困難な陰茎カルシフィラキシスに対し陰茎切断術が奏功した1例  
日本透析医学会学術総会. 2022/07/03, 横浜
4. 西垣内俊也, 平井祐里, 中川和真, 川野祐暉, 森岡史行, 山口 慧, 岩橋恵理子, 青木克憲, 鈴木 朗 TNF  
阻害薬による膜性増殖性糸球体腎炎が疑われた関節リウマチの1例  
日本腎臓学会西部学術大会. 2022/11/19, 熊本
5. 川野祐暉, 平井祐里, 中川和真, 西垣内俊也, 加藤紗香, 山口 慧, 岩橋恵理子, 青木克憲, 鈴木 朗テ  
トラクロロエチレン暴露により発症したと考えられる尿細管間質性腎炎の1例  
日本腎臓学会西部学術大会. 2022/11/19, 熊本
6. 山口 慧, 玉井那美, 川野祐暉, 西垣内俊也, 宮川博光, 岩橋恵理子, 青木克憲, 鈴木 朗二  
—ドルガイドの使用は腎生検の確実性と関連する  
日本腎臓学会学術総会. 2022/06/12, 神戸

## 感染症内科

### 【原著・総説・著書】

1,長田 学

Part 8. Clinical syndromes: Genitourinary tract  
　　シュロスバーグの臨床感染症学 第2版. 408～428

2,長田 学

Part 23. Specific organisms: Viruses Rabies  
　　シュロスバーグの臨床感染症学 第2版. 1228～1232

### 【学会発表】

1,長田 学

"HPVワクチンキャッチアップ接種～リスクコミュニケーション上のポイントと課題～"  
第9回JCHO地域医療総合医学会. 2024年11月29日（金）仙台国際センター

### 【学会講演】

1,長田 学

"現在大流行中のマイコプラズマ肺炎～診断・治療のポイント～"  
福島区・此花区医師会員. 2025年2月13日(木) 福島区民センター

## 消化器内科

### 【原著・総説・著書】

1,日山 智史

Non-Pure Intestinal Phenotype as an Indicator of Progression in Sporadic Nonampullary Duodenal Adenomas:  
A Multicenter Retrospective Cohort Study.  
Clin Transl Gastroenterol.. 2024 Jan 1;15(1):e00649.

2,日山 智史

Selection of anti-cytokine biologics by pretreatment levels of serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein in  
patients with inflammatory bowel disease.  
Sci Rep.. 2024 Nov 29;14(1):29755. doi: 10.1038/s41598-024-80285-6.

3,山本 克己

Short-term outcomes of endoscopic resection for colorectal neuroendocrine tumors: Japanese multicenter  
prospective C-NET STUDY  
Dig Endosc.. 2024; 36: 942-951.

### 【学会発表】

1,佐藤 大竜

集学的治療により治療し得た再発性、難治性肝細胞癌の1例  
第246回日本内科学会近畿地方会. 2024.12.14 大阪市

2,中尾 憲史

肝原発神経内分泌癌と肺腺癌の重複癌の1例  
第243回日本内科学会近畿地方会. 2024.3.16 大阪市

## 循環器内科

### 【原著・総説・著書】

1,Hirose K, Fukui T, Miyoshi M, Ogasawara N.

Snare technique is useful for leadless pacemaker implantation in a patient with severe right atrial dilatation.  
Journal of Arrhythmia.. 2025 Apr 23;41(2):e70075.

2,risako kobata

A Breast Cancer Patient with Chemotherapy-Induced Chronic Lymphocytic Myocarditis Successfully Treated  
with Steroid Therapy  
JCCASE. volume 31, Issue 3, P57-60, March 2025

3,Sunaga A, Miyoshi M

Novel anticoagulation therapy using apple watch after catheter ablation for atrial fibrillation-Up to AF trial:  
Design and rationale

Journal of Arrhythmia. . 2024 Dec 5;41(1):e13194. doi: 10.1002/joa3.13194. eCollection 2025 Feb.

4,Daiki Tomidokoro,Miyoshi M

Yield of Genetic Testing for Long-QT Syndrome in Elderly Patients With Torsades de Pointes  
Circ Genom Precis Med.. 2024 Dec;17(6):e004671.

5,Akihiro Sunaga ,Miyoshi M

Extensive ablation for persistent atrial fibrillation patients with mitral regurgitation: Insights from the  
EARNEST-PVI prospective randomized trial.

International Journal of Cardiology. 2024 Sep 1:410:132231.

## 【学会発表】

1,藏本 見帆

CT上の多発性結節陰影から右心系の感染性心内膜炎を疑われた一例

第14回日本心増弁膜症学会. 2024/12/20, 出島メッセ長崎

2,藏本 見帆

敗血症性肺塞栓症、多発肺膿瘍を合併した肺動脈弁位感染性心内膜炎の一例

日本超音波医学会 第51回関西地方会学術集会. 2024/9/21, 大阪国際会議場

3,山本 将平

心エコーを契機に診断された収縮性心膜炎の一例

日本超音波医学会第51回関西地方学術集会. 2024/9/21, 大阪国際会議場

4,山本 将平

当院におけるGDMTの実施率向上を目指した心不全診療

Heart Failure Seminar for Next Generation. 2024/10/16, アストラゼネカ本社

5,山本 将平

循環器疾患と便秘症

グーフィスWEBチャンネル. 2024/11/5, 持田製薬関西支店

6,山本 将平

A 42-Year-Old Man with Acute Coronary Syndrome Caused by Cardiovascular Sequelae of Kawasaki disease in the Regressed Lesion

第89回日本循環器学会学術集会. 2025/3/28, パシフィコ横浜

7,佐伯一

当院通院心リハ症例のインターネット利用状況に関する質問票の回答結果からの遠隔心リハについての考察

第30回日本リハビリテーション学会学術集会. 2024/7/14, 神戸国際会議場

8,水田典孝、佐伯一

外来心臓リハビリテーションにおける高強度インターバルトレーニングの有効性

第30回日本リハビリテーション学会学術集会. 2024/7/14, 神戸国際会議場

9,Hajime Saeki

"Effect of Weekly Visit Frequency on Improvement of Peak Oxygen Intake during Outpatient Cardiac Rehabilitation"

第89回日本循環器学会学術集会. 2025/3/28, パシフィコ横浜

10,酒井宏樹、佐伯一

手術適応に迷う重症心房性機能性MR症例に対してCPXを用いて実施した外来心リハの検討

日本心臓リハビリテーション学会 第10回近畿地方会. 2025/2/9, 京都テルサ ←★ポスター賞受賞★

11,中川雅美

ATTR心アミロイドーシスを疑った99m Tcピロリン酸シンチグラフィ陽性症例の臨床的特徴について

日本心エコー図学会. 2024/4/20, 兵庫県姫路市

12,廣瀬 江祐

巨大右房患者のリードレスペースメーカー留置においてSnare Techniqueが有用であった一例

福島循環器診療を考える会. 2024/5/23, グランキューブ大阪

13,廣瀬 江祐

Utility of OCTARAY in Atrial Flutter Ablation

第70回日本不整脈心電学会学術大会. 2024/7/19. 石川県立音楽堂 / 金沢市アートホール / ANAクラウンプラザ  
ホテル金沢 / ホテル日航金沢 / ホテル金沢

14,廣瀬 江祐

right top pulmonary veinを有する患者に対してクライオバルーンアブレーションで肺静脈隔離を行った一例

第35回カテーテルアブレーション関連秋季大会. 2024/10/11, グランキューブ大阪

15,三好 美和

Study of scar areas for Marshall vein ethanol injection therapy

第70回 日本不整脈学会. 2024/7/24,

## 【学会講演】

1,福井智大

再狭窄症例にレクビオ導入を検討した一例

医師. 2024/5/10, 大阪

2,福井智大

TAVIの現状および展望

医師. 2024/11/14, 大阪

3,小笠原延行

見落としやすい循環器疾患

救命救急士. 2024.7.29.大阪市消防局

4,小笠原延行

高齢社会における低侵襲 循環器診療TAVIについて

医療関係者. 2025.1.26. 当院会議室

5,小笠原延行

高齢社会における低侵襲 循環器診療を考える

医師. 2024.9.11. 此花区医師会

6,小笠原延行

コレステロールと心臓病のお話

一般市民. 2025.1.31. 福島区役所

7,小笠原延行

心不全と上手に付き合うコツ

一般市民. 2024.7.4. 福島区役所

8,三好 美和

ペインレスアブレーションのとりくみ

AF Web セミナー・ZOOM・大阪国際会議場. 2024/7/24,

9,三好 美和

アブレーションで治す心臓病

大阪産業創造館・腎臓病患者. 2024/6/8,

## 皮膚科

### 【原著・総説・著書】

1,Yuki Takehara

"Successful treatment of cellulitis-like Mycobacterium haemophilum infection using oral medication and surgery"

J Dermatol. 2024;51:e386-e387

2,竹原友貴

ストッキングによる接触皮膚炎

美容皮膚医学 BEAUTY. 2025;8:70-75

3,桑田由璃子、竹原友貴

肥厚性皮膚骨膜症と鑑別した原発性本態性脳回転状皮膚の1例

皮膚の科学. 2024;23:269-274

### 【学会発表】

1,川部僚子

乳癌治療後に臀部に生じた多発性エクリン汗孔腫の1例

第506回日本皮膚科学会大阪地方会. 2024/12/14, 大阪

2,川部僚子

ジアフェニルスルホンにより改善を認めた顔面肉芽腫の1例

第508回日本皮膚科学会大阪地方会. 2025/3/2, 大阪

## 泌尿器科

### 【英文原著】

1,Sekii Y, Kiuchi H, Takezawa K, Ueda N, Imanaka T, Kuribayashi S, Okada K, Fukuhara S, Imamura R, Negoro H, Kobayashi Y, Kobayashi H, Nonomura N.

Oxidative stress-induced NCC activation in the development of nocturnal polyuria in mice: Therapeutic potential of a sustained hydrogen-releasing silicon-based agent

Biochemistry and Biophysics Reports. 2025 Jan 20:41:101923.

2,Imanaka T, Takezawa K, Kujime Y, Kitakaze H, Tsujimura G, Kuribayashi S, Sekii Y, Ueda N, Fukuhara S, Kiuchi H, Negoro H, Nonomura N.

Decreased nitric oxide production is a novel therapeutic target for salt-induced nocturnal polyuria in aging  
Scientific Repots. 2025 Jan 28;15(1):3589.

3,Kuribayashi S, Fukuhara S (Corresponding author), Kitakaze H, Tsujimura G, Imanaka T, Ueda N, Takezawa K, Ikawa M, Nonomura N.

Intratesticular creatine maintains spermatogenesis by defining tight junctions  
Scientific Repots. 2024 Dec 28;14(1):30692.

4,Yamamichi G, Kato T, Arakawa N, Ino Y, Ujike T, Nakano K, Koh Y, Motoyama Y, Outani H, Myoba S, Ishizuya Y, Yamamoto Y, Hatano K, Kawashima A, Fukuhara S, Uemura H, Okada S, Morii E, Nonomura N, Uemura M.  
GDF15 propeptide promotes bone metastasis of castration-resistant prostate cancer by augmenting the bone microenvironment

Biomarker Res. 2024 Nov 25;12(1):147.

5,Tsujimura A, Fukuhara S, Chiba K, Yoshizawa T, Tomoe H, Shirai M, Kimura K, Kikuchi E, Maeda E, Sato Y, Nagai A, Nagao K, Sasaki H; Clinical Research Promotion Committee of the Japanese Society for Sexual Medicine.

Erectile Function and Sexual Activity Are Declining in the Younger Generation: Results from a National Survey in Japan.

World Journal of Men's Health. 2025 Jan;43(1):239-248.

6,Tanaka H, Matsuyama S, Ohta T, Kakazu K, Fujita K, Fukuhara S, Soda T, Miyagawa Y, Tsujimura A.  
The Natural HASPIN Inhibitor Coumestrol Suppresses Intestinal Polyp Development, Cachexia, and Hypogonadism in a Mouse Model of Familial Adenomatous Polyposis (ApcMin/+).

Biology (Basel). 2024 Sep 20;13(9):736.

7,Shirai M, Sano M, Anno Y, Ishikawa K, Taniguchi A, Kure A, Uesaka Y, Nozaki T, Fukuhara S, Iwasa A, Kobayashi K, Kato J, Tsujimura A.

Efficacy of a new vacuum erection device (Vigor 2020) for erectile dysfunction: A retrospective study in Japan.  
International Journal of Urology. 2024 Dec;31(12):1386-1392.

8,Kuribayashi S, Fukuhara S (Corresponding author), Kitakaze H, Tsujimura G, Imanaka T, Ueda N, Takezawa K, Kiuchi H, Tachi A, Sakamoto J, Abe T, Tanigawa G, Miyagawa Y, Fujimoto T, Nonomura N.

Association between serum testosterone changes and parameters of the metabolic syndrome.  
Endocrine Journal. 2024 Dec 2;71(12):1125-1133.

9,Maruki T, Morioka S, Miyazato Y, Tsuzuki S, Takezawa K, Kuribayashi S, Kutsuna S, Ohmagari N, Fukuhara S.  
Association between post-COVID-19 conditions and male semen quality in Japan: A descriptive investigation.  
Journal of Infection and Chemotherapy. 2024 Nov;30(11):1194-1196.

10,Kuribayashi S, Fukuhara S (Corresponding author), Kitakaze H, Tsujimura G, Imanaka T, Okada K, Ueda N, Takezawa K, Katayama K, Yamaguchi R, Matsuda K, Nonomura N.

KEAP1-NRF2 system regulates age-related spermatogenesis dysfunction.  
Reproductive Medicine and Biology. 2024 Jun 24;23(1):e12595.

11,Rambhatla A, Shah R, Ziouziou I, Fukuhara S (29番目、他260名)

Global Practice Patterns and Variations in the Medical and Surgical Management of Non-Obstructive Azoospermia: Results of a World-Wide Survey, Guidelines and Expert Recommendations.

World Journal of Men's Health. 2025 Jan;43(1):92-122.

12,Shah R, Rambhatla A, Atmoko W, Fukuhara S (28番目 他254名)

Global Practice Patterns in the Evaluation of Non-Obstructive Azoospermia: Results of a World-Wide Survey and Expert Recommendations.

World Journal of Men's Health. 2024 Oct;42(4):727-748

### 【英文症例報告】

1,Honda H, Ueda N, Takezawa K, Kato T, Hatano K, Fukuhara S, Nonomura N, Kawashima A.

A case of right renal cell carcinoma with an inferior vena cava tumor thrombus extending above the diaphragm resected without cardiopulmonary bypass

Urology Case Reports. 2025 Feb 10;59:102982.

2,Segawa K, Yamamoto Y, Kato T, Hatano K, Kakuta Y, Kawashima A, Fukuhara S, Nonomura N.

A case of malignant pheochromocytoma with neurofibromatosis type 1 having difficulty in differentiating spinal tumor.

IJU Case Reports. 2024 Jun 9;7(4):336-340.

### 【邦文原著論文】

1,山中 和明, 中澤 成晃, 加藤 大悟, 波多野 浩士, 角田 洋一, 河嶋 厚成, 福原 慎一郎, 野々村 祝夫

腹腔壁アンカー技術を用いた腹腔鏡下持続携帯式腹膜透析カテーテル留置術の有効性に関する検討

Japanese Journal of Endourology and Robotics. 37巻1号 Page113-117(2024.04)

2,山本 致之, 石津谷 祐, 加藤 大悟, 波多野 浩士, 河嶋 厚成, 角田 洋一, 福原 慎一郎, 野々村 祝夫

腎孟尿管癌に対する腎尿管全摘除術下のリンパ節郭清術における郭清数の意義

Japanese Journal of Endourology and Robotics. 37巻1号 Page105-112(2024.04)

3,今村 亮一, 加藤 大悟, 波多野 浩士, 河嶋 厚成, 福原 慎一郎, 野々村 祝夫

【RARC 尿路変向初心者のためのtips and tricks】RARC初心者に対するECUDのすすめ

Japanese Journal of Endourology and Robotics. 37巻1号 Page9-14(2024.04)

### 【邦文総説】

1,福原 慎一郎, 上田 倫央, 竹澤 健太郎

【シン・泌尿器科当直医マニュアル<外来編>】持続勃起症

臨床泌尿器科. 79巻5号 Page361-364(2025.04)

2,福原 慎一郎

【性機能障害の診療-EDを中心に】射精障害の診断と治療

日本医師会雑誌. 153巻9号 Page975-979(2024.12)

### 【邦文著書】

1,福原慎一郎

LOH症候群

今日の診断指針 第9版 医学書院. 2025年2月26日発刊 p1684-1685

2,福原慎一郎

性分化疾患

今日の治療指針2025 医学書院. 2025年1月1日発刊 p1215-1216

3,福原慎一郎

男性不妊症

産科婦人科疾患最新の治療2025 南江堂. 2025年1月30日発刊 p157-158

## 【学会発表】

1,福原慎一郎

Development of a new non-invasive method for evaluation of spermatogenesis functionin in the testes with Cr-CEST-MRI

第111回日本泌尿器科学会総会. 2024.04.22. 横浜市

## 【学会講演】

1,福原慎一郎

精巣凍結保存の課題と現状

第15回日本がん・生殖学会 学術集会. 2025.02.22. 大阪市

2,福原慎一郎

悩める中高年のホルモン力・男性力・勃起力

ED診療の最前線

第24回メンズヘルス医学会. 2024.09.21. 旭川市

3,福原慎一郎

泌尿器科疾患のよりよい病診連携に向けて

ここまで変わった前立腺癌診療

福島区医師会学術講演会. 2024.09.17. 大阪市

4,福原慎一郎

Exploring the potential for treatment of intravaginal ejaculatory dysfunction

日本アンドロロジー学会第43回学術総会. 2024.06.08. 東京

## 【賞罰】

1,福原慎一郎

第111回日本泌尿器科学会総会 総会賞

日本泌尿器科学会. 2024/4

2,伊藤拓也

令和6年度大阪泌尿器科臨床医会学術奨励賞

大阪泌尿器科臨床医会. 2024/11

## 産婦人科

### 【邦論文】

1, 森 穎人、繁田 直哉、赤田 将、松村 有起、田中 稔恵、清原 裕美子、大八木 知史、筒井 建紀  
卵巣癌の疑いに対して手術加療を行いGISTと診断した2例

産婦の進歩 76(3):253-260,2024.

### 【英論文】

1, Mariya Kobayashi, Kosuke Hiramatsu, Tateki Tsutsui

Severe endometriosis during pregnancy: incarcerated gravid uterus with concurrent placenta previa  
AOG Glob Rep. 2025 21;5(1):100463.

### 【学会発表】

1, 繁田 直哉、一宮 汐里、久原 ゆい、花澤 綾香、光田 紗、田中 稔恵、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

当院における筋腫合併妊娠の検討

第76回日本産科婦人科学会学術講演会 2024/4/19-4/21 横浜

2, 光田 紗、原 知史、一宮 汐里、久原 ゆい、花澤 綾香、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、井上 貴史、筒井 建紀

小児卵巣茎捻転の2症例に関する検討

第76回日本産科婦人科学会学術講演会 2024/4/19-4/21 横浜

3, 花澤 綾香、田中 稔恵、久原 ゆい、一宮 汐里、光田 紗、中尾 恵津子、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

切除不能な子宮体部原発大細胞型神経内分泌癌に対し化学療法を行った1例

第76回産科婦人科学会学術講演会 2024/4/19-4/21 横浜

4. 一宮 汐里、久原 ゆい、花澤 綾香、光田 純、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

異なる症状を呈する帝王切開瘢痕部症候群に対し、子宮鏡併用腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術を実施した2症例

第76回産科婦人科学会学術講演会 2024/4/19-4/21 横浜

5. 久原 ゆい、一宮 汐里、花澤 綾香、光田 純、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、井上 貴史、原 知史、筒井 建紀

当院におけるIVF-ET妊娠の分娩転帰に関する検討

第76回産科婦人科学会学術講演会 2024/4/19-4/21 横浜

6. 一宮 汐里、久原 ゆい、花澤 綾香、光田 純、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

双顎双角子宮に腔縦中隔を合併した妊婦において分娩時に腔縦中隔切開を要した2症例

第150回近畿産科婦人科学会学術集会 2024/6/15-16 奈良

7. 花澤 綾香、原 知史、久原 ゆい、一宮 汐里、光田 純、田中 稔恵、繁田 直哉、筒井 建紀  
臨床的に急性妊娠脂肪肝と診断し、産科DICをきたした一例

第60回周産期新生児医学会学術集会 2024/7/13-15 大阪

8. 光田 純、田中 稔恵、一宮 汐里、久原 ゆい、花澤 綾香、繁田 直哉、原 知史、筒井 建紀  
日本語での意思疎通が困難なキルギス人妊婦に対して無痛分娩を実施し、適切な周産期管理をし得た一例

第60回周産期新生児医学会学術集会 2024/7/13-15 大阪

9. 久原 ゆい、一宮 汐里、花澤 綾香、光田 純、田中 稔恵、繁田 直哉、原 知史、筒井 建紀  
帝王切開創部に生じた仮性動脈瘤による産褥出血に対して子宮動脈塞栓術で止血し得た一例

第60回周産期新生児医学会学術集会 2024/7/13-15 大阪

10. 一宮 汐里、久原 ゆい、花澤 綾香、光田 純、田中 稔恵、繁田 直哉、原 知史、筒井 建紀  
妊娠22週の子宮内胎児死亡に対する分娩誘発にミソプロストール製剤を使用した2症例

第60回日本周産期・新生児医学会学術集会 2024/7/13-15 大阪

11. 筒井 建紀、一宮 汐里、久原 ゆい、光田 純、花澤 綾香、田中 稔恵、繁田 直哉、原 知史  
鉗子分娩により経腔分娩に至った顔位分娩の2症例

第60回日本周産期・新生児医学会学術集会 2024/7/13-15 大阪

12. 清原 裕美子、一宮 汐里、久原 ゆい、花澤 綾香、光田 純、田中 稔恵、繁田 直哉、大八木 知史、  
井上 貴史、筒井 建紀

当院で妊娠制温存治療を行った上皮性境界悪性腫瘍の症例についての検討

第66回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2024/7/18-20 鹿児島

13. 花澤 綾香、筒井 建紀、是常 有香、立山 明日香、一宮 汐里、久原 ゆい、光田 純、田中 稔恵、  
繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史

子宮頸部憩室症を合併した帝王切開子宮瘢痕症に対し、腹腔鏡下子宮全摘術を実施した1症例

第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2024/9/12-14 東京

14. 一宮 汐里、是常 有香、立山 明日香、久原 ゆい、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、  
井上 貴史、筒井 建紀

異なる症状を呈する帝王切開子宮瘢痕症に対し、子宮鏡併用腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術を実施した2症例

第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2024/9/12-14 東京

15. 立山 明日香、原 知史、是常 有香、一宮 汐里、久原 ゆい、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、  
井上 貴史、筒井 建紀

卵巣子宮内膜症性囊胞破裂後に発症した後屈嵌頓子宮合併妊娠の1例

第151回近畿産婦人科学会学術集会 2024/10/27 大阪

16. Tateki Tsutsui, Chifumi Hara, Takafumi Inoue, Yumiko Kiyohara, Naoya Shigeta, Mie Tanaka, Shiori  
Ichimiya, Yui Kuhara, Asuka Tateyama, Yuka Koretsune

A case of natural pregnancy and delivery after conducting open radical trachelectomy for stage 1b1 cervical  
cancer with an extroverted 35 mm tumor in diameter

The 8th World Congress of the International Society for Fertility Preservation (ISFP) November 15-17 2024  
Tokyo

17. 原 知史、筒井 建紀、今井 康乃、志方 優子、土岐 昌世

当院での妊娠性温存情報提供・治療への取り組みについての考察

第15回 日本がん・生殖医療学会学術講演会 2025/2/22-23

## 【パネルディスカッション】

1. パネリスト 石川 淳、瀧内 剛、大石 亜紀、原 知史  
「「がん治療終了後の妊娠を考える」造血器腫瘍の治療後妊娠許可について」  
第15回 日本がん・生殖医療学会学術講演会 2025/2/22-23

## 眼科

### 【原著・総説・著書】

- 1,眞下 永  
術後眼内炎  
眼科診療ガイド 第2版. 2024年 :475
- 2,眞下 永  
転移性眼内炎  
眼科診療ガイド 第2版. 2024年 :476

### 【学会講演】

- 1,大黒伸行  
ぶどう膜炎診療における生物製剤の位置付け  
大阪府下の薬剤師. 2024/8/29, 大阪
- 2,大黒伸行  
ぶどう膜炎治療にこれからTNF阻害剤を使うために  
眼科専門医. 2024/9/19, 大阪
- 3,大黒伸行  
眼内リンパ腫の診断について  
血液内科専門医. 2024/10/17, 大阪
- 4,大黒伸行  
ペーチェット病診療 四半世紀を振り返って  
ペーチェット病患者の会. 2024/11/10, 大阪

## 耳鼻いんこう科

### 【原著・総説・著書】

- 1,前田陽平, 宇野敦彦.  
【子どもと安心・安全に旅する極意～どうする!?旅先の病気や怪我～】乗り物酔いを科学する  
チャイルド ヘルス. 2021; 27 (4) ; 273-276

### 【学会発表】

- 1,前田陽平, 芦田直毅, 永田明弘, 真栄田圭.  
好酸球性副鼻腔炎の手術加療後の経過に関する後方視的検討.  
第63回日本鼻科学会. 2024.9.28. 東京
- 2,芦田 直毅, 真栄田 圭, 永田 明弘, 前田 陽平"  
非好酸球性副鼻腔炎の患者背景・治療経過の検討"  
第63回日本鼻科学会. 2024.9.28. 東京

### 【学会講演】

- 1,前田陽平  
良好な視野でESSの未来へ視界良好!～安全で徹底的なESSを行うために.  
第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 2024.5.15. 大阪
- 2,前田陽平  
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会Web広報の取り組み.  
第65回日本心身医学会総会. 2024.6.29. 東京
- 3,前田陽平  
良好な術後状態を得る鼻科手術とパッキング 加水分解パッキング剤の有用性  
第63回日本鼻科学会. 2024.9.2. 東京

## 小児科

### 【原著・総説・著書】

1,原田大輔

Clinical outcomes and medical management of achondroplasia in Japanese children: A retrospective medical record review of clinical data

Am J Med Genet A. 2024 Mar 30:e63612.

2,原田大輔

FGFR3遺伝子異常症に対する成長モルモン治療効果に影響を与える因子の検討

成長科学協会研究報告書2024.

### 【学会発表】

1,柏木博子

X連鎖性低リン血症性くる病(XLH)のメンタルヘルスに関する検討

第97回日本内分泌学会学術総会. 2024/6/6-8. 横浜

2,松下浩子

強度の頭痛と倦怠感が、軽度の髄液圧亢進と関連している可能性が考えられた一例

第52回日本頭痛学会. 2024/12/6-7. 横浜

3,原田大輔

軟骨無形成症に対する成長ホルモン治療後のボソリチド治療の成長促進効果

第42回日本骨代謝学会. 2024/6/30-7/1. 沖縄

4,原田大輔

軟骨無形成症に対するボソリチドの治療効果の検証－成長ホルモンとの比較－

第57回日本小児内分泌学会. 2024/10/10-12. 横浜

5,上山薫

キアリ奇形を合併した骨形成不全症XI型の一例

第97回日本内分泌学会学術総会. 2024/6/6-8. 横浜

6,上山薫

病型診断に苦慮している糖尿病の13歳女児例

第2回近畿小児内分泌症例検討会. 2025/3/8, 大阪

7,近藤可愛

1か月健診時に母の梅毒感染が発覚し、先天梅毒が疑われた1例

第38回近畿小児科学会. 2025/3/16, 大阪

8,紀田宝那 初期臨床研修医

頸椎症に対して椎弓形成術を行った偽性副甲状腺機能低下症1a型の一例

第25回日本内分泌学会近畿支部学術集会. 2024/11/9, 京都

### 【学会講演】

1,柏木博子

気になる下肢変形へのアプローチ

福島県小児科医会学術講演会. 2024/9/19, WEB

2,原田大輔

軟骨無形成症治療のブレイクスルー～CNPアナログ製剤の臨床効果～

第42回日本骨代謝学会アフタヌーンセミナー. 2024/7/1, 沖縄

## 神経精神科

### 【原著・総説・著書】

1,Hatta K, Kishi Y, Wada K, Takeuchi T, Taira T, Uemura K, Ogawa A, Takahashi K, Sato A, Shirakawa M, Herring WJ, Arano I; Suvorexant 085 Study Group.

Suvorexant for Reduction of Delirium in Older Adults After Hospitalization: A Randomized Clinical Trial.

JAMA Netw Open.. 2024 Aug 1;7(8):e2427691.

2,Nakatomi M, Kushima I, Aleksic B, Kimura H, Kato H, Inada T, Torii Y, Takahashi N, Yamamoto M, Iwamoto K, Nawa Y, Iritani S, Iwata N, Saito T, Ninomiya K, Okochi T, Hashimoto R, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Miura K, Ohi K, Shioiri T, Kitaichi K, Itokawa M, Arai M, Miyashita M, Toriumi K, Takahashi T, Suzuki M, Kato TA, Kanba S, Horikawa H, Kasai K, Ikegami T, Jinde S, Kato T, Kakiuchi C, Yamagata B, Nio S, Kunii Y, Yabe H, Okamura Y, Tadaka S, Fumihiko U, Obara T, Yamamoto Y, Arioka Y, Mori D, Ikeda M, Ozaki N.

Copy number variations in RNF216 and postsynaptic membrane-associated genes are associated with bipolar disorder: a case-control study in the Japanese population.

Psychiatry Clin Neurosci.. 2025 Jan;79(1):12-20.

3,Yasuda Y, Ito S, Matsumoto J, Okada N, Onitsuka T, Ikeda M, Kushima I, Sumiyoshi C, Fukunaga M, Nemoto K, Miura K, Hashimoto N, Ohi K, Takahashi T, Sasabayashi D, Koeda M, Yamamori H, Fujimoto M, Takano H, Hasegawa N, Narita H, Yamamoto M, Tha KK, Kikuchi M, Kamishikiryu T, Itai E, Okubo Y, Tateno A, Nakamura M, Kubota M, Igarashi H, Hirano Y, Okada G, Miyata J, Numata S, Abe O, Yoshimura R, Nakagawa S, Yamasue H, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R.

Proposal for a Novel Classification of Patients With Enlarged Ventricles and Cognitive Impairment Based on Data-Driven Analysis of Neuroimaging Results in Patients With Psychiatric Disorders.

Neuropsychopharmacol Rep.. 2025 Mar;45(1):e70010.

### 【学会発表】

1,大藏 裕平、佐竹 祐人、末廣 聖、梅田 寿美代、繁信 和恵、工藤 喬、鈴木 由貴、高橋 励、橋本 衛、森原 剛史、山森 英長、畠 真弘、高橋 隼、赤嶺 祥真、森 康治、鐘本 英輝、吉山 顕次、西尾 慶之、池田 学

Lecanemab One Osaka Project : LooPの取り組みについて

第43回日本認知症学会学術集会. 2024/11/21, ビッグパレット福島

### 【学会講演】

1,山森英長

DNAR/ACPと意思決定支援

病院職員. 2024/4/19, JCHO京都鞍馬口医療センター(京都市)

2,山森英長

治療抵抗性統合失調症治療について～クロザピン・ECTの使用経験～

病院職員. 2024/8/26, 箕面神経サナトリウム(箕面市)

3,山森英長

地域で考える不眠症治療（第6回大阪病診薬連携WEBセミナー/第27回OHP第6支部WEB研修会）

薬剤師. 2025/2/13, WEBセミナー(大阪市)

## 脳神経内科

### 【学会発表】

1.上田 周一

Arterial Spin-Labeling MRIでの中大脳動脈M1閉塞に伴う分水嶺領域脳梗塞の病態解析

65回日本神経学会総会. 2024・5・29. 東京国際フォーラム

2.明石侑里香 松本涼聖 山下和哉 村瀬翔 寺川晴彦 上田周一 山際啓典 高田和城

単純血漿交換療法を含めた積極的な免疫治療により,良好な転帰を得た急性出血性白質脳炎(AHLE)の一例

日本神経学会129回近畿地方会. 2024・12・7. 千里ライフサイエンスセンター

### 【学会講演】

1.高田 和城

シンポジウム 抗MuSK抗体陽性重症筋無力症の病態機序と治療展望

65回日本神経学会総会. 2024・5・31. 東京国際フォーラム

## 放射線診断、IVR科

### 【原著・総説・著書】

1.Ookura R, Usuki N, Miki Y

Arterial phase enhancement of the adrenal glands as a severity indicator for acute pancreatitis.

Japanese Journal of Radiology 2025;43:1145-1152

### 【学会発表】

1. 北山 聰明

健診におけるCTCの可能性

第16回関西CTコロノグラフィ研究会. 2025/3/15, 大阪

## 歯科・歯科口腔外科

### 【学会発表】

1. 光吉 希 関 壮樹 田中 晋 妹尾 日登美

莓状歯肉炎が診断の契機となった多発血管炎性肉芽腫症の1例

第69回日本口腔外科学会総会・学術大会. 2024/11/22, 横浜

2. 妹尾日登美

JCHO大阪病院 歯科口腔外科の現状

大阪府病院歯科医会. 2024/10/5.大阪

## 麻酔科

### 【学会発表】

1.清水雅子、岩崎輝夫、山森英長、志方優子、松下紗織、大谷陽子、伊藤拓也、藤原麻衣、佐藤和佳、永渕輝佳、片桐直子、由良優実夫、寺川晴彦

疼痛コントロール目的で介入し、非がん性疼痛を疑い理学療法にて軽快した肺がん患者の1例

第29回日本緩和医療学会学術大会. 2024/6/15, 神戸国際展示場

2.西田宙夢、堀泰雄、今村圭佑、大井智香子、山間義弘

ICU当直業務中に経験した落雷による停電の報告

第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025/3/15, 福岡国際会議場

## 救急部

### 【学会発表】

1. 蓮池 良祐 初期臨床研修医

ESBL産生E.coliによる結石性腎盂腎炎から細菌性髄膜炎に至った一例

第52回救急医学会総会・学術集会. 2024年10月13日. 仙台国際センター

2. 稲井 賢伸 初期臨床研修医

小腸穿孔を起こしたことにより診断に至ったクローン病の一例

第52回救急医学会総会・学術集会. 2024年10月13日. 仙台国際センター

3. 永田 慎平

救急救命士採用に伴う救急部門でのタスクシフト/シェアに関する取り組み

第9回JCHO地域医療総合医学会. 2024年11月30日. 仙台国際センター

## 免疫内科

### 【学会発表】

1. 植田 すず

当院における好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の臨床的特徴

第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2024年4月19日. 神戸コンベンションセンター

## 薬剤部

### 【学会発表】

1. 角 陽子

アベマシクリブにて高度の下痢および間質性肺炎を発症した1例

医療薬学会. 2024年11月2日～4日. 幕張メッセ

2. 藤原 聖美

当院の入院支援業務における薬剤師の関り

医療薬学会. 2024年11月2日～4日. 幕張メッセ

### 【学会講演】

1. 辻川 正彦

電子処方箋と医療DX 病院の現状と期待

～電子処方箋説明会の開催と病院薬剤師の立場で考える～

26回近畿薬剤師学術大会. 2024年11月10日. シティプラザ大阪（大阪市）

## 放射線室

### 【原著・総説・著書】

1,瀬川恵子, 滝谷孝行, 山口裕祐, 市川肇, 他  
99mTc心筋血流SPECTにおけるFBP再構成用補正なし正常データベースの逐次近似法への適用  
日本放射線技術学会雑誌. 2025; 81 (4): 25-1524

### 【学会発表】

1,山口 裕祐

多施設 SPECT装置を用いた骨SPECT 自動解析ソフトウェアへの適用  
第21回 金沢核医学技術検討会(STOIC) -Study and discussion of NM technology in Kanazawa conference-.  
2024年9月28,29日. 金沢大学医薬保健学域保健学類

2,山口 裕祐

多施設 SPECT装置を用いた骨SPECT 自動解析ソフトウェアへの適用  
第22回 金沢核医学技術検討会(STOIC) -Study and discussion of NM technology in Kanazawa conference-.  
2025年3月8,9日. 金沢大学医薬保健学域保健学類

3,橘 弘大

放射線治療における植え込み型心臓電気デバイス (CIEDs) の線量低減方法  
第9回JCHO地域医療総合医学会. 2024年 11月29日、30日. 仙台国際センター

4,高田梨佳那

CAGの管球角度におけるカテーテル手技補助プレートを利用した自作防護具の効果検証  
第32回日本心血管インターベーション治療学会学術集会. 2024/7/25~7/27. ニューオータニイン札幌

5,戸田 光映

バイプレーンSPOT透視を用いた際のROIサイズによる空間線量率の変化  
第32回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT2024). 2024/7/26, ニューオータニイン札幌

6,戸田 光映

循環動態解析装置におけるFFRangio値の手動解析と自動解析の比較検討  
Complex Cardiovascular Therapeutics 2024 (CCT2024). 2024/10/25, 神戸国際展示場

### 【学会講演】

1,山口 裕祐

各装置の解析結果のまとめ  
診療放射線技師. 2024/7/21, TKP東京駅カンファレンスセンター zoom配信. 第2回 骨SPECTカンファレンス

2,山口 裕祐

より良い心筋血流SPECT画像を求めて～アーチファクトの改善とタスクシェア～  
医師・診療放射線技師. 2024/10/26. 新大阪丸ビル別館 4F 4-1号室. 第28回関西心臓核医学セミナー

3,山口 裕祐

総合ディスカッション 各施設の骨SPECT撮像方法  
診療放射線技師. 2024/11/4, Teams配信. 第3回 骨SPECTカンファレンス

4,山口 裕祐

負荷心筋血流SPECTの基礎～負荷から撮像まで～  
診療放射線技師. 2025/2/21, Teams配信. 第59回 各医学の基礎を学ぶ会

5,戸田 光映

FFRangioのFirst Step ～私たちの取り組み～  
医師、診療放射線技師、臨床工学士. 2025/1/16, web (大阪). FFRangioユーザーズミーティング(関西)

## 中央検査室

### 【学会発表】

1, 宮本 祐誠

ISO15189認定取得に向けた生理機能検査室の取り組み  
第9回JCHO地域医療総合医学会. 2024年11月30日. 仙台国際センター

## 臨床工学室

### 【学会発表】

1,栗山 蒼

人工呼吸器回路外れ警報における当院の調査

第34回日本臨床工学会. 2024.5.18-19. フェニックスプラザ、ザ・グランユアーズフクイ、福井県織協ビル

2,天野 義久

当院におけるコメディカルの役割分担

第83回近畿内視鏡治療研究会. 2024.6.14. オンライン

3,大和谷 悠真

急性心筋梗塞症例に対してIVUS撮像により特発性冠動脈解離を認めた1例

CCT2024. 2024 10.24-26. 神戸国際会議場、ポートピアホテル

4,勝賀瀬 朗

"「聞いて欲しい！我々の機器管理はココが凄い！！」

- 体制の見直しと多職種連携の試み - "

第9回JCHO地域医療総合医学会. 2024.11.29-30. 仙台国際センター

5,小山 瑞歩

人工呼吸器回路外れ警報における当院の調査

第9回JCHO地域医療総合医学会. 2024.11.29-30. 仙台国際センター

6,天野 義久

早期警戒スコア(NEWS2)を活用した患者搬送基準の取組みについて

第84回近畿消化器内視鏡技師学会. 2025.1.26. グランキューブ大阪

## 看護部

### 【学会発表】

1, 岩田富美

看護職と看護補助者が効率的・効果的に協働するための体制構築～第一報～

第9回JCHO地域医療総合医学会. 2024.11.29.30. 仙台国際センター

## 母子医療センター（8階東病棟・NICU）

### 【学会発表】

1, 横田みぎわ（8階東病棟）

情報過多社会における妊婦のヘルスリテラシーと情報選択の関連

第65回日本母性衛生学会総会・学術集会. 2024年10月18日. シーガイアコンベンションセンター

2. 山崎朱佳莉（8階東病棟）

通所型産後ケア事業での助産所助産師の母親に対する関わりー母乳分泌不足で困難を抱く母親に焦点を当ててー

第65回日本母性衛生学会総会・学術集会. 2024年10月19日. シーガイアコンベンションセンター

## 大阪病院附属看護専門学校

### 【学会発表】

1, 向井 恵美子

臨地実習でのリスク回避行動の経験を持つ看護専門学生のリスク感性とリスク回避行動の振り返りとの関連

JANS日本看護科学学会. 2024年12月8日. 熊本



---

---

## 病院年報 第9巻

---

2025年11月発行

■発行■

独立行政法人

地域医療機能推進機構 大阪病院

〒553-0003 大阪市福島区福島4丁目2-78

TEL : 06-6441-5451 (代表)

<http://osaka.jcho.go.jp>

